

0100 6000

衛生 計 材 砲 馬政 金 庫 動 閣  
計 材 砲 馬政 金 庫 動 閣

計

老多  
3月14日  
計課

# 國境守備隊月報

(一月中)

平九隊編成裝備表ヲ附セ

秘

朝特報第五號

卷第一〇九號

昭和十年二月

朝鮮軍謀部

陸軍省 10.3.15 衛生課

陸軍省 10. 20

陸軍省 10.3.8 馬政課

陸軍省 10. 3. 11 恩賞課

102.26 第五

103.6 44

陸軍省 3. 8 砲課

當行賞ニラ一部保管致度

行賞

0100

6000



陸軍省  
軍務課  
支那軍  
編成  
裝備表  
ヲ  
附  
セ

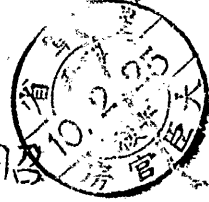
國境守備隊月報

支那軍  
編成  
裝備表  
ヲ  
附  
セ

朝特報第五號

卷第一〇九號第一

秘



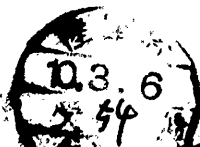
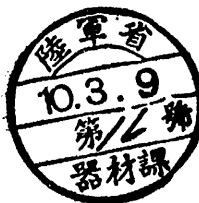
朝

和十年二月

五十五



五十五



一	間島臨時派遣隊	理春支隊	月報
一	第十九師團	第一守備隊	月報
一	同	第二守備隊	月報
一	同	第三守備隊	月報
一	同	第四守備隊	月報
一	第二十師團	第一守備隊	月報
一	同	第二守備隊	月報

0012



間島臨時派遣隊彈春支隊月報

自昭和十年一月一日  
至同 年 月 日



目次

第一 一般治安ノ概況

第二 警備一討伐ノ概況

第三 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

第四 政情民情

第五 文通通信

第六 兵器

第七 經理

第八 衛生

第九 馬事

第十 其他

附表第一 討伐警備實施狀況

附表第二 彈春冰遣隊縮成並配備表

附表第三 彈春冰遣隊現員兵器彈藥糧食量表

附表第六 治安工作班編成及任務分担表

附表第五 一月中治安工作實施表

附表第四 昭和九年度彈春地區兵(馬)共匪損耗月別一覽表

附表第三 昭和九年度彈春地區匪領隊來歸滿人越境地帯前線偵察別調査表

附圖第一 縣内賊情要圖

附圖第二 彈春支隊配備要圖

附圖第三 滿洲國軍隊配備要圖

附圖第四 警察及自衛團緝私隊配置要圖

附圖第五 自慶源興自勦車運行並道路交通狀況要圖

至東興鎮

第一 一般治安ノ概況

一 彈春縣内ノ治安一般ノ狀況ハ我日滿軍警ノ間断  
 ナモ討伐ト至嚴ナル警戒ト依リ匪賊ハ漸次其  
 勢力ヲ減シテ著シク肅正セラレ且滿軍ノ充實國  
 境憲兵隊ノ新設等警備機關ノ鞏化充實ト共一  
 才彈春地區治安維持會並彈春地區第一期治安工  
 作班ハ著々其實績ヲ擧ケツツアリテ其恢復特  
 顯著ナルモアリ然レトモ僻地ニ幡居スル執拗  
 ナル殘存匪賊ハ結氷期ニ入り極度ノ糧食難ニ陷  
 リ殊ニ舊曆近クニ迫リテハ頓ニ其活動潑トナ  
 リ屢ニ出沒シテ金品糧食ノ強奪入算ヲ拉致スル等  
 暴逆行為ヲ取行スルモノ多ク或ハ小數匪賊ノ鮮  
 内侵入ヲ企圖暴行スルモノアル等警備上樂觀ヲ  
 許サルモノアリテ時局柄一般ノ努力ヲ要スルモ

ノト認ム

二、本月中當地區内ニ在ケル賊情附圖第一ノ如シ

第三、警備一討伐一ノ概況

一、各部隊一滿軍警等ヲ含ム一ノ討伐警備ノ概況附

表第一ノ如シ

二、一月下旬ニ在ケル各部隊ノ配置附圖第二ノ如シ

第三、滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

一、滿洲國軍隊

ノ彈春派遣熱河支隊ニ在リテハ各級幹部以下銳

意之ヲ素質ノ改善散育訓練等ニ努メツツアリ

ト雖モ未ダ稍積極的動作ニ缺クル處アリテ討

伐警備等ニオリテハ食料品等ヲ強要スル等傳

統的馬習ヲ取行スルモノ其後ヲ絶タス將來注

意指導ヲ要スルモノアリ



各地駐屯部隊ニ於ケル教育ハ警備上支障ナキ  
 限リ先ツ警備ニ必要ナル戦闘散練陣中勤務射  
 撃動作ノ訓練ヲ主トシ日々演習散練ヲ實施シ  
 アリテ之カ向上ヲ圖ルト共ニ素質ニ鑑ニ志氣  
 ノ緊張ト軍紀振作ニ努メツ、アリ日々ニ於ケ  
 ル各部隊演習散練實施時間左ノ如シ  
 (イ) 演習散練 二時間乃至三時間  
 (ロ) 精神訓話及學科 一時間  
 (ハ) 軍歌演習 一時間  
 一月下旬ニ於ケル彈春派遣隊ノ編成並配備ハ  
 耐表第一ノ如ク同隊現有兵器彈藥數量ハ耐表  
 第三ノ如シ  
 三、滿洲國々境憲兵隊  
 一月一日鮮人通譯二十名ヲ採用シ一月四日ヨ

### 三 自衛團

リ教育ヲ開始シ目下指導訓練中ナリ  
 二月十一日補助憲兵トシテ滿人二十名ヲ採  
 用入隊セシメタリ二月末日迄揮春ニ於テ教育  
 ヲ實施シ終了後各地ニ配屬スル予定ナリ

### ノ 西北滿自衛團ノ新設

鎮安保西北滿集團部落ニ於テハ從來縣警務局  
 ヲリ巡官以下二十名ヲ派遣シ警備ニ任セシメ  
 ツ、アリシカ一月七日自衛團（二十名）ヲ組  
 織シ之カ警備ニ任スルコトトセリ同日ヨリ鎮  
 安嶺守備隊ニ於テ教育訓練ヲ實施シ十二日終  
 アセシモ設立直後未タ警備力不十分ニシテ独  
 カニテ警備シ得サルヲ以テ將來撤退予定ナル  
 同地警察官ヲシテ引續キ守備隊長ヲ指示基  
 干警備ノ傍ラ之カ訓練ヲ實施中ナリ

保甲法ニ依ル自衛團ヲ設立ス  
 彈春縣内ニハ從來一部住民ヲ以テ各地要所ニ  
 有級の自衛團ヲ組織シ防衛的治安維持ニ任シ  
 來リシカ治安工作ノ進歩保甲法ノ確立ニ依リ  
 漸次有級の自衛團ヲ廃止シ之ニ代ヘ保甲法ニ  
 依ル義務的自衛團ヲ以テスル企圖ヲ有スルコ  
 トハ既報セシ如ク其後軍部指導ノ下ニ著々準  
 備シ之カ設立ニ努メタル結果縣當局ニ於テハ  
 先ツ十二月二十八日首善保自衛團ノ發團式ヲ  
 舉行セリ義務的自衛團ハ暫行保甲法ニ基クモ  
 ノニシテ將來團體的訓練ヲ施シ天災及匪賊ノ  
 被害ニ備ヘ得ルノ能力ヲ與ヘ警察機關ヲ補助  
 セシメ且住民ノ治安觀念ヲ体得自覺セシメ以  
 テ連座的責任ノ強化擴大ヲ圖ルヲ目途トス

三

ルモノトス  
四月下旬ニ於ケル滿洲國軍警及自衛團ノ配置附

圖第三、第四ノ如シ

第四政情民情

一 中央政權ニ對スル民心ノ動向  
 揮春縣公署ニ於テハ縣長以下滿人官吏ハ未ダ正  
 式ニ任命セラレタル官吏ニアラス省長及縣長ノ  
 非公式的任命ニ依リ就任シアルモノニシテ身分  
 上ノ不安ハ尙論經濟的ニ於テモ甚ク不利ノ  
 立場ニ在ルヲ以テ最近之カ正式任命ヲ要望ス  
 ル者漸ク積極的ト爲リ愈運動化セントスルノ氣  
 運濃厚トナリタルヲ察知セラルモノアリ本問  
 題ハ揮春縣一地方ノミナラス全國的問題ニシテ  
 新省制實施ヲ見タル今日獨立國家ノ政治的形体

確立上ヨリスルモ身分ヲ保障シ以テ地方行政ノ  
 確保ヲ計ルノ要切ナルモノアリトテ地方識者間  
 二於テハ之等ニ同情的言辭ヲ洩スモアリテ此  
 際縣當事者ニ於テハ徒ラニ放置スヘキニアラヌ  
 ト爲シ緊急其筋ニ之ヲ考慮セテ電請スル等對策  
 考慮中ナリ  
 二 輝春縣治安促進會經營金礦ヲ滿洲國採金株式會  
 社ニ移管ス  
 輝春縣治安促進會ニ於テハ昭和九年四月以降縣  
 下砂金ノ採掘權ヲ獲得シアリテ輝春陸軍特務機  
 關指導監督ノ下ニ之ヲ事業ヲ繼續シ來リシカ昭  
 和九年十月滿洲國採金株式會社ニ移管スル事ト  
 ナリ愈一月一日移管ヲ完了セリ

四

0075

三

揮春在郷軍入分會ノ狀況  
 揮春在郷軍人分會ニ在テハ分會員ハ現在一八七名  
 ニシテ時局特ニ環境ニ鑑ミ從來ヨリノ方針ニテ  
 ハ現況ニ副ハサルモノ甚タシキヲ以テ愈分會ノ  
 強化進展ヲ畫策セントシ現機構ヲ改善シ班組織  
 ト爲シ是ニ伴フ役員ノ増任改選ヲ行ヒ或ハ規約  
 改正等實施シツテ分會事務所ハ從來領事分館  
 内ニ置キタルモ一般統制上ノ不便勘カラサルシ  
 ヲ以テ揮春日本憲天隊ニ之ヲ移シ軍ノ指導援助  
 ヲ受クルヲ便トセリ尚分會事業トシテ基金造成  
 ノ爲ノ木材伐採ハ引續キ繼續シアリテ著々効果  
 ヲ擧ケツ、アリ  
 四、  
 宣傳及政治エ依ニ關スル事項  
 揮春支隊長ヲ長トスル揮春地区治安維持班ニ

一、交通

於テハ一月七日治安工作班ノ編成ヲ了シ爾後  
 第二期治安工作ヲ實施シツ、アリ  
 治安工作班ノ編成並一月中ニ於ケル工作狀況  
 附表第四第五ノ如シ  
 第五、交通通信

降雪ノ為自動車交通杜絶ス  
 一月十四日夕ヨリ十六日迄ノ間縣内一般特  
 彈春ヲ中心トスル附近ニ於テハ稀ニ見ル降雪  
 三ヨリテ各所約三十種乃至五十種ノ積雪ノ為  
 縣内各自動車路線交通杜絶スルニ至リタルカ  
 彈春ノ慶源間彈春ノ訓戎間ハ十六日午後ニ至  
 リ辛フシテ自動車ノ運行ヲ見タリ然レトモ彈  
 春ノ慶源道ノ沙土子附近砂丘ハ強風ニ依リ其

五

後屢吹溜リヲ生シテ除雪作業ヲ要シ漸ク三日  
= 至リ容易 = 交通 = 彈春 - 土門子間ハ = 十四日

交通セリ

2. 昭和十年一月 = 於ケル 自慶源(訓戎) 至東興鎮 間自動車運行

並交通狀況附圖第五ノ如シ

二、通信

ノ無線電信交信狀況

一月 = 十八日在彈春短波無線電信機故障ヲ生

シ一時不通アリシモ速 = 莫檢加修 = 努メタル

結果同日午後三時復舊完成セリ

2. 軍用鳩飼育訓練ノ狀況

(1) 一月十七日支隊ハ其任務ノ特殊性 = 鑑ニ第

十九日帥團軍用鳩通信規定ニ準據シテ彈春支

隊軍用鳩通信規定ヲ調製シ各守備地 = 於ケ



ル軍用鳩飼育管理訓練ヲ統制シ益之カ能力  
 ヲ向上セシメ將來作戰警備上ノ使用ニ供ス  
 ルト共ニ交通機關不整備ナル管内通信連絡  
 ノ副通信ニ利用セント企圖セリ  
 (四) 一月二十五日將來使用上ノ顧慮ヨリ彈春鳩  
 通信班所屬標管鳩ニ十六羽ヲ土門子通信班  
 = 保管轉換セリ  
 (ハ) 備付諸物品ニ就テモ著々整備中ナリ  
 第六兵器

一、兵器一般ハ狀況ハ前月ニ引續キ師團長管理兵器  
 検査後ノ修理ト補給交換其他ノ改善整備ニ努力  
 シツ、アルヲ以テ一般ニ向上ノ途上ニアリ

二、彈藥ノ取扱保存整理ニ就テハ從來數次ニ亘ル出  
 勤部隊等ノ為格納彈藥數次ニ増大シ今般亦大

六

荒清守備隊撤去ト共ニ更ニ過剩シ現在保管彈數  
 = 對シ彈藥庫ノ狹隘ヲ感スルコト甚ク又遂  
 次各部隊ニ於テ射耗スルモ近年中ニ新舊ノ補填  
 入換ヲ完了シ能ハザルノ現況ニシテ保存取扱上  
 適當ナラサルモアルヲ以テ之カ數量ノ整備方  
 = 就キ其筋ニ要望中ナリ  
 三、自動車及器具器材ノ整備状態ハ前月ニ引續キ大  
 ナル變化ナシ

第七經理

一、補給  
 軍需品ノ補給狀況ハ一般順調ニ行ハレアリ隔地  
 守備隊ヘノ補給ハ本月中旬降雪ノ爲メ一時停セ  
 セシモ下旬急速ナル補給ヲナシ支障ナカラシメ  
 タリ

二 給養

一月一日ヨリ給與令改正セラレ平時給養ニ準ス  
 ル事ニナリタル結果平日期料定額ハ若干減少セ  
 ラレタル祝祭日ニハ別ニ定額ヲ増加セララルヲ  
 以テ給養上ニハ影響ヲ及ホササルモノト認メラ  
 ルルモ持ニ現地調辨ヲ不利トスルモノニ就テハ  
 鮮肉ヨリ補給ヲ受ケ給養上影響ヲ及ホササル如  
 ク努メアリ

三 被服

(1) 給與令改正ニ伴ヒ被服ノ定数規定セラレ全般  
 ニ亘リ整理ヲ要スル事トナリタルヲ以テ全被  
 服ノ員数並ニ程度検査ヲ實施シ一月ニ十八日  
 迄ニ隔地守備隊夫検査終了シ目下過不足品ニ  
 對スル處理並ニ換給上ニ就テ計畫中ナリ

七

四 物品

(1) 防寒手袋同靴下ノ程度不良品ニ對シテハ取取  
 ス中旬在庫品ヲ以テ一部ノ換給ヲナシ不足分  
 ニ對シテハ師團ニ補給請求(靴下六〇手袋一  
 七〇組)セシ處一月未現品到着セリ

物品ノ員數及程度検査モ被服検査ト同時ニ實施

濟ニ付目下検査後ノ整理中ナリ

練習用具中劍術防具瓦斯器材等師團ニ委託調辨  
 中ノ處一部分月未到着セリ

五 營繕

(1) 彈春守備隊兵舎及宿舍温突中採爇充分ナラサ

ルモ又ハ漏煙箇所等生シタルヲ以テ應急修

繕ヲ實施シ大體ニ於テ支障ナカラシメタリ

(2) 水道ノ漏水箇所其他不具合箇所ハ師團ヨリ本

月初旬技手ノ派遣ヲ受ケ復舊セシメタル結果目

一 本月間ニ於ケル患者ノ状況左ノ如

病名	罹	計	轉		摘
			治癒	死亡	
急性氣管炎	—	—	—	—	
急性胃炎	—	—	—	—	
急性腸炎	—	—	—	—	
急性扁桃腺炎	—	—	—	—	
急性咽喉炎	—	—	—	—	
外痔瘻	—	—	—	—	
急性結膜炎	—	—	—	—	
足關節捻挫	—	—	—	—	
計	—	—	—	—	

リ 下 一 日 ノ 運 搬 量 八 十 石 以 内 ニ テ 足 ル 事 ト ナリ  
 (1) 揮 春 守 備 隊 ノ 被 服 庫 並 物 品 庫 ノ 設 備 ナ キ 件 ハ  
 中 旬 空 兵 舎 ヲ 應 急 修 繕 ナ シ 倉 庫 ニ 應 用 セ リ  
 第 八 衛 生

二、衛生材料状況

八左ノ通り衛生材料ノ補給ヲ受ク

一月六日羅南衛戍病院ヨリ繃帯交換台外三点

朝鮮軍倉庫ヨリ木銀軟膏外一〇点

一月十五日朝鮮軍倉庫ヨリテルマトール外九点

一月二十三日羅南衛戍病院ヨリ弱ルボール外

一六点

一月二十三日羅南支庫ヨリ巻軸帶

一月二十八日朝鮮軍倉庫ヨリ不凍液外八点

又、左ノ通り各守備隊ニ衛生材料ヲ補給ス

土門子守備隊ニ檢木器械外四十点

鎮安嶺守備隊ニ藥劑行李外五十七点

輝春憲兵隊ニ救急箱一具初度備付ス

第九馬事

一 一月四日 輝春部隊（輝春憲兵隊ノモノ含ム）  
保管馬ニ對ス炭疽豫防接種實施シ經過良好ニ終  
セリ

二 土門子守備隊保管ニ對シテハ警備上ノ顧慮ヨリ  
來月機ヲ見テ實施スル豫定ナリ

三 軍犬取扱散育習修ノタメ約一月ノ豫定ヲ以テ下  
士官以下三名ハ一月九日輝春出發龍山歩兵第七

十八聯隊ニ派遣シ目下之カ散育ヲ專習中ナリ  
既報ノ如ク軍犬素質等ノ不良ナルモノアルニ鑑

ニ將來之等取扱散育習修下士官以下ヲ利用シテ  
更ニ基礎散育ヲ補備シ一層飼育訓練ニ專念セシ

メ益其利用價値ヲ増大スル豫定ナリ

九

第十其ノ他

一人馬ノ異動ニ就テ

ノ十日支隊長以下一五名車大人清附近地形偵察  
ノ夕ノ午前九時ニ十分出發午後一時無事歸還

ス

二十日余井中將一行來陣隊内視察セラル

二十四日間島省長一行來陣セラル

二十五日帥團獸醫部長山本中佐來陣セラル

二十六日陸軍省恩賞課員佐藤少佐帥團副官

落合少佐來陣ス

同日帥團軍醫部山田二等軍醫正衛生事務打合

セノ夕メ來陣ス

二十五日ヨリ三泊四日ノ豫定ヲ以テ佐藤主計

以下四名土門子一鎮安嶺守備隊被服物品検査

實施ノ夕メ出張ス



ノ二十六日ヨリ三日ノ豫定ヲ以テ沖大尉  
東南地区治安維持ニ關スル會議參列ノタメ告  
林ニ出張ス

ノ二十八日ヨリ六泊七日ノ豫定ヲ以テ支隊長土  
門子一鎮安嶺守備隊教育實施ノタメ出張ス

ノ三十日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ黒岩銃工長治安  
維持會預置兵器彈藥輸送（宰領）ノタメ延吉

警備司令部ニ出張ス  
ノ三十一日ヨリ三泊四日ノ豫定ヲ以テ桑田大尉  
事務（情報）打合ノタメ羅南ニ出張ス

十

附表第一

<p>日十三月一自 日一月二至</p>	<p>日五十月一</p>	<p>月日</p>	<p>討伐警備實施狀況（月軍ノ部）</p>
<p>近附地奥店家馬</p>	<p>區地方北春揮</p>	<p>地討 方伐</p>	
<p>春 揮</p>		<p>部討 隊伐</p>	
<p>山田特務曹長以下十八名ハ三十日午前八時二十分弁備地出發馬家店ノ北溝子道ヲ北進シ北溝子北方約七吉附近谷地ニ於テ露警三十一日午前七時出發同地北方約六吉附近谷地ノ掃蕩ヲ實施ノ上一月午前二時三十分弁備地ニ取還ス</p>		<p>行 動 概 要</p>	
<p>最近匪賊ノ出沒シアル形跡アルモ賊影ヲ認メス</p>		<p>摘 要</p>	

<p>日 七 月 一</p>	<p>日 一 十 三 月 一</p>	<p>日 一 十 三 月 一</p>
<p>區 地 東 河</p>	<p>近 附 江 密</p>	<p>區 地 方 北 子 咀 門 關</p>
<p>嶺 安 鎮</p>		<p>隊 部</p>
<p>守備隊長榎本特務曹長以下十七名ハ 午前七時三十分鎮安嶺出發板自子ハ 上草坪ハ東溝隅ハ河東ハ五道溝附近ハ警 備行軍ヲ實施午後三時守備地ニ返還 ス</p>	<p>金原特務曹長以下十五名密江附近討 伐目的ヲ以テ一月三十一日午前七時三十分 渾春出發二月五日返還豫定ナリ</p>	<p>野田少尉以下十六名關門咀子北方地區 討伐ヲ爲ス午前七時三十分渾春出發二 月二日渾春返還豫定ナリ</p>
<p>渾春河左 岸地區簡落 ハ最近共匪 出没セルヲ見 聞セス</p>		

<p>月一十二月一</p>	<p>日九十月一</p>
<p>近附河旗紅</p>	<p>區地北西嶺安鎮</p>
<p>隊部子門土</p>	<p>隊部</p>
<p>守備隊長内野大尉以下二十名八午前 九時守備地出發 紅旗河附近ノ警備 行軍ヲ實施シ午後六時三十分飯還ス</p>	<p>守備隊長榎本特務曹長以下十五名 午前七時三十分守備地出發標高七三一 高地(鎮安嶺西北約六吉)採田洞ノ腰 也子西四道溝東四道溝附近ノ警備 行軍ヲ實施シ午後四時飯還ス</p>
<p></p>	<p></p>

月一十三月一	月一十三月一	月日	討伐警備實施狀況 (満軍ノ部)
近附溝荒大	地奥溝人大車	地方討伐	
隊部溝荒大	隊部春輝	部隊討伐	
<p>遠藤中尉ハ大荒溝守備隊ヲ指導シ 大荒溝附近ノ討伐實施ノ爲一月三十一 日行動開始二月五日終了ノ豫定</p>	<p>小田原少尉ハ在輝春騎兵第三十九團 第一排ヲ指導シ車大人溝奥地附近 ノ討伐ノ爲輝春出發二月五日返還ノ 豫定</p>	<p>行 動 概 要</p>	
		摘要	

<p>日一十月一</p>	<p>日十月一</p>	<p>月日</p>	<p>討伐警備實施狀況 (滿警部)</p>
<p>溝子房香</p>	<p>近附溝東上</p>	<p>地討 方伐</p>	
<p>署分溝頭老</p>	<p>署分河安英</p>	<p>部討 隊伐</p>	
<p>午後九時頃香房子溝砂金採掘場ニ武装共匪十五名現ハレ同砂金採取人夫ヨリ砂金ヲ強奪セリトノ報ニ接シ分署長以下十三名直チニ現場附近ニ到リ搜索スルモ賊影ヲ</p>		<p>行 動 概 要</p> <p>午後十時三十分頃上東溝(英安河東北約四              里)ニ武装共匪十名現ハレ掠奪中(獵銃一              同彈丸八時計一ヲ掠奪セラル)トノ急報ニ接シ巡              官以下六名直チニ現場ニ向ヒ附近一帶ノ搜              査ヲ實施スルモ賊影ヲ認メス              邦人被害者(二名重傷)ヲ收容英安河ニ              引揚ク</p>	
		<p>摘 要</p>	

一	月四十月一	日三十月一	
安英	近附溝金砂	近附溝之膝小	
分 河 安 英 及 春 輝			
共匪捕獲ノ目的ヲ以テ郎 鉄 警 長 以 下	前原指導官以下十一名ハ午前十時板石溝出發砂金溝附近ヲ掃蕩ノ上午後五時飯還ス	前原指導官以下十六名共匪搜查ノ目的ヲ以テ午前六時板石溝出發小膝々溝ニ向テ途中共匪トノ連絡者家屋ヲ發見之ヲ焼却退却キヲ命ス 目的地一帶ヲ掃蕩ノ後午後七時板石溝ニ飯還ス	見ス
共匪連絡	該地附近時々共匪ノ出没ヲ見ル	家屋一 焼却 該地附近共匪ノ出没頗繁ナリ	

十二月一	日四十月一	日四十月
附別芦葫	區地方北西江密	區地方北河
遣派別芦葫	署察警江密	署
<p>午前九時頃葫芦別東南方約千米附近          二武装共匪十名現ハレ休憩中トノ報ニ接シ          何警長ハ馬滴達警察署茲全満軍憲</p>	<p>夜十二時頃鮮内美山洞ニ共匪二十餘名          侵入美山警察署負ノ爲多大ノ損害ヲ          受テ江清縣石頭河子方向ニ向ケ逃走          セル報ニ接シ巡官以下十四名出動之ヲ          追撃スルモ賊影ヲ認メス</p>	<p>八名午後六時出發英安河北方約八吉          ノ地點ニ潜伏中午後九時頃六七名ノ共          匪ノ近接スルヲ發見之ヲ射撃セルモ夜          暗ノ爲遂ニ逃走セシム</p>
	<p>共匪死ニ          長銃ニ          拳銃一          彈丸一六七          ヲ美山警察          署ニ於テ鹵          獲ス</p>	<p>者二名ヲ捕          獲目下取調          中</p>



<p>一月三十日</p>	<p>(自衛團ノ部)</p>	<p>一月二十九日</p>	<p>八日</p>
<p>塔子溝</p>		<p>三家子附近</p>	<p>近</p>
<p>塔子溝自衛團</p>		<p>馬家店分署</p>	<p>警察</p>
<p>午後九時三十分頃塔子溝集團部落北山ニ武装共匪二十餘名現レタルヲ立哨中ノ自衛團員カ發見之ト應戰暫時ニシテ共匪ハ警笛ヲ吹キテ南別里方面ニ逃走ス。急報ニ接シ馬滴達第八署並國境憲兵隊協同シテ南別里方面ヲ掃蕩スルモ賊影ヲ見ス</p>		<p>夜十二時頃三家子滿人某宅ニ武装共匪五名現ハレ掠奪中ト報ニ接シ警長以下五名直子ニ同地ニ至リ搜查スルモ賊影ヲ見ス</p>	<p>兵隊ト協力シ之ヲ追跡スルモ遂ニ賊影ヲ失ス</p>

揮春派遣隊編成並配備表

康徳二年正月五日

備考	合計	第一連	騎兵第三五團	機附槍連	步兵第三五團	迫撃砲連	今	第一連	步兵第三五團	第五連	第六連	今	第五連	今	第四連	今	步兵第三五團	派遣隊本部	隊員
	11	尉張才	尉胡金泰	尉徐雨時	尉朱榮久	尉王世棟		尉丁燭山	尉張文	尉張文	尉方殿一		尉劉敷臣				尉張桂芳	尉張桂芳	尉以上
	1	1	1	1	1	1		1	1	1	1		1				1	1	尉中
	18	2	1	1	2	2		2	2	2	2		2				1	1	尉少
	8	1	1	1	1	1		1	1	1	1		1				1	1	尉上
	10	1	1	1	1	1		1	1	1	1		1				1	1	尉中
	32	5	4	4	4	4		4	4	4	4		4				1	1	尉少
	51	6	6	6	6	6		6	6	6	6		6				1	1	尉上
	186	22	22	22	15	10		26	20	20	20		22				1	1	尉中
	208	31	30	30	19	12		30	28	28	30		28				1	1	尉上
	208	30	29	29	17	11		10	28	27	25		30				1	1	尉中
	28				6	4		3		4	4		4				1	1	尉上
	22			1					1								2	2	尉中
	10	小原尉		遠藤尉				上野尉	河野尉		袴田尉						西上尉	甲村尉 甲尉 甲尉 合尉	景春 訂馬
	188	102	101	101	70	47		82	88	88	82		88				15	28	尉中
	160	101			16	28											3	15	尉上
		東興鎮	大荒清		揮春	揮春		乾清子 子煙筒拉子	揮道清 子小六道清	泰平清	三八勝子 子草木頂子		東興鎮	東興鎮	揮春		揮春	駐屯地	

附表第三

輝春派遣隊現有兵器彈藥數量表 康德二年五月五日現在

部隊	兵器種別	同數目	同彈藥數	器材種別	同數目	摘
步兵第三團	小銃	七	一〇七〇			
第二營本部	小銃	七	一〇七〇			
第四連	小銃	九	一四四七			
第五連	小銃	八	一七三〇			
第六連	小銃	八	一七五五			
機關銃連	小銃	四	五八二四			
第五連	小銃	九	一〇〇〇			
步兵第三團	小銃	七	七二九一			
第一連	小銃	五	五〇〇			
迫撃手砲連	迫撃手砲	二	二〇〇			
步兵第三團	小銃	九	九〇八〇	小田是	四	
第一連	小銃	九	九〇八〇	小十字	四	
騎兵第三團	小銃	九	九〇八〇	斧	〇	
第一連	小銃	九	九〇八〇			
計						
手榴彈	手榴彈	五	五			
重機銃	重機銃	二	二			
輕機銃	輕機銃	六	六			
小銃	小銃	六九	二二九			
石表外	石表外	五	五			
前盒	前盒	六	六			
後盒	後盒	二	二			
帶皮	帶皮	三	三			
小銃	小銃	三	三			
銃劍	銃劍	三	三			
手榴彈	手榴彈	三	三			
小銃彈	小銃彈	一三六	一三六			

附表第四

治安工作班編成及任務分担表 揮春支隊

考備	附屬	班	員				班		班長	區分	所屬	現職	氏名	任務分担
			救恤	班	班	班	班	班						
一任務分担表ノ如ク定ムト雖班員八相互協力ニ依テ實施ノ萬全ヲ期スルモノトス (兼)ハ延吉地區ニ依テ班業務トス	揮春	第一中隊	國務院總務廳秘書處員 民政部社會科員 民政部衛生科員 舍 施療班員	延吉協和會事務員	省公署 警備督察官	民政部 民政部屬官	軍政部 吉林地區顧問	大使館 明月清領事館警備員	公署 揮春支隊憲兵	公署 揮春支隊將校	揮春支隊長	石川熊一郎	全般指導・統轄	
	機關銃隊	軍曹大熊鈞 鈴木林	安松康司 三乃公 隈元道雄	有馬善夫	小川弥三郎	重富貢	山田兼太郎	後藤琢太郎	徳永勇	沖作藏	石川熊一郎	全般指導・統轄		
	通譯	鄭東熙	一醫療救恤 一萬民施與 一地方衛生施設 スル事項	宣傳宣撫ニ關スル事項	令 右	保甲法ニ關スル事項 行政ニ關スル事項	荷洲國軍隊ニ關スル 事項 其他行政全般	令 右	警備機關ニ關スル事項 銃器取締ニ關スル事項 行政全般	行動計畫細部ノ立案 交通・通信ニ關スル事項 部隊ノ警備・訓練ニ關スル事項 行政全般	石川熊一郎	全般指導・統轄		

一月中治安工作實施表

備考	日	工作區分	細部ノ行動實施	時間	場所
31 30	29 28 27	← 警署 →			英安河 警署
	26 25 24 23	← 保善 →	全 保甲牌長有方者ヲ集 座談會、一部實地踏查 市民夜實地踏查	石 石	商務會 全 右 劇場
	22 20	休 養 次期工作準備			
	19	自衛團指導	團長授訓 團長分列	8.00 ↓ 12.00	第一署下街
	18	保甲長指導	團長授訓 六日ノ行事ニ準テ行フ	8.00 ↓ 11.00	縣公署
	17	第一署	書類查閱 警備上想定ニ基テ警務演習	8.00 ↓ 12.00	第一署
	16	警察署分署 長指導	局長訓示 所管事項ニ關スル署分署長ノ 報告並布望意見 當局及班員之ニ對スル所見開 陳ヲ座談的ニ行フ	8.00 ↓ 12.00	全
	15	縣公署指導	前日ノ報告及布望事項ニ關 研究シ座談的ニ意見交換	8.00 ↓ 11.00	商務會
	14		縣公署事項ニ關係事項ニ 夫々報告シ且所要ノ布望意見 開陳	8.00 ↓ 11.00	全
	13		中間打合せ 工作計畫ノ審議及細部協定	8.00 ↓ 11.00	支隊本

輸送機關工作班ニ準備ス  
清洲時間トス

附表第六

昭和九年度彈春地區(馬)共匪損耗月別一覽表

考 備	計	二	二	。	九	八	七	六	五	月別	區分		
											天(馬)	匪	
一、損耗天(馬)共匪計 一、死—五〇名 飯順—七八名 合計一三〇名 二、銃器—三挺 彈藥—一四六發	七〇		一四			一		一七	三七	死	天(馬)	損	
										飯順	匪	耗	
	三三一		一		三四	六	五	五	二三五	死	天	共	
	七八〇		一五二	。	三〇	八	一六	六	五四八	飯順	匪	數	
	二七四・六	一	六三二					四一四・〇	一六九三〇	銃器	天(馬)	函	
		一八	三一八							彈藥	匪	獲	
	四〇〇・〇				五	=	一	=	三〇九四四	銃器	天	共	
					五四					彈藥	匪	品	
	銃劍 六		銃劍 三					手榴彈 三	銃劍 三			其他	捕
	洞窟三燒却		洞窟四燒却		洞窟六燒却	洞窟六燒却		洞窟二燒却				捕	車

昭和九年度産着地区蘇領故本鮮滿人越境地點前居住地別調査表

計	三	二	一	九	八	七	六	五	月別	
									分	区
二									鮮人	故本者
二									鮮人	滿人
二									合計	
二										200
二										220
二										210
二										200
二										180
二										190
二										160
二										180
二										140
二										130
二										120
二										110
二										100
二										90
二										80
二										70
二										60
二										50
二										40
二										30
二										20
二										10

越境地點



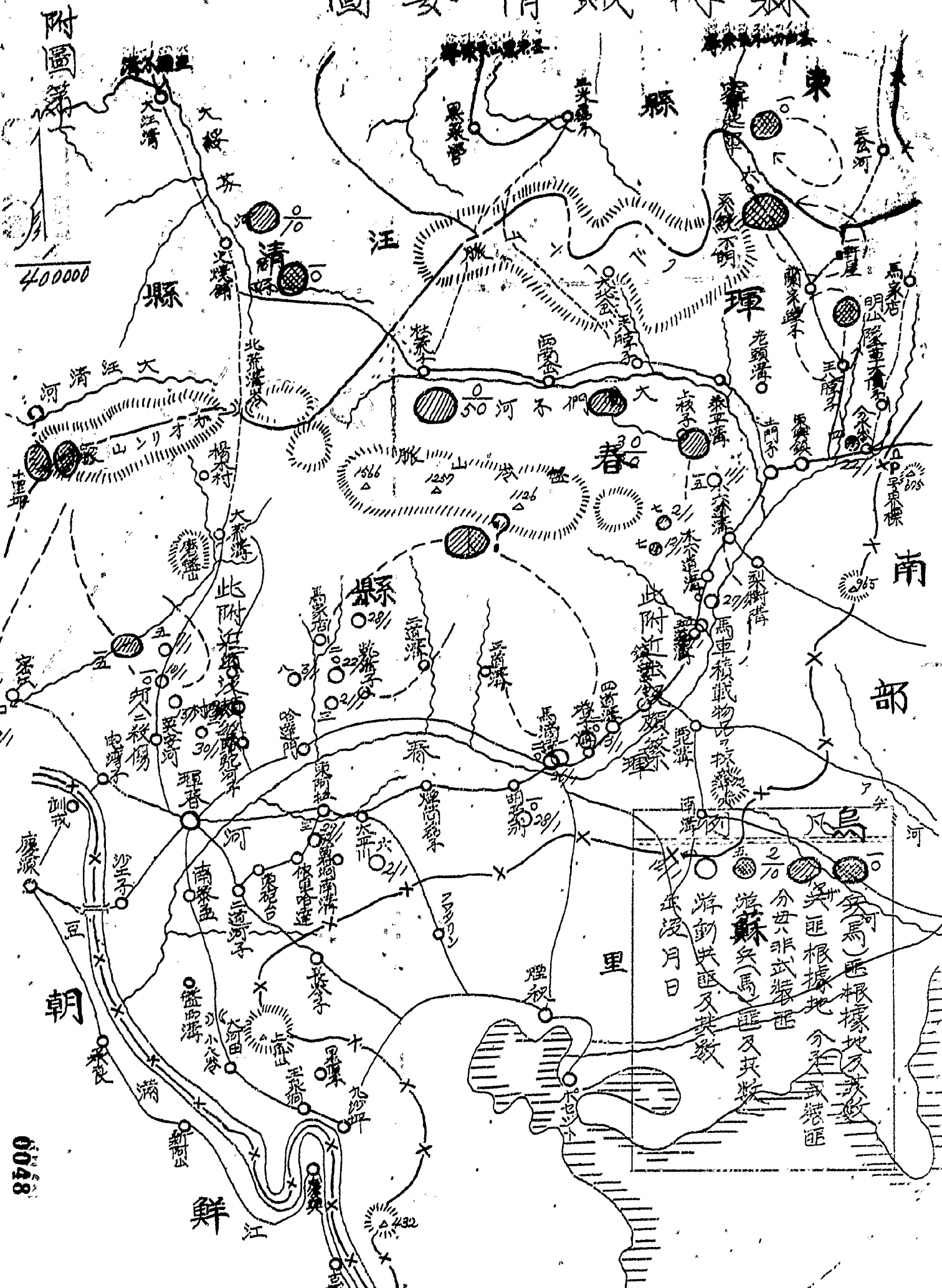
計	三	二	一	九	八	七	六	五	月別	
									分	区
三									標界	越境
一									子財	越境
三									子嶺	長
四									清七	小
一									清七	島
二									水發	黃
二									子	河
五									河	盆
二									川	子
一									子	化
六									子	道
二									清	道
三									清	馬
一									計	合
一									捕	

前居住地

計	三	二	一	九	八	七	六	五	月別	
									分	区
六									潮	浦
一									ウ	ヤ
八									ク	ス
六									ク	ス
三									ク	ス
六									ク	ス
四									ク	ス
三									ク	ス
一									ク	ス
二									ク	ス
一									ク	ス
八									清	子
二									仲	リ
三									カ	シ
一									ケ	ビ
九									他	其
五									計	合

本表八揮着地区各機開調査ノモノヲ綜合セシモノナリ

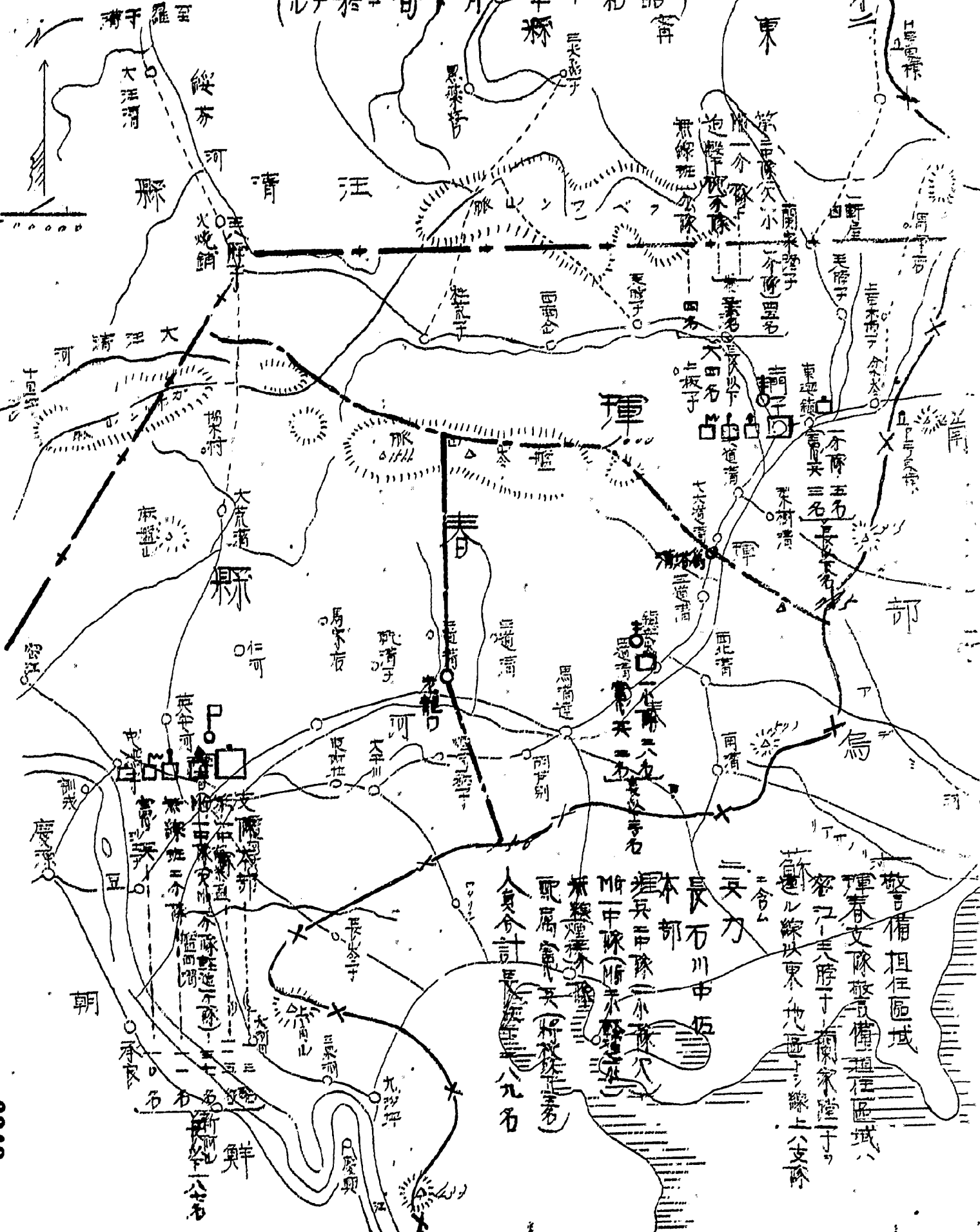
# 縣內賊情要圖





# 揮春支隊配備要圖

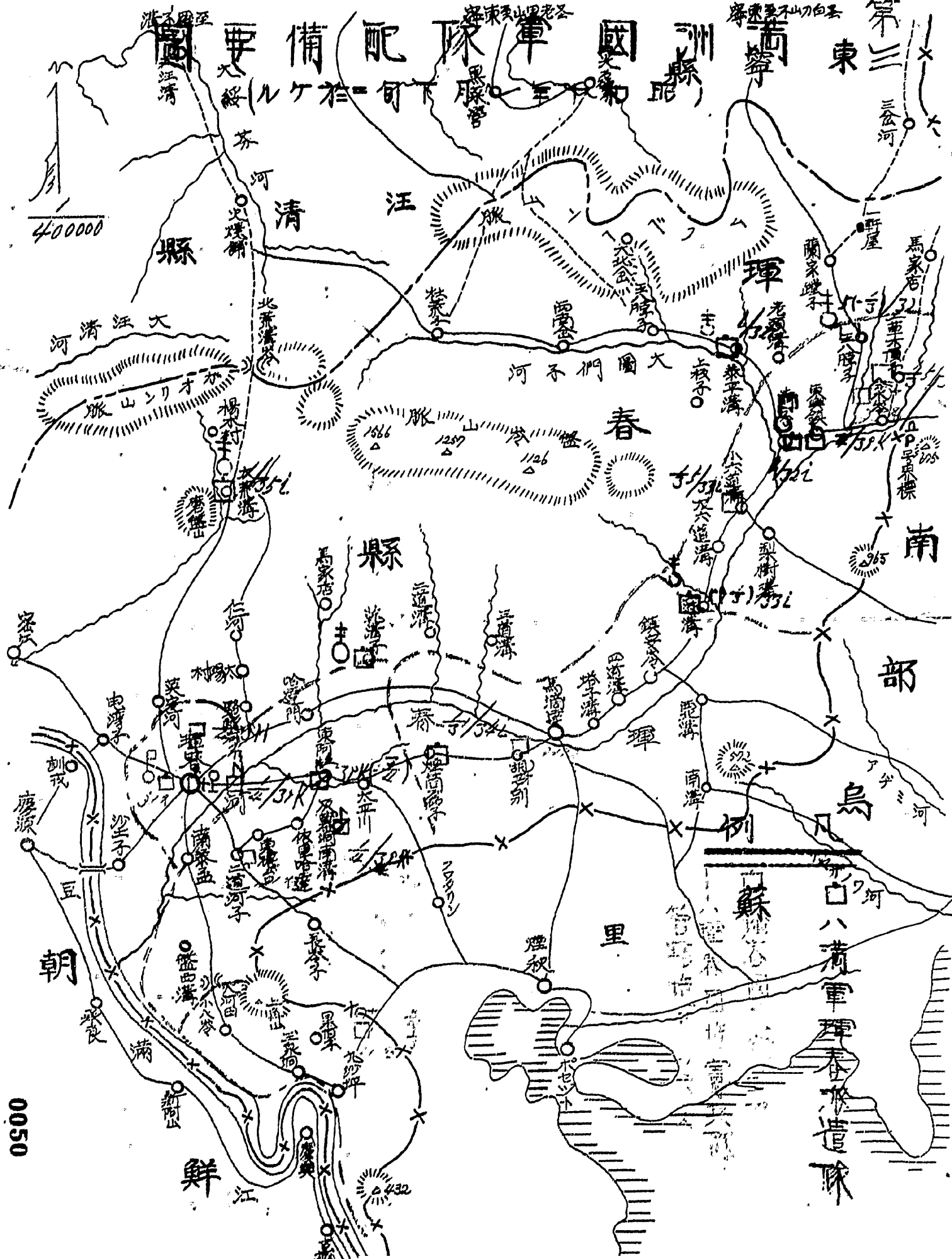
昭和十一年三月十五日



警備担任區域  
 揮春支隊警備担任區域  
 密江、美勝、一、南家陸子、  
 蘇、ル線以東、他、區、シ線、上、六、支、隊  
 二、兵、力  
 長石川中伍  
 本部  
 揮兵部隊（小隊八）  
 中隊（附、小、隊、五）  
 兼、糧、運、隊、三  
 東、局、軍、兵、（附、隊、正、者）  
 人員合計、  
 八、九、名

0049

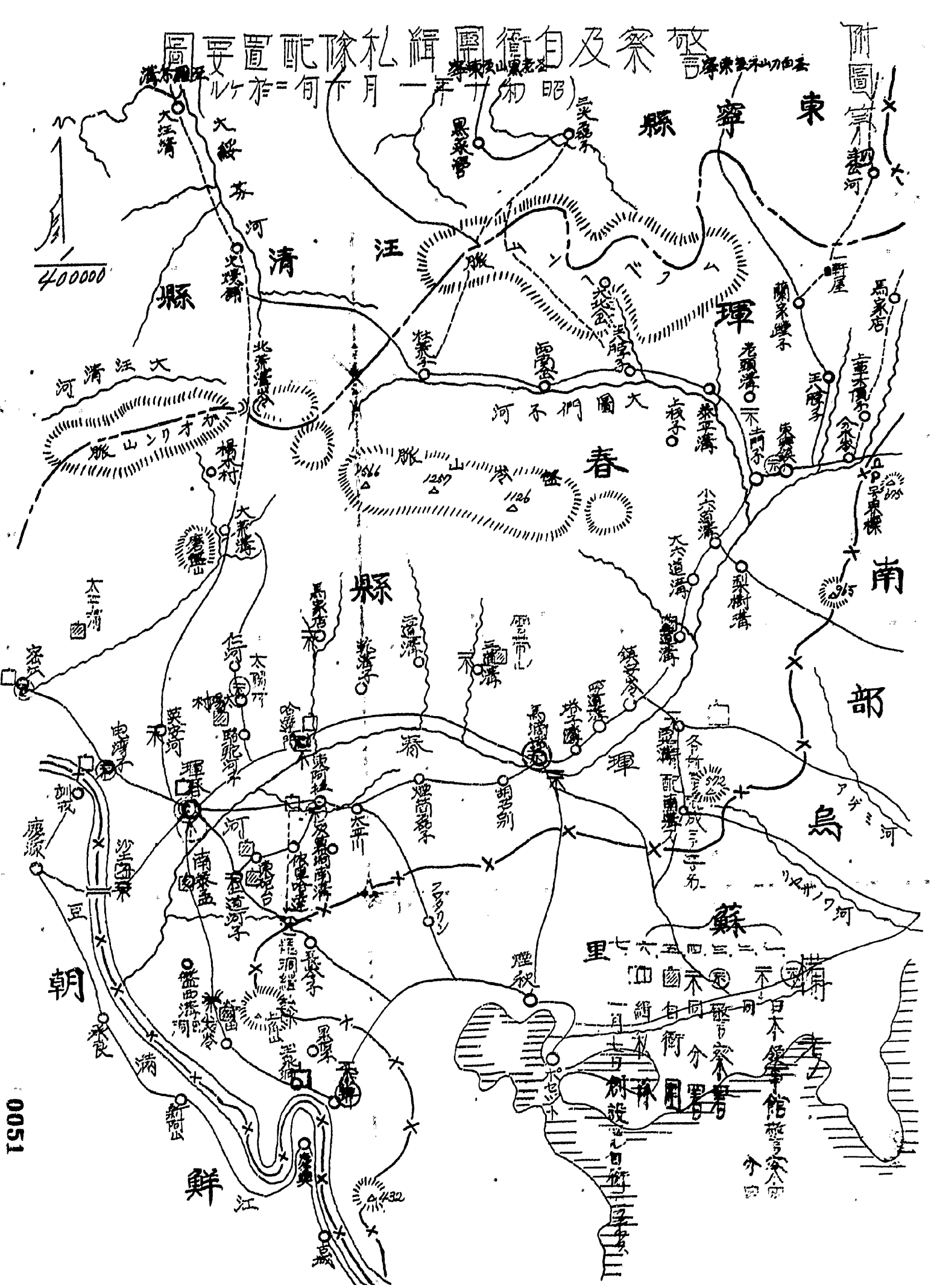
朝鮮國軍隊配備要圖



0050

警察及自衛團編制隊配置要圖

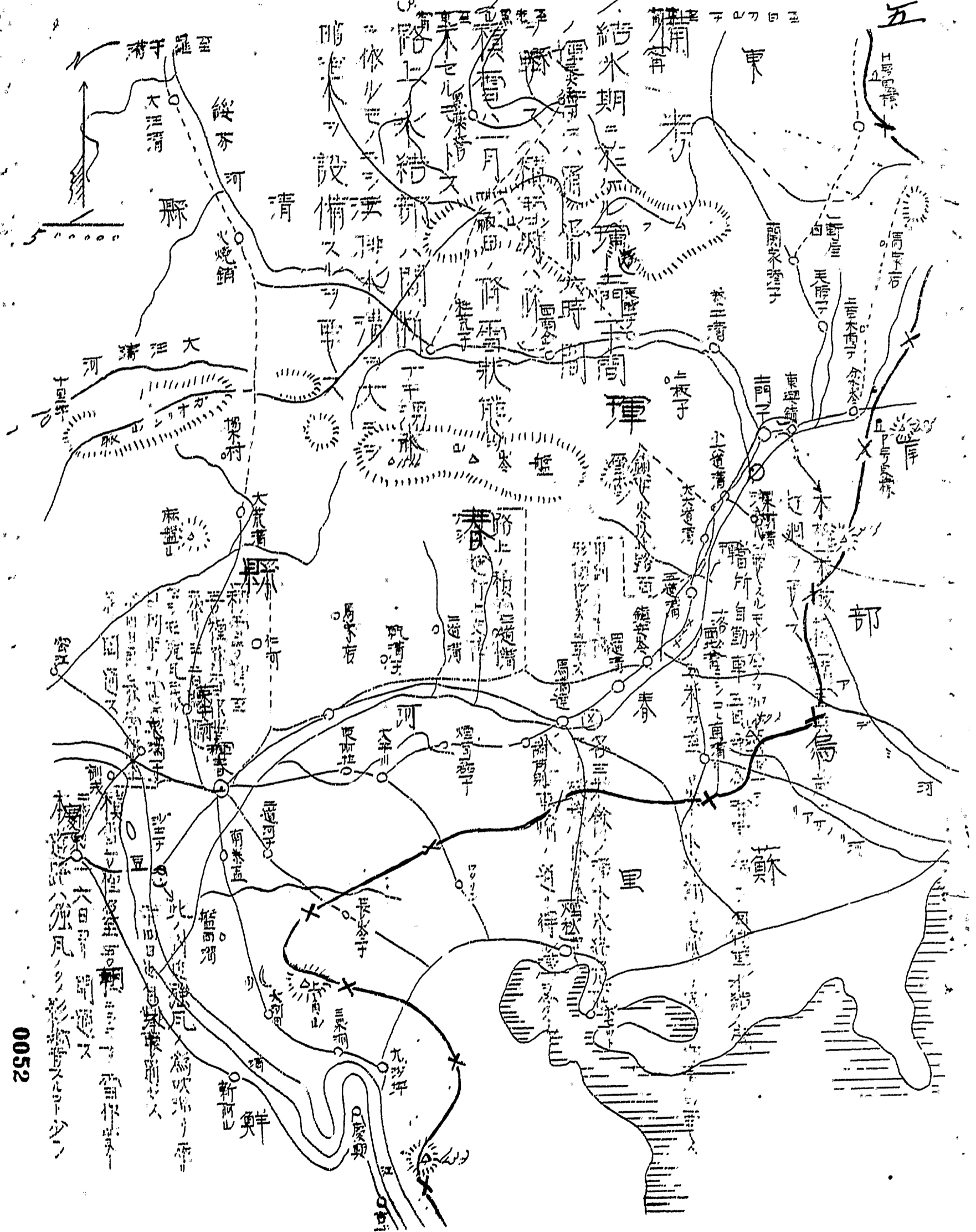
昭和二十一年一月一日



0051

自製車運並行道交況圖 (昭和十一年一月)

(昭和十一年一月)



0052

8500



第十九師團第守備隊月報

自昭和十年一月一日  
至昭和十年一月三十一日

目次

第一章 警備、概況

第一節 警備行軍實施、概況

第二節 憲兵警察ト、連絡

第三節 警備施設

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

第五節 汪清縣

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並鮮匪、狀況

第六節 滿洲國、部

第七節 露領、部

第四章 滿洲國軍隊警察自衛團、狀況

第八節 滿洲國軍隊

第九節 滿洲國警察

第十節 滿洲國自衛團

第五章 交通々信ニ關スル事項

第十一節 交通

第十二節 通信

第六章 編成裝備一覽表

第十九師團第一守備隊月報

第一章 警備概況

第一節 警備行軍實施ノ概況

警備行軍實施ノ狀況附圖第一ノ如シ

第二節 憲兵警備察トノ連絡

管内憲兵警備察トハ晝間一圓夜間二圓連絡シ管内情勢

ニ注意アルモ特記スヘキ事項ナシ

第三節 警備施設

各駐屯守備隊直接防衛設備ニ關シテハ從來ノ計畫ニ基キ

補強シツ、アリ

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

琿春縣内匪賊ハ日滿軍警ノ間断ナキ討伐ニ遭ヒ大打撃

ヲ受テ四散ノ態勢ニアリ且警備機關ノ充實或ハ滿洲



國諸制度、改革組織、整備、相俟、ツテ、縣内治安、一般ニ平穩ニシテ、庶民安ニシテ、生業ニ從事シアルカ、執拗ナシ、殘存匪賊ハ甚シク衣食難ニ陥リ、五名乃至十名、一團トナリ、至最ナル日滿軍警ノ警戒網ヲ脱シ、金品ノ強奪人質拉致ヲ敢行シ、アリテ、ホタ警備上樂觀ヲ許サルモノアリ

第五節 汪清縣

汪清縣内ニ於ケル共匪團、同地方住民ハ疲弊困憊シ、金品掠奪ノ餘地ナシトシ、武装死隊ヲ組織シ、縣内侵入シ、大規模ニ暴行ナリ。本期中、共匪團侵入事件五件、鮮内治安上特ニ注意ヲ要スルモノアリ

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊與毒匪ノ狀況

第六節 滿洲國ノ部

- 一 琿春縣内匪賊分布狀況附表第一、如シ
- 二 琿春縣内匪賊出沒被害調查表附表第二、如シ
- 三 琿春縣下匪賊分布狀況附圖第一、如シ
- 四 琿春縣汪清縣下匪賊分布統計表附表第三、如シ
- 五 琿春縣汪清縣下匪賊出沒被害統計表附表第四、如シ

第七節 露領ノ部

陸 軍

一 煙杖「ゲペウ」中隊並同管下「ゲペウ」小隊ノ狀況

二 煙杖民警署並同管下、激遺所ノ狀況

三 「メスミ」高級藝術學校遠東軍管區視察予定狀況

内 容

一 煙杖「ゲペウ」中隊並同管下「ゲペウ」小隊ノ狀況

從來煙杖「ゲペウ」中隊ニ於テハ步兵ヨリ補助「ゲペウ」ヲ採用配屬

シテリシガ 昨昭和九年秋頃之カ配屬ヲ廢止シ尔來「ゲペウ」ニ駐屯

スルニ至レリ

之カ爲從來ヨリ多少減員セラレ、ニ至リタルカ人馬數等次ノ如シ

名	長	階級	時校下	官數	兵卒	計	馬	銃	備	考
煙杖中隊	少將	佐官ニ	佐官四	七	二〇	三〇	其 他 一 二	輕 重 機 冬 一	營 察 犬 一	營 動 船 小 一
小隊	大尉	尉官一	尉官一	二	二	一	兼 用 一	機 械 一	營 動 船 一	

煙杖民警署屬同管下激遣所ノ狀況

小 鹿 島 隊	小 臥 山 隊	小 ハイ セ 隊	小 ハイ セ 隊	小 カ ラ ン ケ ン 隊	小 中 彈 隊	小 ワ タ シ 隊	小 松 田 隊	小 大 シ ン 隊
中 尉	大 尉	少 佐	少 佐	大 尉	中 佐	中 佐	中 佐	大 尉
					尉官ニ			
三	二	三	二	三	四	三	三	二
一〇	一〇	一四	一〇	一	一七	一	九	一〇
一四	一四	二〇	一四	一六	二四	一六	一四	一四
一〇	泰自一〇	〃〃 三八	〃〃 二四	其他 一三	其他 一六	〃 一四	〃 一四	〃 一四
一	輕機	輕機	平射砲	輕機	重機	重機	重機	重機
一	一	一	一	一	一	一	一	一
木船		大			大		大	

昭和九年三月迄「ラスラヤヤンカ」「バラババーシ」「ホセソト」ノ三箇所ニ煙杖  
 ト同様ノ民警署アリシガ當局ニ於テハ其ノ必要ヲ認めサルニ至リタリトテ  
 之ヲ廢止シ新ニ「スラウヤンカ」「テイア」「ヤンコムトイ」(「ホセソト」南方約八  
 料)ノ三箇所ニ煙杖民警署臨時派遣所ヲ設置シタリ其ノ編成等次

# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

0061~0085

3年12月19日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



名	稱	署	長	署員	計	武器	備	考
煙	秋民警署	杯	虎	一四	一五	黨銃二		
ス	マ	遣	所	三	三	三		
テ	遣	所	三	三	三	三		
ヤ	ン	コ	ム	一	二	二		

三、モスコウ高級戦術学校生徒ノ遠東軍管區視察予定状況

「モスコウ」高級戦術学校ニ於テハ今年五月卒業スヘキ生徒二十四名ヲ同校教官監  
 督ニコスキ引率ノ下ニ現地調査並戦術研究ノ爲ニヶ月間ノ予定ヲ以テ遠

東ニ派遣スルコトハナリ本月二十七日頃「モスコウ」ヲ出発飛行機ニテ「スパスク」  
 三直航ル有施設ヲ視察スル、同時ニ國境防禦設備ヲ見学研究スル趣

ナリト  
 第一區「スパスク」「ニコリスク」浦汐ヘルスキトヲ含ム「ニコトワ」「ニコトリ」等

「モセウ」

第二區 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」 「ハルビン」

第三區 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」 「ラフエネエヌク」

第四區 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」 「ケタ」

南遼東特ニ軍團司令部ニテハ右一同ト共ニ司令部員一同高級参謀一同  
同行セシムル予定ナリト

在蘇朝鮮人共產黨員中ノ有力者

一俞ウシルロユ

「ゲヘウ」

吳成默

「出版部」

宋夢順

「民族部員」

李光

「師大校長」

蔡東順

「民族部員」

吳ベツケヤ

「師大校長」

黃東陸

「市議員」

梁イルニヤ

「師大教授」

李文賢

「延海州漢大新聞社主筆」

崔林

「」

姜同興

「漢業大學」

徐順民

「」

李ワシムリエ

「」

崔永俊

「」

韓仁甲

「市教育局」

鄭泰

「」

朴牛

「出版檢閲部」

趙龍奎

「職業運動大學教授」

金允培

「師大教授」

金了ニヤ

「報利專門教授」

朴東勳

「先鋒主筆」

廉柱一

「ラジオ放送局」

南準標

「先鋒副主筆」

金ヨリニヤ

「市議員」

徐ワシムリエ

「太平洋労働組台社書記」

李仁日

「水成理在延慶園」



李 洋 俊

「東洋大学」

具 鉄 石

「北平島歩兵中尉」

金 寬 学

「市 議 員」

劉 昌 照

「北平島歩兵大尉 兼参謀部員」

李 中 執

「北平探査部」

金 俊 倭

「北平島歩兵中尉」

金 奎 曼

「探査部長」

趙 奎 鏡

「オリアピア島東方大隊長」

安 留 德

「巡回光字校教師」

全 ワ シ リ

「オリアピア島東方大隊長」

宋 熙

「十年制度字校長」

金 萬 兼

「労働字校長」

「尼古利斯克地方」

林 昌 殷

「尼市党責任書記」

俞 益 正

「高麗大隊少佐」

南 萬 春

「鐵道専門学校 教 長」

金 光 國

「歩兵大尉」

金 白 三

「本籍専門学校長」

沈 龍 震

「歩兵少尉」

金 コ リ リ

「職業會幹部」

吳 基 贊

「歩兵大尉」

韓 亨 吉

「ゲバウ少佐」

金 策 國

「教育専門教師」

韓 亨 一

「ゲバウ大尉」

洪 ヒ ヨ ト

「」

李 仁 「土場七年制学校長」

韓 成 傑 「教育専門学校長」

姜 雲 鼎 「巡回党学校教師」

金 俊 熙 「歩兵第七十六聯隊大隊長中佐」

朴 範 「元ホムス區域指導委員」

金 哲 勲 「政治巡回講師」

金 震 「市党学校長」

梁 ワ シ リ 「歩兵大尉」

朴 セ モ ン 「砲兵大尉」

金 震 「党学校教師」

李 英 植 「」

三ノバスク地方

池 尚 豪 「磁行隊中尉」

蔡 一 〇 〇 「」

鄭 仁 武 「元ホムス青年学校長」

朴 春 「元ホムス大学校長」

姜 ヒ ヲ ト ル 「市政治文化部長」

朴 英 植 「市議會議副委員長」

林 昌 植 「党責任書記」

金サカシ 「ゲバウ中尉」

四コロテコラ 地方

李仁涉 「ゲバウ中尉」

李永浩 「税関所長」

五ハバロフスク 地方

徐ペトル 「共大校長」

崔イリシヤ 「ゲバウ中佐」

金ワシリ 「共産統計局員」

桂奉編 「共大教授」

姜雄弘 「」

崔ニコルナイ 「」

金アパチン 「政治文化部員」

六モスコシ 地方

朴愛 「共大教授」

嚴ハルトン 「職業同盟幹部」

崔樞松 「市議員」

蔡英 「コルホース會長」

朴昌來 「市政治部」

昭和十一年三月三十一日現在 東京府立第一高等学校 教職員名簿

朴辰松 「共大教授」

金基恩 「大学教員」

命テペン 「」

朴仁彦 「士官学校教師」

興夏黙 「歩兵。聯隊長」

池尚海 「歩兵大尉」

ホセツト地方

梁ワシリ 「区域会長」

幸 括 「『ミニキル』新聞  
主筆」

林 焦 「警察隊」

金パペル 「國家範行」

金策先 「共利社」

金ワシリ 「貯金部」

崖ニコライ 「革命者救済會長」

金昌武 「党政治文二部」

千元益 「党政治文化部」

金アルネキチ 「國防後援會長」

金アナトリ 「バブミンゲベウ」

金アパナシ 「ノウエニスミシタ」

洪鐘俊 「労働検査部長」

以上一九三四年現在

ハヤフスカヤ共和國

崔高麗 「党責任秘書」

崔ニカタシナ 「宣傳部長」

九、ソビエトカカ地方

韓明瑞 「師範学校長」

煙秋附近、状況

一 煙秋附近道路、状況

昭和九年六月頃ヨリ、煙秋駐屯ニ兵隊ニ於テハ區域管見又ハ  
群衆ヲ指揮シ、煙秋ヲ中心トシテ左記道路ニ一、九三五、一、三  
蘇蘭戦道路ナリト、緋ノ人心競々ナリト

煙秋ヨリ香山洞ニ至ル道路橋梁

煙秋ヨリ「メラウロニカ」方面ニ至ル道路橋梁

鹿島ヨリ高倉峯方面ノ國境道路

二 「ルゲルマ」島、燈台新設状況

昨年七月頃「ホマツト」湾外海軍根據地ナル「ルゲルマ」島東  
南端ニ燈台一基ヲ新設シ一般漁舟ノ便宜ヲ計リ暗夜ハ連續  
照射スト

極東特立軍團ニ對シテノ官配屬ニ其編成状況

極東軍政當局ニ於テハ蘇聯國防委員會ノ指令ニ基キ一九

三五年、十六年、衰ハルニ日蘇戦勃發シ蘇聯邦ハ内外憂外憂  
 ハ危険期ナルヲ自覺シ蘇聯邦極東在住鮮滿青年ニ對  
 シ日蘇開戦ノ折ハ蘇聯ノ勝利ハ確實ニシテ朝鮮ノ獨立承  
 認滿洲ニ於ケル日本ノ侵略主義驅逐及中華民国ノ土地  
 回復等ノ好詞ヲ以テ約ニテ二十名ヲ徵兵シタルヲ蘇聯ハ  
 之ヲ國家非常節ハ最前衛部隊又ハ補充隊ニ任用ス  
 ノ二月十五日ヨリ「ハバロスク」ニ於テ軍事教練ヲ施ス事定  
 ムルカ鮮人幹部トシテ「モスコ」大學出身朴吳校(別  
 名)朴ヨリ五十二年ヲ軍司令官ニ任命シ「ハバロスク」極  
 東特立軍團部ニ配屬シタリト  
 公軍ノ編成別紙ノ如シ

極東特立軍団長 特別軍司令官

(兼) 司令官

混成旅隊長

第二師團

第一師團

參謀部  
經理部

經理部

參謀部

步兵三ヶ大隊  
砲兵二ヶ大隊  
騎兵一ヶ大隊  
及斯一ヶ中隊  
連絡一ヶ中隊  
經理一ヶ中隊

步兵三ヶ隊  
騎兵一ヶ隊  
砲兵二ヶ隊  
工兵一ヶ隊  
航空一ヶ隊  
連絡大隊一個  
及斯大隊一個  
送虎一隊  
經理一隊



混成大隊 副官

歩兵三ヶ中隊  
機銃一ヶ四隊  
五挺一ヶ四隊  
砲兵一ヶ小隊  
連絡一ヶ小隊  
工兵一ヶ小隊

中隊長

歩兵三ヶ小隊

第一分隊 各分隊八兵員一三名ヨリナリ 輕機一  
第二分隊 他小銃、手榴彈及擲彈筒ヲ携行ス  
第三分隊  
第四分隊

機關銃小隊

第一分隊 各分隊八兵員七名ヨリナリ 輕機一  
第二分隊 重機一ヲ携行ス  
第三分隊

砲兵隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊

各分隊八兵員七名ヨリナリ  
砲一門馬匹五頭ヲ有ス

騎兵隊

- 第一分隊
- 第二分隊
- 第三分隊
- 第四分隊

各分隊兵員十名ヨリナル

連絡小隊

- 第一分隊
- 第二分隊

各分隊兵員八名ヨリナル

經理小隊

- 第一分隊
- 第二分隊
- 第三分隊
- 第四分隊
- 第五分隊

各分隊兵員三名ヨリナル

#### 第四章 滿洲國軍隊 警察自衛團ノ狀況

##### 第八節 滿洲國軍隊

琿春派遼熱河支隊ハ前月報ノ如ク中島中佐及日系軍官(六名)ニテ銳意素質改善ニ努ムルト共ニ討伐警戒備等ニ當リ現地ニ即スル如ク教育訓練ヲ實施シテ

尚日系軍官カ滿軍數ニ比シ不足ニアリニテ今團第五軍管下(熱河)ヨリ二名ヲ新タニ増加セラル、コトナリ一名ハ既ニ到着シ他ノ一名モ近ク來琿スル筈ナリ

琿春縣内ノ滿軍配置ハ附圖第二ノ如シ

##### 滿洲國々境憲兵隊

國境憲兵隊ニ於テハ本年一月一日ヨリ採用シタル鮮人通譯ニ口名ニ對シ一月四日ヨリ教育ヲ開始シ目下訓練中ナリ

尚滿洲國々境憲兵隊ニ於テハ左記憲兵隊服務暫行規

定ニ依リ、国境警備ニ服務カシアリ

第九節 滿洲国警察

琿春地區治安維持會ニ於テハ一月七日ヨリ第二期治安工作ヲ開始スルニ至リ、支隊憲兵長ハ治安工作班員トシテ、警務機關ノ鞏固化ニ関スル事項ヲ担任シ、各種企畫ニ任スルト共ニ、警言察ノ指導、訓練ヲ實施中ナリ

## 第十節 滿洲國自衛團

一 九沙坪自衛團ノ廢止

琿春縣警言信保九沙坪自衛團(十四名)及玉泉洞自衛團(十一名)ハ同地方治安恢復狀態ニ鑑シ十二月九日解散ヲ命シ銃器彈藥ノ全部ヲ回收セリ

二 鎮安西北溝集團部落自衛團ハ縣當局ヨリ銃器彈藥ヲ貸與サレタルヲ以テ一月七日ヨリ鎮安峯守備隊ニ於テ教育訓練ヲ實施シ同月十二日終了セリ

目下引續キ同地駐在滿洲國警察官ハ鎮安峯守備隊長ノ指示ヲ受ケ訓練ヲ實施中ナリ

琿春縣首善保(甲)自衛團々長及團員調査附表第五ノ如シ

康徳元年十二月一日

琿春滿洲國々境憲兵隊服務暫行規定

琿春國境憲兵隊本部

國境憲兵隊服務暫行規定

第一條 國境憲兵ハ本規定ニ準據シ國境ノ警備ヲ嚴ニシ兼テ

軍事警察ヲ掌ルモノトス

第二條 憲兵隊長ハ全部隊ヲ統轄シ諸般ノ任務ヲ完全ニ遂行セシムルノ責ヲ有ス

第三條 甲副官ハ隊長ノ命ヲ受ケテ庶務ニ服シ本部附軍士以下ノ業務分擔ヲ定メ且ツ其勤務状態ヲ監視スルモノトス

乙副官ハ隊長ノ命ヲ受ケテ諸情報ノ蒐集ニ任シ之カ報告並ニ月報ノ作製發送ノ業務ニ服ス

第四條 文牘ハ各分擔區分ニ從ヒ書類ハ受付發送文書ノ淨書並ニ整理ニ任ス

第五條 軍需官ハ隊長ノ命ヲ受ケ全般ノ經理業務ヲ圓滑ニ進捗セシムルノ責ニ任ス

之ヲ爲周到ナル計畫ヲ立テ確實ナル實施ニ依リ遂算  
ナキヲ期シ特ニ金錢ノ保管出納ハ常ニ之ヲ明ニシ且分  
駐所ノ經理業務ヲ指導監督スルヲ要ス

第三六條 隊附軍官ハ兵器彈藥ノ保管出納ヲ掌シ其整理ノ  
責ニ任ス之ヲ爲隊保管ノ兵器彈藥ハ確實ナル鍵ヲル  
箇所ニ格納シテ其番號實數ヲ明ニシ且監視者ヲ附ス  
ルヲ要ス

又分駐所其他ニ配當セルモノハ銃器彈藥ノ番號實數  
等ヲ配當簿ニ記載シ其出納ヲ明カニスルモノトス

第三七條 軍士以下ハ其各々長ノ命ニ從ヒ艱苦飲ミ堪ヘ忠實熱心ニ  
服務スヘシ

第三八條 各地ニ駐屯スル部隊ハ各其地名ヲ冠シ其地處兵分駐所  
ト稱ス

第三九條 各分駐所ノ管轄區域要圖ノ如シ



第十條 各分駐所長ハ其区域内日滿警備機關ト連絡ヲ密ニシテ國境監視ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

其連絡要領附表第一ノ如シ

第十一條 憲兵隊長ハ少クモニケ月ニ一回管内各地ヲ巡視シ一般ノ狀況ヲ視察スルト共ニ各分駐所ノ勤ヲ指導督勵スルモノトス

第十二條 各分駐所長ハ時々区域内ヲ巡察シ其警備ニ遺憾ナキヲ期スヘシ

第十三條 各分駐所長ハ經ヘス区域内及蘇聯内ノ狀況ヲ報告スルト共ニ毎月二十五日迄ニ附表第二要領ニ基キ月報ヲ提出スルモノトス

第十四條 隊本部及各分駐所ニ警備日誌ヲ備付ケ毎月指定ノ事項ヲ記入シ置クヘシ

第十五條 各責任者ハ武器彈藥ノ保管出納ヲ確實ニシ武器

破損彈藥ノ射耗等ノ際ハ其都度事情ヲ具シ  
 ガニ隊長ニ報告スルモノトス

第十六條 各分駐所長「本部ハ副官」ハ止テ得サル事故ノ為休  
 暇ヲ願出スルモノアルトモハ事情ヲ具シ附表第三様式  
 ニ依リ隊長ノ認可ヲ受クルモノトス

第十七條 細部ニ関スル服務規定ハ各分駐所長ニ於テ規定ス  
 ルモノトス

計表第一

應與各部隊關係機關連絡要領表

部隊	連絡場所及要領	連絡數	連絡地	備考
憲兵分駐所	國境憲兵隊本部 日軍憲兵隊 日滿警察署	每日一次		如有急務使用電話
分水沓	東興鎮日軍憲兵隊 公 滿軍營部 公 警察第七署	二日一次		1. 與營本部每日採取電話連絡 2. 連絡由巡察兼併行之
明芦別	馬滴達警察署	二日一次		連絡由巡察兼併之
二道河子	二道河子分署	三日一次		公 右
三家子	九沙坪分署	三日一次		公 右

附表第二

某地憲兵分駐所月報

康德二年月分

一 管區內一般情形

二 管區內日滿軍警情形

三 關於兵器事項

四 關於人事事項

五 關於經理事項

六 關於交通々信事項

七 隣接外邦情形

八 其他重要事項

附表第三

請願書

分駐所長印

茲因.....事懇請准予

自月日共日擬在某處休暇

伏請恩准實為德便謹簽

康德二年月日

某地憲兵分駐所

階級 姓名 印

琿春國境憲兵隊長張鑒核

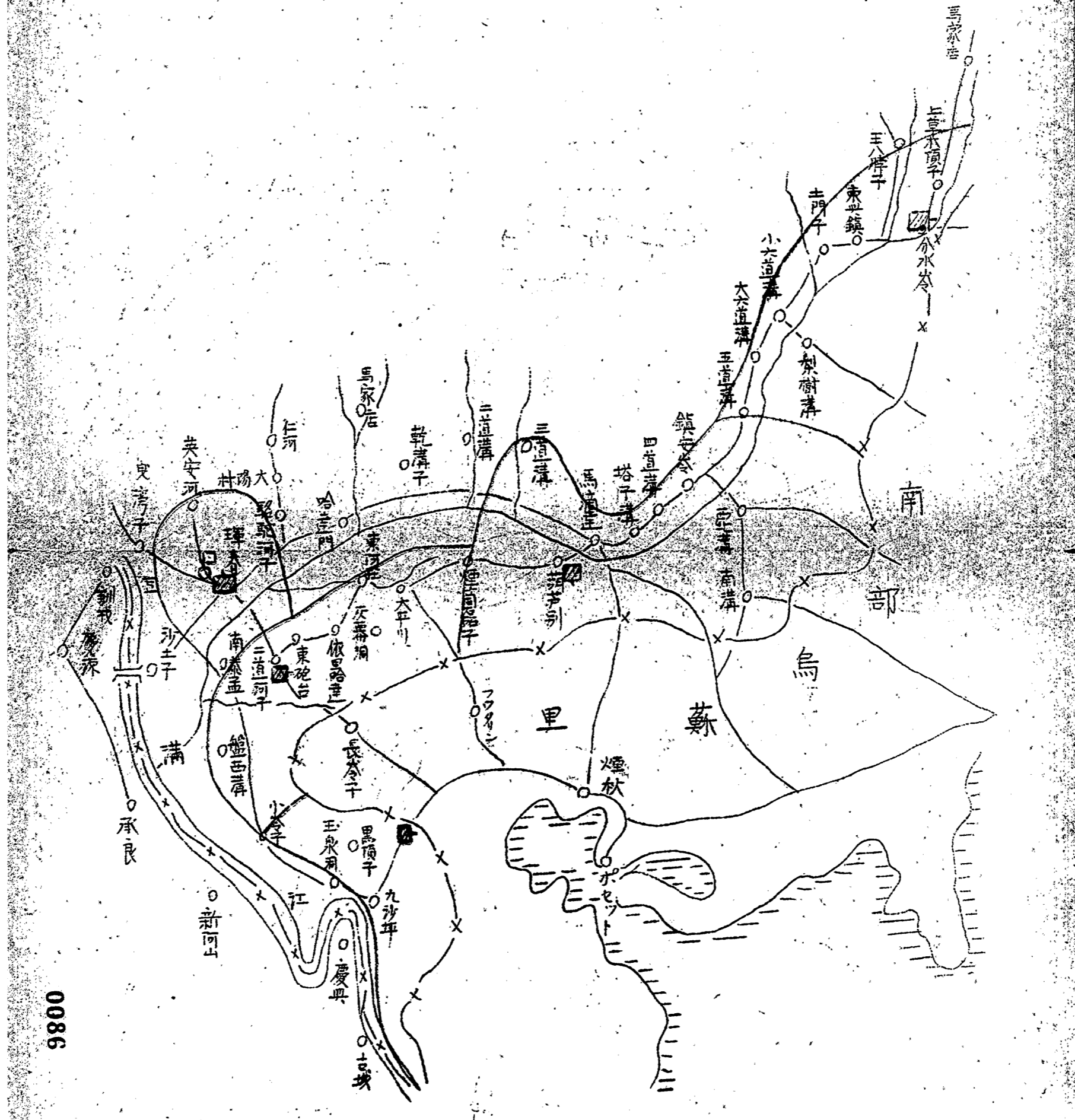
奉天國境憲兵隊臨時通譯(傭人)一覽表

康徳元年十二月二十五日  
國境憲兵隊本隊

氏名	年齢	學歷及職業	原籍	籍	保証人
金 和	二二	普通学校卒業憲兵隊通譯	咸鏡北道茂山郡	植野大尉	
姜 道	二七	高等小学卒業民會書記	鏡城郡	姜周興	
姜 成 欽	二三	中学卒業日本警察傭人	全	高業 朴永化	
李 家 龍	二四	高等小学卒業書記通譯海關員	黃海道鳳山郡	奎圭貞	
曹 学 尹	二五	普通学校卒業朝鮮總督府巡查	咸鏡北道慶源郡	高業 申享德	
姜 壽 益	二五	中三修陸軍連隊員巡補通譯警長	全	文用石	
丁 碩 享	二三	農学校卒業事務員書記	全	前原植博官	
崔 貞 赫	二一	高小卒業事務員	全	崔錫源	
韓 性 大	二六	日本高業学校卒業	忠清北道沃川郡	石川中佐	
朴 泰 善	二四	普校卒業店員警察傭人	咸鏡北道穩城郡	高業 文用石	
金 碩 宗	三三	普通学校卒業書記教員	全	民會會長 姜周興	
元 益 舜	三一	中学卒業	全	慶源郡 元載舜	

編考				鄭仁松 三一	朴河連 二一	鄭漢杓 二二	崔守範 二二	柳頌南 二四	玄基雨 二三	全麟勳 二一	鄭錫恩 三三
				高小卒巡官民會副會長	中学卒教員通譯	小学卒農業	中二修教育	中二修自衛團員書記	高小卒警士通譯	普学卒家事二成事	小学卒通譯
				平北道龜城郡	△慶源郡	△明川郡	△慶源郡	△慶源郡	△慶興郡	△穩城郡	△會寧郡
				旅館 朴競春	高業 朴東一	藥品店 富經 文	黄敏鶴	△	△	△	△

圖要域區轄管隊兵憲境國春琿



9880

# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

0087~0132

3年 12月 19日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫





月日	曜	主要行事 精進 神教育 育 平日(二時間)	情報教育 毎日(二時間)	軍事常識教 育 毎日(二時間)	語学 摘要
一	火				
二	水				
三	木				
四	金	通譯入隊式			
五	土	軍屬、覚悟	滿洲國軍概説	不動の勇(疾走) 行進歌(疾走)	軍用語
六	日				
七	月	建國精神	匪賊ニ就テ	公右	軍隊符號
八	火	勸諭、解説	蘇俄軍偵察記	不動の勇(乳銃) 銃術教(乳銃)	軍用語 諸日満
九	水	世界、大勢	地圖見方及注意	銃術、扱方 名槍、扱方	公
一〇	木	王道ニツキ	密偵、学	立	射 公
一一	金	暴、光輝 アル存在	公右	膝	射 公
一二	土	白禍論	公右	伏	射 公

連春國境憲兵隊臨時通譯教育豫定表

昭和二年一月一日作  
國境憲兵隊軍事教官

一三	日					
一四	月					
一五	火					
一六	水					
一七	木					
一八	金					
一九	土					
二〇	日					
二一	月					
二二	火					
二三	水					
二四	木					
二五	金					
二六	土					
二七	日					
二八	月					
二九	火					
三〇	水					
三一	木					
三二	金					
三三	土					
三四	日					
三五	月					
三六	火					
三七	水					
三八	木					
三九	金					
四〇	土					
四一	日					
四二	月					
四三	火					
四四	水					
四五	木					
四六	金					
四七	土					
四八	日					
四九	月					
五〇	火					
五一	水					
五二	木					
五三	金					
五四	土					
五五	日					
五六	月					
五七	火					
五八	水					
五九	木					
六〇	金					
六一	土					
六二	日					
六三	月					
六四	火					
六五	水					
六六	木					
六七	金					
六八	土					
六九	日					
七〇	月					
七一	火					
七二	水					
七三	木					
七四	金					
七五	土					
七六	日					
七七	月					
七八	火					
七九	水					
八〇	木					
八一	金					
八二	土					
八三	日					
八四	月					
八五	火					
八六	水					
八七	木					
八八	金					
八九	土					
九〇	日					
九一	月					
九二	火					
九三	水					
九四	木					
九五	金					
九六	土					
九七	日					
九八	月					
九九	火					
一〇〇	水					

備考 三二八二九ノ兩日ノ教育課目ノ補助ノ為豫定ヲ未定トス	三二水	各隊ノ配屬 為出浴				
	三三水	檢閱	未定	未定		
	三四水	作文課題	未定	未定		
	三五火	課題試験	未定	未定		
	三六月	術科檢閲	未定	未定		
	三七日	語学試験	未定	未定		

第十一節 文 通

一 瑠春縣

降雪ノ為自動車交通杜絶ス

一月十四日ヨリ今十六日マテノ間縣内全般二百リ四十裡乃至

七十裡ノ降雪アリ

旁為縣内各自動路交通杜絶スルニ至リタルヲ瑠春ノ慶

源間、瑠春上訓我間、一月二十日午後ニ至リ辛ミテ自

動車ノ運行ヲ見、瑠春ノ門子間、一月十八日ニ至リテ

間道ニ交通ヲ開始セリ

二 鮮 内

鮮内國境附近各地ニ於テハ積雪三十裡以上トナリタル時、交

通ハ相當ニ困難ナリ、特ニ慶源ノ會寧、慶源ノ瑠春、慶

興ノ春鶴洞間ノ自動車ハ全ク杜絶スルニ至ル

降雪後ニハ必ズ強風ヲ伴フヲ以テ、除雪作業亦ハ實施

又此巻次溜雪、為再三交通柱絶スルコト多ク

第十三節 直信

特記スヘキ件ナシ

第六章 綱及裝備一覽表

附表第六ノ如シ

附表第一

匪賊分布状況				(璋春縣)		
頭目 又 名	人馬 數	橫行 地區	系統	日滿 軍 討 伐 狀 況	月内ニ於テ 行動ノ概要	毒策 苦クハ 將來ニ致 ス 噸噸 狀況 ニ視 テ 察
由 共 璋 春 本 員 會	人約 三〇	長銃三銃 彈藥一銃三行 四カ至ハツ 外ニ奉銃若干 ヲ有ス	春北保六 道薄又ニ板 子溝附近 蘇林	共 匪		
人約 七〇	詳カナラス	魯化保杜荒 子附近	〃			
人約 六〇	長銃三銃 一銃ニ付四カ至ハ 外ニ奉銃若干 ヲ有ス	德惠保 揚蘇集	〃			
人約 二〇	長銃二四同彈藥 一銃三付四カ至 ハツ奉銃 奉銃二	魯化保長 峯子附近 蘇滿國境	〃			
					食料難クモ昨 年江清縣大饑 餓方面ニ移動 ス	
					伏素一派一四カ十 リシテ最近増 加シ現在ニシテ 三	

清軍	明山	新起	孫古山
一 人	三 人	一 人	五 約
長銃一七 同彈藥百三 三	長銃三五同彈 藥一銃二付百發 乃至百三十發 拳銃五	長銃八同彈 一銃二付八發 外拳銃一	長銃四二 淨藥二銃二付 外 拳銃八
率春縣界 寧縣界及 米軍縣李 家窪子所 直松林	二門于北方 蘭家窪子 與密林地 帶	蘭家窪子 三八牌于附 近	亦信保 溝兵密林 地帶
			賊 匪
二門土素密街 道ニ出没通行 者ノ金品ヲ掠 奪シツ、アリ	蘭家窪子附近 卸落並三門子 原密丁間、旅行 者ヲ誘取ニ金品ヲ 強奪シ、旅行セ リ	蘭家窪子附近	孫古山、三門子 亦信保、寧縣、 四子洋、勳一列、 ソ、依、六、道、神、兵、 報、警、之、所、近、密、 落、ニ、出、没、公、衆、 奪、人、財、物、致、 敢、行、シ、アリ

匪賊出沒被害調査表

(理春縣)

月日	場所	頭目及 賊目數	出沒行動の概要	摘要
一	春化保 五道溝	共匪 一	午後十時頃同地ニ現ハレ村民七八十名カ五日間勞働シ得タル砂金全部ヲ掠奪且ツメリケン粉二十一袋ヲ強奪ノ上村民ニ之ヲ負ハシメ北方密林中ニ逃走セリ	
二	春化保 沙金溝	共匪 二	午前六時頃同地ニ出沒セルモ同共匪出現ノ直前ニ兵匪ノ出沒シタル狀況ヲ聞キ何等爲スノト方何レカニ引揚ケタリ	
二	崇禮保 麻田洞	共匪 六	午後頃△地居住鮮人金某方ニ於テ△地賭博開場中侵入家人金ニ對シ場錢ヲ強要金九十圓ヲ強奪何レカニ逃走セリ	
三	勇智保 沙金溝	共匪 八	午後四時同地居住滿人鄧某方ニ於テ夕食ヲ強要與シタル後鄧ニ對シ多少ニ拘ラス部路ヨリ現金ヲ集メテ提供ヘシト命ニ有金二百四十圓ヲ掠奪シ△地山中ニ逃走セリ	



<p>二 口</p>	<p>一 口</p>	<p>七</p>	<p>五</p>	<p>四</p>
<p>香板子溝 香仕保</p>	<p>興仁保 英安河</p>	<p>興仁保 関門岨子</p>	<p>崇禮保 龍城坪</p>	<p>龍義郷 柳亭坪</p>
<p>共匪 一五</p>	<p>共匪 一〇</p>	<p>共匪 五</p>	<p>共匪 三</p>	<p>共匪 三</p>
<p>午前九時頃同部落ニ現レメリケン粉三袋沙金十匁(時價百二十三円)ヲ掠奪シ同十時三十分頃杜荒子方面ニ向ケ引揚ケタリ</p>	<p>午後十時三十分頃同地居住鮮人崔興崙方ニ現レ隅々同家宿泊中ノ内地人ニ名ニ重傷ヲ負ルメ同入ノ所有捕銃及同彈藥其他數具ヲ掠奪シ上何ケニ逃走セリ(見積價格約百円)</p>	<p>午前二時頃同地居住鮮人朴容默方ニ現レ粟三斗(時價四円)ヲ掠奪シ上主義宣傳ヲ為シ日滿官憲及石炭坑ノ採掘状況ヲ調査シ上何レカニ立去リタリ</p>	<p>午後十二時頃同地居住鮮人許計鉉方ニ侵入シ現金三十円ヲ強奪シ長岑子方面ニ逃走セリ</p>	<p>午後十一時頃同地居住氏鮮人許斗鎮方ニ現レ現金三十円ヲ強奪シ火龍溝方面ニ引揚ケタリ</p>
	<p>右數言報ニ接シテハ滿堂及環春領警ニ於テハ直チニ出動追跡セルモ賊影ヲ認メス</p>			

一八	一二	一一	一〇	一〇
李家墾子 春化保	大六道溝 春化保	馬智保 沙金溝	興仁保 関門墾子	馬智保 沙金溝
三	七	一五	五	三
明山隊 春化保 李家墾子 七ノノ	兵匪 春化保 大六道溝 シ人夫十名ハ直ニ釋放飯來セリ	共匪 馬智保 沙金溝 午前五時頃同地ニ現ハレ採金人ノ所持セ ル食糧ヲ全部掠奪シ人夫十名ニ獲ラ 帶セシメ其ノ上鮮人趙順官外一名ヲ拉致 シ人夫十名ハ直ニ釋放飯來セリ	共匪 興仁保 関門墾子 午前一時同地居住鮮人崔漢鐘方ニ現ハレ 住民十餘名ヲ集合セシメ三義宣傳ヲ為 シタル後同家ヨリ粟米二斗(時價ニ五円)ヲ 強奪シ同地東方ニ向ヘリ	共匪 馬智保 沙金溝 午前九時頃同地ニ出沒シメリケニ粉大白 紙(見賃價格二百五十錢)及現金一円二六錢 ヲ強奪シ同地ニ逃去セリ

<p>一 一 〇</p>	<p>一 九</p>
<p>上核子溝 春化保</p>	<p>蘭家墾子 春化保</p>
<p>一五 占山隊</p>	<p>二〇 明山隊</p>
<p>夕刻公然ト上核子溝ニ現ハレ同地沙 金入夫ヨリ沙金十級、春粉一袋、 白米若干ヲ掠奪シ山谷奥ニ引揚ケ タリ（見積價格約百四十円）</p>	<p>午前九時頃東興鎮居住講人李占海 ハ東窓ヨリ穀類其他ヲ滿載セル馬車 ヲ牽キ東興鎮へ飯途中蘭家墾子南 方十二村ノ地奥ニ於テ明山隊ノ味ニロ名 ト遭遇シ豆油、仿寒燭其他衣類數點 （見積價格十円）ヲ掠奪セラレタリ</p>

附表第三

匪賊分布統計表

計	汪清縣	琿春縣	縣別	
			團體	人員
九	五	四	兵馬	匪
二一七	一六〇	一〇七	團體	人員
一五	一四	一	兵馬	匪
四五二	三三二	一二〇	團體	人員
二四	一九	五	團體	人員
七一九	四九二	二二七	團體	人員
			計	

附表第四

匪賊出被害統計表

縣 清 注		縣 香 環		縣 別	
兵馬匪	共匪	兵馬匪	共匪	別種賊	出沒
一	一〇	四	二	件數	延賊數
一五	三二八	四五	一〇三	殺傷	被
			二	拉致	害
	四	二		放火	金
	牛 見積價格約二百円	衣類 數具 砂金 一〇匁 見積價格一四〇円	粟 二斗 赤粉 一三袋 砂金 一〇匁 見積價格一五七円五〇錢	現金 二一四円八錢	品

計	
馬	英
五	三
六	四
	三
三	四
見積價格一四〇	現金 三十四八銀 粟 三斗 麥粉 一三袋 砂金 十匁半 頭 見積價格 二五七五〇錢

附表第五

群奉縣百善保(甲)自衛團之長及團員調

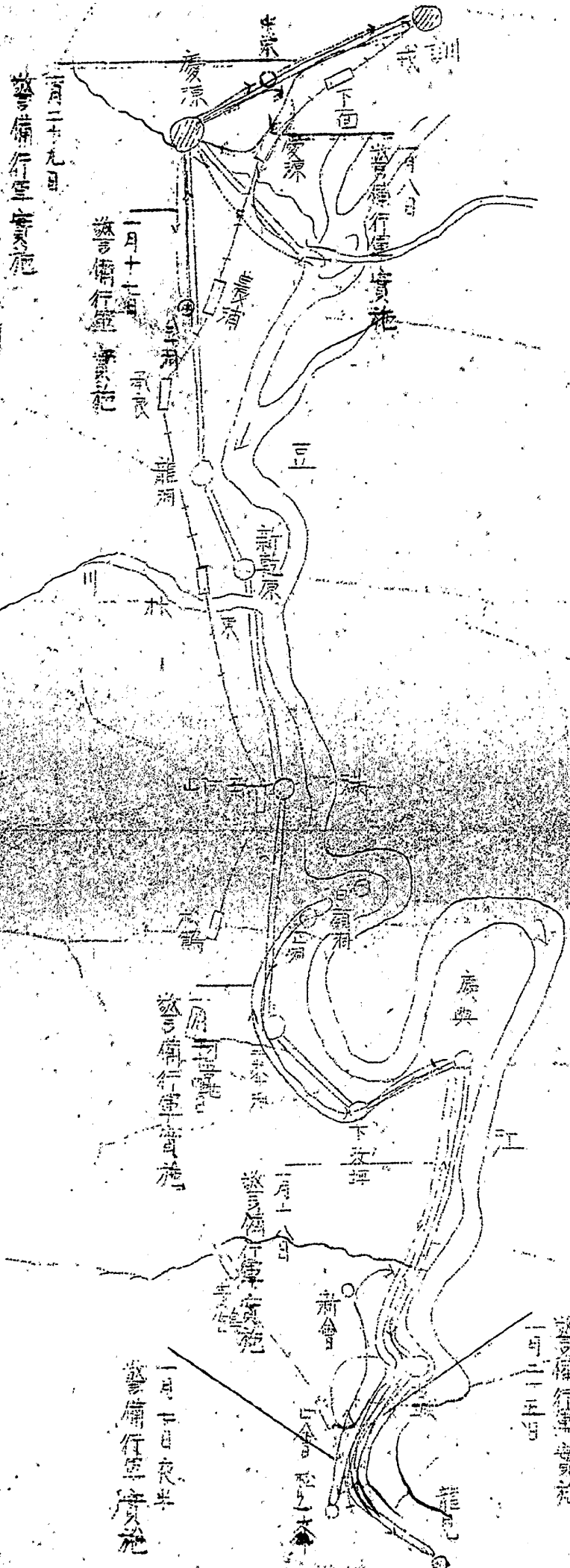
保甲別	保甲正副團長	團員	摘要
百善保	團總 初連發 副團總 郎百齡 鄭仁權	團員 滿人 一六〇四 鮮人 四六二	一保ノ團總及副團總 及團員ハ甲ノ兼任 及團員ニシテ重役 アリ
八保樹甲	正團長 関洪寛 副團長 李錫忠	團員 滿人 一〇二二 鮮人 一一二	
第三廟甲	正 〃 〃 金應道 副 〃 〃 郎恩亮	團員 〃 〃 八二 〃 〃 五五	
地甲	正 〃 〃 郎百齡 副 〃 〃 戴春峰 姜永海	團員 〃 〃 一三八 〃 〃 一三	
山甲	正 〃 〃 劉福瑞 副 〃 〃 金龍源	團員 〃 〃 一五八 〃 〃 六〇	
		計	
		團員	

備考	龜山甲	新安甲	大同甲	鐸大甲	西門甲	永門甲	靖安甲
	正副	正副	正副	正副	正副	正副	正副
	孫正 韓德 福	金東 陶凱 六	李懷 毛子 瑞 彬	李張 渭海 川 翼	王金 漢益 奎 亭	孫黃 玉鳳 增 吉	凌元 戴初 魁 連 海
	十四	一三六	九五二	一二三	一一八	三五	一七三
	四四	一三六	二四五	三五	二三八	二八六	三八六

一氏名上ノロハ舞入トス  
 二甲八保ノ下ニ在リテ組織ス  
 三團總正團長等ハ何シモ保甲長カ兼任シアリ



附圖第一月中警備行軍實施狀況圖



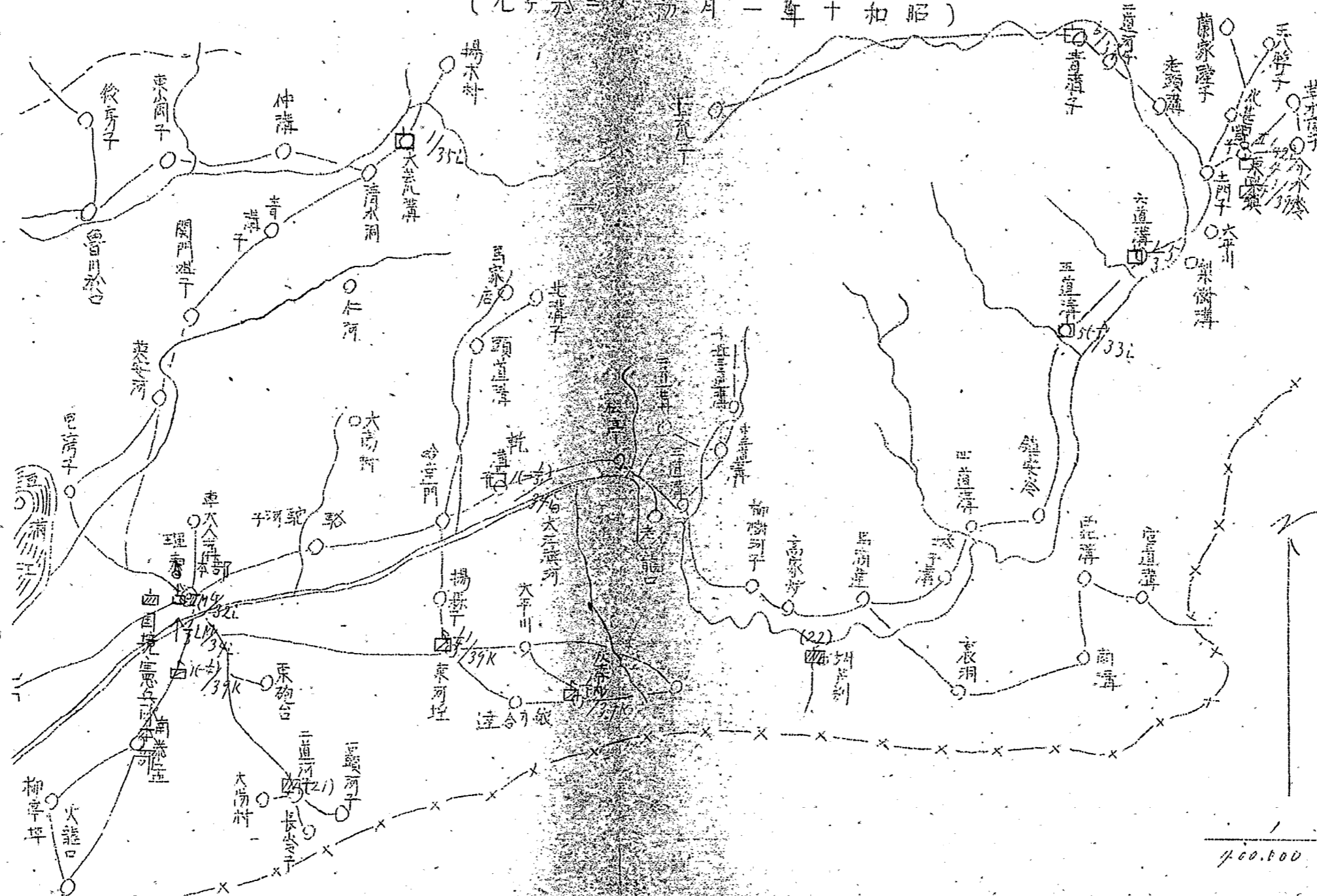
0103



# 圖要置配軍滿內縣春琿

(九分於一 初月一年十和昭)

附圖第三



9010

秘

第十九師團第二守備隊月報  
自昭和十年一月一日  
至昭和十年一月三十一日

第一、警備（討伐）ノ概要

一、鮮内匪賊ノ侵入及討伐ノ概要附第一ノ如シ

二、警備一般ノ情況

一、穩城守備隊ニテハ頻々トシテ匪賊鮮内ニ侵入スル現況ニ鑑ミ、要々警備行軍ヲ實施シ地方民心ノ安寧ヲ警備機關ト連絡並情報ヲ蒐集ニ努メテアリ

二、穩城守備隊ニテハ匪賊鮮内ニ侵入シ、備フルタメ、十一月該地憲兵ノ遣隊長警察署長ト會合シ穩城邑内警備ニ關シ左記ノ如ク協定シ邑民一般ニ對シテ匪賊侵入申報要領ヲ徹底セシメタリ

平時警備

一、守備隊憲兵並分遣隊警察署、深夜不時邑内、

巡警ヲ行ヒ互ニ異状ノ有無ヲ通報スルモノトス  
 二消防ハ四名該所ニ位置シ二名宛夜間毎日邑内ノ巡  
 察ヲ行ヒ其ノ都度巡警署ニ連絡スルモノトス

### 非常時救急備

一邑内ニ匪賊ノ侵入ヲ知リタルモノハ大聲ニ般ニ傳フルト共ニ遠  
 二守備隊憲兵ノ隊警署等ハ救急備機關ニ申報  
 三之ノ責任ヲ有スモノトス

一救急備機關中最初ニ右ノ申報ヲ受テ又ハ自ら知リタルト  
 キハ銃聲ヲ以テ他ノ救急備機關ニ急報スルモノトス

三守備隊救急署ノ大部出動セル場合ハ在郷軍人官公  
 吏ヲ以テ防備團ヲ組織シ憲兵ノ遣隊長ノ指揮ヲ  
 以テ邑内ノ救急備ニ任ス  
 其ノ呼集ハ救急署ノ鐘ノミ乱打ス

第二章 奉天及滿洲之概要

六情一般

滿洲國財政部ニ於テハ從來輸入品ニ對シ輸入税ノ税關ヨリ統税(消費税)ヲ税損局ヨリ二回ニ徵收シテリレカ庶民ノ難澁期ヲカルヲ以テ之レカ便宜ヲ革ムル為一月十五日ヨリ一龍記物品ニ對シテハ統税ヲ廢止セラレタリト  
酒、麥粉、綿紗、煙草、セメント

滿洲國ニ於テ治外法權撤廢ノ準備工作トシテ國內監獄設備制度ノ改善及警察制度ノ改善ヲ企圖シアリト

滿洲國々務院ニ於テハ在滿日系官吏帝國軍隊ニ入營及應召セムルニ對シ給與規定<sup>ノ</sup>康徳元年十月以降ノ兵後義務者ノ便宜ヲ圖リ且恩典ニ浴セシメテアリ

治安概要

昨年日滿共同秋季討伐及日滿警察隊員及治安工作

班員自衛團等ノ活動ニ依リ治安梳ネ肅正セラルルモ  
 本年ニ至リ極度ノ衣糧難及討伐峻烈ナル為匪賊其ノ  
 根據地ヲ失ヒ前後三四ニ亘ル老頭清ノ龍表撃及穩城階  
 近ノ小匪賊ノ解内侵入等窮鼠猶シ咬ム類ノ活發ナル活  
 動ヲナシテアリテ尚偷安シ許サレモノ如ク各警備機  
 関ハ鋭意治安工作ニ勉メツアリ  
 各縣政情並ニ治安工作

和龍縣

ハ滿洲國協和會關山比令會ニテハ一月中旬旬延考ニ於テ関催  
 スヘキ地方聯合カ協會第一大會ニ提案ホスヘキ事項ヲ

如ク決議セリ

決議事項

ハ令會補助費ニ關スル件

ハ令會金ニ關スル件



三役員録令書ニ關スル件

四模範農場設置ノ件

五失業業者ノ救済ニ關スル件

ニ延吉縣

一延吉地区産業委員會設立ニ關スル件

延吉地区治安維持會ノ補助機關トシテ設立シ同會長ヲ

シ設ク治安ニ勉メクアリ

ニ歸順者收容所設置ニ關スル件

延吉地区歸順審査員會ニ於テハ豫メ歸順者ノ教化保

護ノ爲歸順者收容所設置計畫中、延吉市街ニ約

二十名收容所ヲ建築シ目下二十名收容職員數名ニテ

教化保護ヲ實施中ナリト

三汪清縣

一縣當局ニ於テハ昭和九年年度ニ於ケル縣下農作物ノ不況ニ鑑

ニ穀物輸出禁止ノ必要ヲ認メ昭和九年下旬汪清縣公

警察局長より縣下各警察機關宛之訓令ヲ發シ

タリト

治安工作指導班有單清守備隊橋本少尉以下十七名

一名汪清縣治安工作班縣參事官永井定外十九名

一月二十日ヨリ十日間ノ豫定ヲ以テ凉水泉子附近一帯

ノ治安工作ヲ實施セリ

四和龍、清西縣公署知人附添第四ノ如シ

各縣匪賊ノ概況

各警備機關ノ間斷ナキ討伐ニ依リ四散セル匪賊ハ各種手段

ヲ盡シテ潛行連絡シアルモノノ如ク前後三回ニ及リ老頭清

襲撃ヲ敢行シ圖竄 沿線主要都市襲撃及要人

暗殺ヲ計畫シ是ノ宣傳ニ努メ又小匪賊數回縣内侵

シ行フ等一般ニ匪賊ノ活動活發ニナリテアリ

各縣匪賊狀況左ノ如シ

# 和龍縣

一 眞地ノ討伐ニ依リ根據地ヲ失ヒタル匪賊ハ分散的行動ニ  
 移リ勞働者旅人農夫等ニ変装シ我カ月滿警備機關  
 關ノ警備網ヲ潜リ潜行工作シ企圖レアルモノノ如ク縣内各  
 所ニ小匪賊ノ去没増加シ各警備機關ハ之ヲ備ヘツクアリト  
 二 明新社泉水洞新地方ニ根據地ヲ有シ安和兩縣匪賊ヲ  
 統制シ專ラ黨勢挽回ニ奔走中共和龍縣委曹後  
 條八十首下旬黨團長及革命軍幹部十餘名ト會合  
 ノ上ニ決議ヲナスト共ニ之レカ決行ニ着手セリト  
 三 現下ノ狀勢ニ鑑ミ黨團革命軍ハ方難ヲ排シ赤色區  
 域及黨勢ノ挽回擴張ニ邁進スルヲ

A 表面工作トシテノ

革命軍及黨團員ヲ白色区域内ニ侵入セシメ月滿警備  
 機關ノ破壞襲撃ヲ決行スルト共ニ富豪者ヲ拉致

シ資産ノ没收ニ郡衆ノ闘争ヲ惹起セシムルコト

口裏面工作トシテ

A. 日満要人ノ暗殺

B. 白色区域内ニ於テ細胞組織ノ破壊

六光閣社厚洞(鐘城村中丙才約四軒)居住、具冒昧外  
四名ハ東北人民革命軍ニ編入活動シアリタルカ昨年秋  
季討伐ニヨリ其ノ居所ヲ失ヒ最近密ニ厚洞ニ歸來シ同  
洞夜學校ニ至リ不穩宣傳ヲ行ヒ立去リナリト

延吉縣

三道歳上龍家地方ニ根據ヲ有スル中共黨延吉縣三道  
歳特別支部ハ本夏以來日満軍警ノ討伐ニ依リ數  
回根據地ヲ破壊セラレ屢々移動シタルカ就中赤色  
区域內非武装農民ニ多シ數ノ犠牲者ヲ續セ内部的  
動搖ノ兆アリニ根據地附近ニ蟠居中ノ兵匪ヲ乃ニ鎮道ナシ

農民労働者ヲ宣傳煽動黨勢ノ擴張強化ヲ計リツ、ア  
 白石清附近ニ於テ最近共匪等ハ部隊的行動困難ナルヲ以テ  
 満要人暗殺ヲ敢行スヘク暗殺隊員ヲ選抜シ各所ニ潜行  
 セシメツ、アリテ該暗殺隊員ハ滿洲地方ニ永住セシメテ  
 地理的關係及民情ニ通曉セシム者ニテ其他彼等一味ニハ狀況  
 ニ精通セシム者ヲ其他彼等一味ニハ狀況ニ精通セシム者ヲ相當アル  
 ヲ以テ今後彼等ノ行動ニ對シ嚴重内査ノ要アリト  
 三、龍巖地方ニ東北人民革命軍第二軍ニ屬スル共匪約一五〇根  
 據シテ周圍要路ニ散兵壕砲塔等ヲ構築シテアルト共ニ  
 食糧物品ヲ準備ナリト  
 四、最近ニ於テ延吉縣内共匪東北人民革命軍並所屬郡衆  
 蟠踞狀況尤ノ如ク遂次様安縣境方面ニ移動シテアルモノ  
 如ク

塔居地	革命軍	所屬群衆	摘要
三道嶽附近	四〇	三〇〇名	一 所持兵器 彈藥等 不明ナリ
能家地方附近	六〇	九〇	
荒嶽附近	三〇	八〇	
大石河子	三〇	一〇〇	
四方台附近	二〇	四〇	
倒木清神洞附近	七〇	三〇	
樺甸縣大荒溝附近	一〇〇	六〇	

小梨樹清及石道河子附近ニ蟠居スル森林匪愛民三人海文  
 等ハ越冬ノ爲極度ノ食糧難ニ陥リ加ニ日本軍ノ討伐ハ  
 益々峻烈ヲ極メ其ノ度毎ニ部下ヲ失ヒツクアルト共ニ才滿洲  
 國ノ基礎ハ漸次鞏固トナリ今ヲ後匪賊行爲ヲ續クルニ倒  
 衣成算ナキヲ悟リ昨年十二月二十五日代表者ヲ大吐川領事館警  
 察署長ノ許ニ派シ歸順交渉中ニシテ其ノ販順申込匪賊  
 数ヲ表ニ示スカ如シ

汪清縣

隊名	三合	大愛民	小愛民	海交	中尖	深山	九省	四季	綠林
頭目名	李家賢	朱某	不詳	陳樹龍	張亭玉	王某	王某	不詳	不詳
人員數	二〇〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	六〇	三〇	七〇	六〇	一〇〇
蟠居地	石道河子	小李樹溝	石道河子	龍盤溝	小梨樹溝			龍盤溝	
小銃	一九〇	二〇〇	一五〇	一〇〇	六〇	三〇	七〇	六〇	一〇〇
拳銃	二〇	三〇乃至五〇							

一、縣内ニ蟠居シアル匪賊ハ昨年度農作物ノ不作ニ依リ極度  
 二、疲弊シアリテ掠奪スルニ物ナキ現況ニ有リ同地部落民  
 三、要スルノ不利ナルヲ悟リ決死隊ヲ編成シ縣内ニ侵入人  
 質ヲ致シ金品掠奪シ企圖シ或ハ圖窮途線ノ龍盤溝ニ畫  
 策シ宣傳ニ努メソフアリ

一、汪清縣西大坡ニ根據ヲ有スル共匪連長梁成龍ハ昨午十二

月下旬根據地ニ於テ幹部人會議ヲ為シ武装決死隊並  
 非武装隊各四組ヲ編成解内侵入ヲ敢行ス下ニ決シ是  
 カ實行ヲ為シタルモノ、如ク其ノ状況附表第五如シ  
 三月下旬和郷家在大荒溝腰營溝、樺皮甸子一帶ニ東  
 北抗日義勇軍、東北華韓人民革命軍總司令部、朱  
 世傑、史忠恒、中九勝、三俠占、史洋中及東北人民革  
 命軍第二軍第三獨立師團第一團長方振聲、崔  
 龍彬、許某一流等、賊團蟠居スルモノ、如シ彼等ハ  
 追般日滿軍ノ討伐ニ際シ根據地ヲ覆滅セラルル地  
 シ運動シ居ラシルカ為極度ニ食糧ノ缺乏ヲ來シ其ノ行  
 動意、如クナラサルヲ以テ、之ヲ打開策トシテ、令般各部  
 隊ヨリ友記人員ヲ選抜シ決死隊自衛團隊ナル者ヲ編  
 成シ汪清、春明、郷春、羊郷、春華、郷一、帶、及渾春、縣  
 下ニ派遣シ資産家ヲ拉致民會預托牛及物資ヲ掠奪ス



敢行スルト共ニ各地炭焼人夫ト連絡シ食糧品ノ購入ニ當リ  
 シムルハノ本日中旬ヨリ活動ヲ開始シツアリト

龍記

春方郷春明春羊郷方面

共匪四〇〇名共匪賊一〇〇名ヨリ成ル非武装匪二〇名女子四  
 揮春方面

共匪王仁山以下一〇〇名

尚該賊團ノ武器彈藥人員龍ノ如シ

武器	銃	實數	彈藥數	人員
輕機關銃	八	八〇〇	一、三〇〇	
憲式長銃	二五三〇			
モーゼル拳銃	六〇	六、〇〇〇		

四間島ニ於ケル賊情、日滿軍隊、滿洲國警察自衛團ノ配  
 置、通信機關 附表第一乃至第五、附圖第一乃至第

、如シ

第四交通、通信補給、經理、衛生、其他

一、交通

管内、鐵道及自動車、通る道路網附圖第六、如シ

二、通信

管内、無線通信施設ナリ有線通信施設ハ附圖第七

第八、如シ

三、補給

羅南支庫ヨリ補給シ受テ調味品副食物ハ主トシテ現地

調辦ニ據リ順調ニ實施シテ

四、經理

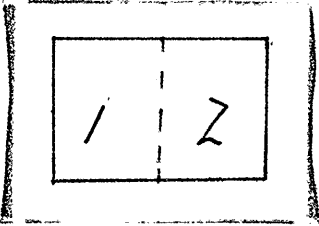

整正確實ニ實施シテアリテ良好ノ成績ナリ

五、衛生

將校以下保健ノ状態良好ナリ

第由 補給準備  
補給準備 附圖第六、如シ

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上のため
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 12 月 17 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

附表第一

穩城附近侵入匪情況圖の調査表

後地	南山洞	月波洞	世仙洞
侵入時	十一月三日午前	十一月六日午後	十一月十一日午後
匪賊	各自	各自	各自
被害	追撃	追撃	追撃
處置	追撃	追撃	追撃
被害	追撃	追撃	追撃
備考	追撃	追撃	追撃

洞 九 六 六  
日 時

世 仙 洞  
日 十 月 一 十  
分 十 三 時 一 十  
分 十 三 時 一 十  
分 十 三 時 一 十

美 山  
日 十 月 一 十  
分 十 三 時 一 十  
分 十 三 時 一 十

各 銃

各 自 長 銃  
如 氷

各 自 長 銃

一 鮮 人  
一 名  
拉 致

一 鮮 人  
一 名  
拉 致

杉山重曹 今升軍曹外  
以下五名 發獲  
午後九時 夕九三時 連石  
前二時 派 引續 連石  
連上七時 西派 連石  
連石 府 日 八 英 領 地  
附近 行 引續  
軍 同 日  
午前六時 歸隊

穩城守備 吉田上等 隊長以下 十八名 午前 一時 美山 向 出 發 美 山 駐在所 運 送 賊 退 越 境 追 擊 路 斷 行 動 七 時 後 五 時 歸 隊

石 鑿 河 子 官 營  
右 宿 營 世 仙 寺 付 惹 起  
歸 還 引 續 行 動

一 穩 城 署 長 以 下 三 名 一 日 前 三 分 越 境 把 洞 才 向 連 擊  
二 涼 水 領 署 署 長 以 下 一 名 南 本 衛 出 發 午 前 九 時 引 揚  
三 石 頭 河 子 官 營 署 長 以 下 三 名 以 下 三 名 賊 退 路 遮 斷 目 的 以 三 十 一 日 正 午 三 時 南 大 洞 北 大 地 引 續  
四 倉 野 署 署 長 以 下 六 名 引 續 署 長 以 下 三 名 計 十 五 名 應 援 隊 引 到 看 七 時 以 穩 城 署 長 率 行 行 動  
五 十 二 日 夜 八 時 大 波 及 十 里 坪 才 圓 二 行 動 予 定

一 美 山 署 署 長 以 下 五 名 及 待 機 中 訓 戒 署 小 林 部 長 以 下 五 名 現 場 急 行 交 戰 約 三 分 匪 賊 三 名 殲 滅 長 銃 三 同 彈 藥 八 發 拳 銃 一 同 彈 藥 七 發 護 之 擊 退 七 時  
二 訓 戒 署 署 長 以 下 三 十 四 名 八 清 溪 洞 引 續 向 越 境 追 擊 七 時 六 日 午 後 一 時 歸 署 七 時

備 考

一 穩 城 郡 內 江 岸 附 近 住 民 戰 懼 心 定 不 欠  
二 穩 城 郡 內 江 岸 附 近 各 洞 每 日 自 警 團 組 織 結 束 以 來 昼 夜 警 戒  
三 縣 內 三 匪 賊 間 諜 アルモト 目 星 附 極 力 搜 索 中  
四 美 山 匪 賊 情 況 目 下 調 查 中 付 後 送

附表第二

汪清縣內匪賊狀況

賊首名 匪名 武裝 根據地

連長 陳靜波 東北人民革命軍 第一連 一五 不詳 大荒溝腰營溝

梁成竜 同 第二連 三五 長銃 三五 汪清縣春明鄉 西大波

崔竜叔 同 第四連 三五 長銃 三五 大荒溝腰營溝

干光文 同 第五連 三〇 不詳

李殿臣 同 第六連 二五 春耕鄉 石頭河子

鉄孝先 同 獨立連 三五 長銃 二二 春明鄉 十里坪

劉某

獨立連

一五不詳

汪清縣大荒溝  
腰營溝

崔光鉉

反日義勇軍  
中隊長

春明鄉  
十里坪

同好山

長銃  
奉銃  
五

大荒溝

備考

一史忠恒部隊約百名、羅子溝附近ニ根據シアルモノ、如クナルモ  
確實ナキ情報ヲ得ス  
二本表外大汪清河沿谷ニ武装共匪約三百名蟠居シアリ

附表第三

月日	横行地	匪首	系統	兵器裝備	行動ノ概要
三三	老頭溝	海龍軍	英匪 四〇	小銃 三〇 輕機 三	午前零時頃市街南オカリ 襲撃シタルモ各警備機関 應戦ニヨリ目的ヲ達セス引 揚ク
七一六	右	同	共匪 二〇	長銃 一〇 松製 手榴彈 二	午後十一時突抗ニ襲來鮮人 一家屋敷教戸ニ放火更ニ市内 ニ潛入金品食糧ヲ掠奪家 屋三余戸ヲ焼失シ引揚ク
一六	二道河子	不明	武裝 頭匪 二五	長銃 二五	午前零時滿鉄第四工事区 ヲ襲撃附近鮮人五人質トシ テ強致シ引揚ク
一〇	構花洞	不明	兵匪 三〇	長銃 三	正午頃鮮人部落ニ襲來シタルモ 目的ヲ達セス引揚ク



縣	吉	延
〃	〃	〃
陸寧郷 上神仙洞	鳳台郷 王八疇子	第ニ区 石門郷 柳樹河子
不明	不明	不明
共匪 七〇	匪 六	共匪 二二
長銃 四〇 私製 彈 三五	長銃 六	長銃 二二
<p>午前七時頃谷中ニ現レ討伐隊 長金子少佐指揮セル義勇自 衛團ニ三名ト遭遇交戦約三時 間後共匪ハ屍体ニナリ私製彈 ニ長銃一ヲ遺棄シ女黨員一名 捕虜セラレ荒溝方面ニ向テ逃 走セリ(自衛團側ニ損害ナシ)</p>	<p>午後一時頃谷中ニ現レ薪運搬 為全地ニ赴キタル鮮人二名ヨリ所 持金八十四錢ヲ強奪上全郷漢仁 洞方面ニ引揚タリ</p>	<p>午後七時頃鮮人部落ニ襲來シ 空家三十七軒ヲ燒却ノ上神仙 洞方面ニ引揚タリ</p>

延	吉	懸
一三五	一三五	一五六
第三区 三日満市不明	第三区 茶條溝市不明	第三区 廟峯郷 二音背
不明	不明	不明
共五 二。	共五 六。	共五 六。
長銃 一。	長銃 六。 私製彈 一五	長銃 六。
<p>午前一時四十分頃市内東方山上 (市内ヨリ約八町)ニ襲來シ市内ニ向 テ進出セルモ日滿軍憲警擧撃退 セシ小明日滿方面ニ向テ逃走シタリ</p>	<p>午前一時十分市内ヲ包圍襲撃 ヨリシタルモ日本軍憲自衛團ニ 撃退セラレ全ニ時甲分三道溝方 面ニ向テ逃走シタリ (彼我ニ損害ナシ)</p>	<p>午前九時頃西北公方面ヨリ各地 各地ニ移動シ兼タリテ目下滿 人部落空家ニ蟠居中</p>

和	懸	音	延
三六	二〇		二八
明晴社 間坪	第三区 廟谷郷 西北倉	廟谷郷 上村 二青背	第三区 鳳台郷 賤谷溝
不明	不明	不明	明山好 占林 平五洋
共匪 二	共匪 五〇	共匪 二〇	匪賊 一〇
	長銃 四五	長銃 二〇	長銃 九五 拳銃 一
午後三時十分鮮人金宗學才ニ 拳銃所持ノニ名現レ金品ヲ強 奪スモ所持金ヲタメ同入ヲ毆 打シ逃走セリ	午前九時頃木村運搬中鮮人 牛車ヲ襲ヒ畜牛十頭ヲ強奪 上三道溝方面ニ引揚タリ	午前八時頃満人劉某方ニ浸 入朝食ヨリシタル後南方各地 引揚タリ	午後六時頃谷中ニ現レ目下 公地ニ蟠居中

龍	縣	汪	清	縣	龍
一三三〇	一六	一三六		一一一	
明新社 平環村	智新社 明東村	百草溝	春草溝 安山溝	德新社 城岩村	
不明	不明	不明	不明	不明	
共匪 三〇	鮮匪 三	共匪 二〇	武裝匪 四〇	共匪 五	
長銃 三〇		長銃 一〇	長銃 四〇		
午後九時頃鮮人家屋ニテ 人質一名精粟三斗ヲ掠奪 泉永洞方面ニ引揚ク	午後八時頃同村內精米所ニ放 火全燒シメ引揚ク	午後十一時同所ニ現レ鮮人四名拉 致小百草溝方面ニ逃走ス	午前十時頃同所ニテ金品掠奪ヲ 企圖シ龍襲撃シタルモ日滿軍ノ 出動ニ依リ逃走ス	午後八時頃同村ニテ人質一名拉 致七道溝方面ニ引揚ク	

0050

汪清縣稅務局	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	汪清縣公署	所屬	汪清縣公署及同地所在地要人名 一三二調	
局長	局長	警務指導官 警佐	警察大隊長	警務局長	教育局長	經理官	賦務局長	內務科長	副參事	參事	縣長	縣	職		名氏
毛國光	田慶	小坂與	諸方真	西喜和	傅澤	鄭繼	常白	櫻井	吳耀	夏多	石片	求瑛	那璞		
光	欄	作	熊勝	民祖	勤俊	彬林	琳	定	珩	鮮	人	要			

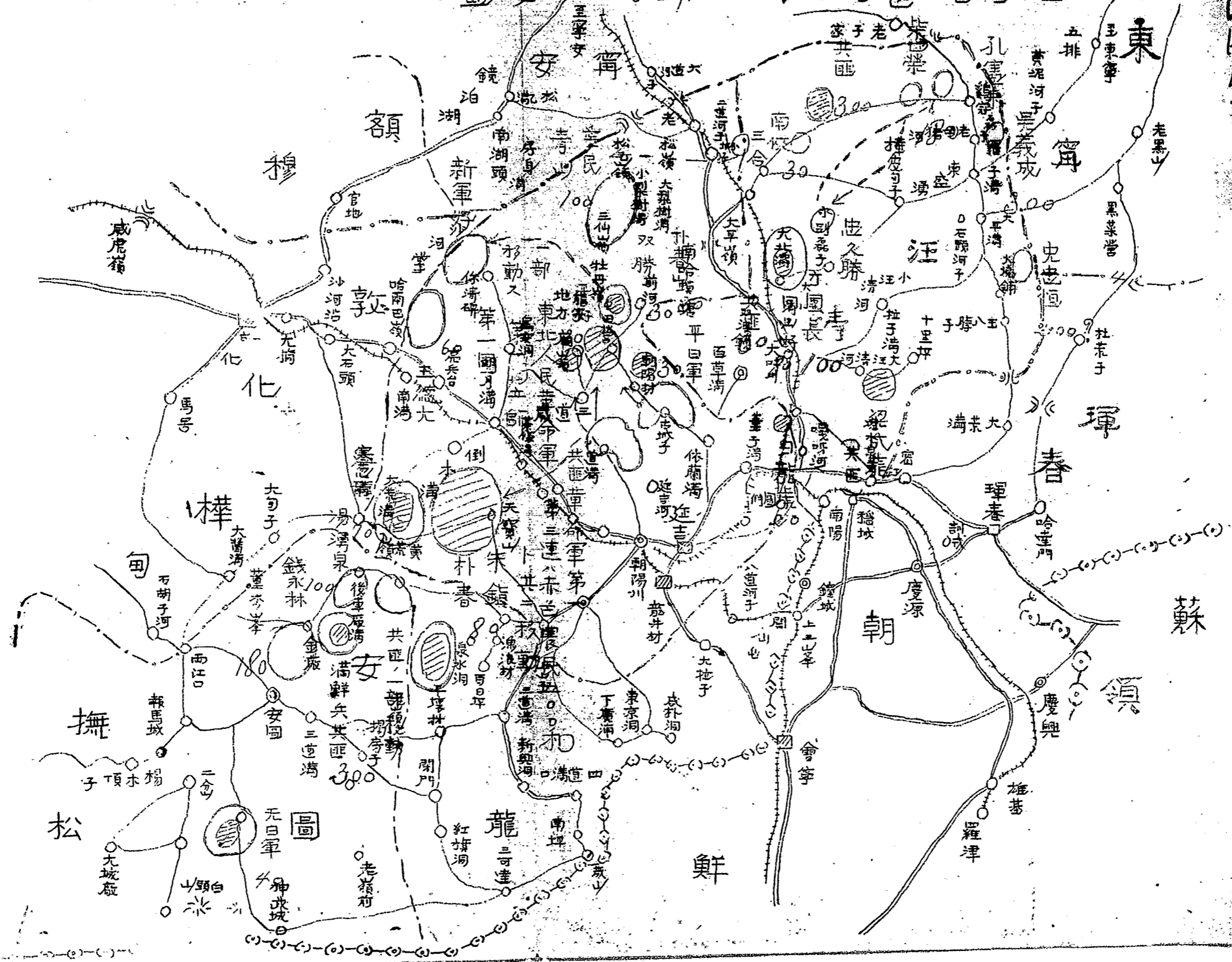
職	職名	和龍縣公署職員名											
		騎	日	日	日	日	步	農	商	緝	塩	郵	電
長	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
關	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
長	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
慶	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
摘	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉
要	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉	尉

參事官	屬務科長	總務科長	內務局長	警務局長	警務局長	警務局長	警務指導官	同官	同官	經理官	總務科代理庶務股長	會計股長	內務行政股長	教育科長	警察股長	財務局徵收股長	理財股長
-----	------	------	------	------	------	------	-------	----	----	-----	-----------	------	--------	------	------	---------	------

李東	小川	間羽	劉到	武漢	張鴻	小池義	柿藤	後藤	朱德	金昌	程蕃	錢鏡	安鶴	徐慶	盧瑤	李士	張理
頭正	衡正	昌到	漢到	鴻義	池義	藤五	藤五	藤五	德五	昌德	蕃鏡	鏡鏡	鶴鏡	慶鏡	瑤鏡	士鏡	理鏡
頭正	衡正	昌到	漢到	鴻義	池義	藤五	藤五	藤五	德五	昌德	蕃鏡	鏡鏡	鶴鏡	慶鏡	瑤鏡	士鏡	理鏡

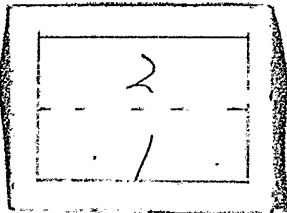

延吉地区内匪賊移動情形要圖

附圖第一



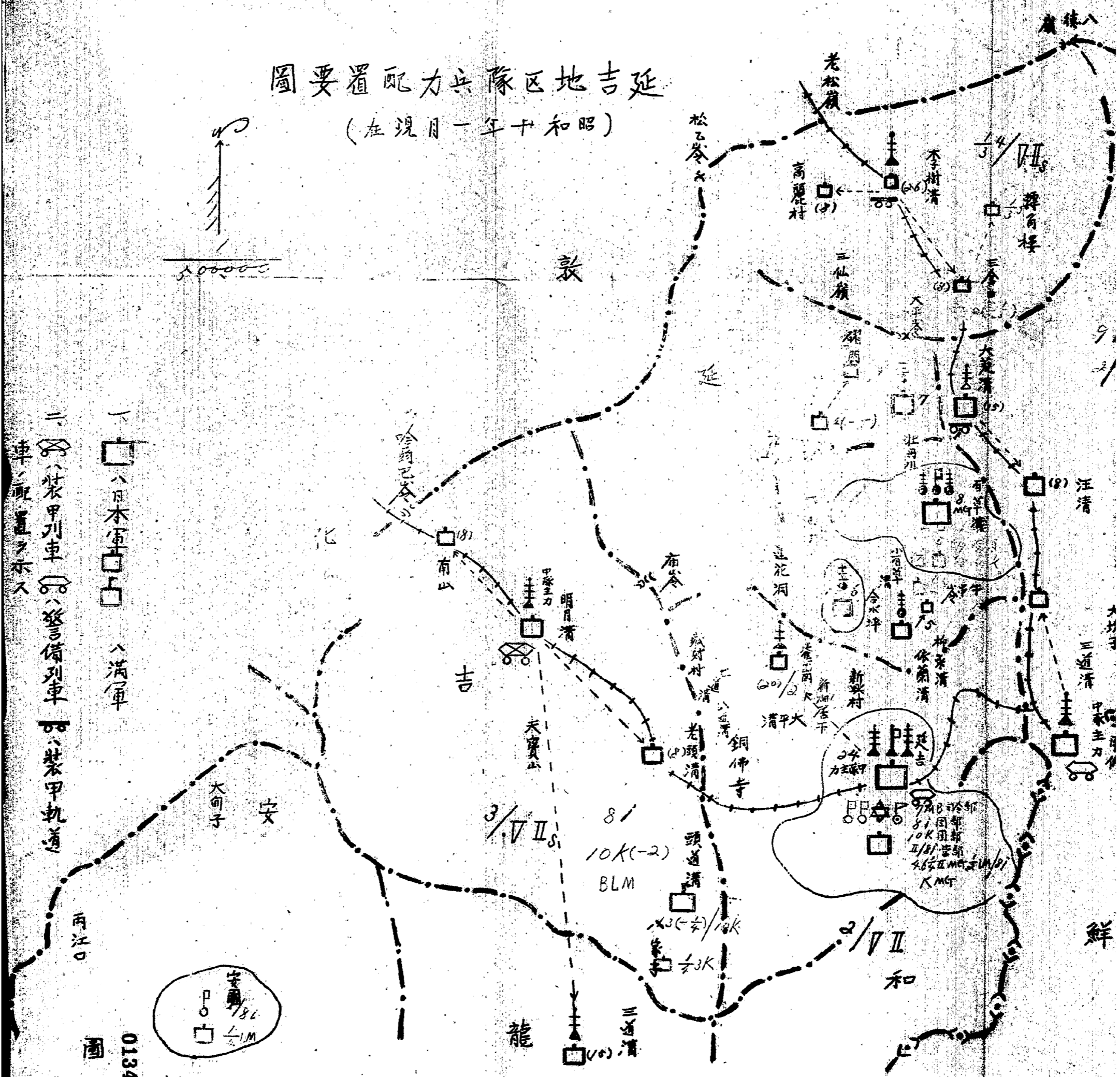


# 分割撮影ターゲット

<p>分割した 部分の撮 影 順 序</p>	
<p>分割撮影 した 理 由</p>	<p>A3判以上の尺</p>
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 12 月 17 日</p> <p>主務者又は 撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

# 延吉地区兵隊配置要圖

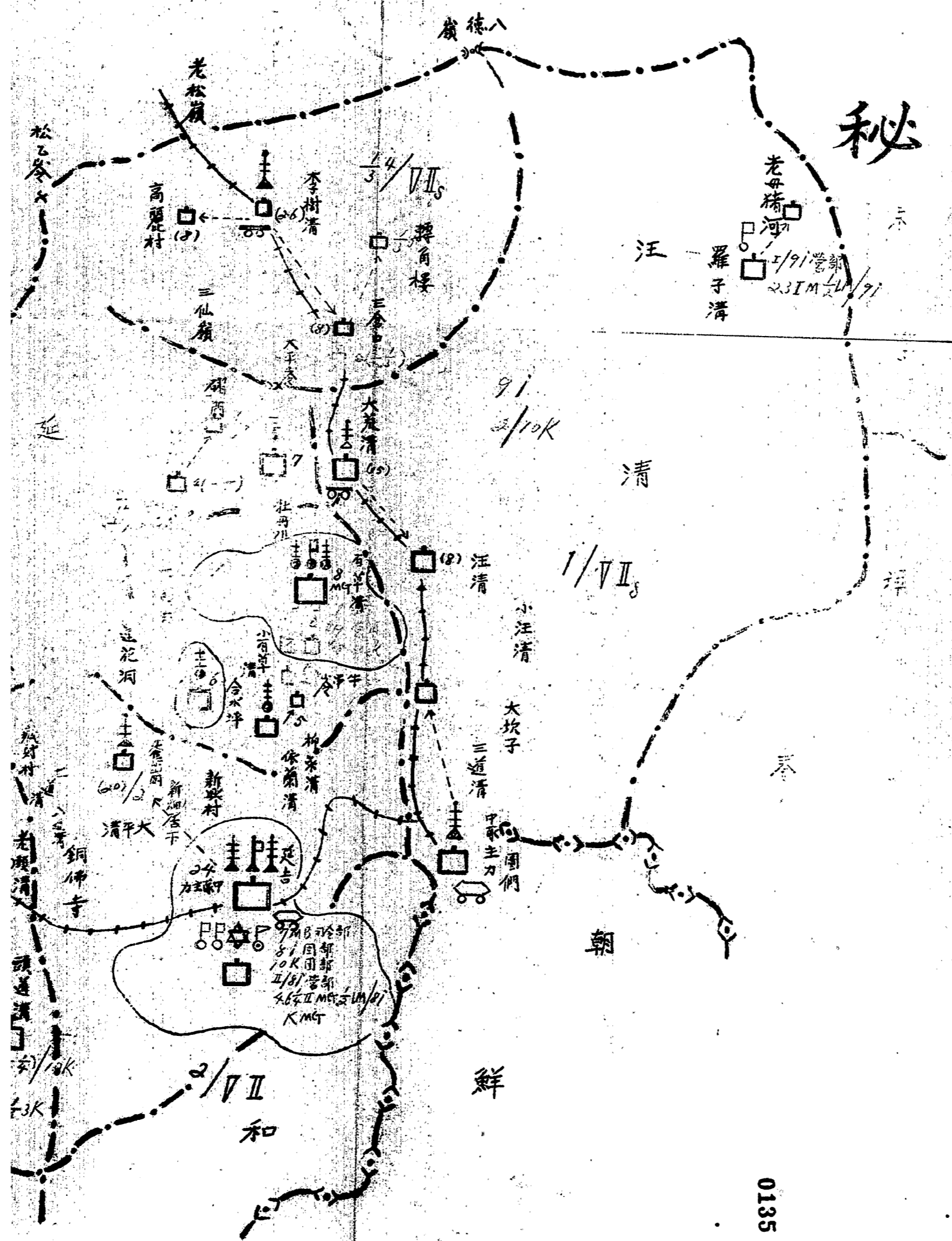
(昭和十一年一月現在)



- 一 日本軍
- 二 裝甲列車
- 三 警備列車
- 四 裝甲軌道

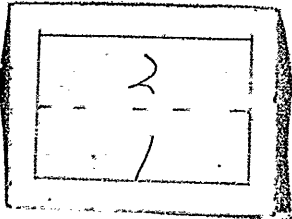

0134 圖

秘



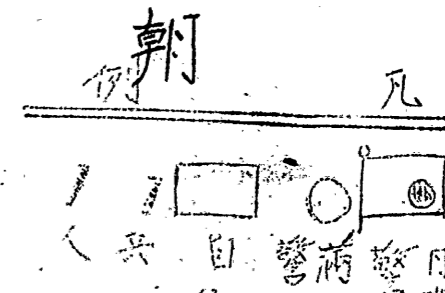
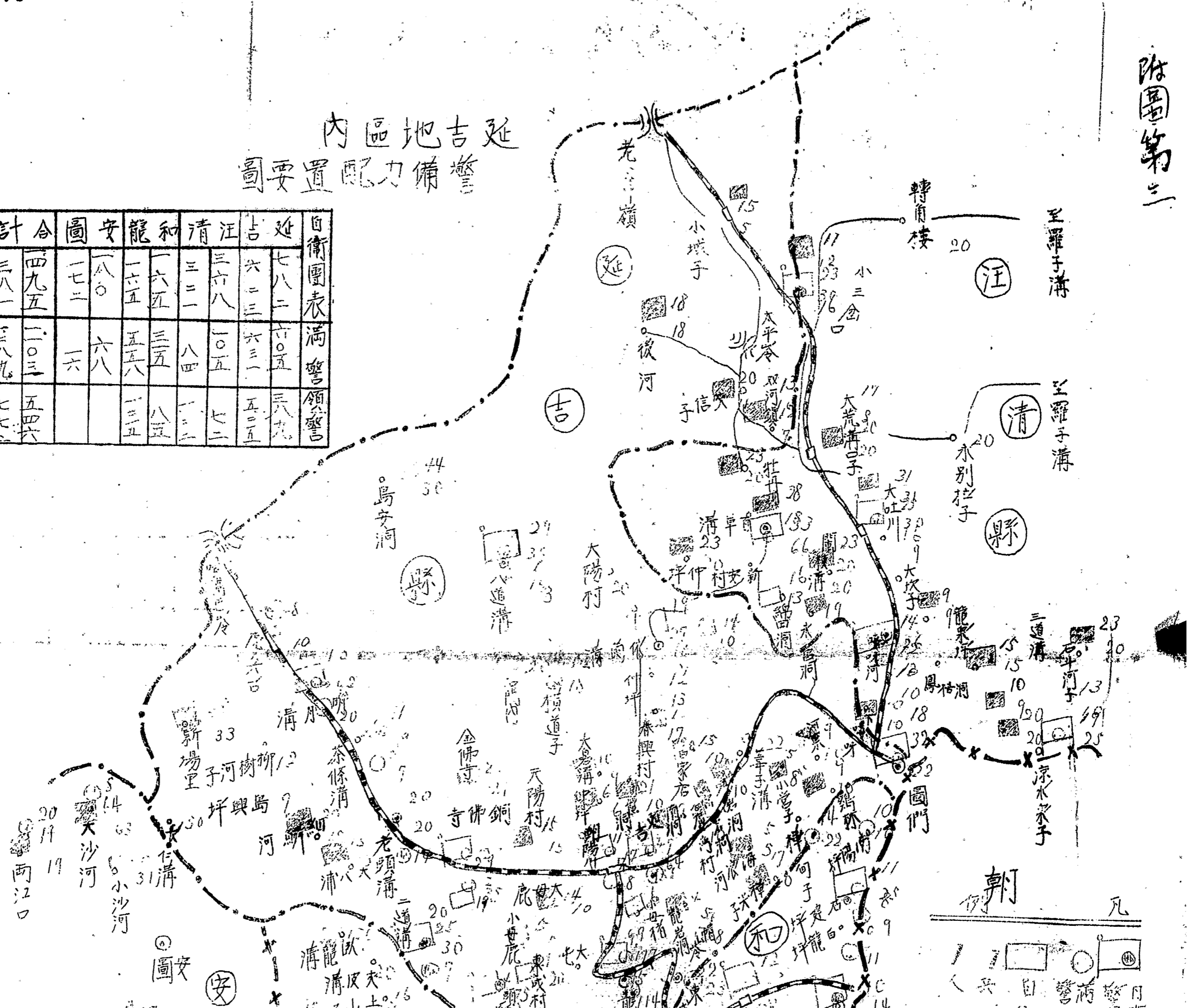
0135

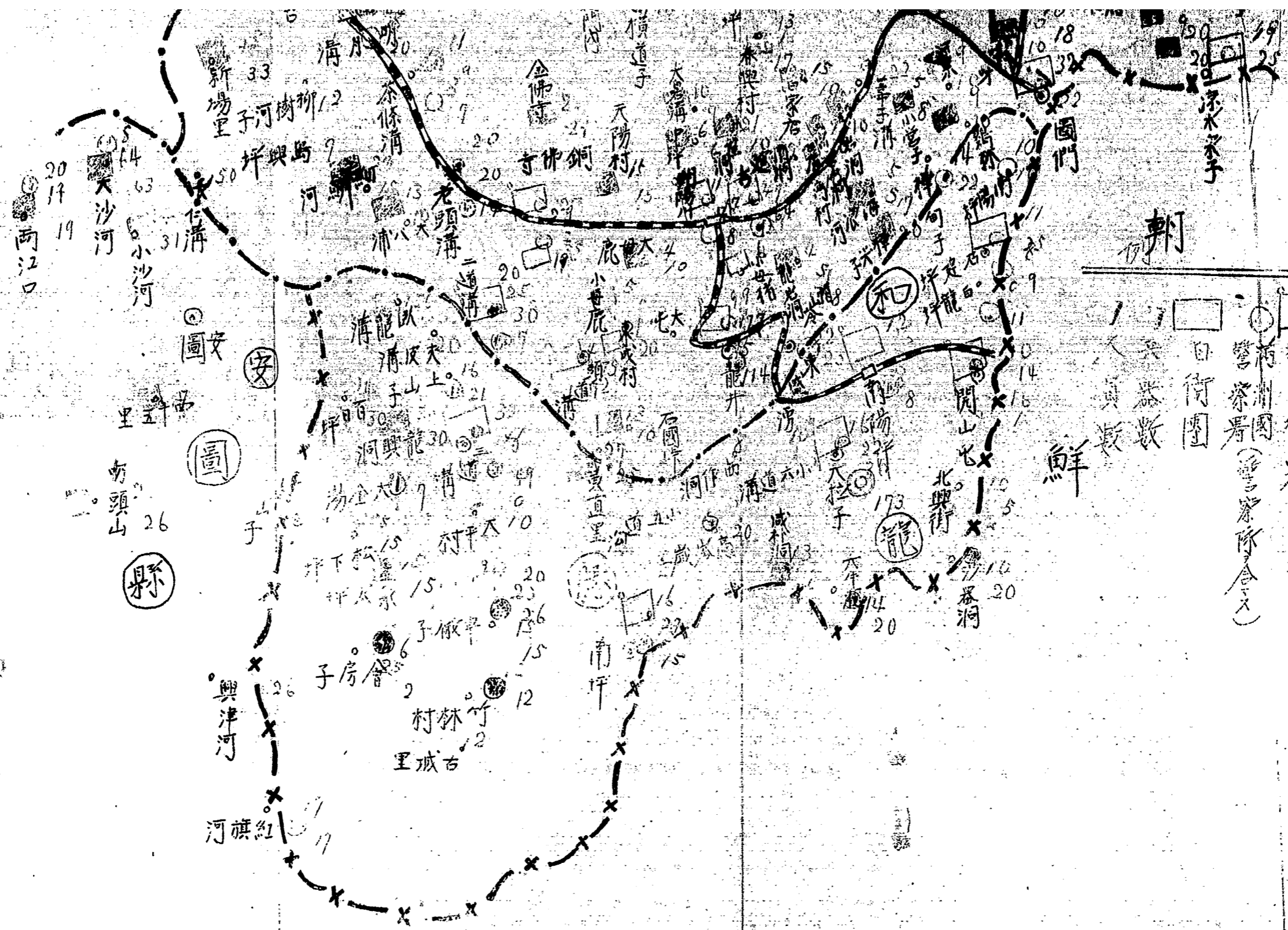
# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上の尺
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3年 12月 17日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

### 延吉地區內 警備力配置要圖

備考 字人員數赤字小銃數	計合	圖安	龍和	清江	吉延	自衛團表
	三八一	一七二	一六五	三二一	六二二	滿警領警
	三八九	一六八	五五八	八四	六三一	領警
			一三五	七二	五二五	
	四九五	一八〇	一六五	三六八	七八二	
	二〇三	六八	三五五	一〇五	六〇五	
	五四六		八五	七二	三九九	
	七七二					

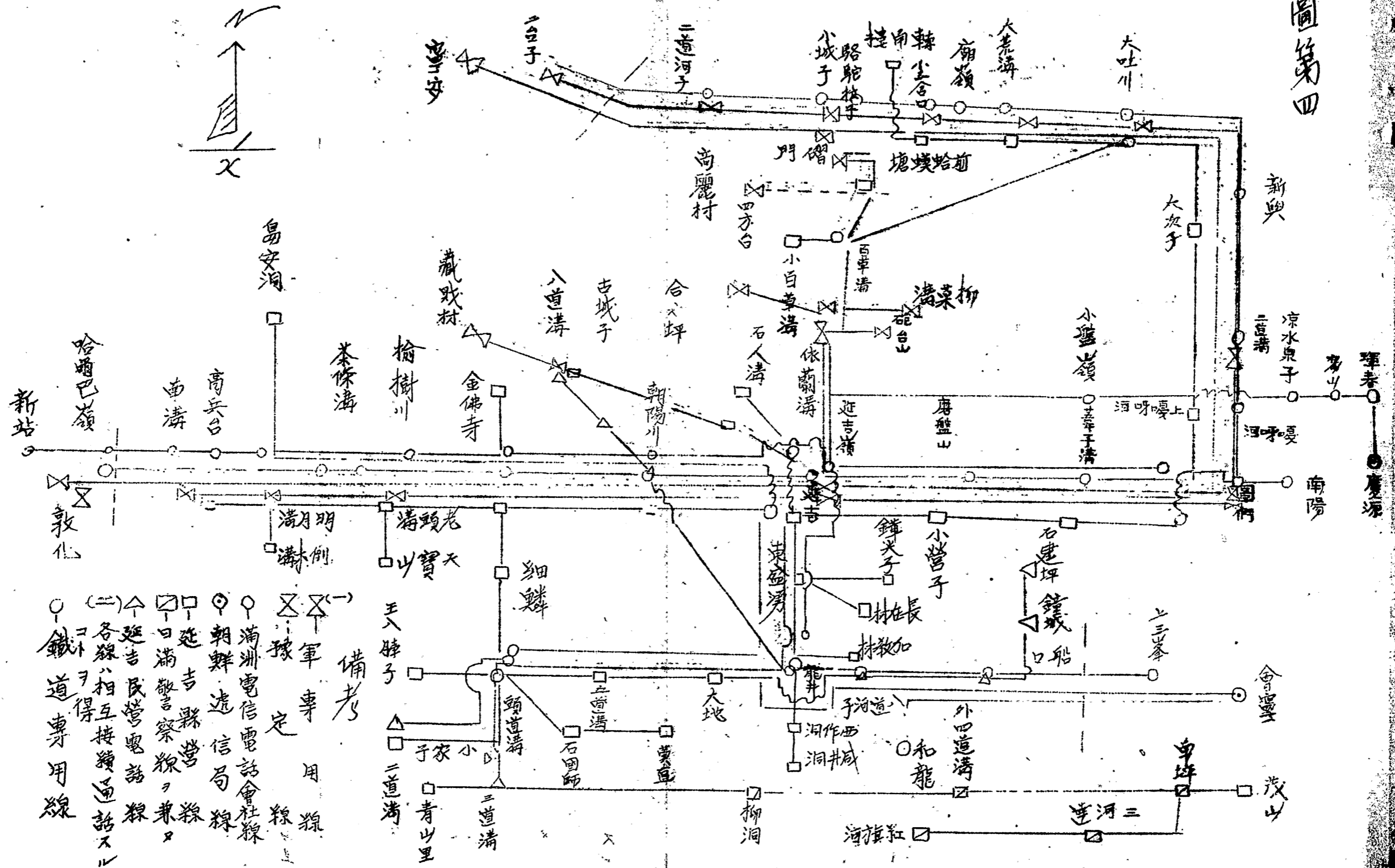




4810

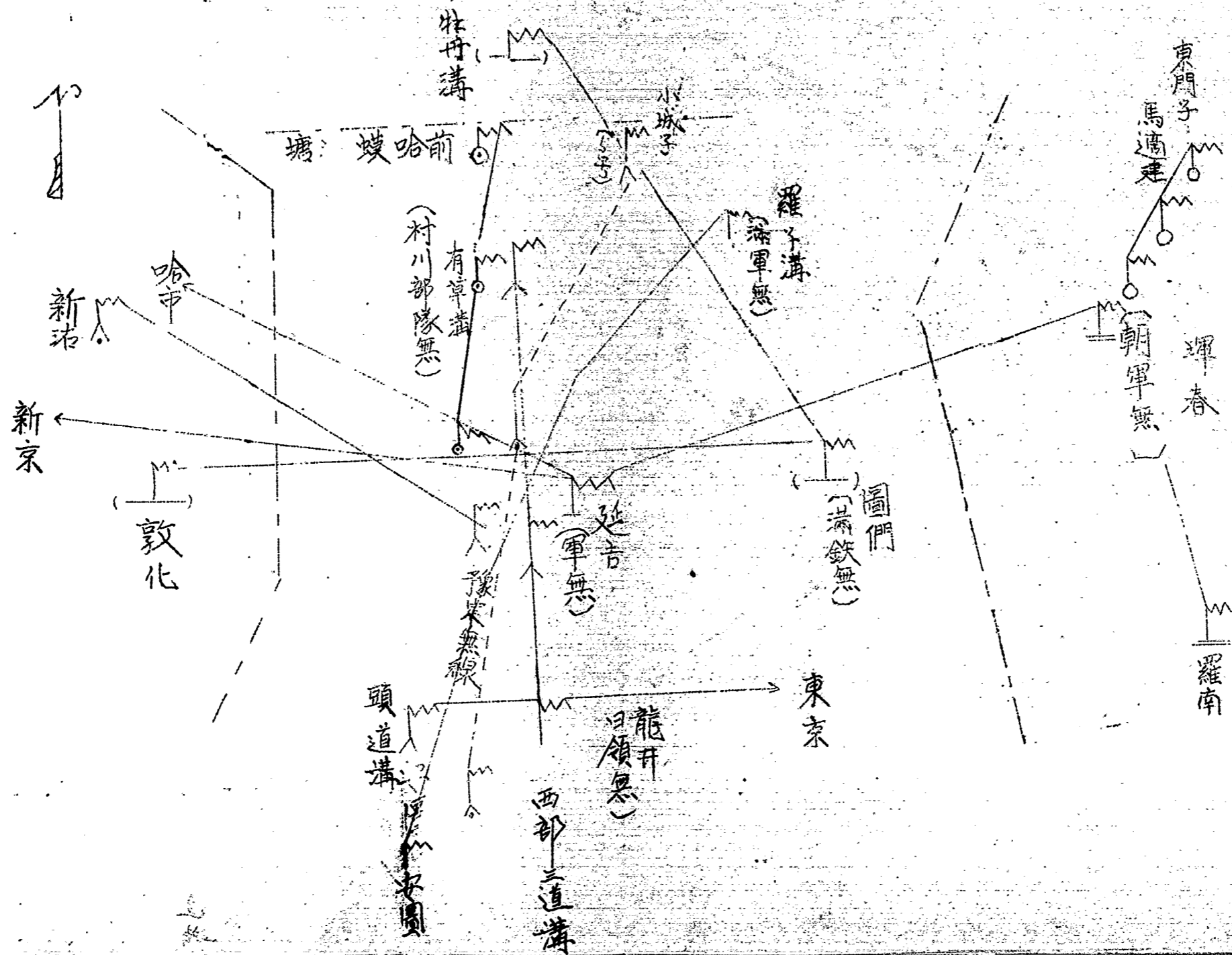
# 圖要網信通線有力地島間

附圖第四



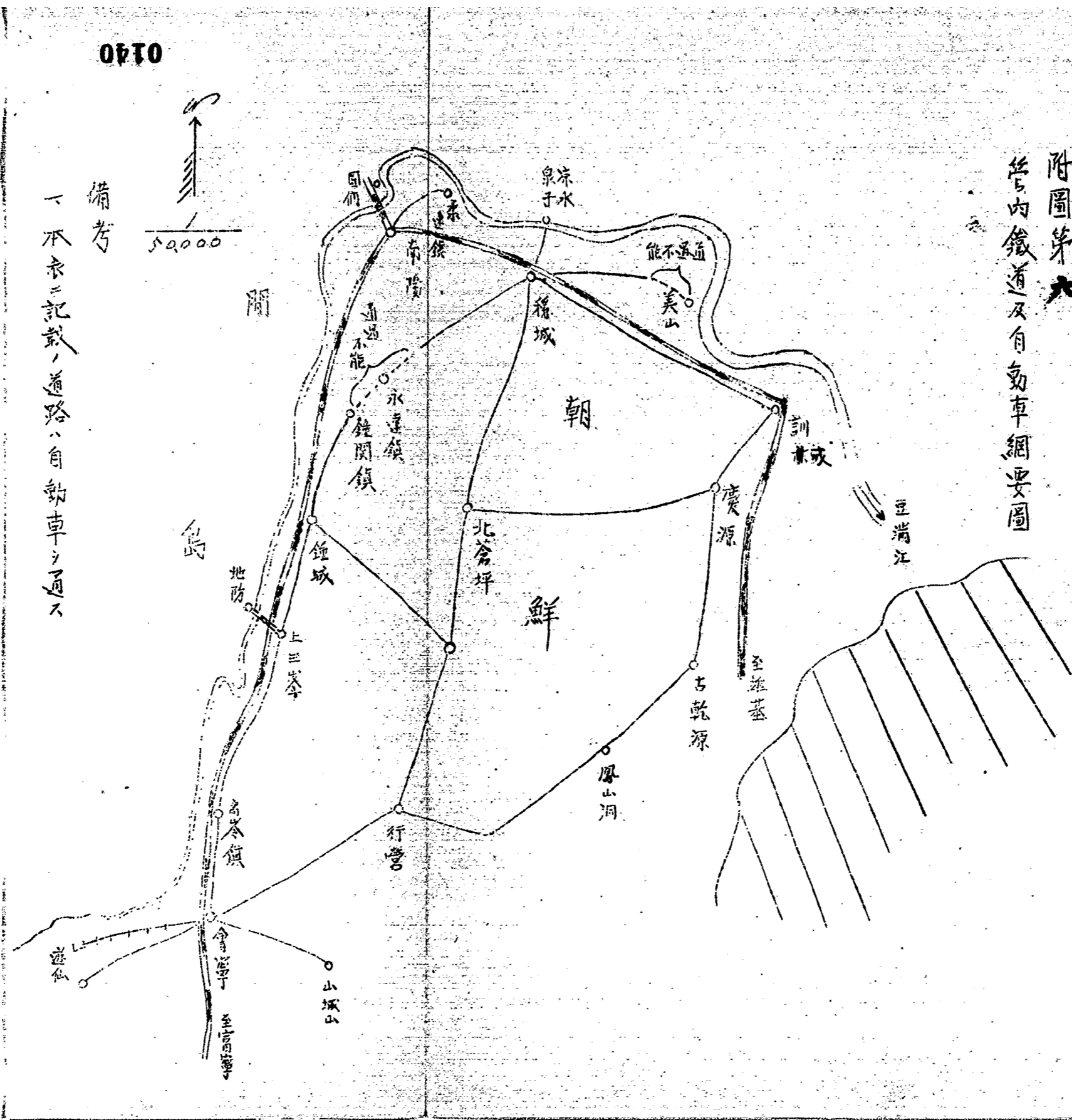
圖要綫無內域區任担隊大七第兵步備守立獨

附圖第五





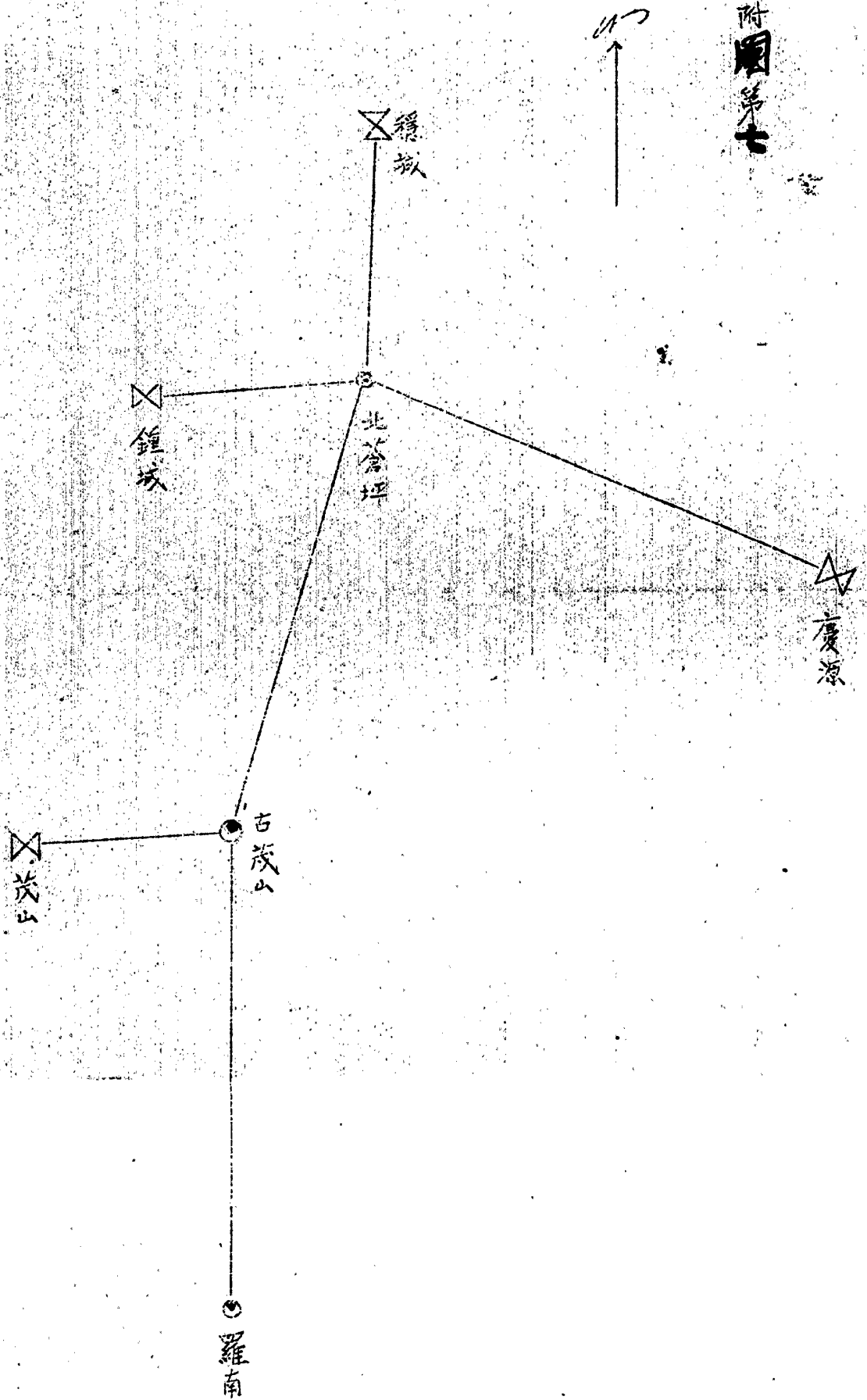
附圖第六  
管内鐵道及自動車網要圖



備考  
一 本表ニ記載ノ道路ハ自動車ノ通ス

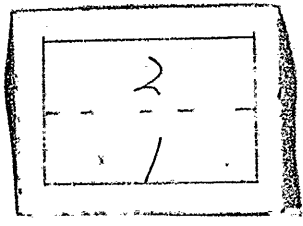

管內軍有用線通信網要圖

附圖第七

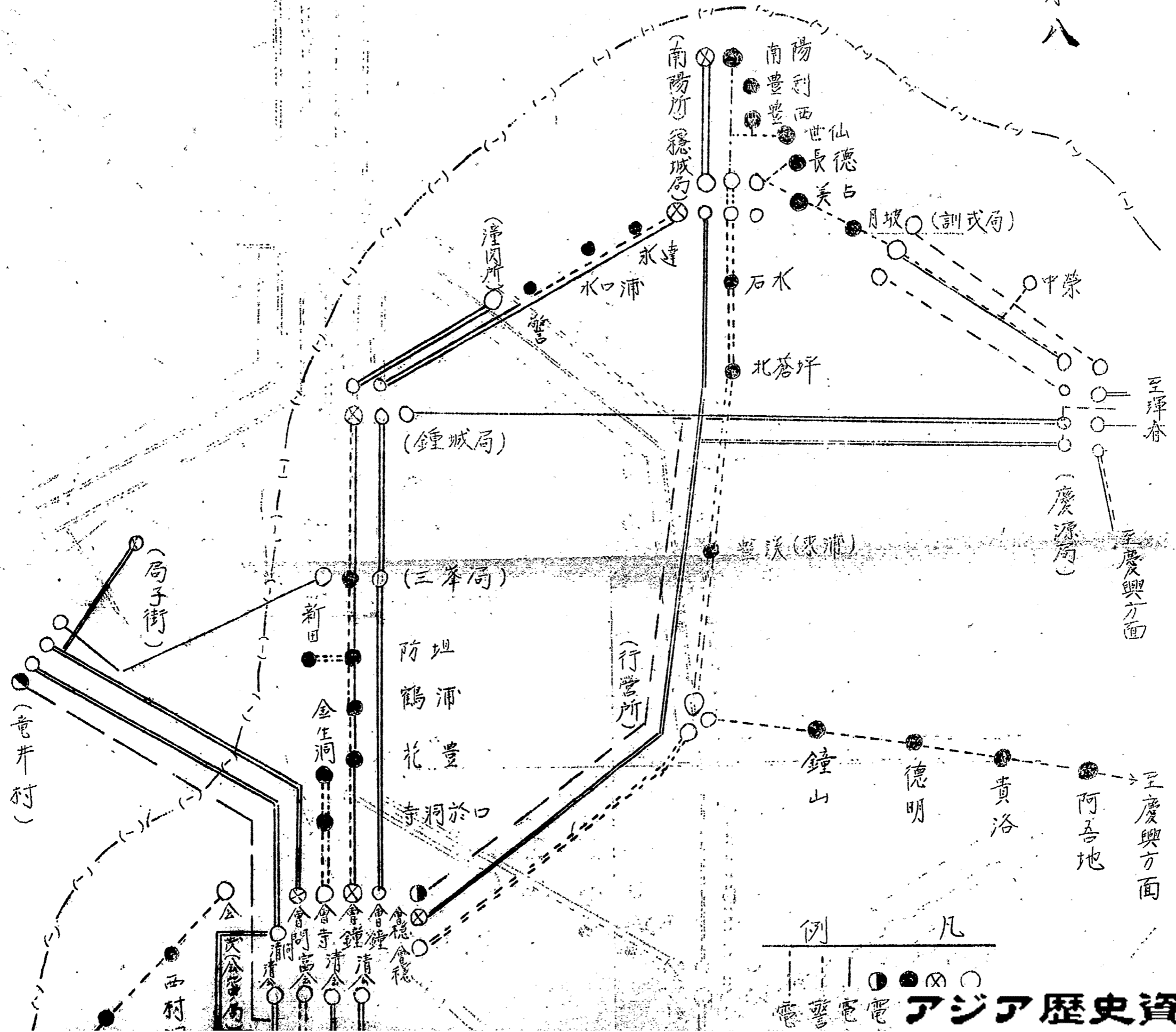


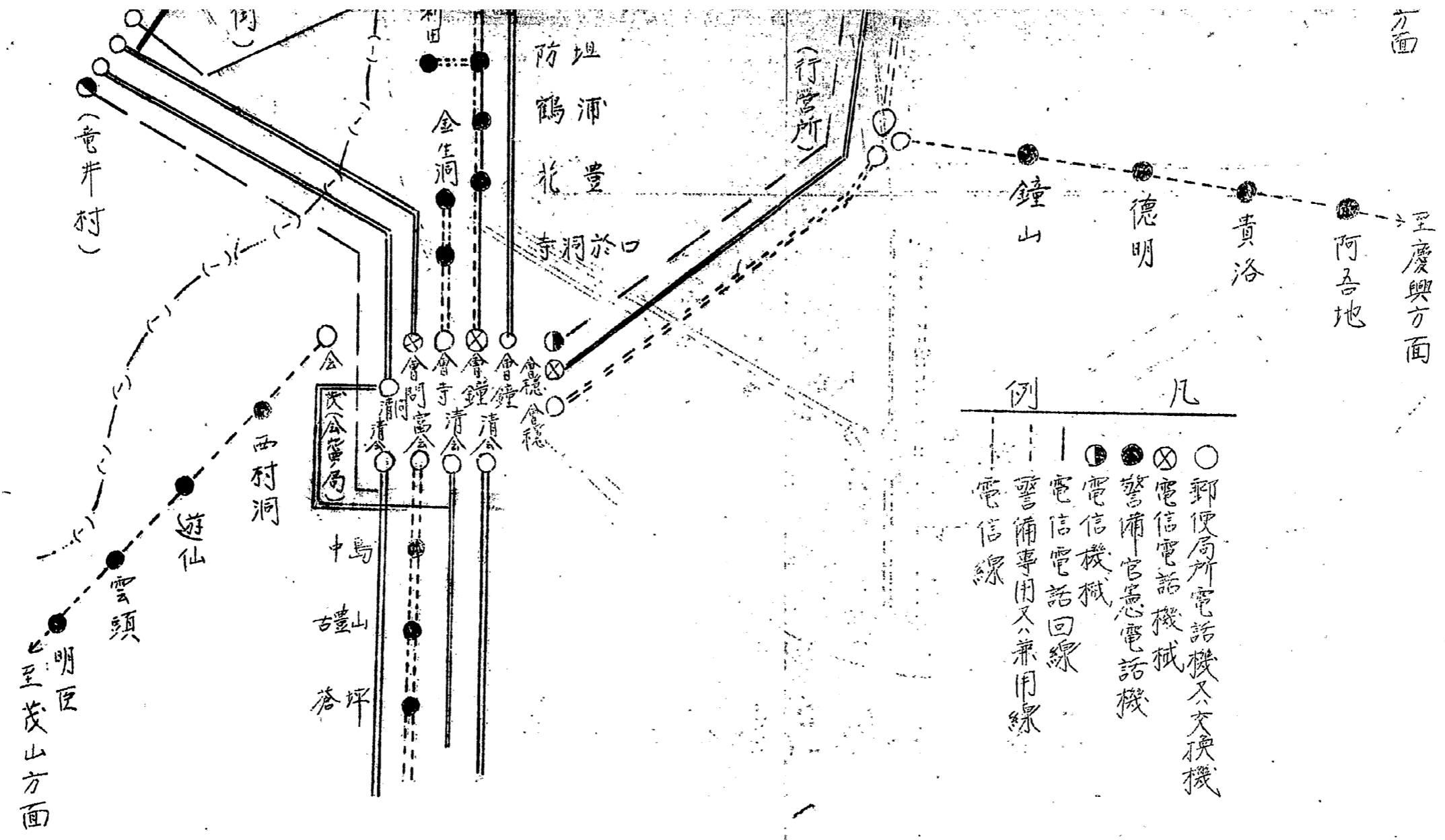
0141

# 分割撮影ターゲット

分割した 部分の撮 影 順 序	
分割撮影 した 理 由	A3判以上の尺
<p>上記のとおり分割撮影したことを 証明する</p> <p>3 年 12 月 17 日</p> <p>主務者又は</p> <p>撮影立会者 加部東 保夫 </p>	

管内遞信局有線通信網要圖





0143

0144

枕

第十九師團第三準備隊月報  
自十年一月一日起至十年一月三十一日



一 警備(討伐)ノ概況

一般ニ就テ

(一) 和龍縣

豆満江岸地區ノ治安ハ概ネ安定ヲ見タルモ縣西部及寧和縣境ニハ依然共匪蟠居シ日滿軍警ノ警備ノ間隙ヲ利用シ金品ノ掠奪ヲ散行シツツアルモ酷寒期ニ入りリ行動ノ自由ヲ失ヒタルタルタメ大ナル活動ナク概ネ治安小瘳ヲ得タリ

(二) 寧國縣

延安附近及兩江口附近ニハ有力ナル匪賊蟠居シ其ノ數ハ數一〇〇ニ名入達スルモ清軍警備ノ討伐警備ノ治安ニ依リ酷寒期ニ入りタルタメ

大ニルニ活動ナク治安維持ニ力ヲ保テリ

(三) 日軍ノ状況特ニ討伐警備ノ状況

三 通溝守備隊ハ関谷少尉以下ノ二十名駐屯シ

同地領警隊滿軍警備ト協力警備ニ服シツツアル

モ詳細不明ナリ

四 各縣偵察警備ニ關スル状況

一 和龍縣第一區警察署青山里分駐所長以下六名

ハ一月一日管内巡視中青山里西方約一里ノ地

點ニ於テ共匪三十名ハ遭遇交戦、殺之ヲ奪退

ス

二 和龍縣第一區警察署東良分駐所長以下八名ハ

一月十三日ニ合社樺田洞ニ共匪五名侵入セル

旨ノ報告ニ接シ急據或動之ヲ擊退ス



3

満軍騎兵ノ討伐出動ニ關スル状況  
 駐頭道溝滿軍騎兵遠藤指導官以下百四十名  
 ハ和龍縣泉水洞方面ニ燧炬中ノ兵共匪討伐  
 ノ爲メ一月十四日頭道溝出發ニ道溝經由明  
 新社臥龍洞ニ有ヒタルカ空地集團部落ニ宿  
 營シ十五日ヨリ行動ヲ開始シタルカ其ノ状  
 況左ノ如シト

一月十五日ノ状況

午前七時宿營地出發得味洞裏ニ至リ空地ニ  
 テテ予メ連絡シ置キタル駐安圖縣成吳營長  
 部隊連合討伐ヲ爲スハ約六時間待期シタ  
 ルモ未列セサリシ爲メ午後四時宿營地ニ引  
 揚ケタリ

六

一月十六日ノ状況  
 午前五時徒歩ニテ宿營地ニ發行動ヲ開始シ  
 泉水洞ニ向テ前進午前十一時頃菜園子北  
 方高地ニ於テ共匪約七十名ト遭遇交戦中  
 島指導官ハ右手前膊部ニ貫通銃創ヲ受ケル  
 ヤ討伐隊側ノ統制乱レ苦戦ニ陥リ利ナキヲ  
 以テ辛ニテ部隊ヲ纏メ負傷者ヲ收容シ討伐  
 ヲ断念引揚ケタリト

二 政情並治安ノ概況

(一) 和龍縣長ハ吉林稅務監督署ノ訓令ニ基キ住民

= 對シ胡椒稅ニ干スル觀念ヲ徹底セシムヘク縣

内各主要地ニ佈告ヲ發セリ

(二) 間島構私局管下緝私隊ノ編成替ニ關スル件

間島構私局ニ於テハ二月一日附發令ヲ以テ管

下各緝私隊ノ編成替ヲ爲シタルカ其ノ狀況附表

第一ノ如シ

(三) 和龍縣ニ於ケル滿洲國調整備機關配置ノ件

一月二十日現在和龍縣ニ於ケル滿洲國調整備機

關附表第一ノ如シ

三 對岸ニ於ケル滿洲國調整備機關配置ノ狀況

各縣一板、兵匪、概況  
 和龍縣、縣內匪賊、振金山以下、四派、三、五、名、シ、ラ、縣  
 西部、明新社、泉、水、洞、地、方、ニ、燧、尾、シ、共、匪、ト、連、絡、金、  
 品、ノ、掠、奪、入、質、ノ、拉、致、等、越、冬、間、ニ、於、ケ、ル、糧、食、難、  
 意、解、決、ニ、夜、心、シ、ツ、ア、ル、モ、一、部、間、ニ、ハ、順、ノ、  
 安、圖、縣、有、ス、ル、ア、リ、  
 縣、内、ニ、於、ケ、ル、匪、賊、ハ、因、禮、山、長、順、等、六、派、六、ニ、マ、  
 名、テ、ル、モ、縣、内、治、安、工、作、ニ、依、リ、將、來、ニ、於、ケ、ル、此、  
 種、行、動、ノ、不、可、能、ナル、ヲ、悟、リ、タ、ル、長、順、派、ノ、山、  
 林、隊、ハ、二、道、溝、領、警、分、署、ト、既、順、交、渉、ヲ、進、メ、ツ、ツ、  
 下、北、等、其、ノ、行、動、漸、次、衰、頹、シ、リ、ツ、ツ、ア、リ、

鮮匪團ノ状況

中共和龍縣委ニ屬スル中共匪及反日會人民革  
 命軍ハ和龍縣泉水洞及安圖縣黃泥河子大甸子  
 附近ニ蟄居シ金品掠奪入質拉致ヲ敢行スル外  
 最近匪賊ノ敢順意思ヲ表明スルヤ之ヲ阻止ノ  
 タメ特使ヲ派遣或ハ敢順匪賊ノ襲撃ヲ敢行ス  
 ル等匪賊ノ行動漸次衰頹セルニ及シ益々浩潑  
 トナリツツアリ

四、兵共匪ノ行動ノ概况

一、和龍縣明新社泉水洞實地ニ根據ヲ有スル中國  
 共產黨員六十三名ハ旧正月ヲ目蹙ニ控ヘ各地  
 集團部落ヲ襲撃スルコトニ決シ六十三名ヲ六

曰

個班ニ分テ各々之ヲ準備スルニ着手セル趣ナ  
 ルカ其ノ先發隊十余名ハ各自武器ヲ携帯シ勇  
 化社三合社方面ニ向ヒタリト  
 和龍縣明新山泉水洞奥地ニ假根據地ヲ構ヘ燔  
 燒中ノ新山部隊五十七名並中國共產黨員李哲  
 山及朴龍甲一隊數十名ノ混成共匪等ハ最近日  
 滿軍警ノ大討伐アルヘシト予想シ之ニ應戰準  
 備トシテ左記打合セラ爲シ各地ニ密偵ヲ派シ  
 警備狀況ヲ偵察セシメ各地ニ散在スル主力部  
 隊ノ飯來ヲ待アラ行勤ヲ開始スヘク準備中ナ  
 ト

右記

(ハ) 新山部隊ハ泉水洞附近一帯ヲ中心トシテ各

要所ニ密偵ヲ派遣シ討伐隊ノ來往等ヲ警戒ス  
ルニト

(四) 李世ハハ安圖縣方面ノ部隊ト連絡ヲ兼テ統

器彈藥ヲ運搬シ補給ニ專任スルコト

(五) 朴龍甲ハ泉水洞南押地方新地方方面ノ農民

家ヲ歴訪シ食糧ノ寄附ヲ受テ食糧ヲ補給其

他通信事務ヲ兼ネルコト

(三) 一月一日午後十一時三十分頃和龍縣明新社青

湖ニ朝鮮式黒色ノ周衣ヲ着シ各自長銃携行

共匪ニ名現レ今地居住有力者場應學ヲ脅迫

シ朝鮮馬一頭(時價三十圓)精粟四斗ヲ強奪シ上奥

地ニ引揚タリト

(四) 匪首山林隊總隊長李長順ヲ被殺詔ト該一派ノ

五

動靜

東北人民革命軍、爲又泉木洞新地方ニ警禁サ  
 レ居リシ匪首山林隊隊長兼第一大隊長李長  
 順當世四年カ苦園子ニ蟠居中ノ人民革命軍第  
 四團ヲ於テ去ル一月十三日斃殺セラレタル由  
 ナルカ其ノ後長順部下約九十名ハ頭目ヲ失ヒ  
 部隊ガ統制全ク亂レ意見纏ラサリシカ折板安  
 和森瀧集卷ニ根據ヲ有スル匪首海龍ヨリ合休  
 方交渉アリタルヲ以テ全員之ヲ諒トシ海龍部  
 隊ニ合流シタル趣キナルカ逆ヲ人民革命軍ニ  
 對シ復讐戰ヲ決行スヘク目下準備ヲ急キツツ  
 アリト

(四) 最近ニ於ケル東北人民革命軍ノ情況



(4) 革命軍一旅ノ集結及頭道溝襲撃計画ノ件

前後二回一連リ老頭溝市ヲ襲撃シタル人民

革命軍第一團長天樂天一旅及共匪賊三西名

(輕機三有区八和龍縣明新社泉水洞菜苦園子

及新地ヲ一集結シ今地ニ燔居中ノ革命軍一

旅トシテ總勢四百五十名位ハ老頭溝襲撃

ニ僕シ收獲ノ僅少ナルヲ以テ今回ハ物資ノ

豊富ナル頭道溝市ヲ襲撃シ初期ノ目的ヲ貫

徹スヘク計費シ目下便衣隊十名ヲ強欲シ日

満軍警ノ警備状況ヲ復察セシムルト共ニ進

入及退却路及資産家ノ状況ヲ調査セシムヘ

ク出發セシメタリト

(四) 人民革命軍ノ團部指導員任命ノ件

(三)

今、東北人民革命軍第一師長朱  
 鎮、指合ニ依リ革命軍各團ニ一名宛團長ノ  
 外ニ團部指導員ヲ任命シ團所屬ニ於ケル諸  
 秘密工作並團員指導養成ニ對スル顧問機  
 關トシテ活躍セシムル事トセル由ナルカ萊  
 苦園子所在第四團ニハ玄某當三十年位カ最  
 近任命セラルト  
 匪賊集結革命軍襲撃計畫  
 目下安圖大荒溝及車廠子ニハ李長順ノ副頭目  
 格タリシ泗洪及蛟雲亭ノ卒ニル匪賊約三百名  
 集結シ海龍軍ト協談、上安圖縣上沙河ニ在ル  
 匪首双勝軍ノ應後ヲ求メ和龍縣明新社萊苦園  
 子ニ根據ヲ有スルカ、東北人民革命軍ヲ襲撃スヘ

夕計畫シ目下双勝年ノ來到ヲ待期中ニシテ其  
 勢力大ニ如シト  
 追テ匪首山林總隊長李長順ノ被殺説ハ共匪側  
 ノ逆宣傳ニシテ現在菜苦園子ニ被監禁中ナリ  
 トノ情報モアリ一方革命軍第一師長朱鎮ハ  
 目下菜苦園子ニ來到シ之カ前後策ニ腐心シツ  
 ヲアリト

左記

- 双勝年 約二百名
- 田營長(田福也) 約百名
- 鐵十長 約六十名
- 海龍年 約百二十名
- 飯營長(飯愛亭) 約三百名

丙、匪賊、安圖縣城襲撃計畫

安圖縣三道溝ニハ安匪混合約千三百名集結シ安圖縣城襲撃ヲ揚言シツツアリテ民心極度

ニ動搖シ居レリト

丁、武装共匪出現ニ關スル件

一月五日午後九時頃ニ道溝梨原村(ニ道溝ヨリ約五里)ニ各自長銃携帯セル共匪八名現レ全地尾後解入揚取墓方ニ於テ夕食強要喫シタル後收獲湖集團部落自衛團部落自衛團員及ニ道溝分署員ノ交通連絡状況時刻人員等詳細警備状況調査ノ後水站洞方面ニ引揚タリト  
因ニ右ハ東北人民革命軍ニシテニ道溝分署員並自衛團員ノ往復ニ際シ奇襲ヲ爲ス準備

工俟ニ非ラスヤト思料セラレニ道溝分署ニ於  
 テハ嚴重警戒中ナリト  
 (以) 一月十一日午前十一時徳化社車廠子分駐所ニ於  
 銀問題ニ付金逃官ニ面會致シ度シト緝シ來訪  
 セル容疑青年一名アリタルカ不在ノ爲メ面會  
 スル事能ハス其儘引返シタルカ今地宿屋金昌  
 先方ニ於テ牽銃ヲ出シ金逃官ヲ射殺ノ爲メ來  
 レルカ目的ヲ果サス般ルニ依リ其ノ旨分駐所  
 ニ申告スルシト言殘シ何ニカ姿ヲ晦シタルカ  
 急報ニ接シタル分駐所ニ於テハ直ニ追蹟附  
 近一帯ノ大搜索ヲ爲シタルモ發見スルニ至ラ  
 ス迄シテ引揚スリト  
 又夫匪ノ匪賊東邊好部隊ノ武装解除ノ件

安國縣荒溝地方ニ趨居セル匪賊東邊好部隊ニ  
 於テハ容赦以來衣食糧ニ困リ一部匪賊間ニハ  
 内々曰滿軍警ニ叛順ヲ策動シツツアヲ以テ探  
 知セシ例木溝神松洞地方ニ於テ革命軍第二  
 軍第一獨立師第三連長 朴春ハ部下四十名  
 ヲ率ヒ荒溝實地(明月溝西方約八里)ニ所在セル公  
 賊團又偵監視所ニ闖入監視匪賊十一名ニ對  
 シ『吾等ハ日滿軍ノ討以テ受テ遊難途ナルカ  
 寒氣ニ堪ヘス賣所ニ立寄リ夕山ト欺購シ匪賊  
 等ノ隙ヲ窺ヒ一撃ニ該匪賊十一名ノ所持セル  
 長銃十枝實尾銃三挺發火セリセル奉銃一挺全  
 彈藥三十發ヲ掠奪シ監視所ノ入贖金部ニ十七  
 名ヲ放還セリト

(四)

急報ニ接シタル東遼好部隊頭目魏玉寬ハ革命  
 軍ノ行動ニ積極シシ地方匪賊團ヲ呼合復雙ヲ  
 計畫シツツアリト  
 文匪海龍一旅ト革命軍トノ交戦状況  
 目下安圖縣大甸子地方ニ根據中ノ匪首海龍一  
 旅約二百余名ハ最近匪首田營長部隊ト合流シ  
 其ノ數約三百名ニ達シ居ル模様ナルカ渠等ハ  
 前非ヲ悔悟シ服順スヘク之カ準備ヲ急キツ  
 アリトノ情報ニ接シタル革命軍約三百名ハ安  
 圖縣車廠子ニ根據中ニ龍縣明新社莪芒園子ニ蟠  
 居セル革命軍約百名ノ應援ヲ求メ去ル一月十  
 四日一擧ニ海龍軍ヲ根據地ヲ突クヘク武装ヲ  
 整へ出發今日午後一時頃古洞河ノ下流ヲ進軍

九

中予々文ヲ察知シ居リタル海龍軍ハ今日根據  
 地ヲ發シタルヲ以テ途中正西面衝突ヲ爲シ二日  
 間ニ亘リ各所ニ於テ激戦シ革命軍側ニ於テハ  
 即死五名負復者數十名ヲ算シ海龍軍側ノ損害  
 ハ詳細不明ナルモ死傷者相當ナル模様ナリト  
 尚海龍軍ハ本戦ニ於テ入尺革命軍ヨリ長銃  
 十挺ヲ奪獲セリト



		匪賊出没状況	
月日	場所	匪賊の種類	根
一三二八	明新社 沖後洞	共 十名	目地ニ侵入居住鮮人金某方ニ於テ喫食ヲ強奪シタル後部民鮮滿人約三十名ヲ集メセシメ宣傳口演ヲナシニ道溝ニ於ケル目滿軍警ノ警備状況ヲ調査シ泉水利方面ニ引揚アリ各自長銃ヲ携行シ侵入目地居住滿人ヲ脅迫シ鮮馬一頭(價格約三円)精粟四斗ヲ強奪シ上奥地ニ引揚ケタリ
一三二八	明新社 青波湖	共 三名	泉水利西方約三里ノ地點ニ現ハレ滿人郭某ヲ脅迫シ現金五百円ヲ強奪シタルモ郭ハ目下斯ル巨額ノ大金無ク大豆賣上代金五十円ヲ提供シタルニ之ヲ受取リ何カガ世アリタリ
一三二八	明新社 泉水洞	共 六名	

<p>一、一三</p>	<p>三合社 梓田洞</p>	<p>共匪 三名</p>	<p>同地ニ侵入食事ヲ強要喫食中ナルヲ和龍 縣第一區警察署東良分駐所聞知長以下八 名同地ニ向々出勤途中、梨花洞ニ於テ該共 匪ト遭遇交戦ノ後、森林地帯ニ逃走セシメ タリ</p>
<p>一、一九</p>	<p>二道溝</p>	<p>共匪 四名</p>	<p>同地旧市街地ニ共匪数名潛入シタリトノ 情報ニ接シ同地領警分署林田部長以下署 員六名出勤、勦撃中同地市街地西端路上乘 テ共匪四名ト遭遇交戦約三分間ニシテ賊 一名ヲ獲シ、ローヤル拳銃一、同実包八發、目 記帳其、他ヲ押收セリ</p>

<p>月日</p>	<p>一〇一九</p>
<p>場所</p>	<p>期新社 泉氷洞</p>
<p>員数 種類</p>	<p>共匪 十余名</p>
<p>概況</p>	<p>同地ニ根據ヲ有スル中國共產黨員 六三名ハ旧正月ヲ目曜ニ控ヘ各地集團 部落ヲ襲撃スルコトニ決シ六十三名ヲ 六ヶ班ニ分ケ各々カ準備工作ニ着手 セル概ナルカ先發隊十余名ハ各自銃 器携帶シ勇化方面ニ向ヒタリト</p>

一五

匪賊出沒被害統計表

縣別	出沒件数	匪賊数	被 殺 傷 拉 去 人 数	害 品
和龍縣	五	三六		高梁 現金 一四五十 頭 斗 円
安圖縣	下册			
合計	五	三六		

匪賊分布状況表

和龍縣

項目	入馬数	共犯及 彈藥数	根拠地	系統	日清軍警 討伐状況	月収	對策	將來ニ對スル 概観
振金山	入七〇	小銃三〇	三道溝	匪賊				
萬泰里	入四五	小銃四〇	泉洞	匪賊			長順、若 三股、順、若 ヲ表ス	
新山	入六〇	小銃六〇	泉洞	匪賊	日清軍警 討伐状況			
双勝	入六〇	小銃六〇	安和縣界		日清軍警 討伐状況			
中夫	入三〇	小銃一〇	泉洞 新地方	共匪	日清軍警 討伐状況			
和委								
入民	入七〇	小銃七〇			日清軍警 討伐状況			
革命軍					日清軍警 討伐状況			
備考	共匪 二派 二七〇名	共匪 二派 二二五名	合計 六派 五〇五名					

匪賊分布状況表

安岡縣

頭目又ハ賊團名	人数	武器及彈藥数	横行地区根拠地	色彰	日満年報月内表ケ對策若クハ將來ニ對スル
田橋山	八二〇	長銃一〇〇 拳銃八三	修版溝	采流	計以状況ニ付動火要領狀況
長順	八一〇	長銃三 拳銃一三	分山	匪賊	觀
五百均	八七五	長銃六〇 拳銃五	男岡子	匪賊	策
甲仕着	八八五	長銃八	車散干	匪賊	
城水林	八一〇	長銃一〇	高版員	匪賊	
湯澤米	八八〇	長銃三	西口江	匪賊	
安岡区 及日會	八三五	長銃一〇	黄泥河子	匪賊	

領警ニ依  
順ノ文ヲ  
ヲ為ス

入 入	入 入
入 五	入 五
長 統	長 統
大 角	大 角
大 名	大 名
大 名	大 名
合 計	合 計
八 名	八 名
一 名	一 名
一 名	一 名

間島緝私隊編成表

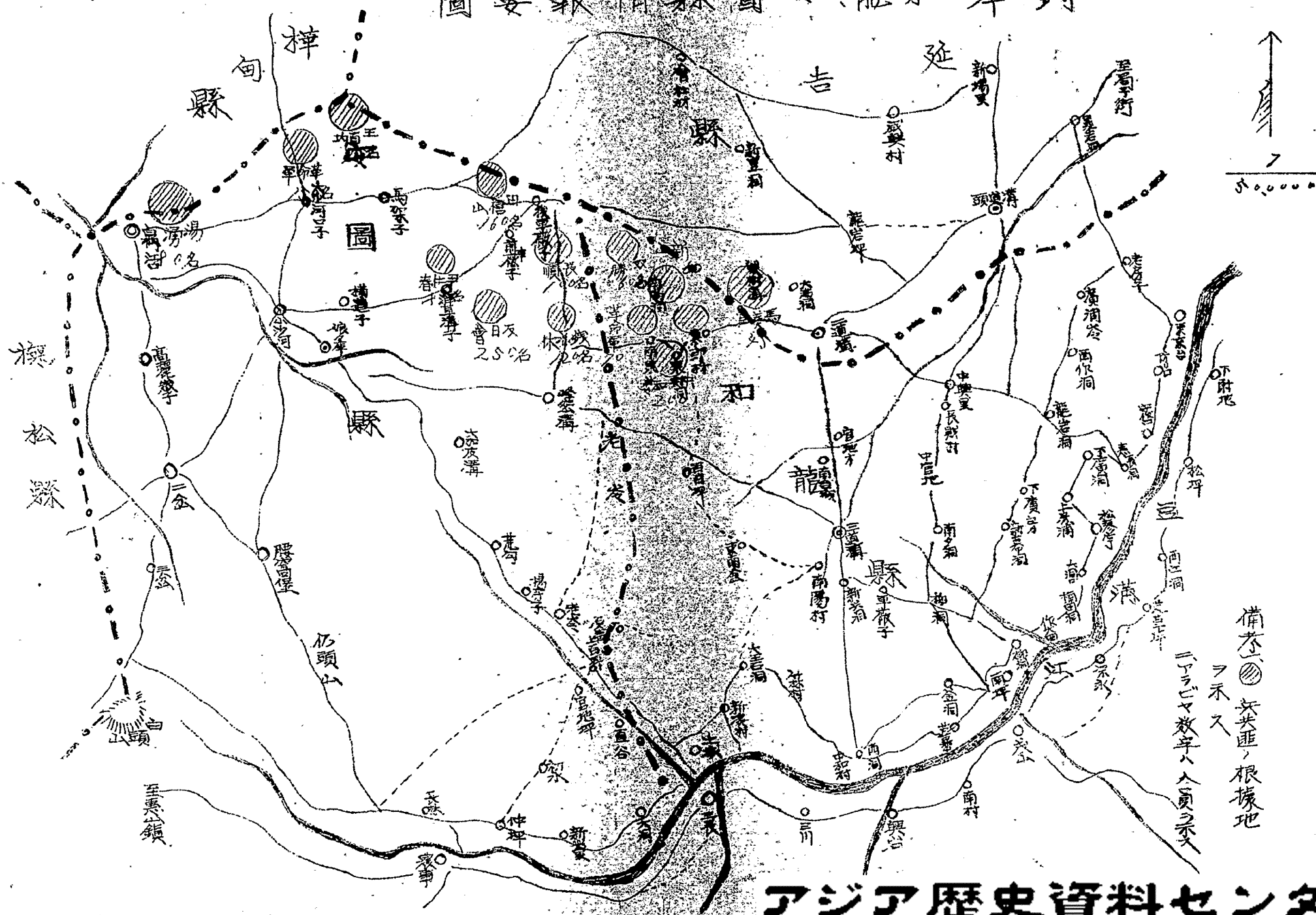
緝私局名		緝私局直轄緝私隊		總隊本部	隊名	緝私隊分
緝私局名		緝私局直轄緝私隊		總隊本部	隊名	緝私隊分
緝私局名		緝私局直轄緝私隊		總隊本部	隊名	緝私隊分
間島緝私局	延喜縣城	第一總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第一騎馬隊	明吉清
		第二總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二騎馬隊	龍吉清
		第三總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第三騎馬隊	頭道溝
		第四總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第四騎馬隊	注清
		第五總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第五騎馬隊	沙金溝
		第六總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第六騎馬隊	高峯城
		第七總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第七騎馬隊	大洞
		第八總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第八騎馬隊	下道溝
		第九總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第九騎馬隊	三道溝
		第十總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十騎馬隊	大洞
		第十一總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十一騎馬隊	下道溝
		第十二總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十二騎馬隊	三道溝
		第十三總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十三騎馬隊	大洞
		第十四總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十四騎馬隊	下道溝
		第十五總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十五騎馬隊	三道溝
		第十六總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十六騎馬隊	大洞
		第十七總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十七騎馬隊	下道溝
		第十八總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十八騎馬隊	三道溝
		第十九總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第十九騎馬隊	大洞
		第二十總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十騎馬隊	下道溝
		第二十一總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十一騎馬隊	三道溝
		第二十二總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十二騎馬隊	大洞
		第二十三總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十三騎馬隊	下道溝
		第二十四總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十四騎馬隊	三道溝
		第二十五總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十五騎馬隊	大洞
		第二十六總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十六騎馬隊	下道溝
		第二十七總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十七騎馬隊	三道溝
		第二十八總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十八騎馬隊	大洞
		第二十九總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第二十九騎馬隊	下道溝
		第三十總隊本部	延喜縣南坪	延喜縣南坪	第三十騎馬隊	三道溝



和龍縣警察局設置人員統數表

分局名稱	警佐	警長	警士	計
第一區警察署(縣城)	1	3	4	8
八道河子分駐所	1	1	1	3
小六道溝分駐所	1	1	1	3
西林河分駐所	1	1	1	3
第二區警察署	1	2	1	4
北鎮河分駐所	1	1	1	3
大牛欄分駐所	1	1	1	3
第三區警察署(三道溝)	1	2	1	4
百日坪分駐所	1	1	1	3
青山里分駐所	1	1	1	3
夾皮溝分駐所	1	1	1	3
土山子分駐所	1	1	1	3
煤礦分駐所	1	1	1	3
大金場分駐所	1	1	1	3
第四區警察署(南坪)	1	1	1	3
車廠子分駐所	1	1	1	3
葫蘆頭溝分駐所	1	1	1	3
高嶺子分駐所	1	1	1	3
沙金溝分駐所	1	1	1	3
蘆葉分駐所	1	1	1	3
紅旗河分駐所	1	1	1	3
第五區警察署(南山)	1	1	1	3
南陽村分駐所	1	1	1	3
石炭坪分駐所	1	1	1	3
南陽村分駐所	1	1	1	3
計	5	26	31	62

# 對岸龍安縣情報要圖



8470

**秘** 第四守情第六號

昭  
和  
四  
守  
備



第十九師團第四守備隊月報  
自十一年一月一  
日

0174

發送先

師一、旅一、聯一、惠一、惠一、新守一、江守一、  
慶守一、茂守一、厚守一、饒守一、

0159

0160

第一 警備(討伐)ノ概況

鮮内警備

第二 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

1. 治安概況

2. 政情一般

3. 宣傳政治工作ニ關スル事項

4. 馬匪賊及鮮匪團ノ概況

5. 日軍ノ概況

6. 滿軍警察署、自衛團、配置移動及教育訓練ニ關スル

事項

第三 交通、通信、補給、經理、衛生、其他事項

鮮内

9410

対岸  
第四守備隊編成裝備一覽表

1981

第一、警備(討伐)ノ概況  
鮮内警備

一、白頭山警備行軍

惠山鎮守備隊ニ在リテハ、鈴木中尉以下拾三名ヲ以テ九年十二月二十八日ヨリ京都帝大山岳研究部白頭山登山隊ノ一行及惠山警察署員ト併行シ前古未曾有ノ白頭山警備行軍ノ壯舉ヲ決行スルト共ニ冬季森林積雪地ニ於ケル行軍宿營法ノ研究ヲ實地ニ體得シ一月十六日隊員一同頗ル元氣旺盛ニシテ歸還セリ之為長期ニ亘ル酷寒ヲ克服スルト共ニ他面又地方民ヲシテ皇軍威武ニ對スル信倚ノ度ヲ深メ且警備工作ニ裨益スル處大ナルモ

ノアリタリ

(細部ニ關スル研究記事ハ別ニ報告ス)

二、管内警備行軍

惠山鎮及新架坡鎮守備隊ニ於テハ本月間左  
記ノ如ク管内警備行軍ヲ實施シ地方警備ノ  
目的ヲ達セリ

左記

一、惠山鎮守備隊第一中隊

二年兵

一月十五日仲特務曹長以下四五名ハ惠山—  
要洞里—千石里—新巨里—毛亭里—雲籠—  
馬上嶺—惠山ニ三十二料  
初年兵



一月二十四日河野少尉以下六十八名、惠山、  
長白、榎田里、中里、惠山、約二十四料、  
惠山鎮守備隊第二中队

二年兵

一月十一日五十嵐特務曹長以下四一名ヲ以  
テ惠山、雲籠、大五、川、中里、惠山ニ二十  
四料

一月二十五日五十嵐特務曹長以下三十六名ハ  
惠山、江口、新巨里、雲籠、惠山ニ約三十  
八料

初年兵

一月二十四日大井少尉以下五六名ヲ以テ惠  
山、長白、十九道溝(新福洞)、小二十道溝、

3. 新架坡鎮守備隊  
泉水—樟田—中里—惠山—三十八料

一月十七日深谷特務曹長以下二十七名ヲ以テ  
新坡—小農—三浦—羅暖堡—氷上並江岸道  
ヲ約三十二料  
ノ行軍ヲ夫々實施シ地方警備並ニ演習ノ目的  
ヲ達セリ

(惠山鎮守備隊管内警備行軍経路要圖附圖第一ノ如シ)

4. 第一線警察官ノ警備要領

鴨綠江凍結ニ伴ヒ對岸トノ交通各所共ニ自  
由トナレル冬季結氷期ニ於ケル江岸各駐在所  
(ニ號壇、獨農、山、蘆佳林、泉水、樟田、中里、惠山、江口、困坪、好仁、高  
巨、漢坪、雲田、地應里、羅暖堡、三浦、小農、新架坡、回坡以上ノ

各駐在所)ニ於テハ毎日或ハ隔日ニ徒歩ニ依ル  
 警備連絡者ヲ派遣シ相互ノ情報交換ヲ為ス  
 ト共ニ緊密ニ連絡ヲ保持シアリ  
 又守備隊ニ對シテハ各警察署ヨリ書類ヲ以  
 テ通報シアルノ外緊急事項ニ關シテハ機  
 應シ直接電話ヲ以テシ或ハ斥候連絡又ハ演  
 習行軍時ヲ利用シ各種ノ機會ヲ捉ヘテ相互  
 連絡ニ注意シ適時適切ナル資料ヲ得ルコト  
 ニ勉メアリ

第二 對岸ニ於ケル政情並治安概況

一 治安概況

長白縣

逐次平靜ニ歸シ特ニ月間良好ニ維持セラレ

三

セラレタリ然レトモ隣接各縣境ニハ常ニ大  
 部隊ノ賊團蟠居シアリテ目下軍警ノ至嚴ナ  
 ル警戒ト討伐トニ恐レ縣内侵入ヲ断念シア  
 アルカ如キモ其虚ニ乘シテハ尚治安ノ確保  
 豫期シ雅キモノアリ特ニ此等ノ賊團ハ舊正  
 月ノ一般休養期ヲ目途ニシテ縣内ニ侵入シ  
 主要部落ノ襲撃ヲ揚言シアル等益々至嚴ナ  
 ル警戒ヲ要スルモノアリト認ム  
 臨江縣  
 縣下ニ於ケル治安ハ前半期概テ靜謐ニ經過  
 シタレトモ下旬ニ至リ匪賊ノ行動漸次活氣  
 ラ帶ヒ之為帽兒山守備隊又縣下警務機關  
 於テ大討伐ヲ實施セリ之ニ依リ彼我多少ノ

二、政情一般

損傷ヲ見ルニ至レル等治安ノ状態ハ長白縣内ニ比シ猶混沌タルモノアリ

長白縣

日ヲ逐フニ從ヒ漸次改善セラレツ、アル縣政一般ノ状態ハ近時愈々其進境ヲ示セリ就中縣民一致建國精神ニ趨歸シツ、アルハ拘ニ放フハキ傾向ニシテ善政ノ跡ヲ窺知スルニ足ルヘク且親日愛滿ノ度ヲ濃厚ナラシメアルハ鮮内官憲ト密接ナル連絡ヲ保持スル所以ニシテ一層政治治安工作ニ銳意精進シ更ニ新國是ノ伸展ヲ圖リツ、アリ

三、宣傳政治工作ニ關スル事項

四

ハ滿洲國稅制ノ確立ニ伴ヒ長白府ニ新ニ安東  
 稅關長白分所ヲ設置シ昭和九年十二月二十  
 九日ヨリ事務ヲ開始セリ

ハ長白縣長 翟潤田ハ伊藤副參事官ト共ニ一  
 月十九日ヨリ奉天公署ニ於テ開催セラレ、  
 東邊道復興會議出席ノ夕メ一月十四日鮮内  
 經由出奉中ナリ

#### 四、馬匪賊及鮮匪團ノ狀況

長白縣  
 本期間大ナル活動ヲ見ス然レトモ長撫臨縣  
 境ニハ紅軍愛國軍戰國軍歷東洋等ノ大匪賊  
 約四百五十名蟠居シ絶ニス奧地ニ出沒シツ  
 、アリ 特ニ舊正月ノ休養期ニ於テハ主要

部落ノ襲撃ヲ決行スル等其宣傳ノ大ナルモ  
 ノアリ之為住民ノ一部ハ萬一ノ匪害ヲ慮リ  
 續々江岸方面ニ逃避シツ、アリ

## 臨江縣

臨江縣内ニ蟠居シアル匪賊ハ特ニ五道溝以  
 北長白縣境附近ニ多ク且其ノ性狀特ニ狂暴  
 ニシテ其主ナルモノハ六七道溝ニ於ケル馬  
 興山紅軍大刀會保國一派等ニシテ馬興山ノ  
 一部ニ百名ハ一月二十一日五道溝五人把  
 於テ帽兒山守備隊並縣下ノ警備團員ノ掃蕩  
 ニ遭ヒ之ト交戦シ逐ニ六七道溝奥地ニ潰走  
 セリ

## 鮮匪ノ狀況

長白、臨江、遼下ニ於テハ、此種思想的策動ヲ見  
 サルニ在滿鮮匪共産党青年同盟員ノ巡回宣  
 傳等ニ關シテハ、十年一月十七日第四守情第  
 一號ヲ以テ報告セシカ如シ  
 其他反滿抗日軍ノ治安攪乱ニ作狀況  
 撫松縣漫江附近ニ蟠居シアリタル反滿  
 抗日軍總司令譚章之ハ、一月上旬頃撫松縣境  
 嘉魚河(花開山)ニ移動シ附近ニ散在スル紅軍  
 或ハ其他ノ馬匪賊ヲ糾合シ之ヲ以テ有カナ  
 ル戰鬥隊ヲ編成シ長白縣内ニ侵入シ各主要  
 部落ノ襲撃ヲ計畫シ其間次ノ如キ懸賞ヲ定  
 メ機密ノ蒐收重要人物ノ暗殺等ヲ行ハシム  
 ヘフ部下ヲ激勵シツ、アリト



懸賞規定記

- 一、日滿軍警ノ機密ノ蒐集十件以上達シタル者、三百圓
  - 二、日滿官公衛ヲ破壊セシ者、五百圓
  - 三、重要ナル人物ノ暗殺五名以上ニ及ヒタル者、千五百圓
  - 四、武器彈藥ノ奪取十件以上ノ者、百五十圓
  - 五、日滿軍警ヲ捕虜シタル者
    - 將校、二百圓
    - 下士官、百圓
    - 兵、五十圓
- 警察幹部、百圓  
 警長以下、三十圓
- 五日軍ノ情況  
 長白縣内ニ於テ當該事項ナシ

臨江蹕下ニ在リテハ一月二十一日午後三時  
 帽兒山守備隊ハ同警察隊ト協同シ五道溝五  
 人把ニ於テ馬興山ノ一部ニ百名ト交戦之ヲ  
 撃退シ六七道溝方面ニ追撃セルモ之為帽兒  
 山守備隊野田曹長ハ戦死セリ細部ノ情况ハ  
 尚不明ナリ

### 六 満軍警察隊自衛團ノ配置移動

長白蹕下ニ於ケル各警務機關並自衛團等ハ  
 本期間新配置及變更ヲ見ス

### 第三 交通通信補給経理衛生其他ニ關スル事項

#### 一 交通

一月中特記スヘキ事項ナシ惠山―合水間自  
 動車ノ運行ハ目下結氷積雪ノ為多少支障ヲ

来シツ、アルモ概ネ一日一回、運行ヲ實施  
シツ、アリ

ニ 補給

前月ニ比シ變動ヲ見ス

三 経理

直接關係ヲ有スヘキ事項中特記スヘキモノ  
ナシ

四 衛生

第四守備隊ニ於ケル目下ノ衛生成績ハ尤  
如シ

入院

六名

(内結核一、外傷ニ、眼病一、病名未定ニ)

酷寒時ニ於ケル寒度ノ交感甚シキ為給養實  
セ

施ノ改善ト相俟テ衛生成績鞏固ニ勉メツ、

對岸

交通

長白縣

長白府ニ於テハ今春中ニ竣工ヲ豫定シアル

江岸道ノ完成ニ先テ大同自動車株式會社ナ

ルモノノ設立ニ關シ主要者協議中ナリ近ク

之ヲ實現ヲ見ルニ至ルモノト觀察セラル

長白縣參事官葛綿慎次ハ江岸ニ於ケル新設

自動車道ノ一部未完成ニアル十四道溝附近

ノ破岩作業觀察ノ為一月十九日出張即日歸

長セリ

二 通信

特記スヘキ変化ヲ認メス

三 補給

変動ナシ

四 衛生

顧慮スヘキ流行病其他特記スヘキ事項ヲ認

メス

第四附表

第四守備隊編成裝備一覽表附表第二ノ如シ

附圖

長白臨江縣内馬匪賊出没状況要圖附圖第二ノ如シ

同	一 一七	同	一 一三	一 上旬
臨江縣 七道溝 乱民塘 老虎洞溝	同 六道溝	臨江縣 七道溝	長白縣 八道溝 外南岔	穆稷縣境 若魚河
馬興山	同	馬興山	愛國軍 戰國軍 占中原 在東洋	譚章之
不詳	不詳	300名	140名	150名
上記地方に於て百家長及什家長に命シ食糧提供ヲ 強要シ之ヲ錯草頂子ノ司令部宛運搬セシメタリ 尚老虎洞溝に於テハ百家長ハ之應セザリシ為同入 外ニ名ヲ拉致シテ揚ケタリ	六道溝商務會宛白米百石ヲ直ニ調達提供シ我等ノ 主義ヲ援助スヘシトノ脅迫状ヲ送付シ來レリ	上記ニ移動シ來リ長白縣下侵入ヲナシ新房子 八道溝ヲ襲撃スヘク揚言シアリ	上記ニ移動シ近ク新房子ヲ襲撃スヘク計畫シ 宣傳シアリト	上記ニ移動シ附近ニアル紅軍匪馬賊等ヲ糾合シ有カ ナル戦斗隊ヲ編成シテ長白縣内侵入ノ機ヲ窺 ヒツニアリ

一、二七	一、二一	一、二〇	一、一八
臨江縣 六道溝 真地	臨江縣 五道溝 五人把	長白縣 十三道溝 干把河子	臨江縣 七道溝 大洋金
陳旅長 紅軍	馬興山	上山好 占山好	馬興山
300名	200名	詳不	100名
<p>上記地方ニ於テ滿洲國官憲ニ金品強要ノ脅迫 文ヲ送付シ吾々東北革命軍ハ日露開戦ノ豫備 行動ヲ為スモノナリト豪語シテアリト 此賊団中ニハ露人及鮮人約三千名混入シアリト</p>	<p>帽兒山守備隊及同警察隊ト交戦シ死体六、長銃 四、馬匹三〇頭ヲ遺棄シ六、七道溝真地ニ潰走 セリ</p>	<p>滿人木枝作業所宛左ノ金品ヲ強奪セリ 左記 一、現洋三十円、ニ、表紛袋、三、阿片二百々、四、豚一頭、 五、地下足袋百足</p>	<p>滿人木枝武木枝作業所ニ移動シ鯨魚三百尾百廻紛ニ 袋ヲ提供セシメ約一時間ニシテ根據地ヲ揚ケテ 尚該賊団ニ四名ノ露人加ハリアリテ棟々ナル指示ヲ與ヘ ツアリト</p>

附表第一

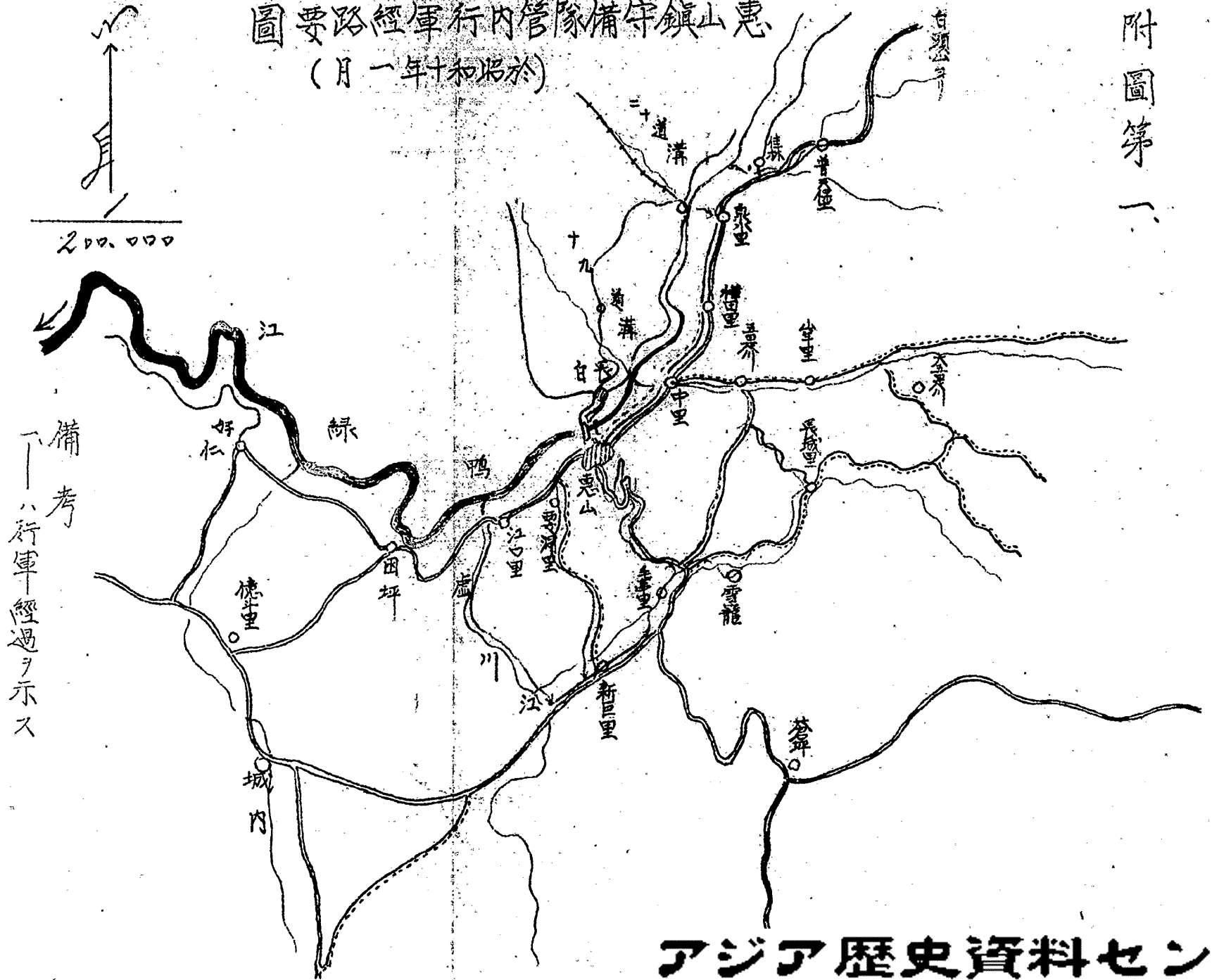
長白臨江撫松縣内馬匪賊出没状況調 (昭和十年一月中)		日	日	場	所	類	目	賊	數	行	動	及	被	害	ノ	状	況					
九 一 二 三	長 臨 江	長 白 縣	愛 國 軍	不 詳	十 月 三 日	長 白 縣 警 察 隊 為 擊 破 セ ラ レ 長 臨 江 境 内 滿 人 木 枝 作 業 所 ヲ 龍 馬 橋 セ テ 台 ヲ 徹 殺 シ 負 傷 者 三 十 名 ヲ 收 容 シ 上 撫 松 縣 漫 江 方 面 ニ 向 テ 移 動 セ リ	長 白 縣	占 中 原	約 三 百 名	愛 國 戰 國 兩 軍 糾 合 シ 總 勢 三 百 名 ヲ 以 テ 滿 人 部 某 經 營 ス ル 木 枝 作 業 所 ニ 集 結 シ 長 白 縣 江 岸 方 面 ニ 進 出 ス ハ ク 機 ヲ 窺 ヒ 居 タ リ	九 年 十 月 末 幹 部 會 議 ヲ 開 催 シ 新 工 作 方 針 ヲ 決 定 シ 一 月 三 日 各 行 動 隊 ヲ 派 遣 セ リ	漫 江 方 地	撫 松 縣	譯 章 之	約 一 百 名	上 記 一 帶 地 區 蟠 居 シ ア リ シ モ 三 道 溝 水 凍 溝 ヲ 經 テ 半 截 溝 方 面 ニ 移 動 セ リ	臨 江 縣	馬 興 山	保 國 一 派	約 一 百 名	三 道 溝	裡 王 家 店



同	一 八	同	一 七	一 六
同 四頭房北坊	長白縣 十三道溝 南崗 西北方三里	同 靑島	同 裡大猪溝 一帯	臨江縣 三道溝 水涼溝
愛國戰 西軍 占中原 庄東洋	登山好 占山好	紅 軍	紅 軍	大刀會
120名	14名	100名	130名	15名
孤山子(十三道溝)襲撃ヲ企図シタルモ官憲ノ 計代出動ヲ察知シ奥地ニ引揚ケタリ	滿人孫錫延ノ木柵作業所ニ移動シ附近木柵作業 所ヲ襲撃スヘク部下ヲ苦力ニ裝束セシメ精況 ヲ内査メシメアリ之為木柵業者ハ戦々恟々トシ アリタリ	上記地帯ニ移動シ來リ軍資金調達ニ奔走 シ各部民衆脅迫殺害シツ、アリ	上記一帯ヲ根據トシ活動中ナリシモ近ク五道 溝方面ニ移動スヘク準備中ナリ	盛ニ槍術ノ練習ヲナシ附近住民ヲ脅迫シ食糧 ノ提供ヲナサシメツ、アリ

# 惠山鎮守隊管內行軍要路圖 (於昭和十一年一月)

附圖第一



# 對岸馬匪出沒狀況要圖

(於昭和十年一月)

備考

- 一 出沒件數 一九件
- 二 延匪賊數 長白縣 四五〇名
- 三 本要圖ハ大凡件數ヲ適宜總括シテ示セリ



道北安平

道南鏡威

一守常報第三號

第二十師團第一守備隊月報

自昭和九年十二月二十一日  
至昭和十年一月二十日



目次

- 一 警備(討伐)ノ概況
- 二 對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況
- 三 交通通信補給經理衛生ノ概況
- 四 編成裝備一覽表

發送先

軍師旅聯管下各隊 第二第四守備隊 渭守 安一警顧

一、警備(討伐)ノ概況

帽兒山守備隊

ノ警備行軍

警備行軍附圖第一ノ如シ

二、討伐

本期間ニハ直接討伐實施セス

通溝守備隊

ノ警備行軍

警備行軍附圖第一ノ如シ

二、討伐

本期間中直接討伐ヲ實施セス

縣警察隊ヲ指導督勵シ討伐ヲ實施セシム

二、對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況

ノ政情

臨江縣

八月二十日鮮滿人間ノ小作料滞納紛争問題善後策協  
定ノ爲メ協議ノ結果地主側ニ於テ從來納付小作料ノ三分  
一ヲ減額スルコトニ決定ス

又十月八日日滿鮮人ノ農事關係ノ円滿ヲ圖ル目的ヲ以テ各縣  
ニ農事輔導委員會設置方ニツキ各機關ノ參集ヲ求メ臨  
江分會設置ニ關シ之カ具體的協定ヲ爲シタリ

又十二月二十五日東邊道各縣復舊資金差額決定ノ爲東邊道  
地區治安維持會長脇坂中佐ヨリ縣長ニ對シ窮民狀況調  
査方電命アリタルニ付臨江縣ニ於テハ左表ノ如ク調査回答ス

(イ) 聚家戸口數

聚家戸數	八	口	摘要
五、八一七	三二、〇七五		

(ロ) 縣外移住戸數

（一）窮民状況

移出先	戸数	摘要
撫松縣	一四八	
長白縣	七三	
安東方面	六九八	

（二）他地方より補給ヲ要スル食糧

種別	戸数	人口	摘要
糧食ナキモノ	七六九八	三八四九〇	
住家ナキモノ	三七七九	二二四五三	
計	一一四七七	六〇、九四三	

臨江縣一年間必要穀量

昭和九年度	食糧	二二六八〇〇石
收穫量	豆类	八八七六三石
	夏季副産物 先産穀類	二六六二八石 五六七〇〇石



合	計	一七三〇九十一石
不	足	量
		五四七〇九石
備考		

輯安縣

十月以降停滯セル官吏ノ俸給ハ警備機關ニハ三箇月分(十一月迄)其他ハ一箇月分ノ支給ヲ了シ舊年末迄ニハ全部支給シ得ル見込ニ到達セリ

縣長佈告 十二月二十日現小洋ノ使用ヲ禁止シ一定率

ニ依リ國幣ト税換スルコトニ決定セル旨

訓令 十二月二十三日各管内傳染病患者發生ニ際シテ

ハ其狀況ヲ報告シ其處置ニ關シ指示ヲ仰リ共ニ發生狀況

ヲ月報報告スル旨

佈告 一月五日婦女子ノ纏足ヲ爲ス者ハ法ニ照シ嚴罰ニ處ス

ル旨

4. 訓令 一月九日在北平勵志社ニ最近女性ヲ以テ對滿情  
報工作團ヲ組織シ活版生其他ノ女工ニ變裝中國人十七名  
鮮人四名ヲ入滿計畫アルニ對シ各警察署ハ潛入ノ有無ヲ  
嚴重内査スヘキ旨

5. 訓令 一月九日鮮匪革命軍ハ勢力挽回策ヲ決議セリト  
ノ情報アルニ對シ特ニ注意ヲ倍テシ嚴重警戒スヘキ旨  
6. 訓令 一月十四日通化縣公益村農民ノ特別工作ニ反對  
シニ換テ惹起セル事件ニ鑑ミ管内農民ノ動向ニ注意ス  
ヘキ旨

7. 一月十四日在北平反滿抗日大學生八名ハ朝鮮獨立團員十  
三名ト共ニ盤石縣下ニ侵入セリトノ報ニ對シ此種不逞者ノ  
侵入ヲ嚴重ニ警戒スヘキ旨

8. 訓令 一月十五日三輪副參事ハ貧民救濟ニ關シ打合會  
議ノタメ出奉セリ

ノ訓令 一月十六日北平其他留學生冬期休暇ヲ利用シ入  
 滿ノ上反滿抗日ヲ策スルコトアルヘキニ付留學生ニ就テハ特  
 ニ注意スヘキ旨

10.十二月二十五日東邊道各縣復舊資金差額決定ノ爲メ東  
 邊道區治安維持會委員長脇坂中佐ヨリ之カ資料提出方  
 電命アリ輯安縣ニ於テハ左表ノ如ク調査回答セリ

各種損害高

匪災	三四、一〇〇円	燒失家屋
兵災	一九二、〇九二円	燒失家屋
集家	一三四、六四〇円	
轉居	七九、四三四円	
天災	一二二、〇五九円	
土地徵發	一一七、八七〇円	
賦役	三〇九、五五二円	

特別工作ノ續行完璧ヲ期スル爲ニ要スル諸經費

橋	梁	計
	三一〇一〇月	一〇二〇七五七円
道路完成	一四三〇〇〇月	
道路舗装	一四〇〇〇〇月	
集家徹底	三三六〇〇〇月	
防禦施設	二六六〇二〇月	
電話増設	五三三六〇月	
學校増設	一五〇五〇月	
衛生施設	二三七一二〇月	
計	二六一三〇〇月	

(三) 救濟

所要金額	計
二四〇〇〇〇月	二四〇〇〇〇月

2. 治安  
 臨江縣  
 日滿軍警ノ積極的討伐ト治安工作實施後ニ於テ聚家ノ

(四) 産業助成

産業組合組織	一〇〇、〇〇〇円
農業倉庫	一一、二〇〇円
養蠶獎勵	二〇、〇〇〇円
煙草耕作助成	一六、〇〇〇円
水田開發	一二、〇〇〇円
畜産獎勵	一七、八〇〇円
肥料購入	八五、〇〇〇円
種苗購入	五、〇〇〇円
計	二六七、〇〇〇円
合計	一五七三、〇五七円

徹底ニヨリ奥地附近ニ於テ集團匪ノ活動意ノ如クナラス殊ニ  
 昨夏農作物ノ不況ニ由リ極度ニ疲弊セル山間部落ニ於テハ糧食  
 ニ窮シアル狀況ナルヲ以テ彼等不逞團ノ集團的棲息困難ナルカ  
 故ニ自然四散分離スルノ已ムナキ狀況ニアリ然レトモ舊曆年末  
 フ目睫ニ控ヘ彼等不逞ノ徒モ亦人間の煩惱ト慾望ヲ滿サムカ  
 爲決死的活動ヲ企圖スルモノアリ

縣西部地區ハ獨歩第五大隊長指導ノ下ニ討伐中ニシテ大ナル  
 匪團ナキモ縣内東地區三四五道溝方面ニハ紅軍馬興山其他小  
 匪團集合流シ逐次江岸進出ヲ企圖シ或ハ縣城及江岸主要  
 都邑ノ襲撃ヲ劃策スル等治安尙樂觀ヲ許サル狀況ニアリ

### 輯安縣

ノ匪賊

王殿陽匪ハ匪首落命後匪賊ハ四散分離シ本期間大匪團復  
 入ヲ見ス殊ニ朱連司令ト共ニ縣内西部地区ニ暴威ヲ逞フ

七、占東邊匪、其家族ト共二月三日關東軍桓仁方面討伐  
 隊ニ射殺セラルシ以來賊團ハ著シク減セリ然レ共衣食住ニ  
 窮セルニ三十名以下ノ賊團ハ慶、縣内ニ侵入シ人質拉去金  
 品掠奪脅迫等ノ暴動已マス之等ノ匪團ハ嶺後方面ニ  
 於ケル物質ノ缺乏ニ伴ヒ漸次江岸地帯ニ進出セントシ北部  
 通化縣境ニ六日滿軍警ノ討伐ニ遭ヒ逃避セル海源、草上飛、  
 大局好等ノ合流匪約四百アリテ舊年末ヲ目睫ニ控ヘ治安  
 ハ尙儉安ヲ許サル狀況ニアリ

### 之鮮匪

梁瑞鳳被殺後屢々日滿軍警ノ大討伐ニ遭ヒ四散潰走シ没  
 落ヲ傳ヘラレシ鮮匪國民府ハ客年十月軍事部長金若石總  
 司令ニ就任シ革命軍ノ輓回策トシテ戒嚴令ヲ布キ桓仁縣  
 下ニ主腦者ノ緊急會議ヲ開催シ移住鮮人トノ關係ヲ確保  
 スルタメ從來ノ地方行政機關ヲ解體シ朝鮮革命軍政府ト

改稱シ輯安桓仁通化興京寬甸ニ各軍區ヲ設置シ武裝  
 軍人ヲシテ直接民衆ノ自治行政ニ當ラシムル如ク改革シ四散セ  
 ル同志ノ糾合移住鮮人ノ懷柔軍資金徵收募兵等再  
 起運動ヲ奔走中ニシテ之レカ動向ニ就テハ將來特ニ注視  
 フ要スル情況ニアリ

### 撫松縣

縣内ニ根據セル雲中飛三江好等ハ馬興山王殿陽ト連繫  
 一時猖獗ヲ極メタルモ客年王殿陽射殺後ハ孤立無援トナリ其  
 勢頓ニ衰へ現在ニ於テハ全ク四離滅裂ノ状態ニアリ爲メニ縣  
 内治安モ必然的ニ確保セラレツ、アルカ舊曆年末ト共ニ彼等  
 敗殘匪モ再ヒ勢力挽回ニ腐心シツ、アルモノ、如ク最近撫松  
 街道附近ニ出沒小部落或ハ通行中ノ商隊ヲ襲撃スル等  
 漸次活氣ヲ呈シツ、アリ

### 濛江縣



客年九月以來特別工作後引續キ日滿軍警ノ至嚴ナル掃蕩  
ニヨリ縣内治安ハ概ホ平靜ニ歸シツルモ臨江及撫松縣境  
附近ニハ今尚小匪團横行シ周太平及双江ノ一味等ハ舊年末  
年始ヲ期シ主要都邑ノ襲撃ヲ企圖シアリテ治安尚偷安  
ヲ許サルモノアリ

### 通化縣

特別工作ニ引續ク日滿軍警ノ積極的討伐ニ依リ匪團ハ著  
シク減シタルモ紅軍匪ノ必死的躍動ハ屢々主要都邑ノ襲  
撃ヲ劃策シ或ハ農民ヲ使簇ニテ暴動ヲ惹起セシメ或ハ討伐隊  
ト激戰ヲ交フル等漸次活氣ヲ呈シ之カ討伐ニ寧自無キ狀況ニアリ

### 3. 匪賊（紅軍匪、鮮匪）概況

左記及附圖第二、三ノ如シ

臨江縣方面

### 馬匪賊出沒統計表

輯安縣方面

馬匪賊出沒統計表

備考	合計	通化縣	輯安縣	縣別	馬匪賊出沒統計表		殺傷被		害	
					出沒件數	延賊數	殺傷	被	放火	脅迫
(一) 丙午年	三九	七	三二	出沒件數	五八	六三八四	九	三三	二五	五七八〇〇
(二) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	延賊數	二	五〇八				
(三) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	殺傷						
(四) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	被						
(五) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	放火						
(六) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	脅迫						
(七) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三	金額						
(八) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(九) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十一) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十二) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十三) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十四) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十五) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十六) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十七) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十八) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(十九) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							
(二十) 丙午年	二四一三	一〇三〇	一三八三							

馬匪賊出沒狀況左ノ如シ

縣別		馬匪賊出沒狀況	
月日	場所	頭目名	行動及被害
一三二	三區 五道溝奧地	戰國軍 三〇	伐木把頭二對シ 金品提供方脅迫文送付
一三五	五區 念子	紅軍 一〇〇	移來蟠居
一三五	四區 小梨子溝	勝國 三〇	被拉去者ノ家族ニ對シ 身代金一五〇月強奪
一三五	三區 六道溝	文明 七〇	移來蟠居
一三五	六區 八道江附近	九全東九 盛盛洲 三〇	醫居 八道江襲撃等企畫
一三五	二區 煙通溝	不詳 八	居住滿人ヨリ 衣類九點一強奪
一三五	二區 羊魚頭	不詳 五	居住滿人ヨリ 現金一六月強奪
一三五	三區 三道溝	不詳 三	居住滿人一拉去
一三五	四區 曲道溝	不詳 四	移來人ヨリ 現金二〇月強奪

討伐狀況

江							臨			
三二	三二	三二	三二	三二	三二	三二	三〇	一九	一九	三九
第七區	北道區 陽溝	三道區 溝	頭道區 溝	二道區 溝	三道區 溝	五道區 溝	七區 黑瞎子溝	五區 林子頭	三區 道溝	二區 道溝
九州	馬興山 四〇	不詳 三	不詳 五	不詳 五	不詳 五	不詳 五	紅軍 (揚司令) 二〇	馬興山 六〇	不詳 六	不詳 二
蟠居 放火	通洋人檢閱金品衣類強奪	居住滿人 現金四元強奪	居住滿人 現金四元強奪	居住滿人 現金二元強奪	居住滿人 現金二元強奪	居住滿人 現金二元強奪	蟠居	移來蟠居 龍裝擊全畫	居住滿人 現金九元強奪	居住滿人 現金五月強奪
六道江警察署長以下二〇名 出動支隊擊退賊死一							日本軍通化守備隊計上六 科以下三〇名 滿軍步兵連之卜遭退夫 戰通化縣境擊退不 賊下士官一員傷 賊不詳			

縣									
一三二	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三三	一三二
十八眼井	石人溝	六道江	紅土崖	縣城	黒石溝	大横道河子	石人溝	珍珠門	大于溝子
三〇	紅軍一〇〇	鐵來五〇	九紅三洲	双江七	紅軍二〇〇	東盛二〇	紅軍一五〇	紅軍二〇〇	兩伸手五〇
燒却家屋 去 二〇名	蟠居	移來蟠居	蟠居	縣城襲撃企畫	同地部落ヲ襲撃モシトシテ成ラズ	移來蟠居	同地警察分駐所ヲ襲撃シテ線ヲ切斷シ所員ノ降服ヲ促シ七七名ニ應セザリシヲ以テ掠奪果行ヲ志ニス	蟠居	蟠居
更ニ之ヲ燒却スノハ六道江警察署以下三五名六道江前衛團一〇名必動進撃ス	林子頭警察署員二三名石人溝分駐所員一五名必動進撃ス賊死一五	六道江警察署員二〇名同前衛一。出動進撃退ス	六道江警察署長以下〇名出動状況偵察	縣遊撃隊二〇名城内ヲ大捜索セシテ遂ニ匪影ヲ逸ス	縣警察隊二〇名六道江警察署長以下〇名出動	滿軍騎兵二連機關銃及迫撃砲各一挺出動擊退ス賊死六傷一五小銃三發獲	紅土崖警察署長以下二六名同自衛團五名出動進撃	賊死六傷一五小銃三發獲	賊死六傷一五小銃三發獲

三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三
奧葦沙河地	滴水溝	六道溝子	珍珠門	板石溝	四方頂子	輝沙地	正道溝	三岔子	剪倉溝
二〇	西梁	不詳	紅軍	占北省	紅軍	紅軍	紅軍	紅軍	不詳
蟠居	附近居民掠奪悉ニス	蟠居	蟠居	蟠居	蟠居	蟠居	村公所一燒却 住民ニ拉去	移來蟠居	蟠居
葦沙河警察署員一四 名遭遇擧退ス		警察隊平野指導官以下 四名遭遇交戰潰走セシム		八道江警察署署長以下五名之 遭遇交戰擧退ス 賊死二、擧獲槍二		葦沙河警察署劉署長以下三 名遭遇擧退ス		滿軍步兵一連輕機迫擊 砲各一排出動交戰擧退ス 賊死二、傷一、 擧獲長銃一、槍一	公道江警察署署長以下五名出 動擧退ス 擧獲、拳銃三、槍六、軍階三

一六	一五	一五	三六	三三	三三	三三
五道溝奥 趙家店	第一區 第一帶	第二區 第一帶	五道陽念	三五區 北方二五料	八區 紅土崖 北方八料	三五區 三岔子
紅軍 二〇〇	馬興山 明清軍 長原旅 陳旅 占中 六〇	不詳	平日軍 二〇	四季好 三〇	紅軍 二〇〇	紅軍 一〇〇
採木公司作業場ヲ 襲撃 人質二名拉去	十二月下旬來移來蟠 居村落襲撃ヲ企 畫ス	移來蟠居	蟠居	蟠居	行軍中滿軍騎兵連ヲ襲 撃滿軍應戰、連ヲク最 潰走ス 我損害 死傷三、連長症不明、 銃器若干被奪	移來蟠居
同地駐在小林營捕圍四七名應 戰退之ヲ擊退ス 戰死一、モル拳銃一、齒獲 右報ニ依リ、臨五ヨリ 滿軍歩兵一、連 ハ迫撃砲 銃三、名		四道溝警察署員二〇 名出動ス	臨通間保甲白衛團長以下二 〇名之ヲ遣過交戰擊退ス 戰死一、モル拳銃一、齒獲	三五區駐屯滿軍機關銃一連 之ヲ遣過擊退ス 戰死一、槍六、齒獲	急報、紅土崖ヨリ滿軍騎 兵連、林ノ頭ヨリ同下排 機關銃、迫撃砲各一分、出 動之ヲ逐ニ、照影ヲ逸ス	三岔子駐屯滿軍歩兵一連機關 銃、迫撃砲各一分、出動セシメ、逐 ニ、照影ヲ逸ス

三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三三	三三九	三三九	三三六	三三三
奧葦四區 葦沙河地	滴二區 滴水溝	六四區 六道溝子	一珍區 珍珠門	六板區 板石溝	二四方區 四方頂子	四鱗區 鱗河地	正二區 正道溝	三五區 三岔子	六剪區 剪倉溝
二勝國	西梁八	不詳二	紅軍三	占北省二	紅軍四	紅軍二	紅軍二	紅軍一五	不詳二
蟠居	附近居民 掠奪悉三	蟠居	蟠居 附近居民 抗日徽文散布	蟠居	蟠居 附近居民 掠奪悉三	蟠居	村公所 一燒却 位民二 拉去	移來蟠居	蟠居
葦沙河警察署員四 名下遭遇擊退 賊死二		警察隊 四名之遭遇 文戰潰走		八道區 警察署長以下 五名之遭遇 文戰擊退 賊死二 函獲槍二		葦沙河警察署 劉班長以下 三名之遭遇 擊退		滿軍步兵 下連輕機迫擊 砲各五排 出動文戰擊退 賊死二傷一 函獲長銃一槍	六道區 警察署長以下 五名之遭遇 擊退



一六	一五	一五	三五	三三四	三三四	三三三
五道溝奥 趙家店	第一區 一帶	蔡道溝	五道陽念	三五區 北金二五料	八區 紅土崖 北方八料	三五區 金子
紅軍 二〇〇	馬興山 老明清 陳長原 占旅長 双占中江 六〇〇	不詳	平日軍 二〇	四季好 三〇	紅軍 二〇〇	紅軍 一〇〇
株木公司作業場ヲ 襲撃 人質二名拉去	十月下旬來移來蟠 居村落襲撃ヲ企 畫ス	移來蟠居	蟠居	蟠居	行軍中滿軍騎兵二連ヲ襲 撃滿軍應戰ノ邊テク最 濃突入 我損害 死傷三連長狂不明 銃器若干被奪	移來蟠居
同地駐在山林警備團四七名應 戰退之ヲ襲撃退ス 戰死一五名此等銃一鹵獲 右報ニ依リ臨江ヨリ 滿軍歩兵一連 ヲ追撃砲 警備隊 三名		四道溝警察署員二 名出動ス	臨通間保甲自衛團長以下 三名之ヲ追過交戰擊退ス 戰死一七名此等銃一鹵獲	三金子駐屯滿軍機關銃一連 之ヲ追過擊退ス 戦死一戦死一槍六鹵獲	急報毎々紅土崖ヲ滿軍騎 兵二連林下頭ヨリ同テ非 機銃銃道撃砲各テ排出 動カニ逐ニ匪野ヲ逸ス	三金子駐屯滿軍歩兵一連機關 銃道撃砲各テ排出動カレテ逐 ニ追撃ヲ逸ス

馬匪賊情勢左如シ

縣	松 撫	縣 白 長	縣 江 蒙				
一六	二三	二三	三二	一九	一九	一八	
松樹鎮	五道江 上流一帶	十四道溝	那爾 東北	七區 大橫道河子	八里溝下	一區 老嶺山頂	
不詳 八	紅軍 五	馬興山 東來	周太平 紅軍 五	九洲 九洲	不詳 二	三江 雙	
縣指導官三名赴任途 中襲撃ヲシ難ヲ逃 被害ナシ	脅迫文送付	臨江ヨリ移來襲 撃ヲ企圖ス	警察隊防所ヲ襲撃 放火掠奪ヲ敢行ス	移來蟠居	移來 電話線五所切斷	蟠居	
			警察隊員八名重傷 底防戦不能ヲ爲重傷ヲ 脱シ縣城ニ引揚ケタリ	在八道江警察隊及在紅 七軍滿軍歩兵三連出動擊退 賊一、賊傷一	警察分駐所長以下八名出 動七連二道過セス	滿軍三連以下道過擊退 賊一、賊傷一	山林警備團八名 歩兵三連歩兵三連應援ノ爲 出動ス

10

縣		江		臨		縣
重 飛	馬 山	老 長 清	陳 紅 蓮 軍	楊 紅 軍	紅 軍	馬 匪 賊 情 勢
一 〇 〇	一 〇 〇	三 〇 〇	一 〇 〇	三 〇 〇	三 〇 〇	敵 軍 及 合 軍
〃	〃	〃	〃	〃	〃	兵 隊 及 民 衆
〃	〃	〃	〃	〃	〃	及 橫 行 地 區
〃	〃	〃	〃	〃	〃	色 彩 系 統
〃	〃	〃	〃	〃	〃	滿 年 計 況
〃	〃	〃	〃	〃	〃	動 向 及 行 動
〃	〃	〃	〃	〃	〃	敵 對 の 行 動
〃	〃	〃	〃	〃	〃	敵 對 の 行 動

	縣 松 撫		縣	江	濛	
	双 江	仁 義	督 警 署	周 太 平	紅 軍	西 梁
	八	部 下 四 分 五 裂 ス	一 五	〇	〇	八
長 統 一 〇 〇	同 年 〇 〇 同 年 〇 〇 同 年 〇 〇 同 年 〇 〇		槍 同 拳 同 小 牌 牌 銃 銃	有 迫 〇 〇 〇 二 〇 〇 〇 三 〇 〇 〇	槍 同 拳 同 小 輕 牌 牌 銃 銃 機	〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇 〇
通 化 縣	上 流 一 帶 三 五 道 溝	縣 城	大 北 山	〃	附 東 北 金 近 遼 寧	奧 地 三 道 溝 二 區
	〃	〃	〃	抗 反 日 滿	抗 反 共 日 滿 産	〃
滿 軍 警 出 動	嚴 重 警 戒 中	歸 順 ノ 見 込 リ	戒 中	滿 軍 警 出 動	揚 勤 滿 軍 警 出 動 ス 効 果	〃
長 統 一 〇 〇	送 付 脅 迫 文		潛 居	紅 軍 五 上 策 密 隊 襲 撃 撃 ス	暗 居 他 區 ヲ 襲 撃 察 隊 ヲ 襲 撃 ス	敢 行 掠 奪
	〃		〃	〃	〃	〃
	〃		〃	〃	〃	〃

縣 化 通		縣		安		輯		
揚軍	紅軍	鳳崗	九洲	張連長	中林	國軍	海山	雙標
三〇	三〇	三〇	七〇	三〇	一〇	三〇	三〇	三〇
槍 拳銃 長銃 二 六〇 四〇 〇	輕機 槍 長銃 二 三〇 〇 〇	槍 長銃 二 二〇 〇 〇	槍 長銃 二 一〇 〇 〇	槍 長銃 二 一〇 〇 〇	槍 長銃 二 二〇 〇 〇	槍 長銃 二 三〇 〇 〇	槍 長銃 二 八六 〇 〇	槍 長銃 二 二〇 〇 〇
一帶	通化臨	一帶	縣境	縣境	縣境	一帶	第四區	開道溝
抗反共	日滿	〃	〃	〃	抗反	日滿	土匪	〃
動計	日滿軍	計代	警隊	計代	〃	〃	〃	計代
五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百	五百

4. 警備機關  
臨江縣

關東軍

の十二月十八日通化獨立守備隊長井上大尉ノ指揮スル七名  
八道江ニ來リ同地滿軍警及臨江ヨリ出動セル平野  
指導官ノ率エル六五名ヲ指揮シ同地及三岔子六道江  
附近ノ掃蕩ヲ實施同二十一日原隊ニ歸還ス

(2) 在山城鎮關東軍獨立步兵第五大隊長脇坂中佐八通  
化守備隊長井上隊長以下五〇名混成第二旅ニテ連茲ニ  
通化縣警察隊河口指導官以下六〇名ヲ率ヒ一月十日第  
七區六道江ニ到着八道江駐屯滿軍警及十日早朝出動  
セル在帽滿軍警ニ併セ指揮シ嶺西地區大討伐實施中ナリ

輯安縣

大野村
不詳
滿洲省
抗日
計
居
ク

關東軍

(1) 十二月二十日 獨守第四大隊岡少佐ハ桓仁縣地方計支隊長ト

シテ部下六二名及桓仁ニ駐屯中ノ近野小隊ヲ率一桓仁縣

沙尖子ニ到着同地附近ニ於テ桓仁寬甸ノ兩縣内ニ増援中

ノ滿軍及警察隊ヲ併セ區署ニ重點ヲ桓仁縣東部地區

一帶ニ指向徹底的剿匪ニ努メ一月三日午後三時輯安縣第

三區灣溝子ニ於テ匪首占東邊以下二十名ヲ射殺シ治安

上大ナル効果ヲ奏セリ

(2) 一月八日午後二時三十分通化井上中隊ハ滿軍一連及警察

隊一々中隊ト共ニ通化縣第七區ニ密溝ニ於テ紅軍揚司令

率元約三〇名ヲ攻撃敵ニ死傷者八〇名ヲ出サシメタカ

我ニ下士官二兵二戰死及六名ノ負傷者ヲ出セリ

二 滿軍

(1) 匪首王殿陽並其一味計匪以來各駐屯地ニ歸還シ第二次

討伐ヲ計畫中ノ滿軍第二旅(指揮下部隊ヲ含ム)ハ十二  
月十六日ヨリ通化縣内ノ匪賊討伐安實行ノ爲メ左記ノ  
如ク配備討伐ヲ開始セリ

左記

歩兵第二團第二營候營長ハ四五六連ヲ指揮シ(迫撃  
砲一門ヲ附ス)十七日午前八時通化出發通化東南方地區  
ノ匪賊ヲ肅靜シ特ニ王鳳閣匪ノ積極的討伐ヲ實施シ概  
本月上旬自通化ニ歸還ス

騎兵第五團馬團長ハ第一三連(迫撃砲一門ヲ附ス)ヲ指揮シ  
十七日午前八時通化出發通化西北方地區(第四五六七  
區)ノ匪賊ヲ肅靜シ且各村ノ聚家ヲ指導シ十二月末日通  
化ニ歸還ス

教導步兵第一團一營ノ一七連ハ十七日午前八時通化出發通  
化縣楊木橋子(通化東南方二十五料)ニ駐屯シ該地警戒



ヲ担任ス

4 教導步兵第一團第三連ハ桓仁縣ノ警戒ヲ担任ス

5 歩兵第五團二營及教導步兵第一團第二營ハ依然現位置ニ在リテ警戒ス

6 騎兵第五團第二連及教導步兵第一團第一營一連ハ通化縣城ヲ担任警戒シ李團長之ヲ指揮ス

7 歩兵第二團第一營機關銃連及第五團機關銃連ハ軍旗ノ護衛及旅部ノ直接警戒ヲ担任スヘシ

8 教導步兵第一團迫撃砲連及歩兵第二團迫撃砲連ニ排ハ旅ノ豫備隊トシテ通化縣城ニ位置ス

(四) 輯安縣第五區台上ニ駐屯中ナリシ教導步兵第一團第二營第六連及機關銃連(天小队)ハ十二月三十日台上出發三十日通化縣第三區楊木橋子ニ移駐討匪續行中

(ハ) 在安東第一地區警備司令官王中將ハ東邊道治安工作

ノ爲一月十五日通化ニ前進シ同地ニ戦闘司令部ヲ開設シ  
東邊道一帶ノ徹底的剿匪總指揮ニ當リ第一軍司令官  
千芷山上將モ亦同日奉天ヨリ前進シ通化ニ於テ滿軍討伐  
ノ指揮ニ任シアリ

3. 警察隊

(1) 游撃第三中隊長周振東ハ外金溝ニ在リテ第三警察署  
長兼任ヲ命セラレ新配置ニ依ル東崗移駐ヲ延期中ノ處十  
二月三十日左記ノ者任命セラレ、ヲ以テ一月十日東崗ニ移駐  
セリ尚同中隊ノ一ヶ分隊三十名ハ當分第三區大陽金ニ駐  
屯シ附近ノ警備ニ任ス

游撃隊便衣隊長張恩榮

任第三警察署長

四月八日第五區大荒溝方面ニ侵入セシ双標、占東邊ノ殘匪討  
伐ノ夕々出勤セル田游撃大隊長有川指導官ノ指揮スル敵

練所生四十五名及在小青溝董第二中隊長以下三十名同日午後十一時頃媽蟻河大東岔ニ於テ右匪賊ト交戦開頭溝方面ニ追撃ノ上有川指導官以下教練所生八十名歸還完カ田大隊長八更ニ董ニ中隊長以下三十五名ヲ率ヒ嶺後方面ノ舊年末警戒並ニ警備員指導ノ爲熱開街台上久財源等ヲ巡視シ目下頭道崴子ニ在リテ督戰中ナリ

### 濛江縣方面

十二月二十九日朝陽鎮日本軍守備隊上田大尉八部下二十名ヲ率ヒ朝陽鎮濛江間道路狀況視察並其間ニ於ケル剿匪ノ爲入隊一月百原隊ニ歸還ス

三、交通、通信、補給、經理、衛生ノ概況

### 八交通

### 臨江縣

特記事項ナシ

輯安縣

氣温ノ低下ニ伴ヒ鴨綠江ハ左記ノ通り氷結シ自動車依  
ル氷上通過ヲ許スニ至レリ

地名	區分	渡船禁	
		一月日	一月日
軍用渡船場		一月五日	一月八日
美他渡船場		一月二十七日	一月二十日
滿浦渡船場		渡船ヲ續行シアリ	一月四日

又通信 補給 經理ニ就テハ特記事項ナシ

又衛生

臨江縣

特記事項ナシ

輯安縣

一月十二日ヨリ同二十一日ニ亘リ腸チブスバラチブス豫防接  
種ヲ實施ス

0231

四月間、気温最高一四度 最低〇二九度トス

# 第一守備隊越境部隊實施要圖

## 通溝守備隊

(昭和十一年十一月一日)

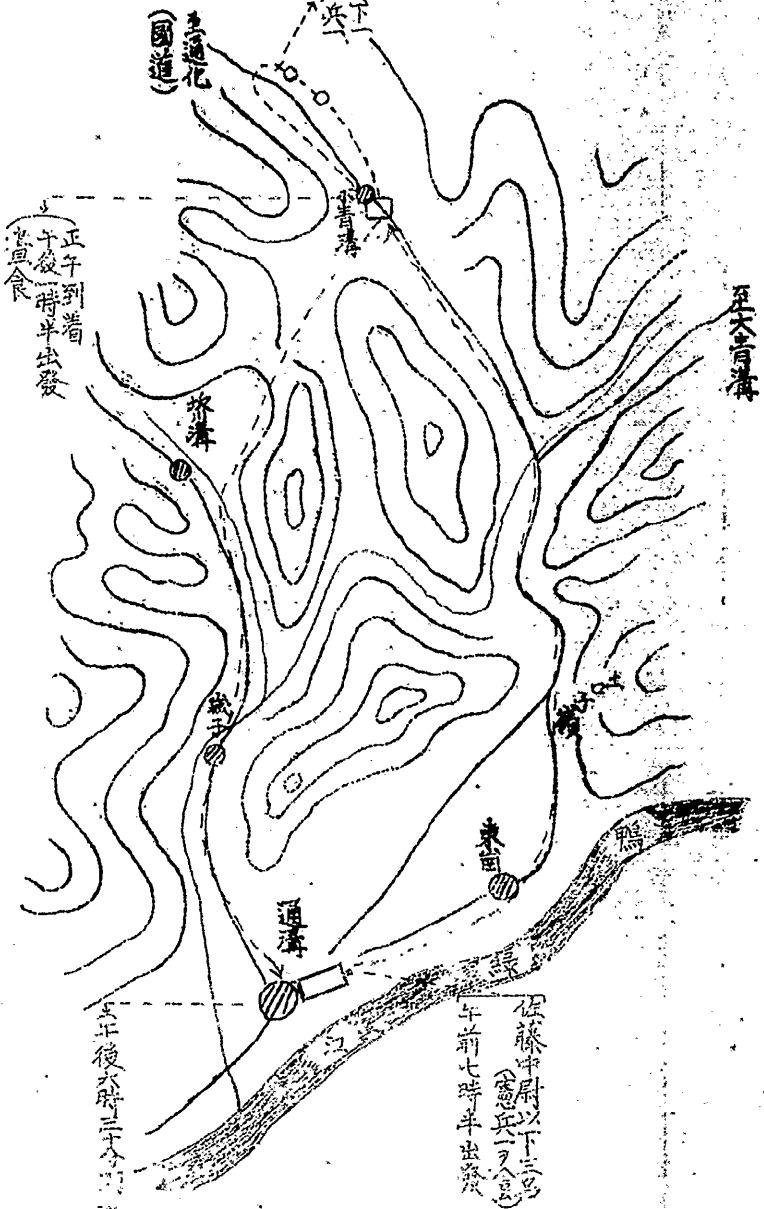
## 帽兒山守備隊

(昭和十一年十一月八日)

附圖第一

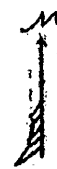


100,000

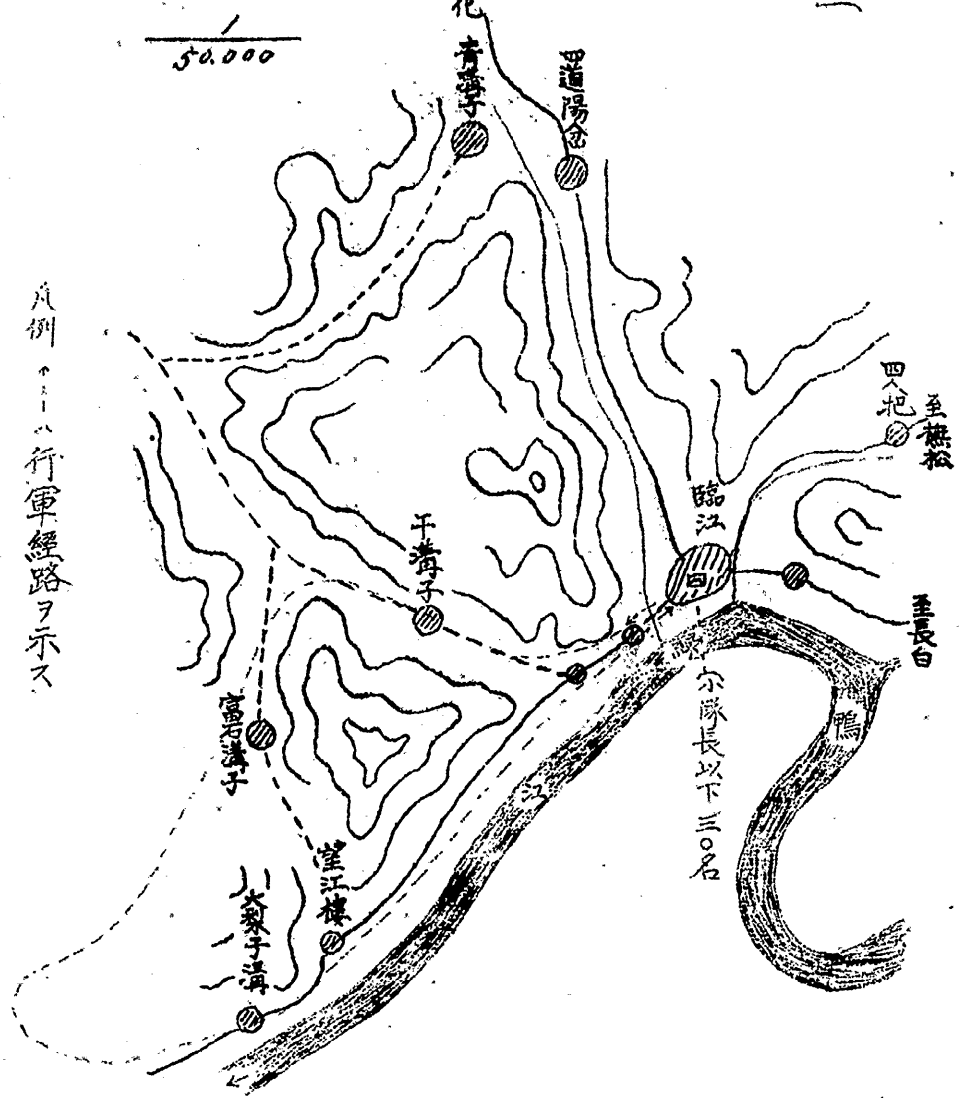


**備考**

- 一、通溝—小青溝間國道ハ工事中ニシテ所々部隊ノ通過困難ナル箇所アリ
- 二、通溝—大青溝道(舊道)小青溝谷口ニテハ自動車ノ通過ヲ許ス
- 三、小青溝—坎川溝間ハ小徑ニシテ急坂ナルモ步兵ハ通過支障ナシ
- 四、坎川溝—通溝間ハ自動車ノ通過ヲ許ス但シ橋ナキ爲メ氷上ヲ通過ス(三箇所)
- 五、河川ハ一般ニ凍結シアリテ牛車程度ノモノハ概シテ通過シ得ルモ岩石等ノ爲メ障礙アリ



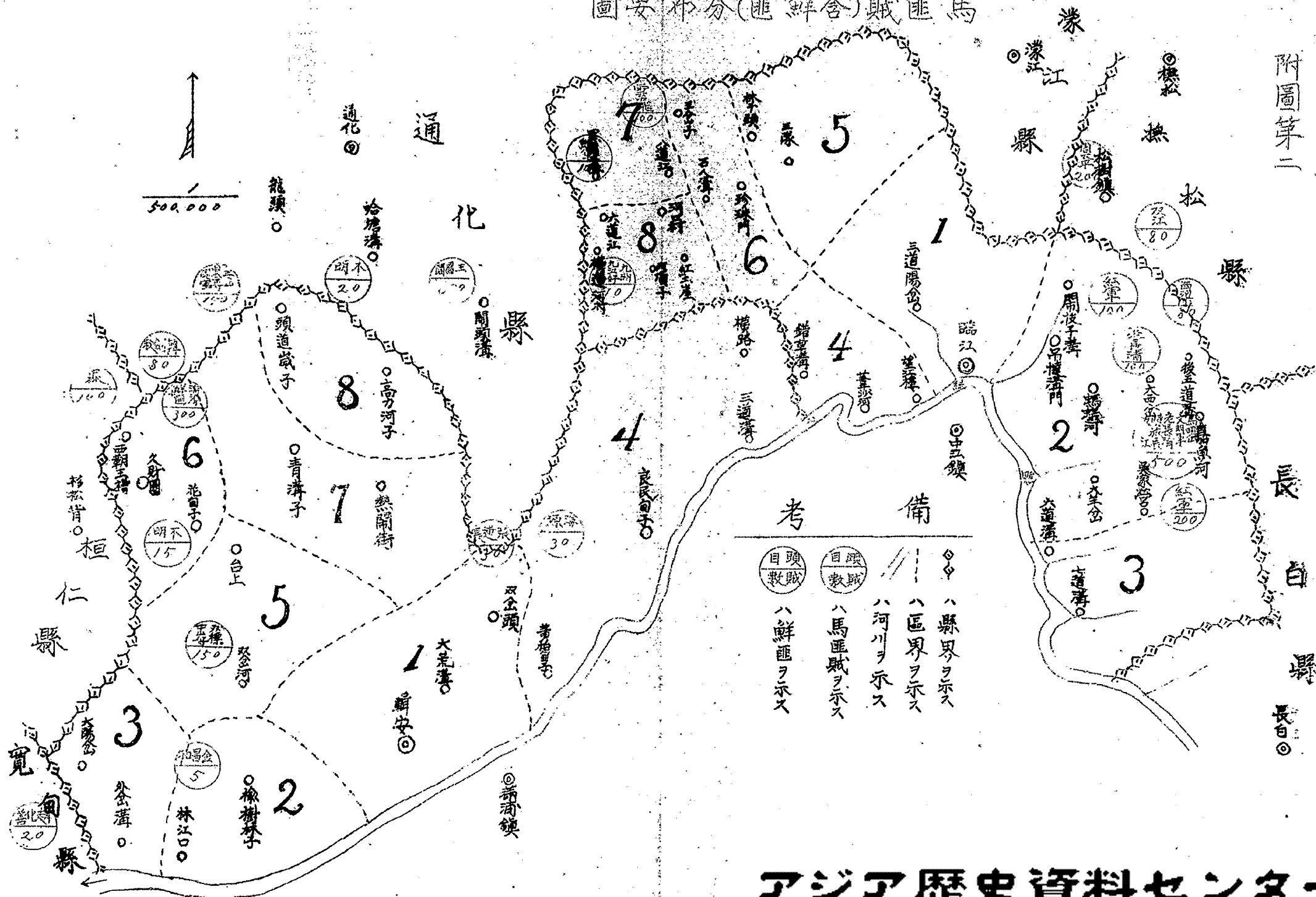
50,000



凡例...ハ行軍經路ヲ示ス

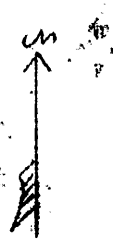
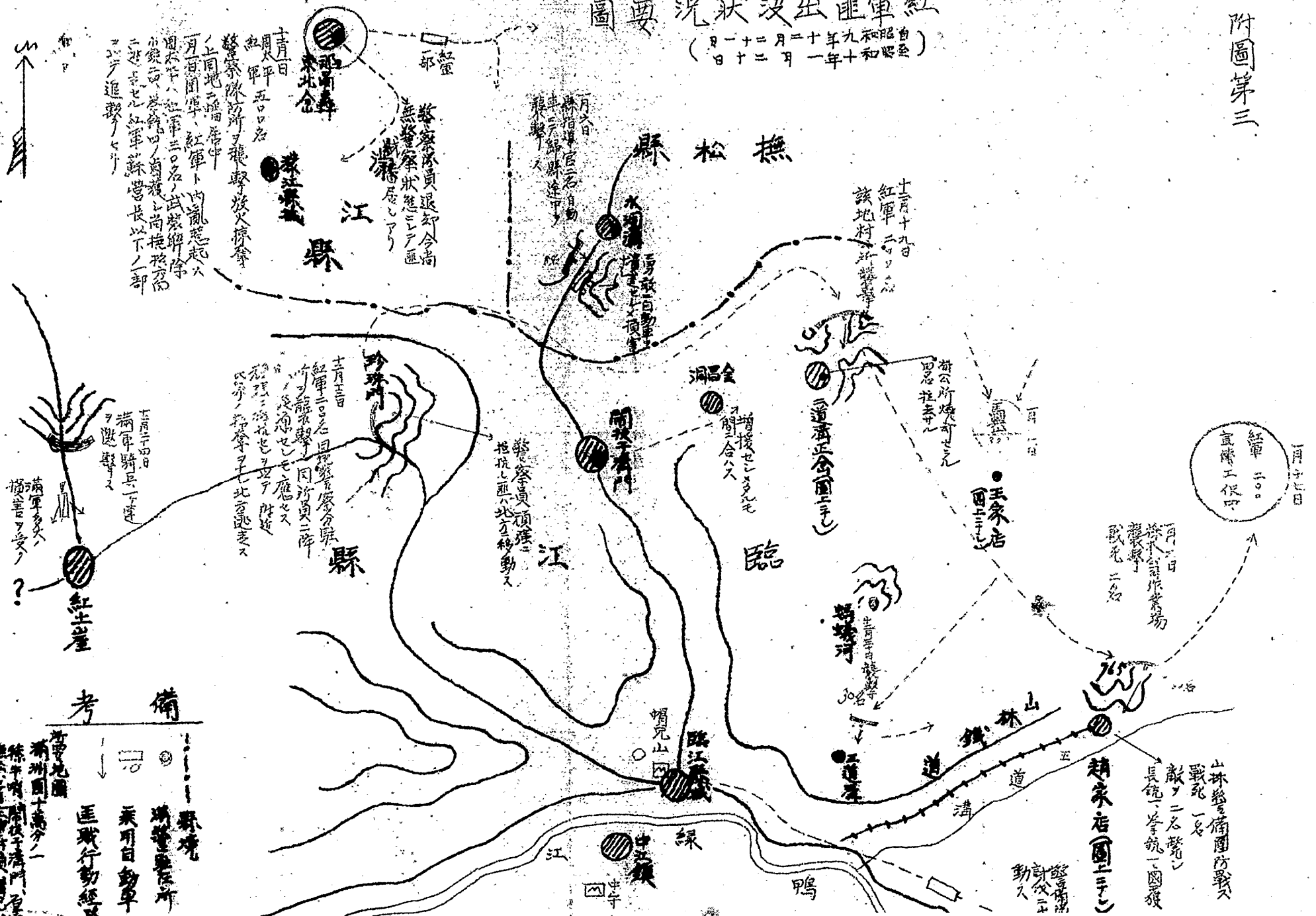
馬匪賊(含鮮匪)分布要圖

附圖第二



# 紅軍匪出沒狀況要圖

(自昭和九年十二月十一日 至昭和十年一月十二日)



一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中  
一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中

一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中

一月十九日  
紅軍二〇〇名  
該地村ヲ襲撃

一月十七日  
紅軍二〇〇名  
宜隣ニ侵入

一月十四日  
滿軍騎兵一連  
ヲ襲撃ス

一月十三日  
紅軍二〇〇名  
同地警察隊所ヲ襲撃  
放火掠奪

警察隊員頑強ニ  
抵抗シ匪ハ北方移動ス

一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中

一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中

一月十日  
紅軍五〇〇名  
警察隊所ヲ襲撃放火掠奪  
上同地ニ據留居中

考 備  
 滿洲國十萬分一  
 縮小  
 匪隊行動経路  
 赤軍自働車  
 警察隊所  
 山林警備團防戦ス  
 戦死一名  
 敵ヲ二名斃ス  
 長銃一挺手銃一挺獲





0236

秘

二守常報第四號

第二十師團第二守備隊月報

自昭和九年十二月二十日  
至昭和十年一月二十日

第二十師團第二守備隊

昭和拾年壹月廿八日



650

目次

- 一、警備(討伐)ノ概況
- 二、對岸ニ於ケル政情並治安ノ概況
- 三、交通、通信、補給、經理、衛生ニ關スル事項
- 四、編成、裝備一覽表

## 一、警備討伐ノ概況

## 外岔溝守備隊

一月十一日外岔溝守備隊長以下四十二名ハ警備示  
 戒行軍ノ夕メ午前七時外岔溝出發裏灣溝子三  
 道河子附近ニ至リ警備演習ヲ實施ノ上正午頃歸  
 隊セルカ演習ノ關係上終日ニ亘ルヲ得サリシモ警備  
 上相當ノ効ハトヲ揚ケタルモノト思考セララル

二、本期間直接討伐ハ實施セサリシモ關東軍獨立守  
 備歩兵第四大隊ヨリ桓仁、輯安縣境附近ノ剿匪ニ  
 任シタル岡支隊ニ對シ確實ナル情報ヲ適時適切ニ  
 通報シ同隊ノ行動ヲ有利ナラシメ遂ニ占東辺匪ヲ  
 潰滅スルニ至ランメタリ

## 小鋪石河守備隊

十二月下旬ヨリ桓仁日滿聯合討伐隊ハ桓、寬縣境  
 附近ノ匪賊跳梁地ノ徹底的掃蕩ヲ行ヒタルヲ以テ  
 伐困難ナル山間幽谷ノ地ニ四散逃走セリ 又月中旬  
 ニ入り寒氣酷烈ヲ極メ彼等匪賊ノ行動不如意ト  
 ナリ大匪團ノ出沒ヲ見サルモ小匪團ハ警備ノ間隙  
 ニ乘シ寬甸縣下第四五區及桓、寬縣境附近ヲ橫  
 行シ其被害甚カラズ一般住民ハ舊年未ラ控ヘ且ツ  
 稀有ノ凶作ニ遭ヒ不安去ラサル状態ニ鑑ミ滿洲國  
 警備機關ヲ指導督勵シ治安維持ニ全カラ傾注  
 ス  
 之小鋪石河守備隊ニ於テハ寬甸縣下第四五、六區方  
 面ノ賊情搜索並示威ノ目的ヲ以テ永測守備隊長  
 以下二十名一月十一日午前八時出發小鋪石河―  
 殷家堡子―胡家沟―痛兒沟門―大庫倉沟―

小庫倉沟―頭道沟道ヲ經テ(行程二十八迄午後四時  
無事飯餘セリ

二、對岸ニ於ケル政情竝治安ノ概況

(一) 政情

輯安縣

一、輯安縣公署ニ於テハ一月五日附ヲ以テ縣内初等  
教育ノ完璧ヲ期スヘク佈告文ヲ發シ鷹ヶ範圍ニ  
亘リ小學校教員ヲ募集スルト共二月二十日ヲ期  
シ資格試験ヲ實施優秀教員ノ詮衡ヲ行ヘリ

二、輯安縣公署ニ於テハ奉天省警務廳長ヨリノ訓  
令ニ基キ縣長劉天成ノ名義ヲ以テ一月十四日附  
朝鮮革命軍ノ不穩行動取締方ニ關シ管内警  
備機關ノ警戒心ヲ喚起セシムヘク各警察署署長

宛訓令ヲ發ス

3. 輯安縣警務局ニ於テハ客年十一月縣内警察隊  
ノ編成改正ヲ為シ從來ノ警察隊ヲ游撃隊ニ改  
編シタルニ依リ外岔溝警察第三中隊ハ游撃第  
三中隊トナリ主トシテ縣内嶺前地區ヲ管轄シ  
縣城東方東崗ニ位置スルコトナリアリシカ  
直ニ實現スルニ至ラス從前通り外岔溝ニ於テ  
服務中ノ處一月九日第三中隊長周振東ハ部下  
三十名ヲ残置シ地東崗ニ向ケ出發セリ  
而シテ殘存セル隊員三十名ハ其後太陽岔、肥室  
山、高力墓子附近一帶ノ游動警戒ニ任セシメツツ  
アリ

## (二) 治安概況

## 輯安縣

日滿軍警ノ間斷ナキ討匪行動ニ依リ大匪團ハ  
 通化興京縣方面ニ逃走シ、又關東軍赤尾小隊  
 ニ依リ占東辺匪ハ匪首以下潰滅セラレ縣内ノ  
 治安ハ稍々平穩ノ状態ニアルモ教名ヨリナル鼠賊的  
 小匪團ハ諸所ニ出没シ人質拉去身代金ノ強用等  
 ラ敢行シ且昨秋ノ農作不凶加フルニ寒氣酷烈ノ  
 折柄民心ノ不安去ラス、外見平穩ヲ装ヒアルカ如  
 キモ尚樂觀ヲ許ササル狀況ニアリ

## 桓仁縣

桓仁縣内ニ於ケル匪賊ハ日滿軍警ノ討伐ニ遭ヒ  
 多クハ通化興京方面ニ四散逃走シ殘匪ハ尚ホ寬



桓縣境ノ警備ノ手薄ニシテ討伐困難ナル地帯ニ  
 潛居シ警備機關ノ隙ヲ窺ヒ各地ニ出没住民ヲ襲ヒ  
 金品ノ掠奪ヲ行ヒ各地潛在ノ匪賊ト氣脈ヲ通シ合  
 流擴大ヲ策シ治安攪乱ヲ企圖シアルモ酷寒ヲ爲  
 メ行動不如意ニシテ其機ヲ得ス本期間ニ於ケル治  
 安ハ稍々平靜ヲ見タリト雖モ舊年末ヲ控ヘ警  
 備上一段ノ警警戒ヲ要スルモノアリ

寬甸縣

ノ西海山中林九龍長山等ノ大小匪團ハ討伐困難ナ  
 ル山間地帯タル寬甸縣境附近ヲ權行シ合流  
 擴大ヲ策シ虛ニ乘シ治安攪乱ヲ企圖シツツア  
 リ  
 尚ホ縣下第四五區方面ニハ紅山勝軍天字等ノ匪

賊潜在シ天惠的地ノ利ニ據リ巧ミニ離合集散討  
 伐隊ヲ廻避シツツ出沒シアルモ各警備機關ノ  
 嚴密ナル警戒ニ依リ賊勢漸次滅殺セラレ本期  
 間ニ於ケル縣内治安ハ稍々平靜ヲ見ルニ至レルモ  
 一般住民ハ稀有ノ凶作ニ遭ヒ賊農細民ハ生活ノ  
 困窮ニ喘キツツアリテ舊歲末ヲ控ヘ一月上旬ヨ  
 リ強盜ノ出沒激増ヲ來シアル情勢ニシテ尚ホ偷  
 安ヲ許ササルモナリ

又十二月二十二日午後九時頃寛甸縣永甸河口附  
 近二十五余名ノ馬賊現ハレ村公所ヲ襲ヒ更ニ同  
 十時頃昌城警察署雲頭出張所ヲ對岸ヨリ  
 射撃セル事件アリ之ヲ爲メ昌城警察署長以  
 下越境賊ヲ撃退ス

## (三) 鮮匪團ノ動靜

當對岸東辺道一帯ニ蟠居セル鮮匪團ハ東辺道ノ治安確保ニ伴ヒ地方民心ノ離反益々増長シ日日加速度的凋落スルニ鑑ミ地方幹部有志間ニハ痛歎ノ餘リ向後ノ進路ニ付寄寄意見ノ交換ヲ為シ種々意見ヲ中央部ニ提唱シアリシカ革命軍中央主腦部ニ於テモ興亡ノ岐路ニ直面セルト時局ノ趨勢ヲ憂慮シ客年十一月二日戒嚴令ヲ發布シ同月二十八日桓仁縣第九區花園ニ緊急會議ヲ開催シ革命軍ノ擴大強化軍勢力ノ更生策ヲ企圖シ舊稱朝鮮革命軍國民政府ヲ革命軍政府ト改名シ同地執行委員會ヲ國民協會ト改編シ夫レ夫レ新幹部ノ

(四)

任命ヲ終了シ新陣容ヲ完備シ著々本然ノ大  
 使命ニ邁進スヘク既發布戒嚴令ノ趣旨ニ基キ  
 軍ノ肅正強化、軍ノ秘密漏洩嚴禁ヲ高唱スル  
 ト共ニ一般民心ノ反亂心ノ警防緩和ニ全カヲ傾  
 到シ各地方武装班ヲ督勵シ專ラ軍資金竝義  
 務金、軍餉米ノ徵收方ヲ下命シ財政ノ確立ニ  
 專念中ナリレカ一時志氣沮喪シ消極化シタル當  
 對岸各武装軍人等モ中央ノ激勵ニ刺戟セラレ  
 日滿軍警ノ討伐ヲ巧ミニ逃レ脅迫狀ノ亂發不  
 穩演說ヲ試ミ軍ノ威力ヲ示シ舊年末ヲ期シ一  
 齊收納スヘク活躍中ニシテ安定シツツアル民心  
 逆睹ノ兆アリテ樂觀ヲ許ササルモアリ

匪賊ノ出沒概況

本期間主ナル匪賊ノ出沒概況左表ノ如ク、馬匪賊

縣 安 輯			別 縣
雙團長 標	邊東占	順百	職團數 頭目名
二	五	二	數馬人
長銃一五 彈二 拳銃三 彈五	長銃三五 彈八 拳銃一 彈一八	長銃九 彈四 拳銃四 彈一九	兵器數 彈藥數
第五區	第三區	第八區	根據地 地區
右 同	右 同	右 同	統系彩色
第八警察署 員及滿軍協 同討伐ス	日滿軍警 掃蕩ス	第八警察隊 員ノ夕々撃 退サル	日滿軍警 討伐概況
通化縣ヨリ第五 區大荒沟方面ニ 移動シ來ル	絶ヘス第三區界 境ヲ巧ニ橫行シ 良民ヲ脅迫軍 資金ヲ強要ス	通化縣及皮溝才 面ヨリ第八區小 葦河地方ニ移動 潜伏ス	月内ニ於ケル 行動ノ大要
同	同	同	對策若シハ敵 順ノ概要ヲ 來ニ對スル觀察
右	右	右	取順ノ意思 ナシ徹底的 討伐ヲ要ス

茲鮮匪分布狀況附圖第一ノ如シ

縣 仁 桓			縣 安 輯		
東業好 九江好 北來好	長紅字 山海山 合流	同	朱司令 双標 中山好 占東 部下	東占 邊	東來好
一。	一。	同	二。	四。	七。
長銃五。 彈銃六。 彈銃三。	長銃七。 彈銃一。 彈銃一。 彈銃一。	同	長銃四。 彈銃二。 彈銃三。 彈銃五。 彈銃六。	長銃二六。 彈銃六。 彈銃九。	長銃五。 彈銃六。 彈銃九。
茅三區	茅三區	同	茅五區	反滿匪	茅五區
同	同	同	同	同	反滿匪
桓在茅三連ト交戦 一時間ニシテ與地 ニ潰走ス	皮條溝子ニ侍機 中ノ赤尾小隊出 動掃蕩ス	田警察大隊長 及滿軍教導隊 ト協力第七區方 面ニ擊退ス	滿軍掃蕩ス	赤尾小隊ト交戦 三時間ニシテ與地 ニ潰走ス	赤尾小隊ト交戦 三時間ニシテ與地 ニ潰走ス
十月廿七日茅三區 東照和村大溝子沟 地方ニ復入潜伏ス	一月十一日茅三區 馬園溝附近双 木洞地方ニ移動潜 伏ス	一月七日第五區大 荒沟及小荒沟間 ニ移動潜伏ス	茅五區大溝沟ヨ リ大荒沟ニ侵入何 事カ画策ス	巧ニ討避シ茅三區 内ヲ横行良民ヲ 脅迫シアリシカ 一月三日石青沟ヨリ 裏溝子ニ移動来 ル	十月廿日輯安県 西金溝地方ニ移動 ス
同	同	同	同	同 右	同 右

縣 仁 桓					
雲龍	長勝武 東北軍	老北風	長九龍 山	黑中 手林	西海山 九江好
四。	二。	四。	二。	一三。	三。
長銃三。 彈七。	長銃三。 拳銃三。 清龍刀二。	長銃三。 拳銃五。 五帶	長銃八。 彈六。 拳銃二。 彈四。	長銃九。 彈五。	長銃三三。 彈三。 拳銃五。 彈八。
第七八 區	第五六	第五六七	同	第三四 第五區	第三九 第十區
同	同	同	同	抗日 反滿	中國共產 黨系抗 匪
同	同	桓仁日滿軍警 協同討伐隊に於 テ掃蕩ス	寬甸縣警察 隊ニ。名桓仁討 伐隊ニ協力掃蕩 ス	日滿軍警桓仁 討伐隊掃蕩ス	閩東軍八。名桓 仁軍警察隊自 名山城止教導隊 七。名聯合討伐ス
一月三日第七區大洋 倉ニ出現全地滿人 富家五ノニ對シ各 五百圓宛テ請求セル 脅迫文ヲ送達ノ上 同區推選ヲ務ム	第六區龍頭馬路沟 地方ニ於テ鼠賊ヲ 叫合合流擄大ヲ 策シ治安攪乱ヲ 企圖ス	二月二日第七區出洞滿 人富家三ヲ侵入 金品ヲ掠奪八里甸子 方面ニ移動ス	西海山中林等ト呼 應シ治安攪乱ヲ企 圖シ第七區地方ニ於 テ暴威ヲ逞フス	桓仁縣秋皮溝ニ於 テ合流擄大ヲ策シ 治安攪乱ス	桓仁討伐隊抗 スヘク合流ス
同	同	同	同	同	同

0250

縣 旬 寬	縣 仁 桓		
上山好	中海山 中林	西海山	老北風 干勝武 長海樂 東北海軍
二	一	一	二
長鏡一六 彈三。七區帶	長鏡七 彈一。一區帶	長鏡七 彈一。一區帶	長鏡五 拳鏡三 縣第三區帶
第四六	第三區	第三區	第四五區
同	同	同	同
			同
<p>十一月二十日第六區 碑溝村李樹堂方 三人質五名ヲ帶向 ト來リ家人外出 茲官憲ニ申告ラ 禁レ脅迫止泊 蒿子溝方面ニ移 動ス</p>	<p>一月十二日桓仁縣董 區双洞ヨリ寬旬 區第五區高梁地 村長ニ對シ匪賊ノ行 動ヲ查ラ電命シタ 少日滿軍警ノ出動 ナリト談感シ沙袋子 方面ニ移動ス</p>	<p>一月十一日午後八時 頃桓仁縣第三區秋 皮沟方面ヨリ全區 双洞ニ移動シ全 品ヲ掠奪ス</p>	<p>桓仁縣第四五區及 寬旬縣第三區帶 ヲ行動シ金品掠奪 ニ狂達シアリ</p>
<p>敵順ノ意ヲ 冬季ニ於テ徹 底的掃蕩ヲ 要ス</p>	同	同	同



縣		旬		寬	
不詳	東北軍 長海	千勝武	得山好 上山好	抗日軍 列國軍	勝軍
三五	八五	三九	三	六	
長銃二八 彈五	長銃五五 彈一〇〇〇 青竜刀三	長銃三五 彈七五 拳銃四 匣仁果 八 第五区	長銃二八 彈七 第六七 区帶	長銃五四 彈二〇 拳銃三 彈九	第四五 區二帶
第四区	同	同	同	同	同
同	同	同	同	同	同
警察隊ニ於テ 掃蕩ス	同	西島指導官ノ 指揮スル警察官 隊ニ於テ討伐ス	村公所ヲ襲撃シ タルニ對シテ長銃 書田八保甲隊十 名ヲ指揮シ之ニ 戰約ノ時間ニテ 擊退ス		
第四区大柵樹溝 人賣徳浦外三宿 泊夫平内方面移動ス	十二月二十日第二区 南青溝ニ於テ警察 隊ノ討伐ヲ受ケ 敗走シ第三区金溝 方面移動軍資全 茲衣類ノ微奪ニ 狂込ス	十二月二十日第二区南 青溝ニ於テ警察 隊ノ討伐ヲ受ケ敗 走第三区象石第三 移動軍資全微 奪ヲ敢行ス	十二月二十日午後九 時頃第七區碑場 子村公所ヲ襲撃 死者一員傷者一 出テ敗走ス	合流橋大上第六区 道杉松及第四区行 動シ金山掠奪ヲ 行テ警察官ノ暴威ヲ敢 行テ	
同	同	同	同	同	同

縣		旬		寬	
勝軍	海蛟	西海山	黑手	勝軍	
一八	二	一	一	二	
長銃一三 彈三區	長銃一六 彈三區 拳銃四 彈一區	長銃七 彈一區	長銃七 彈一區	長銃六 彈三區	
第五區	第五區 桓仁縣 第三區	第五區 桓仁縣 第三區	第五區 桓仁縣 第三區	同	
同	同	同	同	同	
之レカ報告接シタ ル小鋪石河守備隊 長八百藤村長ニ對 匪賊ノ行動以查 方ノ命シ一月十日討	第五區下漏河 駐屯警察隊ニ 於テ討伐ス	日滿軍警討伐 隊及寬甸警察 隊ニ於テ討伐ス	日滿軍警討伐 隊及寬甸警察 隊ニ於テ討伐ス	同	
十月十日第六區庫倉 洶口ニ於テ張ヲ射殺	一月六日午後第五下 漏河ニ出現滿人當 蒙五戸ニ侵入金品 ノ掠奪ヲ行ヒ大川沟 方面ニ逃走 同八日全 區大常沟村ニ出現全地 滿人方ニ侵入軍資金 トシテ三四ヲ強奪ス	討伐隊ノ追撃ニ急 止脅威ヲ感シ二月 五日夜暗ニ乘リ桓仁 縣第三區ヨリ果下 第三區青山沟侵入ス	十月二十七日午後一 時頃北常懷子村公所 ヲ襲撃警備電話 器ヲ破壊電線切斷 通信不能ニ至ラシメ金 品ヲ掠奪滿人四名ヲ 拉去ス	同	
同	同	同	同	同	

縣		旬		寬
長山	林龍	西海山	中海山	
一六				
長鏡一〇 彈二〇 莽鏡二〇 禪四〇		長鏡六〇 禪一〇〇		
莽五區 桓仁縣		莽五區 桓仁縣		
同		同		
一月十九日第五區高峯地方ニ密偵ヲ派シ匪賊ノ動靜ヲ査ス				代誌氏心牧摺ノ目的ヲ以テ庫倉洵方面ニ向ツテ午前八時隊長以下手若行軍ス
一月十九日午前四時頃警備手薄ナル高峯地ニ質器ヲ携同侵入シ同方面ノ富壽村公所ヲ襲ヒ銃器全品ヲ掠奪シ企圖ス		一月十九日滿軍警備トタル処日滿軍警備ノ出動ナリト感テ五日後六時頃桓仁縣莽五區沙矢子方面ニ移動ス		外一名ニ重傷ヲ負ハレメ許某ヲ拉去第回車道峯方面ニ逃走セラレカ十日ニ庫倉洵迄自某地ニ出現暴威ヲ逞フス
同		同		

## (五) 關東軍ノ狀況

独立守備歩兵第四大隊ヨリ岡少佐ノ率ユル六十  
 余名ヲ十二月中旬ヨリ桓仁、輯安縣境附近ノ剿匪  
 ニ任セシメアリシカ、常ニ神迅機敏ニ行動シ滿軍  
 警言ヲ指導シテ遂ニ賊ヲ潰滅或ハ逃走ノ已ムナキニ  
 至ラシメ概ネ初期ノ目的ヲ達シタルヲ以テ一部近  
 野小隊ヲ殘置シ主力ハ一月下旬原駐地ニ返還セリ

## 三、交通、通信、補給、經理、衛生ニ關スル事項

## (一) 交通、通信

鴨綠江ノ氷結ハ例年ニ比シ薄弱ニシテ車馬ノ交  
 通危險ナリシカ一月中旬ニ入りテ氣温低下シ氷上  
 ノ交通容易トナリ且降雪ノ為メ陸路ニ於ケル權ノ  
 運行自由トナレリ

(二) 補給、經理衛生

補給、經理業務ハ概ネ支障ナク實施セラレ衛生  
成績メテ良好ナリ

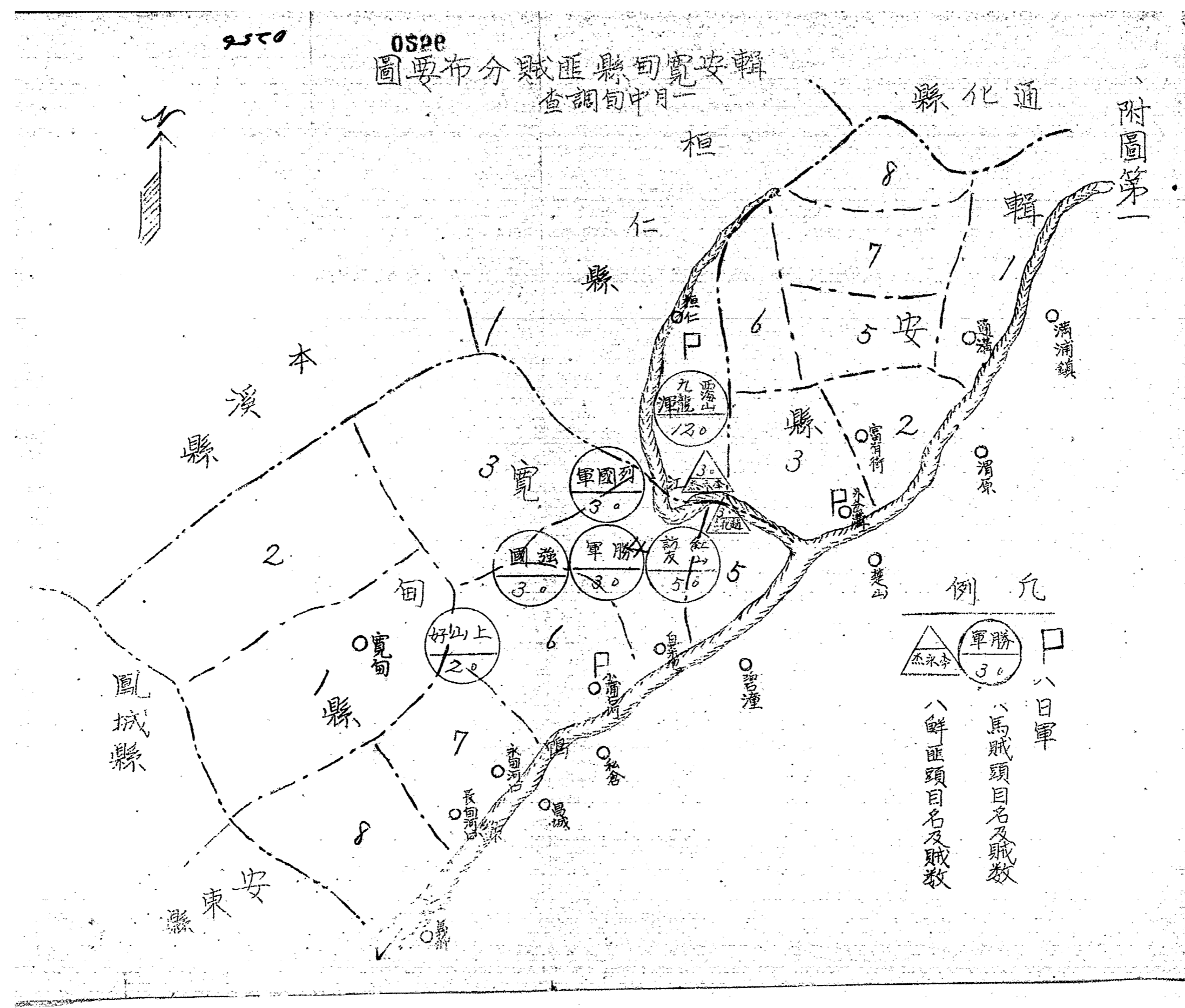
四、編成、裝備

附表第一、如シ

9550

輯安寬甸縣匪賊分布要圖  
一月月中旬調查

附圖第一



編成裝備一覽表 一月二十日調 第二十師團第二守備隊

備考	合計	隊部内鮮						隊部境越			分區		裝 備 編 成
		城昌	潼碧	山楚	原渭	州義新	河石鋪小	溝岔外	地宅駐	隊			
		步兵大尉 萩原雅男	步兵中尉 中川甚太郎	步兵大尉 片山佳美	植田新兵衛 步兵中尉	稻川直衛 步兵中佐	永淵重文 步兵少尉	土岡榮太郎 步兵特務曹長	別	分	區		
		隊中	隊小	隊中	隊小	隊中	本部	隊小	隊小	管彈擲	銃關機輕		
	22	4	2	4	2	6		2	2			管彈擲	裝 備
	11	2	1	1	1	2		2	2			銃關機輕	
	8	2		2		2		1	1			銃關機重	編
	1					1						砲兵步	
												砲山	科
	1											佐中	
	4	1		1	1	1						尉少	兵
	2		1		1	1						尉大	
	3					1		1				尉中	部
	7	2		1		3			1			官士	
	7	1	1	1	1	2	1					長曹	部
	27	4	1	4	1	7	2	14	4	14	4	長曹	
	1					1						兵等	部
	33	7	4	9	4	22		14	3	14	4	兵等	
	352	67	14	57	14	135		31		40		兵等	部
	457	76	21	73	21	172	6	2	39	2	49	計	
	1						1					計主	部
	4	1		1			2					計手	
	3	1		1			1					醫軍	部
	5	1	1	1	1		1		1			長護	
	8	1	1	1	1	4						兵護	部
	3						3					長工	
	24	3	2	3	2	4	8	1		1		計	部
	481	79	23	76	23	176	14	2	40	2	50	計合	
	2						2					馬乘	部
	5	1	1	1	1		1					馬品	
	7	1	1	1	1		3					計	部
	4			1		3						校將	
	1					1						官士	部
	1					1						官士	
	1					1						兵計	部
	5			1		4	2					匹	
												馬	部
												馬	

本表人員中二分派遣者入院患者全部ヲ含ムトス  
 三定員ニ對スル人員ノ増減欄中朱書ハ減ヲ、黒書ハ増ヲ示ス、ケハ憲兵ヲ示ス

上等兵定員五平名  
 二對シ三名多キハ下  
 士候補者

増之ニ准テ定員  
 加下士候補定員  
 減之ハ除級及將  
 員

人馬増減ノ  
 理由及人馬  
 異動ノ狀況

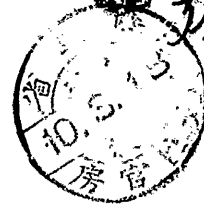
8920



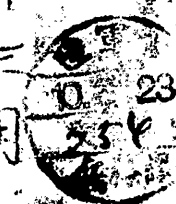
國境守備隊月報

朝鮮特報第一二號

第百九號



朝鮮十年三月  
軍參謀部



五〇

三月二十八日  
別冊一



- 目次
- 一 間島臨時派遣隊彈藥支隊月報
  - 一 第十九師團第一守備隊月報
  - 一 第十九師團第二守備隊月報
  - 一 第十九師團第三守備隊月報
  - 一 第十九師團第四守備隊月報
  - 一 第二十師團第一守備隊月報
  - 一 第二十師團第二守備隊月報

0920

秘  
秘

間島臨時派遣隊陣春文隊月報

自二月一日  
至三月六日

第一	一般治安ノ概況
第二	警備討伐ノ概況
第三	滿洲國軍警及自衛團ノ狀況
第四	政情民情
第五	交通通信
第六	兵器
第七	經理
第八	衛生
第九	馬亭
第十	其他
附表第一	

日滿警備討伐警備行動概要

附表第一

三月中治安工作實施一覽表

附圖第一

縣內匪賊分布及活動狀況

附圖第二

輝春支隊配備要圖

附圖第三

滿洲國軍隊及國境警備隊配置要圖

附圖第四

滿洲國警察及日本領事館警察自衛團編制隊配置要圖

附圖第五

土門子—東甯道路狀況偵察要圖

附

間島臨時派遣隊輝春支隊編成裝備表

各

分屯守備隊編成裝備表

第一 一般治安ノ概況

本月中ニ於ケル當地ニ一般治安ノ概況ハ概不良  
 好ノ状態ニ在リ加フルニ昨秋來實施ノ治安工作  
 ノ進捗ニ伴ヒ縣内治安其他一般行政機構ノ整備  
 及登化ハ漸次其緒ニ就キ庶民亦大ニ滿洲國ヲ理  
 解認識スルニ至リ建國ノ基礎着々トシテ確立セ  
 ラレアルヲ認ム然レトモ殘存小匪賊ノ野盜的横  
 行ハ未タ其跡ヲ断タス且昨夏末細民極度ノ窮乏  
 ニ架セントスル共匪ノ潛行的工作殊ニ滿軍兵士  
 其他自衛團等武裝諸團體員ニ對スル宣傳策動煩  
 = 活潑トナレル傾向ヲ認メ之カ篇並時滿軍兵士  
 = シテ脱走救匪スルモノ累加ノ狀況ヲ呈シ縣内  
 治安上樂觀ヲ許ササルモノアリ  
 一 兵馬匪ノ狀況

當地之兵馬匪ハ今下其數僅々約三〇名ニ減少  
 シ然モ我日滿軍警ノ至嚴ナル警戒ト間断テ討  
 伐ト依リ主テテ士門子北才縣境密林地帯ニ  
 潛伏冬營中ニシテ大ナル活動ヲ見ス然レトモ近  
 時滿軍兵士ニシテ共匪ノ惡宣傳ニ乘セラレ豹變  
 逃亡共匪ト合流シ僻地ニ徘徊金品ノ強奪ニ任シ  
 アルモノ其數已ニ十余名ニ及ヒ一般住民ニ不安  
 ヲ與エツツアルハ注目ヲ要ス而シテ一般ノ概況  
 如シ  
 (1) 蘭家陞子北才縣境密林地帯ニハ新起軍占中洋  
 明山隊等合流匪約六〇名ヲ有シタルモ新起占  
 中洋隊ニ五名ハ江清縣棒皮甸子ニ根據スル匪  
 賊頭目尖旅長ノ韓旋ニ依リ赤信公司ニ於ケル  
 木材伐採作業場ノ保護ヲ依囑サレタリト稱シ

二、共匪ノ狀況

一月二十一日前記根據地ヲ出發汪清縣ニ向ヒ  
 一才他部隊ト折合テシテ明山隊員冷連附外芻  
 ハ密カニ脱出東甯ニ至リ歸順シタル報ニシテ  
 同方面根據地ニ於目下約一〇名幡居スルヲ見  
 ルニ過キス且時々同方面通行人馬ヲ脅迫シ金  
 品ノ掠奪ニ任スル外大ナル活動ヲ認メス  
 孫占山隊殘党十數名ハ依然土門子西北方西南  
 岔附近山林中ニ留リテ該方面共匪ト合流時々  
 徘徊ス  
 (ハ) 管地区滿軍王兵ノ豹變逃亡者ハ已ニ十餘名ニ  
 達シ是等ハ目下土門子西方大木道溝契地ニ位  
 置スル共匪ト合流シ該方面ニ出發シ金品ノ  
 強奪ニ任シ了リ

三

縣内共匪ハ今ヤ其數武装匪約三〇非武装者約八  
 〇名ニ過キス党勢衰微ノ道程ニアルモ執拗ニモ  
 杜荒子及土門子西方大圖們子河左岸山林地帯ニ  
 根據地ヲ設ケ我警備ノ間隙ヲ利用シ轉々出沒金  
 品ノ強奪人質ノ拉致等野盜的行動ヲ敢シアリ  
 殊ニ最近渠等ハ細民ノ窮乏ニ乘スル潛行的工作  
 ヲ試ミムル外特ニ清軍兵士其自衛團等武装諸團  
 隊員ニ對スル積極的赤化策勳ニ狂奔シ焉之前述  
 ノ如ク逃亡清軍兵士ノ増加ヲ示シアルハ大ニ警  
 戒ヲ要スヘキモノト認ム

本月中匪賊ノ出沒並ニ被害ノ狀況左ノ如シ  
 出沒回数 四四回  
 出沒延人員 四四名  
 被拉致者數 六名  
 被殺傷者數 十名



被燒却家屋

被害金額

被害見積金額

一三二円〇

一〇八九円五〇

四 本月末ニ於ケル當地ニ匪賊ノ分布並ニ活動狀況

附圖第一ノ如シ

第二警備討伐ノ概況

一 各部隊清軍警ヲ合シテ討伐警備ノ概況附表第一

ノ如シ

二 蘇國內ニ潛在セル匪賊ハ近時屢黒頂子、九沙坪附近ニ

出没シ潛ニ主義ノ宣傳情報ノ探知等ヲ畫策シ附

近住民ニ脅威ヲ與ヘツナルヲ以テ支隊ハ三月下旬

當分ノ間將校以下十九名ヲ九沙坪ニ分遣シ敬信

保一円ノ警備並諸情報ノ蒐集ニ任セシム二月下旬

ニ於ケル各部隊ノ配置附圖第二ノ如シ

第三 滿洲國軍警及自衛團ノ狀況

一 滿洲國軍隊

彈春派遣各部隊一敏克ク警備ニ任ラアルモ部  
 素質不良ナルモノアリテ末タ舊慣ヲ脱シ得ス眞ニ  
 國軍ノ意識ヲ認識セサル爲私利ニ迷ヒ或ハ煽動サ  
 シ屢逃亡ヲ企ツルモノアル等勦搖シアルヲ以テ之等  
 滿軍ニ對スル縣民ノ信賴ハ漸次薄ラキツ、此現  
 況ニ鑑ニ此際部内ノ整備改善ノ要切ナルモノアリ  
 滿軍逃亡天續出ニ鑑ニ回當局ニ於テハ將來ヲ慮  
 リ目下嚴ニ注意警戒中ナルカ不敵概ネ不ク如テ對策  
 ヲ施セリ

(1) 兵ニ支給シアル彈藥全部ヲ返納セラシメ一定場所  
 ニ嚴重保管シ且立哨者ニ對シテハ携帶彈藥數  
 ヲ減少スルニト

(2) 戦友五名ヲ一組トシ若シ逃亡者アル場合ハ組員ノ連座責任タルコト

(3) 傳令巡察等ヲ派遣スルニオリテハ可成下管以上ヲ長トシテ少クモ一ケ隊ヲ以テス

(4) 部隊ノ行動ニオリテハ必ズ文曰系軍官ヲ附ス

(5) 兵ノ外出ハ可成的制限スルコト

(6) 幹部ハ常ニ兵ノ勦靜ニ注意シ屢巡視ヲ行ヒ監視ヲ嚴重ニスルコト

二月下旬ニ於ケル滿洲國軍隊配置附圖第三ノ如シ

二 滿洲國警察及自衛團ノ狀況  
揮春縣警察ハ揮春縣ニ依班ノ警察鞏化指導ト  
日系指導官ノ指導ニ依リ近時著シク改善ヲレ  
能率亦向上シ一般ニ滿洲國警察ノ信頼ノ度ヲ  
高メツ、アリ

2. 自衛團 = 關シテハ特記事項ナシ  
 1. 一月下旬ニ於ケル滿洲國警察(日本領事館)又自衛團  
 緝私隊配置附圖第四ノ如シ

第四 政情民情

一 縣内窮民ノ一般狀況並之ニ伴フ民心ノ勤向ニ就  
 當地才一般即年農作物不作ノ狀況ハ屢報ノ如  
 概ネ平年ノ三分作ト見ラレ稀ナル減収ナリシ  
 概リ一般農民ノ年右上ノ不安着シク斯クテハ  
 安ニ及ホス影響大ナルモノアルニ越冬時  
 窮民救濟事業ニ關シテ持タル株金業ハ昨年末  
 リテ一才幸ヒ當地才持産タル株金業ハ昨年末  
 ニ好況ニシテ之等不作ニ依ル打撃ヲ緩和セラ  
 ルニ見ラレタルカ竟來貯蓄心ト勤勞精神ヲ缺  
 ケル一般民中ニハ既ニ勞金ノ盡クヲ消費シ盡シ  
 目下食フニ食ナク働クニ職無キ困窮ノ者アリ  
 然レトモ當地才民ノ多クハ本年山間僻地ニ居住  
 アリテ生活程度殊ニ低ク身ノ吉凶ハ大自然ト匪

二

賊 = 五右サレツ、アリシモノニシテ國家恩惠ニ  
 浴セル經驗テク概不貧困ハ恒ナリト觀念シアル  
 ノ特性ヲ有シ其他ノ者ニアリテモ主トシテ蘇聯  
 = 於テ極度ノ壓迫ニ依ル困窮ニ慣レタル者多キ  
 關係上貧困ニ對スル精神的ノ焦燥比較的薄キカ  
 如シ現在ニ於テハ之カ爲民心ノ累化ヲ見ルカ如  
 キコトナキモノト原料セララル、モ目下共匪等ノ  
 反滿反日策動ノ頻繁過激ナル實狀ニ鑑ミ彼等ヲ  
 シテ牽セシムル弱点タルヲ免レサルモノアルヲ  
 以テ特ニ注意ヲ要スモノト認ム  
 二 揮春正義團ヲ創立ス  
 揮春縣下ニハ叢嶽頃者ヲ以テ創立セル相助會ア  
 リテ正嶺ナル思還元シ着々其效果ヲ收メツ  
 アソモ化ノ一傑在住鮮人ヲ統制スル何等ノ機關

ナク融和團結シアサルノ現況ニ在リ特ニ當縣ハ  
 蘇領ニ接シアル關係上之カ必要切ナルモノアル  
 ノミナラス有事ニ際シテハ之等ヲ有利ニ使用セ  
 シトシ璋春又除憲兵長ハ縣下在在鮮人ハ二十才  
 以上四十才未滿ノ男子一ヲ以テ一丸トスル團體ヲ結  
 成スヘク企圖シ之カ幹旋ニ努メタル結果縣副參  
 事官一鮮人以下之ニ共鳴百余名ノ團員申送者了  
 リタルヲ以テ二月五日紀元ノ佳節ヲトシ璋春普通  
 學校ニ在テ發團式ヲ舉行セリ目下團員百三十二名  
 ニシテ團長李昌俊縣副參事官就任シ其活躍ヲ期  
 待セラレツツアリ

綱領

ノ縣思想ヲ排除シ皇道精神ヲ高調ス  
 又民族的偏見ヲ棄テ滿洲國ノ健全ナル發達ニ

寄與ス

在蘇同胞ヲ救出シテ我民族ノ幸福増進及發

展ヲ期ス

(一) 目的事業

ノ忠良ナル住民トシテノ精神修養

ノ民族の偏見ヲ棄テ五族協和ノ實現ヲ擧グ

ル天竺地變其他必要ニ際シ日滿軍警指導ノ

下ニ清府救護自警等ニ在ス

日滿軍警ヲ援助シテ滿洲國ノ健全ナル發達

ヲ圖ル

未歸順者ノ歸順勸告

蘇領脱出者及匪賊歸順者ノ保護指導

對蘇及對匪情報ヲ蒐集シテ日滿軍警ニ連絡

在蘇同胞救出及共產黨撲滅ニ關スル各種作



三、東興鎮普通學校設立期成會ヲ組織ス

東興鎮ニ在ケル鮮人教育機關ハ基督敎系私立普通學校一、縣立第三六小學校附屬日滿鮮語學校一ニシテ生徒總數二百余名ナルカ前者ハ家敎本位ニシテ滿モ敎師其人ヲ得ス一般ノ輦蹙ヲ買ヒ後者ハ經費及敎師ノ不足等ノ爲両者何レモ十分ナル教育ヲ期待シ難キ實狀ナルト共ニ今ヤ東興鎮ハ縣内奧地主要都市トシテ地方治安ノ恢復ハ産業事業ノ開發ト相俟テ急速度ノ發展ヲ予想セルツツアリ殊ニ該地方ハ蘇領脱出者多ク一般ノ情況就中住民ニ對スル班盛ナル國民思想ノ涵養ハ最も緊要ナル處ニシテ國民教育機關ノ完備ニ俟ツテ下甚タ多キモノアルニ鑑ミ東興鎮在在有志ハ茲ニ自覺スル處アリ同地ニ完全ナル普通學校ヲ設立シ以テ

子弟教育ヲ遺憾ナカラシムヘク去二月三日「普通學  
校設立期成會」ヲ組織シ之ヲ運動ヲ開始セリ

四、宣傳及政治工作ニ關スル事項

揮春支隊長ヲ長トスル揮春地區治安工作班ニ在  
手ハ前月ニ引續キ第二期治安工作ヲ續行中  
ニシテ二月中ニ於ケル工作行動ノ狀況附表第一

ノ如シ

第五交通通信

一、交通

縣内交通諸道路一般ノ狀況ハ未タ解氷期ニ到ラス  
先月々報記載ノ如クニシテ特記スヘキ變化ヲ認メ  
二月中旬ニ於テ土門子―東甯道ヲ偵察セル狀況附圖

第五ノ如シ

揮春鐵路公司軌條敷設狀況

2

揮春鐵路公司經營ノ訓戒  
 揮春間輕便鐵道敷設  
 工事ハ二月上旬迄ニ概不軌條敷設ヲ完了シテ  
 ルモ路盤ハ結水中砂利採取不可能ノ爲未タ運  
 ヒニ至ラズ中止状態ニ在リ  
 道路愛護村ヲ設立ス  
 鐵路局揮春自働車營業所ニ在テハ過繁經營中ノ縣  
 内國道局自働車路ノ愛護關シ滿洲國內交通路  
 愛護ニ關スル法令ノ制定ヲ見ル迄關係日滿軍  
 部省公署及鐵路側ノ申合セニ依リ作製セル自  
 働車路愛護會中央委員會ノ極囑ニ依リ一般民  
 衆ノ道義心ヲ涵養シ自働車路ノ保全ト確定ヲ期スル  
 爲先ツ自働車路ノ住民ヲシテ自働車路ノ重要使命  
 ヲ認識セシメ自發的ニ民路合作「民護路」ノ實ヲ舉  
 ケシムルヲ目的トシテ沿道兩側概ネ五村ノ地域内ニ

在ル部落ニ自動車路及護村ヲ設立シ又保甲制  
 度ニ依ル保ヲ中ノトシテ數護村ヲ令シテ護區  
 = 區分シ保名ヲ冠スルト共ニ更ニ數護區ヲ以テ  
 聯合護區トシ日滿軍部縣公署鐵路側其他等  
 若干名宛ヲ委員トシテ各保(村)毎ニ區域ヲ分担セシ  
 メ沿道住民ヲシテ自ラ責任ヲ以テ自發積極的ナル  
 道路ノ護促進ヲ企圖シ併セテ一般交通路ニ對  
 スル危害ノ予防並道路ヨリ受クル直接ノ恩惠  
 等ヲ感得セシメンカ爲目下若々準備中ナリ  
 揮東汽車公司經營ノ揮春東興鎮間自動車運行  
 ヲ廢止ス  
 在揮春揮東汽車公司ニ於テハ昭和九年七月ヨリ  
 揮春東興鎮間(官批)ノ自動車營業ヲ爲シテリシカ營  
 業開始時將來國營自動車ノ運行ヲ開始セハ運  
 行ヲ廢止スヘキ條件ノ下ニ交通部當局ヨリ懸認

二、通信

無線電信交信状況

ノ形式ニ依リ營業ヲ續行シ來リタルカ昭和九年  
 十月十五日ヨリ鐵路當局ニ於テ同區間ノ自動車運  
 行ヲ開始スルニ至リタルヲ以テ諸種ノ折衝ニ依  
 リ遂ニ彈東側ハ一月三十一日限り之ヲ營業運行ヲ  
 廢止セリ爾來彈春東興鎮間ノ自動車營業運行ハ  
 軍事上ノ要求ニ基クモノ、外凡テ鐵路局之ニ  
 任スルコト、ナレリ

二月三日及七日土門子電信所送信機故障ノ爲  
 一時交信中止セリ  
 其他ニ於テハ一般各所相互間共ニ疎通概不良  
 好ナリ

本月中旬十一號級無線電信機ヲ交換整備替セラ

レ揮春ニ於テハ到着後直ニ晝夜ニ專習セル下士官ヲ  
シテ之カ取扱教育ヲ傳習普及セシメ又土門子  
ノモノニアリテモ三十三日文ヲ輪送シ同所員ニ  
對シテモ同シク取扱教育ヲ傳習普及セシメ建  
設茲ニ完了セルヲ以テ二月二十八日以後新式電信機  
ニ依ル交信ヲ開始セリ

小 警備用軍用線ヲ兼又電話線切断セラル

二月二十日拂曉時匪賊ノ爲五道清北才約午米及南  
方午米ノ地點附近ノ電柱ヲ倒シ且電線數箇所  
ヲ切断セラル急報ニ依リ五道清清軍ヲシテ應急  
補修ヲ爲サシメ二十一日午後三時復舊シ通話スルヲ  
得タリ

々 軍用鳩飼育訓練ノ狀況

軍用鳩放鳩訓練ハ各所共ニ各ニ其訓練計畫ニ基キ

所要ノ訓練ヲ實施シツ、アリ然レトモ彈春ニ於テハ  
近時塲舎附近ノ放鳩訓練時ニ鷹襲ヒ來リ既數  
羽ノ鳩ヲ失ヘリ之カ爲放鳩時ニ際シテハ獵銃ヲ  
利用スル等諸種ノ工夫ヲ凝シ事ヲ努メツ、凡  
モ未タ捕獲スルニ至ラス訓練上支障ヲ来シツ、アリ

第六兵器

一 兵器一般ノ狀況ハ師團長管理兵器検査實施ニ伴  
其後ノ改善整備ト且現況變化ニ即スル整理トニ  
依リ概ネ良況ニ向ヒツ、アリ又兵器ノ修理作業  
ハ野戰工具ニテ成シ得ル限リニ務テ毎週月  
水曜ノ二日實施スル如ク定メ文カ保全ニ努メツ、  
アリ

二 自動車ハ本月中旬師團ヨリ「ちよだ」一噸半積自動車  
貨車二輛ノ新品補給ニ依リ從來使用中ノ一九三二年

「オト」一噸半積自働貨車ニ輛ヲ返納シ稍其程度  
 向上一シ整備ノ域ニ到レルモ從來ヨリ引續キ使  
 用中モ尚大修理整備ヲ要スヘキモノアリテ目  
 下整理中ナリ又該新品補給車ハ從來使用ノ「オト  
 車」比シ其形體重量増大ノタメ當地オノ如キ道路  
 不良ナル地域ニ於テハ其ノ運行ニ適セサルモノナルト特  
 種車ノタメ部分品ノ補給又困難ナルモノアルヲ以テ特  
 ニ之ヲ取扱法ヲ研究スルト共ニ初度活用ニ就テハ全幅ノ  
 注意ヲ拂ヒツ、アリ。

無線器材ハ本月中旬從來裝備使用中ノ一五年式ニ号  
 無線電信機ニ基ハ十一号級無線電信機ニ基ト交換裝  
 備替セラレタルヲ以テ舊式ノモノ並ク返納手續スル予定アリ



第七經理

一 補給

(1) 補給ハ頃調ニシテ師團ヨリノ追送糧秣ハ中甸到着  
 シ隔地守備隊ヘノ補給ハ二十三日ヨリ三日間ニ亘リ實  
 施セリ尚二十六日ヨリ臨時派遣セラレタル九沙坪分遣隊  
 所要給養諸品ハ作命ニ依リ出發ニ當リ十日分ヲ携  
 行セシメタリ

(2) 支隊所要糧秣ハ從來總テ師團經理部ニ於テ補給  
 ヲ担仕シ在リシモ師團參謀長通牒ニヨリ爾後鮮肉  
 部隊ニ對シ現品交付シアル品種ハ直接羅南支庫ヨリ補  
 給セラル、如ク改メラル

二 給養

(1) 平時給養トナリ戰時給養時ノ如ク加給品ノ支給不能  
 トナリタル爲メ寂聊ヲ感セシメサル如ク賄料定額内ニテ

三 被服

月三回ハ之カ給與ヲナシ得ル如ク日常ノ厭止上ニ

就テ顧慮セシメアリ

紀元節ノ加給ハ規定額三十五錢ヲ加給セリ

(2) 九沙坪亦遣隊ノ給與ハ臨時出勤的ノモノニ付臨時給與令細則第三十一條ヲ適用スルコトニセリ

(1) 先月被服ノ員數並程度檢査ヲ全般ニ亘リ實施シタルヲ以テ中銃隊ニ在ケル供用被服定數ヲ定メ過不足品

並不良品ノ整理ヲナシ爾後ノ補給更爲メ十年度被服換給計畫ヲ調製師團經理部ニ提出セリ

尙過數被服及廢品被服ハ全部ヲ取纏メ補給担任部隊タル歩兵第七大聯隊ハ還送セリ

(2) 被服補修ニ就テハ經理部ヨリ材料補給ヲ受ケ揮

春季備隊ハ兵力作業實施中ニシテ隔地守備隊ニ

四、物品

對シテモ近ク工具ヲ使用作業セシムヘク之カ引當  
在庫品ヲ修理中ナリ

物品ノ整理ハ大体ニ於テ完了シ本部中銃隊ニ對スル供用  
員數モ明瞭ナラシメタルモ現在員何レモ形體匹々ナルト  
且ツハ遂次平時化スルニ及ヒ不自由ヲ感スルニ至リシヲ以テ  
新年度ニ入り最少限度ノ整備費ヲ要求シ齊一ナラシ  
メタルト共ニ或ル兎備セシムル才針ナリ劍術附具モ豫算ノ許  
ス範圍内ニ於テ本年度ニ組ヲ師團經理部ニ委託調辨シ  
現品到着セリ

五、營繕

(1) 各守備隊共温突ノ破損箇所紙張替等全般ニ亘リ  
實施シ支障ナカラシメタリ

土門子守備隊温突炊口ハ火災豫防上不完全ニ付目

一馬者ノ状況

本月間患者ノ状況左表ノ如シ

本月間患者ノ状況左表ノ如シ

計	拾	締膜炎	肝腫瘍	急性咽喉炎	急性氣管炎	助間神經痛	病名	旧患	新患	計	轉			後遺	摘	要
											治癒	死	遷送			
一〇	-	-	-	三	三	-					九					
一〇	-	-	-	三	三	-										

下改修中ナリ

(2) 彈倉守備隊糧秣倉庫西側入口ア一ヶ積込崩壊シタルヲ以テ應急的處置ヲシタルモ解氷期ニ入り完全ナル修繕ノ必要アリ

(3) 水道支線ノ一部凍害ヲ受ケ破烈漏水ノ為メ師團經理部ヨリ工夫ノ派遣ヲ受ケ復舊セシメタリ

第八衛生

二衛生材料ノ状況

八本用間左ノ通り衛生材料ノ補給ヲ受ク

四日軍倉庫ヨリ馬車自働車用ラゲターカバシ外一点

六日羅爾院ヨリ洗眼瓶外一点

八日軍倉庫ヨリ自働車用ケユトブ外八點

八日陸軍々醫學校ヨリ腸チフスA型及B型パラケラス混

合豫防接種液(一三四各三五。人分)

二各守備隊ヘ左ノ如ク衛生材料ヲ補給ス

土門子守備隊手入用手套外四點

鎮安嶺守備隊洗眼瓶外一六點

第九馬事

一馬事一般ノ状況ニ就テハ特記スヘキ事項ナシ

二軍用犬飼育ニ就テハ先般約ヶ月間龍山歩兵連隊

ニ於テ專習セル下士官以下ヲテ殊ニ當支隊ノモハ獻納

大ニシテ素質良好ナリサルニ鑑ニ二月十九日以降 揮春、南子  
両守備隊ニ於テ夫々基礎教育ヲ補備スルト共ニ更ニ適  
當ナル取扱兵ヲ選定シ之カ取扱普及教育ヲ實施中  
ナリ

第十其ノ他

一、二月七日侍從武官ヲ差遣ハサル

ノ今叙在滿部隊一般ニ對シ侍從武官中島鐵藏ヲ差

遣ハサレ當支隊ハ二月七日飛行機ニテ延吉ヨリ東寧

ニ向ケル途中ニテ實視セラルニトナリ午前十時 揮春、飛行

場ニ着陸ノ上直接揮春部隊特務機關員ニ對シ優渥

ナルニ聖旨令旨ヲ傳達セラル直ニ支隊長ハ同ヲ代表

シテ奉答ヲ行ヒ次テ一般ノ狀況報告ヲ實施セリ

又同時第十九師團長牛島貞雄(田島副官ヲ隨行參列セラ

レ又揮春日本領事館署員及 揮春地方官民代表者

集合式場ニ於テ觀迎送ヲ行ヘリ

二 治勅映画撮影班ノ一行來揮ス

今敏陸軍省ノ後援ニ依リ來ル三月十日三十週年陸

紀念日ニオリ一齊ニ映寫セントスル誠ナル映画撮影

爲之ヲ担仕セル大都映画治勅株式會社撮影班ノ一行ハ去

二月十日ヨリ同十五日ニ亘ル間來揮シ當市街地附近ニ於

之ヲ撮影セリ支隊ニ於テハ仕務上支障ナキ範圍

ニ於テ諸種ノ便宜ヲ與フルト共ニ新ノ兵員ヲ差出

文刀支援指導ニ仕セシメタリ

三 人馬ノ異動ニ就テ

ノ十日陸軍省福富副官來揮隊内視察ス

又十留師團長揮春部隊視察ノタメ來揮シ揮春

鎮安山嶺五門子各守備隊ヲ視察十日返揮セラル

又十六日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ徳永憲兵長治安工作實

施ハタメ依軍哈達附近ニ出張ス

△三十日ヨリ一泊ノ豫定ヲ以テ支隊長桑田大尉徳末富次兵長  
中瀬中尉丸沙坪及黒頂子附近地形偵察ノ並狀況ヲ  
察ノタメ出張ス

△三十日ヨリ二泊三日ノ豫定ヲ以テ松岡伍長丸沙坪附近ノ密偵  
逮捕ノ爲出張ス

△三十日ヨリ三泊四日ノ豫定ヲ以テ支隊長徳末富次兵長大熊ハ  
軍曹春化保治安ニ作實施ノタメ出張ス

△三十日野砲五臺大佐大佐騎兵三七中村中佐ニ天丸藤澤大佐  
來陣ス

△十六日ヨリ二泊三日ノ豫定ヲ以テ徳末富次兵長大熊軍曹  
徳惠保内治安ニ作ノタメ密江ニ出張ス

△十七日陸軍省河田中佐當隊視察ノタメ來陣ス



附表第一

討伐敵言備行動概要 日軍之部

皇 皇 皇	皇 皇 皇	附 江 密	附 子 阻 門 關	部	理	春	理	行 動 概 要	行 動 概 要
二十	日	附	附	部	理	<p>二月十九日午前七時大平清出發附近          同所ニ宿營ス</p> <p>二月十八日午前七時出發北山一英安河ヲ經          テ午前七時三十分盤谷ニ到着同所ニ於          テ晝食午後。時三十分密江ニ向テ出發          午後三時密江ニ到着若日午後三時四十分大          平清集木團部ヲ向テ出發午後          三時三十分大平清集木團部ヲ向テ到着同日          同所ニ宿營ス</p>	<p>二月十九日午前七時大平清出發附近          同所ニ宿營ス</p> <p>二月十八日午前七時出發北山一英安河ヲ經          テ午前七時三十分盤谷ニ到着同所ニ於          テ晝食午後。時三十分密江ニ向テ出發          午後三時密江ニ到着若日午後三時四十分大          平清集木團部ヲ向テ出發午後          三時三十分大平清集木團部ヲ向テ到着同日          同所ニ宿營ス</p>	<p>二月十九日午前七時大平清出發附近          同所ニ宿營ス</p>	<p>二月十九日午前七時大平清出發附近          同所ニ宿營ス</p>

日 月 年	日 月 年	日 月 年
大 道 清 道	煙 筒 子 附 近	九 迹
土 門 子 部 隊	隊	
<p>午前九時頃共匪約六。名小六道清集團部            落ヲ薙ル喜セル報ニ接シ土門子守備隊長            野大尉以下四三名八年前九時四五分守備            地出發午後二時三十分小六道清北方面約十            番舟子附近到着同地附近ノ搜索ヲ實施            六道清與地ニ於テ滿軍ト連絡午後十時            守備地ニ飯還セリ小六道清八軒燒却セラレタリ</p>	<p>在持齊曹長以下三十九名八日前午前時            北營出發東阿拉—太平川—煙筒            子(宿營)午後四時半到着太平川東北            才約四料石炭礦二月八日頃匪賊二名            來リ礦夫礦坑ニ逃テ込ニタルヲ利用シ            衣類及食糧ヲ掠奪シ煙筒子方面            逃走セリ其他情報ナシ</p>	<p>未威行軍ヲ實施セシモ賊影ヲ認メス            午後一時密江若同所ニ於テ晝食後            時早分密江出發大盤山令—水灣子            ヲ經テ午後六時三十分飯還ス</p>
<p>匪賊小六道清            與地ヨリ六道清            清正テ五道清            與地ニ向ヒタリ</p>		

<p>日 = 月 = 日</p>	<p>日 一 十 = 月 一 自 至 日 五 月 二</p>	<p>日 一 十 = 月 一 自 至 日 一 十 = 月 二</p>
<p>近附清道大大</p>	<p>区地才北春輝</p>	<p>近附清道五</p>
<p>隊部清道大</p>	<p>隊部清道大春輝</p>	<p>隊部嶺安鎮</p>
<p>河野上尉以下十七名大六道清附近三潛伏甲 二日夜十二時三分頃共匪約十四名前進シ 來ルヲ發見接迎ヲ待テ射撃スルモ暗夜ニテ 遂ニ匪影ヲ失ス</p>	<p>騎兵第三元團第一連第一排小由原少尉 以下十七名並歩兵第三五團第一連遠藤中尉 以下三名八輝春北才地区ノ討伐ヲ實施シ百 年前一時三分車大人清西才ニ在テ夫匪約 六名ヲ發見見交戦スルモ賊影ヲ失ス</p>	<p>守備隊長榎本持務曹長以下十七名午 前八時守備地出發鎮安嶺一上草坪一 東清瀨一河東一五道清附近ノ警戒備 行軍ヲ實施シ同日五道清三宿泊翌三日 同地満軍自衛團ト連絡情況偵察上 午八時守備地ニ飯還セリ</p>
<p>軍之部</p>		

<p>日 二 月 二 包 日 四 十 二 至</p>	<p>日 五 十 月 二</p>	<p>日 一 十 月 二</p>
<p>道 附 清 道 大 大 隊 部 鎮 興 東</p>	<p>道 附 沿 子 泡 隊 部 兵 騎 壯 兩</p>	<p>道 附 清 荒 隊 部 子 清 乾</p>
<p>三日夜匪賊約四名五道清ヲ襲撃スル旨ノ 報ニ接シ東興鎮部隊日米軍官西上尉以下 赤矢六名騎兵五騎八午三時三十分東興鎮 出發二十時三十分六大道清到着附近一帶ノ 隊ヲ襲撃シテ二名ヲ殺シ三時早朝ヨリ上板子清洋 金清洋ヲ掃蕩シテ東板子ヨリ四時後一時宿 營地ニ飯邊ス</p>	<p>午前九時頃泡子沿一民家ニ共匪三名現 出セルヲ知り連長以下十名直ニ同地ニ出動 シ共匪ヲ發之ニ射撃ヲ加フルモ逸早く逃 走シ其損害不明ナリ</p>	<p>午前八時哈達門敵ヲ察知シ荒清軍清 子西方約四里ニ午前四時共匪數名出現シ 北方ニ移動セリトノ電報通報ヲ受ケタル步 三連長八直ヲ少尉温澤射兵五名 ヲ附シ該匪捜索スル爲荒清軍出動セム 該小隊八午三時荒清軍到着同地ニ在テ 共匪數名ト遭遇交戦シ結果共匪三名ヲ捕獲ス</p>
<p></p>	<p>宣傳ヒラニ ヲ圖獲ス</p>	<p>共匪三名 逮捕 齒獲品 拳銃 二 同彈 七</p>

月 =	皇 = 月 = 十 = 日 =	月 = 一 = 日 =	
紅小	密江西北地	沙金清	滿
依里哈	彈春北密江署	駝河子署	部
<p>午後九時頃小紅旗河(依里哈達東方約十里)に共匪三名(各自棍棒所持)現ハレ金品強奪</p>	<p>武装共匪約一。名ハ汪清縣ヲ彈春縣密江ニ南下セリトノ情報ニ接シ前原指導官以下十名土日午後時彈春出發密江署ニ増援警戒戒ニ任スルト夫ニ情報ノ蒐集ニ務ム。十二日午前六時討伐隊ヲ編成重巡官以下夫名ハ板石溝並清水洞奥地方面ヲ前原指導官以下十名ハ凉水泉水子ニ至リ同地警戒寮署ト連絡スルモ賊情詳テラス飯還ス。</p>	<p>午後六時頃沙金清駝河子西北約三十里に共匪三名(各自棍棒携帯)現ハレ穀類強奪ノ上逃走セル旨急報ニ接シ警戒長以下六名直チニ現場ニ出勤附近一帯ヲ警戒戒調不且セリ。</p>	<p>警 文 部</p>
		<p>共匪ハ縣境附近ニ潛伏シアルニテラスヤト思考セラレ</p>	

日 四 十 月 =	日 = 十 月 =	日 = 十
清 湾 大	清 黄 小	河 旗
署 達 哈 監 依	署 門 達 哈	署 達
<p>午右士時頃太湾清口ニ武装共匪三名          現ハレ主義宣傳ヲシアル者報告ニ接シ賀巡          官以下五名直ニ現場ニ出勤附近一帯          ヲ搜索スルモ賊影ヲ認メス</p>	<p>午前六時小黄清共匪三名(各自拳銃所持)          現レ金品強奪ノ上人質(清人)三名ヲ拉          致セル旨急報ニ接シ直ニ巡官以下四名直ニ          同地ニ出勤搜索スルモ賊影ヲ失ス</p>	<p>午トノ報ニ接シ即報告長以下七名直ニ同地ニ          至リ搜索スルモ賊影ヲ失ス</p>

二月中治安工作實施一覽表 琿春地區治安工作班

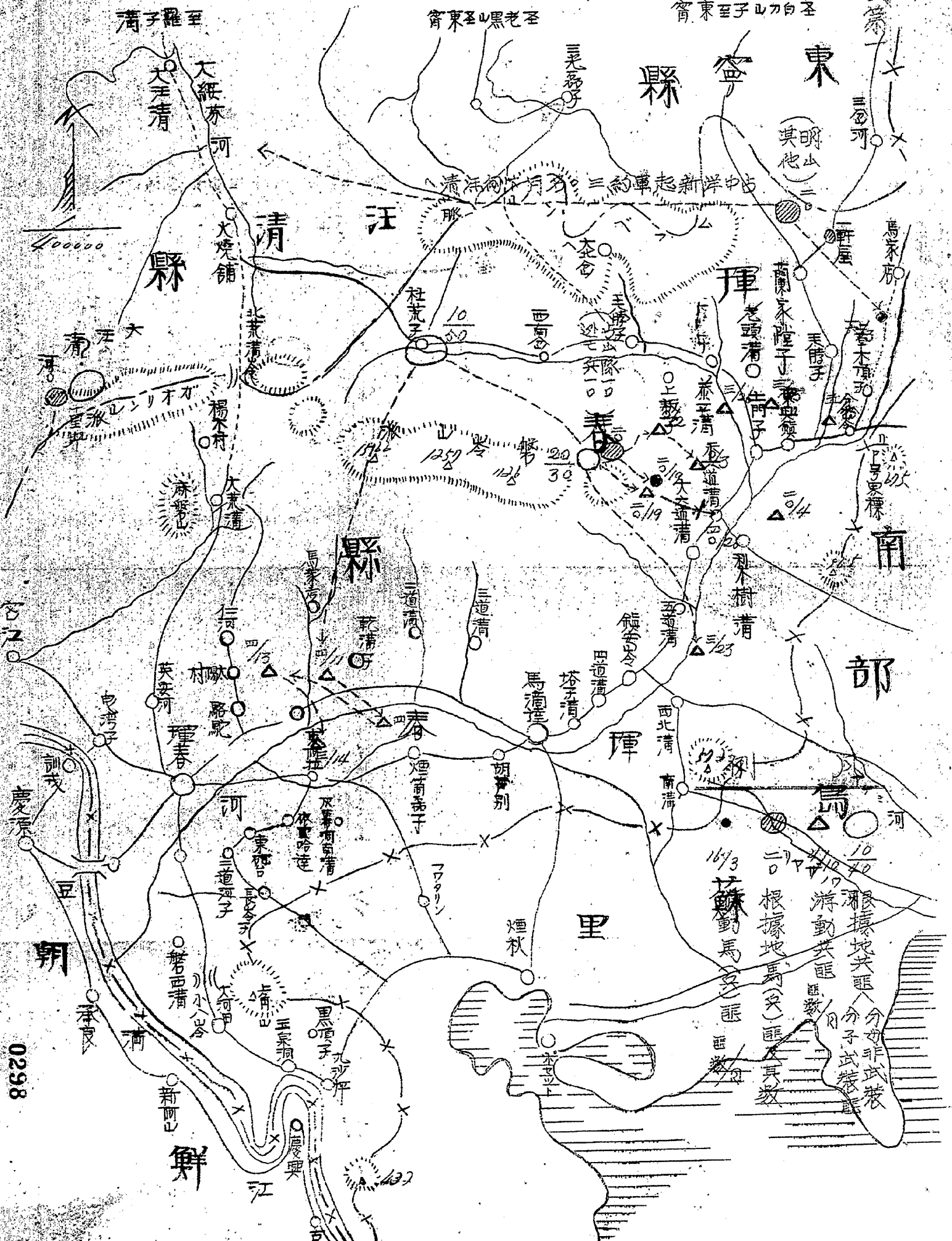
考 備	二八	〇二六 〇二七	〇二二 〇二三 〇二四 〇二五	〇二〇 二一	一九	一八	〇一六 一七	一五	六	一	日次
		德惠保工作 保甲後援會	春化保工作	英安河工作 屯灣子工作	保甲後援會	次期工作打合せ 事務整理	崇禮保工作	次期工作打合せ 後援會諸問題事項關ル打合せ	内地人民會	地方有力者ニ對スル工作	官公街實業團體首腦者 地方有力者ニ對スル工作
		保長副保長甲長決定 保甲兩規約審議確立 首善保副甲長牌長決定 現地ニ於ケル甲境界劃定	保甲法趣旨徹底		人首善保々長内鮮有力者 集合 2保内區域ニ關スル打合せ 3保甲規約ノ審議	政信保工作ノ狀況聴取 及將來ノ任務 實施ニ關スル指導			内地人民會對保甲法講演	座設的ニ指導	
					12.00 ↓ 9.00				9.00 ↓ 12.00	9.00 ↓ 6.00	
		全上	全上	全上		全上					
		密江 警察署	東興鎮 警察署	英安河 警察署	民衆學		依里哈 警察署		普通學	商務會	

一 〇 旬八同地ニテ宿泊セルヲ示ス  
 二 輸送機關ハ工作班ニテ準備ス  
 三 時間ハ滿洲時間トス  
 四 ( ) 内ハ工作班ヲ一部分離獨立シ工作セシ事項ヲ示ス

# 縣內匪賊分布及活動狀況

(二月中旬於ルケ)

附圖



0298



# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

3年12月18日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



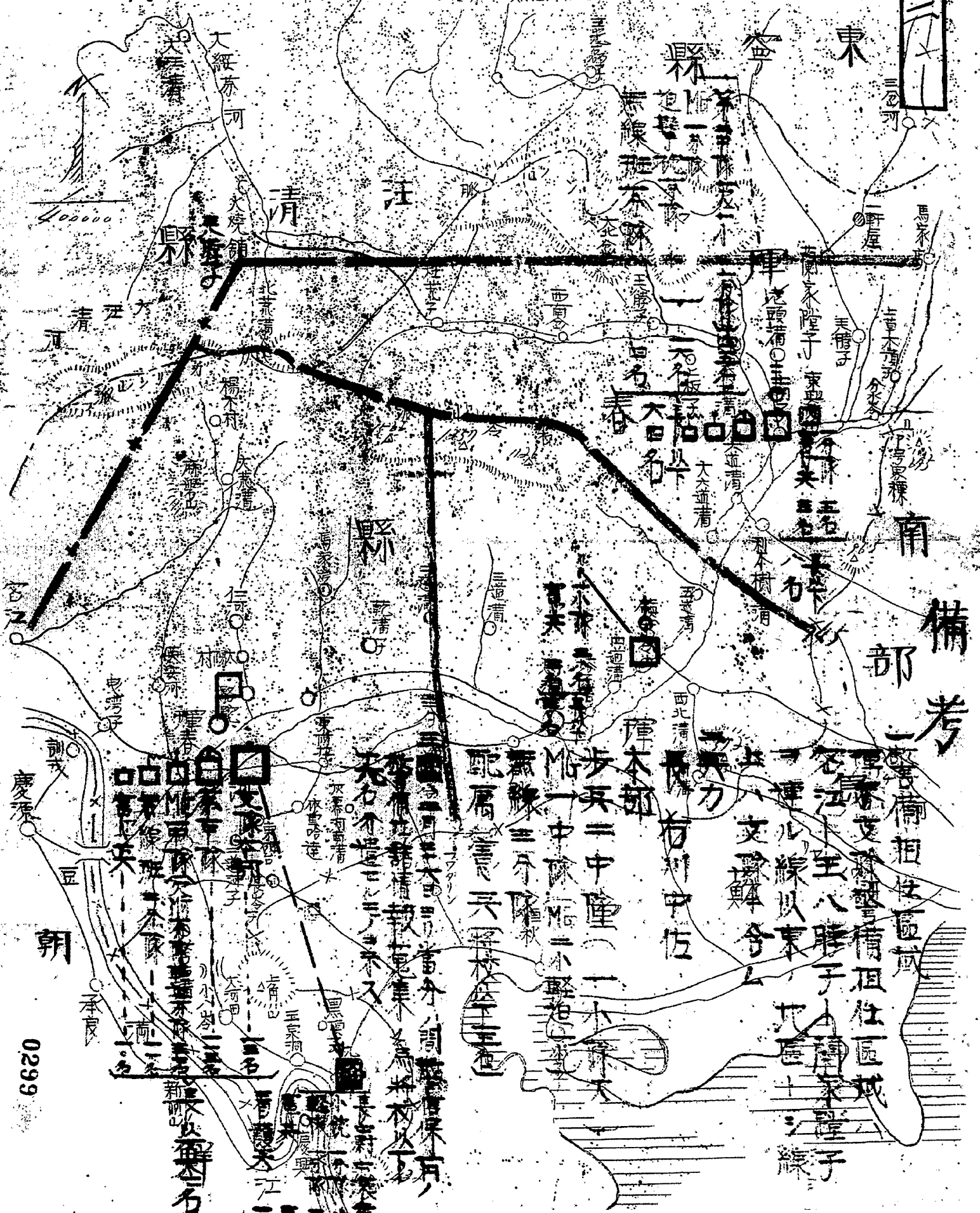
# 揮夷又除配備軍圖

(丙和至三十至五月下旬)

至羅字清

至老黑山至東宵

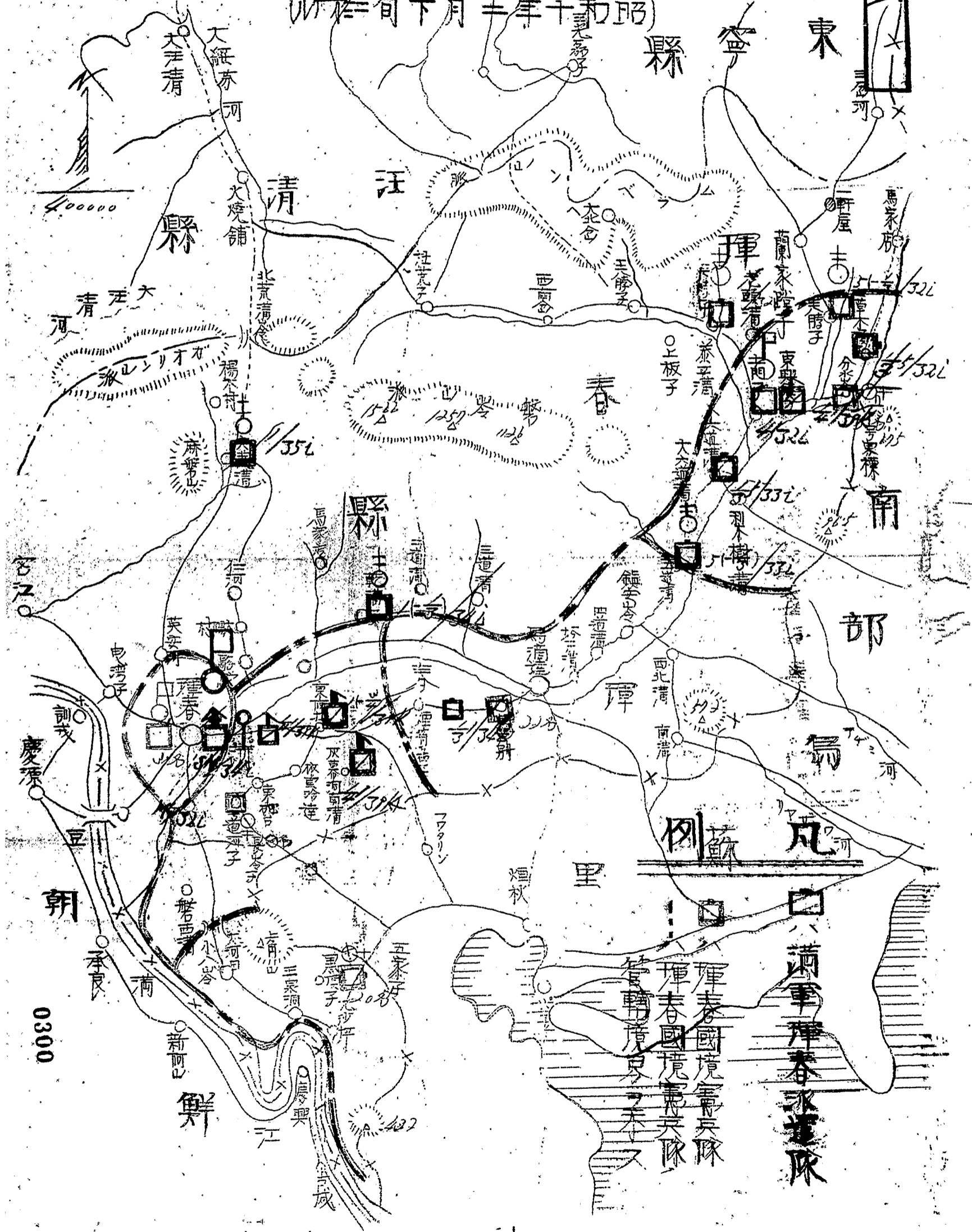
至山刀白至子至東宵



附圖第三

# 滿洲國軍隊及國境憲兵配備要圖

(昭和十年十二月下旬)





判決

土門子一軒屋間ハ大ナル故障無キ場合ハ往路約三時間歸路約二時間  
ヲ要ス架木員ノ疲勞ハ架木用車ヨリトラツク却ツテ少キモニアリ

土門子一東寧道路狀況偵察要圖

(二月十日付ル)



右地点以北ハ強行ヲ通行  
不可能ニテ子ルモ速度ハ  
歩行ト大差ナク自動車  
故障ハ幾片ハ豫期ナ  
ルハカラス

丸太道燒火破壊セル点多  
ク修理ヲ要ス

右地点迄新國道略完成ニアリ

一時間三ホ

**秘**

間島臨時派遣隊彈着支隊編成裝備表

昭和十年  
二月二十八日  
調

備考	合計	憲兵	無線班	機關銃隊	第二中隊	第一中隊	本部	隊區		編成	人員	兵	器	馬	馬	馬	
								號	分								
一、本表ハ支隊編成基準トス 二、朱書ハ使員ノ狀況ヲ示ス 三、憲兵中ノトルハ憲兵補ヲ示ス 四、歐馬中借上ノルハ常時借上ヲ示ス 五、本部兵器中獨ニ裝備以外各地方ニ配當使用ス  六、無線班ハ一種短波一十五瓦式一機機一同一號機三發電機六充電機三有 七、第二中隊ハ三小隊第三中隊ハ二小隊機關銃隊ハ機關銃小隊(四小隊)迫撃砲 八、本表ノ外官一軍醫一出張隊ハシマリ 九、本表外軍醫佛人十六名(暹羅手一連一馬夫筆工)アリ 十、兵、使員二名(三月五日入隊)トス(六八隊与ノ名トシテ補充ヲ受ケルモノ)	一	一			一	一	一	中	佐	一	一						
	三							大	尉	一	一						
	五				一	一	二	一	中	尉	一	一					
	五				一	二	二	一	持	務	長	一					
	六		二	一	一	一	一		管	長	一						
	三		四	一	四	五	六	四	軍	長	一						
	二		三	一	四	五	六		兵		二						
	二		三	一	四	五	六		計		二						
	一		一					六	小		一						
	一							一	銃	工	一						
	一							一	主	計	一						
	一							一	軍	醫	一						
	二							二	者	護	長						
	四					二	二		者	護	兵						
	二		一	一				六	單	屬	計						
二		一	一		二	二	一	小	計	二							
二		一	一	五	七	二	一	合	計	二							
		一	一	五	七	二	四	小	銃	四							
		一	一	七	五	七	三	拳	銃	四							
		一	一	二	四	六	一	輕	機	一							
							九	時	機	九							
							六	機	彈	六							
				四		六		機	機								
				二				輕	砲	二							
				二				重	砲	二							
				一				組	砲	一							
		五					二	隊	馬	二							
								物	品								
							二	押	収								
				六				物	品								
				四				押	収								
				三				借	上								

**秘**

各分屯守備隊編成裝備表

昭和十年二月三日調

備考	合計	九沙坪	鎮安嶺	土門子	彈春	隊階級別		兵	器	馬	職員表	
						中隊	大隊					
一本表外彈春桑田大村土門子小菅軍監履務シアリ 二馬定數此シテ額不足八常時備上馬ヲ經費用係シテ備上アザルヲ示ス	1				1	中隊						
	2			1	1	大隊						
	5	1		1	1	中隊						
	6		1	1	1	特務						
	6	1		2	3	常務						
	26	1	1	5	17	軍						
	228	15	24 <sup>ホ</sup>	59 <sup>ホ</sup>	130 <sup>ホ</sup>	上等兵						
							二等兵					
	274	18	28	69	159	合計						
	1					銃工長						
	1					主任計						
	1					手計						
	1					軍醫						
	2			1		看護長						
	4	1	1	1	1	看護兵						
	2				1	軍屬						
	12	1	2	2	7	小計						
286	19	30	71	166	合計							
16		1	10	12	擲彈筒							
11	1	2 <sup>特</sup>	2 <sup>特</sup>	6 <sup>特</sup>	輕機							
4			1	1	重機							
2			1	1	迫撃砲							
1				1	狙撃砲							
10			1	9	乘馬							
11			6	5	駄馬							
21			7	14	合計							
		隊長 柳中村	隊長 榎本持務	隊長 有賀	隊長 内野	隊長 野村	隊長 徳永	同	副隊長 村田	支隊長 石川		

0304

0305

第九師團奉天備隊月報

自昭和十一年三月二十八日

〇





目次

第一章 警備ノ概況

第一節 警備行軍實施ノ概況

第二節 憲兵警察トノ連絡

第三節 警備施設

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

第五節 汪清縣

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並鮮匪ノ狀況

第六節 滿洲國ノ部

第七節 露領ノ部

第四章 滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第八節 滿洲國軍隊

第九節 滿洲國警察

第十節 滿洲國自衛團

第五章 交通々信ニ関スル事項

第十一節 交通

第十二節 通信

第六章 編成裝備一覽表

第十九師團第一守備隊月報

第一章 警備概況

第一節 警備行軍實施ノ概況

警備行軍實施ノ狀況附圖第一ノ如シ

第二節 憲兵警察トノ連絡

管内憲兵警察トハ從前通り連絡ヲ密ニシ管

内情勢ニ注意シアルモ特記スヘキ事項ナシ

第三節 警備施設

特ニ記載スヘキ件ナシ

第二章 對岸ニ於ケル治安概況

第四節 琿春縣

日滿軍警ノ間断ナキ討伐ト至嚴ナル警戒並

ニ治安工作ノ周到ナル計更實施及琿春縣

正義團ノ創立等ニ依リ縣内治安ノ恢復ハ顯

著ナルモノアリ

第五節 汪清縣

日滿軍警不斷ノ討伐ト至嚴ナル警戒ノ為賊

勢稍ニ衰退シタルカ如キモ尚其横行頻ニシ

テ治安上警戒ヲ要スヘキモノアリ

第三章 對岸ニ於ケル馬匪賊並

鮮匪ノ狀況

一 琿春縣内共匪ハ春化保小六道溝附近本道上

ニ左記ノ如キ不穩宣傳文ヲ撒布シ宣傳工作

ヲ續ケツ、アリ

左記

一 上海事変三週年記念日ヲ迎フルニ當リ中國

労働者群衆ニ契フル文中國人民作戰基本綱

領「自衛團兄弟ニ告ク

強盜日本帝國主義ハ高麗國ニ自治ヲ與ヘル  
 ト云フ欺欺政策ヲ以テ自己等ノ獨占的植民  
 地ト爲シ王道樂土ノ名ノ下ニ高麗民族ヲ保  
 護スルトトノ口實ニ依リ幾多ノ強盜登錄並ニ  
 警察ヲ出動セシメ野獸的武斷政策ヲ用ニ高  
 麗人ニ對シ言論上思想上行動上絕對不自由  
 ト絕對拘束ヲ強要シツ、アルハ植民地政策  
 トシテ殘酷ニシテ一般勞働者大衆ハ奴等ノ  
 壓迫搾取ニ失業破産ノ悲境ニ墮リ或ハ亡國  
 奴隸ニ一變セリ  
 諸君ハ故國ニ於テ如斯ク壓迫搾取セラレ錦  
 練江山ヲ驅逐セラレ友情深キ友人兄弟等ト  
 急ニ分散離別生路ヲ滿洲ニ求ムヘク衰滿セ  
 ルニ非スヤ同志等ハ考ヘテ見ヨ高麗ヲ今併

高麗民族ヲ永遠ニ自己等ノ奴隸トシテ強盜  
 日本帝國主義テハナイカ高麗人ハ故國ヨリ  
 驅逐セラシ滿洲ニ來リ更ニ犬等ニ壓迫セラ  
 シ搾取姦淫屠殺ノ自由ニナツテイルノテア  
 ル諸君ノ着テ居ル軍服ハ誰ノ為ニ着テ居ル  
 銃ハ誰ノ為誰ヲ射撃セントスルノカ諸君等  
 ハ永遠ニ日帝ノ植民地ニナツテ居ルノカ我  
 等ハ目下被壓迫中高蒙民族ト總聯合シ自由  
 解放ヲ護得セントス  
 二 旣報ノ方振聲ハ小梨樹溝奧地ニ根據ヲ有ス  
 ル匪賊小愛民部隊ノ極度ニ衣食ニ窮ニアル  
 ヲ好機トシ交渉ノ結果ヲエツク式輕機関銃  
 三 挺同彈藥五千發ヲ四千円ニテ買求メタリ  
 卜尚現在ケエツク式輕機関銃三挺長銃七十

三、南大洞水南村凉水泉子西北約四軒居住飯順  
 共匪金國賢外二十一名ハ昭和九年四月飯順  
 認許証ヲ交付セラレタルモノナルカ、爾來凉  
 水警察署ニ於テ動靜監視中ナルニ南大洞附  
 近ニ不穩文書ヲ撒布シタルモノ該飯順共匪  
 ノ所為ナルヲ探知シ二月四日金國賢以下ニ  
 十名ヲ檢挙シ不穩文書多數押收ス且梁等ハ  
 飯順証ヲ受クルヤ間モナク共產工作ヲナシ  
 絶ヘス西大坡ニ根據スル共匪ト連絡シ日滿  
 警備機關自衛團等ノ討伐出動情況等ヲ通知  
 シテ其行動ヲ妨害シ或ハ西大坡十里坪地方  
 ニ根據スル匪賊ニ物品ヲ購入提供シ、鮮内侵  
 入ヲ援助スル等飯順ヲ假面ニ潛行的行動ヲ

ナニアリタリ共匪ノ如斯キ行動ト他地方ニ  
モ相當アラント思料セラレ、ニ付嚴ニ警戒  
ノ要アリ

四、鮮匪團ノ狀況

瑋春及汪清縣内ニ蟠居スル共匪團ハ中共泉  
滿特委各縣委員會ニ屬スル一五派七八口名  
ニシテ依然金品ノ掠奪人質拉致ヲ敢行シツ  
、アリ本月中共匪ニ依ル被害ハ穀類一石七  
斗衣類七卓雜貨類馬車一口等比ノ價格約一  
九〇〇円現金一〇九円ニ達セリ

五、瑋春縣匪賊出沒被害調査表附表第一ノ如シ

六、汪清縣匪賊出沒被害調査表附表第二ノ如シ

七、匪賊出沒被害統計表附表第三ノ如シ

八、匪賊分布統計表附表第四ノ如シ



九 彈春縣匪賊分布狀況附表第五ノ如シ  
 十 汪清縣匪賊分布狀況泥附表第六ノ如シ  
 十一 彈春縣下匪賊分布要圖附圖第二ノ如シ

# 説明ターゲット

次の原稿

不鮮明

0315 ~ 0355

3年 12月 18日

主務者又は

撮影立会者

加部東保夫



第七節 露領ノ部

一 蘇聯南部烏蘇里地方ニラップヤシクノ砲台新設

最近蘇極東軍ニ於テハスラフヤシク南方約

六百米ノ山頂ニ向ヒ新砲台ヲ構築セシ趣ニ

ニテ其ノ構造不明ナルモ周圍ニケ所ニハ長

サセヨ米乃至八ヨ米幅ニ深サ三米位ノ塹

壕ヲ構築ス

二 赤セツト區域廳ノウキニフスカヨリスラウ

チニカニ移轉計東

赤セツト區域廳ハ一九二六年ノウキエフス

クニ設置セラシ今日ニ及ヒタルクボセツト

區域黨幹部等ハ之ヲノウエフスクニ置クハ

交通其他諸般ノ關係上不便ナルヲ以テ區域

ノ中央地タルスラフヤニカニ縷驛セシムヘ  
 ク昨年十二月中旬頃沿海州党幹部ニ此ノ旨  
 申請シタルニ同幹部ハ之ヲ更ニ中央党部ニ  
 申請シタル結果近ク承認セララルコトナ  
 リハウ干エフスニ在ルホセツト區廳ニ於  
 テハ遷シ共本年六月一日迄ニハ移轉ラ完了  
 スヘシト稱シ目下之カ準備中ナリト  
 煙秋駐屯ゲバ其他ノ狀況  
 稱セラリアリ指揮官ノ氏名並裝備等詳細  
 判明セス  
 語彙報告者ハゲバト他ノ兵科ト區別等  
 確實ナラス或ハゲバト隊ニ於テ勤務ス  
 他ノ軍人又ハ雇傭人等並ニ總數ニアラフ

ルヤト忍料セラ  
 2. 香山洞ニハ赤軍歩兵約八十名駐屯シアリ  
 テ國境警備ニ任シアリ裝備等判明セス  
 註ニ項ハ其ノ真疑<sup>傳</sup>シキモノアルモ謀者報  
 ノ儘

四 國外密派謀者養成狀況

蘇聯當局ニ於テハ國外各地ニ密派潜入セシ  
 ムヘキ謀者ノ養成ニ関シテハ相當ニ苦心シ  
 アルモ、如ク最近ボセツト區党部ニ對シ  
 蘇領在在鮮人ニシテ父母ヲ失ヒタル男子  
 ハ國家ニ於テ養育シ將來國外密派謀者ニ充  
 當スルニ付之カ該當者ヲ調査スヘシト下命  
 シ來シリ  
 之カ為區域當部ニ於テハ目下調査中ナルカ

是等ノ教育ハバロフスヨニ行ワモナ  
 リト尚教育機関期間人員等判明セラルモ  
 一田卒業者八十名ハ夫々密命ヲ受ケ出發シ  
 タリト謂フ行先等其ノ他一切ハ極秘ニ附サ  
 レアリテ判明セス  
 三蘇聯支那人軍隊ノ狀況  
 バラバシ駐屯支那人軍隊ニ於テハ四五名ヲ  
 一組トシ毎月二回滿領へ往復セシメ滿領ノ  
 滿人ト連絡シ何事カ畫策シツ、アリ  
 尚同地ニハ滿人中隊長王成春ノ紹介ニテ滿  
 人約三百八十三名証誇張セルモノナラニ或  
 ハ全滿領ノミナラス在蘇支人モ含マシ又朝  
 鮮人モ含マシアルヘシ集合シ支那人軍特別  
 募集ニ應シアリ

現 在 二 於 テ ハ 失 業 者 モ ナ ク 所 シ テ 一 般 ニ	六 ノ 蘇 聯 駐 民 ノ 生 活 所 感 ニ	現 政 府 ニ 對 ス ル 所 感 ニ	蘇 聯 駐 民 ノ 生 活 所 感 ニ	塩	牛 肉	砂 糖	防 毒 面 帽	軍 服	軍 用 靴	白 粉	入 リ 付 テ 三 〇 〇 〇 〇 〇	成 春 ハ 安 穩 ニ 左 ノ 如 キ 数 ノ 單 需 品 不 着 ス	用 ト シ テ 砂 金 七 布 袋 一 月 八 日 着 並 中 隊 長 王	而 シ テ 蘇 聯 政 府 ヨ リ 右 支 那 人 軍 特 別 募 集 費	
	二	二	二	二	八	五	二	二	二	一	三	〇	如	一	
	〇	〇	〇	〇	五	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
					樽	袋	個	個	着	袋	袋		數	日	

物質上精神上共ニ不滿ナク衣食ハ十分ト  
 ハ云ヒ難キモ之ヲ行フニ支障ナシ一九三  
 三年迄ハ一般ニ非常ニ困窮ニアリテ金ヲ  
 有スルモ物資カ不足ニアリシガ第二次五  
 年計更ニ於テ輕工業ノ進捗ニ伴ヒ昨年以  
 後物資頗ル潤澤トナリ供給量モ増加セリ  
 家畜ハ私有モ許サシ特ニ牛乳ハ各戸毎ニ  
 飼養セシムル金ナモモノニハ國家カ低利資  
 金ヲ貸與シ飼養ヲ奨励シアリ  
 又本年ヨリハ正月モ祝ヒタリ政府ハ演藝  
 ヲ術ヲ重シ娛樂ヲ與フルニ努ム然シ共金  
 然自由ト云フニアラス  
 脫露者ハ帝政時代ノ財産私有制度ニ懂レ  
 ヲ有スル者勞働能力低ク十余年給與ヲ



2. 給與

受ケサルモノニテ一般ニ現政府ニ對シテ  
 大ナル不滿ナシ然レトモ白露系ノ陰謀ハ  
 時々新聞紙ニ掲載セラレテ次來ノ私  
 有制度觀念ハ容易ニ除去セラリス之カ爲  
 不平ヲ有スルモノカナラス

軍人ヲ除ク一般官民ハ一九三四年未迄ハ  
 労働能カニ依リカルトシカパン券ヲ以テ  
 各指定供給所ニ至リ受領ニアリシカ本年  
 ヨリハ之ヲ廢止シ主食品ハ自由ニ購買シ  
 生臭塩美牛肉砂糖ノ四種ハ傳票制度トシ  
 之ニ依リ供給ニアリ  
 最近ハ自動車ノ發達著シキニ因リ如何ナ  
 ル邊鄙ナル地ニモ配給ハ月清ニ行ハトア

蘇鮮人相互間及對日滿感情餘地殆無  
 蘇鮮人相互間及對日滿感情餘地殆無  
 兩者表面的差別感ハ一般ニ良好ナルモ民族性  
 露人ハ鮮人ニ對シ輕侮ノ感アリ個人的ニハ  
 然シ共官憲ハ法律ヲ以テ嚴重ニ取締アリ  
 對日滿感情ハ鮮人ニ於テモ蘇聯ノ宣傳ニ依  
 對日感情ハ併後ノ情況ヲ知ラサル為余リ  
 良好ナラス  
 蘇人モ政府ノ宣傳ヲ其儘受ケ入レルモ  
 對日滿觀察ニ関シテハ日本カ經濟的發展

為ナラント云ヒ蘇聯側ニ於ケル日本攻撃  
ヲ持テ出セシモ黙シテ語ラス  
八在煙秋赤軍ノ状況

煙秋ニハ現在歩兵一聯隊騎兵一大隊砲兵一  
大隊技術兵一大隊輜重兵電信兵航空兵駐屯  
シアリ其ノ兵力ハ約一七〇〇名ナリト

歩兵聯隊ハ煙秋デベウ中隊南方ニ接續セル

煉瓦平家兵舎ニ棟ニ同ニ階建一棟ニ駐屯シ

アルカ聯隊長カ上級幹部ニシテ大佐級兵約

一〇〇〇名アリ重機関銃ニ口挺ヲ有シアリ

ト而シテ同隊ニハ鮮人現役兵約ニ〇〇名ア

ルカ該鮮人ハ一九三四年モスコ山ニ於テ軍

人募集徴集セルモノニシテ成績優秀ナル鮮

人募集徴集セルモノニシテ成績優秀ナル鮮

人ノミナリト  
 騎兵大隊  
 騎兵大隊ハ煙秋國立公園南方砲兵聯隊ニ接  
 續セル煉瓦平家一棟ニ駐屯シアル大隊長ハ  
 上級幹部ニシテ少佐級兵約ニ〇〇名内鮮人  
 四五名アリ馬匹ニ五〇頭ヨ有スル外重機関  
 銃一〇挺軽機関銃三〇挺ヨ有シアリト  
 尚同大隊ハ煙秋東方ザイサノフカニ約ニ〇  
 〇名ノ騎兵ヨ分屯シアリ  
 砲兵大隊  
 砲兵大隊ハ煙秋國立公園南側ナル煉瓦平家  
 一棟ニ駐屯シアリ大隊長ハ上級幹部ニシテ  
 中佐級兵約一五〇名内鮮人一〇名内外アリ  
 馬匹約百五〇頭砲一五門ヨ有シアリト

技術兵大隊

技術兵大隊ハ步兵聯隊東南約二〇〇〇米ノ

煉瓦平家一棟ニ駐屯シアリ

輜重兵

輜重兵ハ煙杖ゲバ之隊厩ヲ改修シ自動車庫

荷車ヲ含ムニ充當ニ附近民家ニ分宿シアル

モ其兵カハ約百五〇名ニシテ乗用車五台ト

ラツク一口台馬車ニ台ヲ有シアリト

電信隊及航空兵

電信隊及航空兵ハ煙杖中学校西南側煉瓦平

家一棟ニ駐屯シアルカ電信隊ハ約一〇〇名

ニシテ航空兵ハ約五〇名ナリト

而シテ該航空兵ハ煙杖陸軍飛行場軍用機着

發時ニ於テハ警戒便軍供與ノ為駐屯シアル

九、シコトロ地方状況

シコトロ地方ハ蘇聯極東根據地タル浦潮ノ  
 前衛地帯トシ赤軍當局ニ於テハ國境線地帯  
 ノ軍備工作ト併行シ一昨年来ヨリ着々ト諸  
 軍事設備ヲ完成シ來ル處ナルカ最近全地  
 赤軍氷上飛行場ニ客年十二月頃イソタニカ  
 方面ヨリ無聲音飛行機四台來到格納中ナリ  
 トノ事ナルカ其ノ種別型等詳ナラス而シテ  
 同地方ニ於テハ重爆撃機ト其極東ニ於テ戰  
 火ヲ見タル場合直ニ出動日本ノ政治及軍事  
 中心地帯ヲ為有ニ阪也ニムルモト期待  
 シアリト

蘇聯ノ軍用毒瓦斯製造状況

蘇聯邦ニ於テハ北欽讓渡問題ヨリ對日滿関

係ヲ極度ニ憂慮シツ、一面第二次五ヶ年計

画ノ完備ヲ急キ着々軍備ノ擴張ヲ策シツ、

アハ處歐州大戦以來禁止中ノ毒瓦斯等モ極

秘裡ニ之カ研究ヲ進メ目下在コトニ下東

軍東方約十里極東軍兵工支廠ニ於テ製造ヲ

急キツ、ナリ同廠ニ於テハ昨年亦同地附近

原野ニ於テ夜間ニカ實地試験ヲ行ヒタルニ

其ノ成績左記ノ如ク何シモ其効果頗ル優秀

ナリ之カ原料ハ塩素ホスゲンデホスゲンヲ

用ヒアル趣ナリ

塩素黄綠色ヲ帯ヒタル氣體

本氣體ヲ空氣中ニ五百分ノ一存在スル時

ハ一分間ニテ人類ハ窒息死ス  
 之ホスゲニ無色ノ液体  
 本液体カ一万五千分ノ一空氣中ニ存在ス  
 ル時ハ一分間ニテ人類ヲ窒息死セシム  
 今ホスゲニ  
 大體ホスゲニト同様  
 シコト方面  
 昨午八月以降コト及蘇團ハ蘇官憲ノ取  
 締峻厳ヲ極メタル為活動力次第ニ消滅ノ狀  
 態ニアリシカ最近左ノ如キ事件勃發セリ  
 同志共産党カコト及コトノコト兩派ニ  
 分シ互ニ鬭争セリ即チコトノコトノ派ニ屬シ  
 以前ヨリコトノコトノ駐在セル大隊長マカロ  
 ニ上コトニ派ニ屬スル聯隊長コトチエリ



階ニ於テ互ニ主義主張ヲ存入シラレサル隊  
 係上衝突ヲ續ケ遂ニ一月五日午後三時ヨ  
 トヨ兵舎ニ於テ銃火ヲ交ヘルニ至リ大隊長  
 マカロニハ隊長ヨリケエリニヲ銃殺シ次  
 ノ如キ公言ヲ發シ自殺セリ  
 吾々露民族ハ猶太人ハ假面タル共產主義ニ  
 欺カル、コトナク吾々ハ百國家ト都城ヲ奪  
 圓シ帝國主義ヲ恢復セサル可ラス自分ハコ  
 、ニ死スルモ護國ノ鬼トナリテ此目的ヲ達  
 セントス  
 尚大隊長マカロニノ部下少尉アルロクニ  
 ハ部下三口名ヲ引率シ反蘇主義ヲ標榜シ何  
 シカハ脱走セリ  
 右事件ノ為蘇官憲ハ軍人住民相合ニテ嫌疑

者八十余名ヲ逮捕セリ

二 浦潮反蘇團ノ状況

浦潮反蘇團ノ勢力ハ從前ノ銷沈状態ヨリ大

イニ復活シ最近各地ニ暴動ヲ起シツアリ

一月五日元反蘇團員ニテ現在変節ニタル

海軍々人イワニテハハウ潜水盤指揮官アル

キリモニハ反蘇團長オシニコロウヲ訪問シ

口實ヲ設ケ飯順ヲ勸告セシモ之ニ反對シタ

ルニ前記ニ名ヲ殺セリ

三 極東特五軍團ニ解入軍司令官配属並ニ其ノ

編成

極東軍政局ニ於テ蘇聯國防委員會ノ指令ニ

基キ一九三六年度ハ必ス日蘇戰勃發ニ蘇

聯邦ハ内憂外患ノ危険期ナルヲ自覚シ蘇聯

邦極東在佳鮮滿青年ニ對シ日蘇開戦ノ曉ハ  
 蘇聯ノ勝利ハ確實ニシテ朝鮮ノ獨立承認滿  
 洲ニ於ケル日本ノ侵略主義驅逐及中華民國  
 ノ失地回復等好飼ヲ以テ約ニ万七千名ヲ敵  
 兵ニタルカ蘇聯ハ之ヲ國家非常ノ節ハ最前  
 衛部隊又ハ補充隊ニ代用スヘク二月十五日  
 ヲリハバロフクニ於テ軍事教練ヲ詭ス豫定  
 ナルカ鮮人幹部トシテモスコトト大学出身朴  
 昊俊別名朴コリト五二年ヲ軍司令官ニ任命  
 ハバロフス極東特立軍團ヲ配ニタリト

極東特立軍團長

特別軍司令官  
鮮人司令官

第一師團

第二師團

本師團

経路

個	個	個	個	個	個	個	個
個	個	個	個	個	個	個	個
個	個	個	個	個	個	個	個

0332

中隊長

混成

聯隊長

混成

大隊長

參謀部

經理部

一個機銃小隊

三個步兵小隊

砲兵小隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊  
第四分隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊

各分隊ハ兵員一三名ヨリナリ輕機一他ハ小銃ト榴彈及擲彈筒ヲ携帶ス

各分隊ハ兵員七名ヨリナリ輕機一重機一ヲ携帶ス

各分隊ハ兵員九名ヨリナリ大砲一門馬匹五頭ナリ

經理部

三個步兵大隊

一個砲兵

一個騎兵

一個瓦斯隊

一個經理

一個步兵中隊

一個機銃

一個瓦斯小隊

一個砲兵

一個連絡

一個步兵

一、在蘇鮮人等、高麗民族獨立共和洲設立運動

狀況

蘇聯邦内十六万、朝鮮人中、最有力者ト稱ス  
ル南万香外、數千名、韓明世、金萬謙、李ハシ、了  
女、藍昌儀、蔡京順、崔成萬、朴ヨシトウ、エ、イ、奉、享、根  
吳、河、恩、金、貞、奎、等、ハ、從、來、懸、案、タリ、シ、沿、海、洲、内  
ヤ、ロ、ブ、シ、ク、區、域、ヨリ、以、南、蘇、城、ニ、至、ル、四、ヶ、區

騎兵小隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊  
第四分隊

軍醫小隊

第一分隊  
第二分隊

經理小隊

第一分隊  
第二分隊  
第三分隊  
第四分隊  
第五分隊

各分隊ハ兵員八名ヨリナル  
各分隊ハ兵員五名ヨリナル

高麗民族獨立共進會は十一月二十九日ヨリモス  
 請求運動ヲ起シ去ル一月二十九日ヨリモス  
 クロニ於テ問合中ハ全聯邦ハ代エツ出大  
 會ニ此問題ヲ提案スヘク沿海州及黑龍江洲  
 居留朝鮮人ニ参加権ヲ與ヘタルヨ奇貨トシ  
 極東朝鮮人居留民代表トシテ韓明世トシテ  
 大和國少数民族委員長蔡東順君海洲朝鮮人  
 少数民族部長人等課長ハ兩名ヨ選抜出席セシ  
 ヲタルカ今回ノ此運動ニハ極東特立軍司令  
 官政府局長アロニシタラシトハ將軍ヲ始メ極東連  
 疆共產黨主席ヨバシニテ五五及沿海洲執行  
 委員長スリニキニ極東海軍政治局長ヲ  
 人ノキニ土地農林人民委員長トイフイニ  
 等有力者多数ノ積極的贊助ヲ得タルコト

## 三

以テ之ヲ目的達成ノ可能性アルト稱シ一般  
 鮮人ハ期待ニ居リト尚提案資料トシテハ鮮  
 人ノ入露沿革年限動機帝政時代ノ待遇獨立  
 共和洲建設ノ綱領教育制帝制度其他將  
 來ニ於ケル視察等凡有條項ヲ研究昨成シ提  
 案資料ヲ豊富ニ携行セリト

## 三 獵人ノ訓練狀況

煙秋デペウ隊ニ於テハ上旨ノ指令ニ基キ各  
 年十月上旬ヨリ區域内ニ居住セル獵夫百五  
 十名ヲ月ニ回宛煙秋ニ召集セシメ小銃同彈  
 藥等ヲ貸與シ演習及實包射擊等實施シア  
 ヲ右ハ普通民兵ト稱セラレテ特ニ射擊  
 優秀ナルモノヨリニテ萬一日蘇開戰ノ際ハ  
 赤軍ト共同戰線ニ参加セシメントスルニ在

リト

尚概夫百五十名中鮮人約九十名露人五十名

滿人十名ナリト

二六 蘇聯ノ密偵滿鮮潛入

蘇聯極東軍部ニ於テハ對日滿情報蒐集ニ腐

心中ナルカ過般密偵要員トシテ約十名ノ鮮

人男女ヲ募集シ訓練ノ上夫々夫婦ニ假裝密

滋セシメ日滿官憲ニ逮捕ザシタル場合ハ蘇

聯當局ノ取締峻厳ナルト生活難ク為蘇領ヲ

脱出セルモノナリト詭辨ヲ以テ憲ヲ欺瞞

マシメ以テ警戒網ヲ突破セシムヘク其ノ一

理トシテ日獵煙秋ハベク隙ヨリ琿春縣下ニ

日貨二百円ヲ携行左ノ者ヲ夫婦ニ假裝出發

セシム 在所蘇領ヲセシム 區上列里 金今ナリト 一九三六年



一七 煙秋ヲペウ隊ノ日滿密偵容疑者ノ奥地移住  
 狀況  
 煙秋ヲペウ隊ニ於テハ管下各ヲペウ隊並區  
 域執行部ト協力シ昨年十二月以來日滿密偵  
 容疑者ノ内偵ニ努メシツ、アリシカ本年一  
 月中旬區域内ヨリ滿領ニ親戚ヲ有スル者約  
 五〇戸ヲ奥地ニ強制移住セリト

第四章 滿洲國軍隊警察自衛團ノ狀況

第八節 滿洲國軍隊

特ニ記スヘキ件ナキモ瑋春派遣熱河支隊中  
逃走事件頻發スルニ鑑ミ該逃走者ノ南下ナ  
キヤニ注意ニアリ

第九節 滿洲國警察

瑋春縣警察ハ瑋春地區治安工作班ノ活動ニ  
依リ警務機關ノ能率向上ニ一般國警察ノ信  
頼ヲ高メツ、アリ

第十節 滿洲國自衛團

自衛團ハ前月變仁ナク解氷期近クニ至リ直對岸ノ  
自衛團ハ有終ノ美ヲ發揮スヘク緊張ニアリ

第五章 交通  
第十一節 交通

瑋春縣鐵路公司經營ノ訓我瑋春間輕便鐵道  
敷設工事ハ二月上旬マテニ概テ軌條敷設ヲ  
完了シアルモ結氷ノ為砂利採取不可能ナル  
為其ノ儘トナリ居レリ

第十二節 通信

特記事項ナシ

第六章 編成裝備一覽表

當守備隊編成裝備一覽表附表第七ノ如シ

匪賊出沒被害調査表

香春県

月日	場所	頭目及 賊数	行動 及 被害	摘要
三三	勇智保 石灰洞	山林隊 一六	午後十時半頃全地滿人張某方ニ山林隊一隊ヲキモノ不到支那服一着銀頭百二十個ヲ強奪ノ上日滿軍警ニ報告スヘカラスト嚴命西北方ニ去ル	
三三	春仁保 大平川	共匪 二二	午前二時頃同地滿人馮瑞祥及鮮人金人徳方ニ侵入朝食ヲ喫ニタル後同五時頃大至溝方面ニ向ケ立去ル	
三四	春仁保 馬橋子	共匪 二〇	午後四時頃全地滿人徐化方ニ侵入銀頭百個ヲ強奪ノ上何レカニ立去リ	
三九	勇智保 大砂金溝	共匪 一一	午後十時半頃全地鮮人崔壽南方ニ現ハシ銀頭金ノ調達ヲ命セルモ同部落ノ生活状態裕カナラサルヲ察知ニ夜食ヲ喫ニタル後北方砂金溝方面ニ向ヘリ	午前五時頃全地鮮人崔徳用方ニ現ハシ

<p>二一〇 勇智保 河北溝</p>	<p>二〇九 勇智保 仁興洞</p>	<p>二〇八 勇智保 哈達門</p>	<p>二〇七 崇禮保 小江旗河</p>	<p>二〇六 崇禮保 小江旗河</p>
<p>共 匪 八</p>	<p>共 匪 三</p>	<p>共 匪 三</p>	<p>共 匪 三</p>	<p>共 匪 三</p>
<p>宣傳ヒラ多類ヲ撒布ニ主義宣傳ヲ ナシ公金ヨリ精麥三斗ヲ掠奪ニ西北方 ニ立去シリ 午後六時頃公地鮮人徐徹及金義 竜方ニ侵入ニ六百リ表粉六袋ヲ強奪 ノ上何レカニ逃去セリ</p>	<p>午後四時頃公地鮮人崔維清方ニ侵入 公村ノ生活状態ヲ數鮮人民會ヨリ畜牛 配付ノ有無日滿軍警等ノ來到狀況 ヲ調査ノ上何レカニ立去リタリ</p>	<p>午後四時頃公地滿人壽福方ニ現ハシ表 粉一金三斗ヲ掠奪ノ上自家人ニ名ヲ拉 致ノ上人質料五百斗ヲ提供スヘシ若シ百 斗ヲ提供ス長男ハ釈放スヘト脅迫 ノ上北方ニ向ケ逃走セリ</p>	<p>午後三時頃公地鮮人金元三方ニ現ハシ 主義宣傳後金四斗ヲ掠奪テ大江旗 河方面ニ立去ル</p>	<p>午後三時頃公地鮮人金元三方ニ現ハシ 主義宣傳後金四斗ヲ掠奪テ大江旗 河方面ニ立去ル</p>

<p>三二二 勇智保 小荒溝</p>	<p>三二二 崇禮保 汪溝</p>	<p>三二二 絶義保 泡子沿</p>
<p>共 匪 三</p>	<p>共 匪 二</p>	<p>共 匪 三</p>
<p>午前一時三十分頃全地鮮人室様方ニ 右公共匪侵入麦粉一袋ヲ掠奪更ニ軍 資金下ニテ金五百円ヲ調達方ヲ命ジ 人質トシテ全人及長男ヲ拉致ニ北 方小荒溝ニ引揚ク</p>	<p>午前零時頃來到全地鮮人朴根植 方ニ侵入主義宣傳ノ後宣傳文ヲ 撒布ニタルカ更ニ日滿官憲ノ治安工 作タル集團部落ノ壯丁團ニ加入スルモ 公再來ニ制裁ヲ加ヘント威嚇ニ精 麦五千ヲ掠奪ノ上汪溝下村方面ニ 引揚ク</p>	<p>午後九時頃全地鮮人金方ニ 現ハル者迫ノ上金四百ヲ強奪全 地東方ニ向テ逃走セリ</p>

<p>二二四</p>	<p>二二三</p>
<p>汪 崇禮保 溝</p>	<p>新 勇智保 興 洞</p>
<p>共 三 匪</p>	<p>共 四 匪</p>
<p>午後土時頃全地鮮人安方室方ニ現 ハシ食事ヲ強要喫食ノ後同地北 方ニ向ケ立去リタリ</p>	<p>午後土時頃全地鮮人姜錫昌方 ニ侵入日滿軍警ヲ警備狀況民 會貸付牛ノ有無ヲ調査七村方面 ニ向ヘリ</p>

附表第二

匪賊出沒被害調査表 汪清縣

月日	場所	賊頭目及數	行動及被害	摘要
三三	新興洞	共匪 二三	午前三時空地滿人憑瑞祥及金珍德方ニ於テ家人ニ食事ヲ準備セシメ喫食ノ上同溝西山越ヘニ大平川方面ニ向ヘリ	
三四	黑獅子頂子	共匪 五	午後四時頃右共匪ニ名ハ同地滿人徐華元方ニ於テ喫食ノ上溝西方面ニ向ケテ出發シタリ	
三八	南鳳梧洞 春華郷	共匪 五	午後三時頃便衣隊共匪五名來到ニ我等ハ今回東溝特委司令部ヨリ嘯呀河圖們南陽穩城方面ヲ調査内偵ヲ命セラヒタルモノナリト稱シ圖們嘯呀河方面ノ警備機關ノ	



<p>志 同</p>	<p>三八 春芳郷 北大洞</p>	<p>三二〇 春和郷 腰宮溝</p>	<p>三八 春華郷 上鳴呀河</p>
<p>共 匪 三三</p>	<p>共 匪 三〇</p>	<p>共 匪 一五〇</p>	<p>共 匪 四〇</p>
<p>午前三時頃來到一部落民十五名ヲ集 合セシメ赤團部ヲ入村スルモノハ 銃殺スベシト脅シ且主義宣傳ノ 上立去リ</p>	<p>午前三時頃北大洞林某方ニ現ハレ部 民ヲ集合セシメ主義宣傳ヲナスト共附 近ニ多敷不穩檄文ヲ撒布ノ上三浦洞方 面ニ立去リ</p>	<p>午後一時頃腰宮溝ヲ襲撃シタ ルヲ以テ同地警備隊員自衛團員 協力應戰六時間ニテ之ヲ撃退シ タルカ茲言備隊員四名重傷ヲ負ヒ 内一名死亡ス</p>	<p>午後十時頃來到ニ柳某方ニ部 民約三〇名ヲ集合セシメ主義宣傳 ヲナシタル上現金五円白米二斗ヲ強 奪ニ引揚ケタリ</p>
			<p>狀況ヲ聽取ニタル上立去リタリ</p>

匪賊出沒被害統計表

縣別		春 縣		注 清	
賊種別		共	匪	共	匪
出沒	延	二六	四	九	
件數	賊延	二二	八二	一五三	
殺傷	被				
拉致	害	二			
放火	品				
金		現金 一〇四円	麥粉 五〇袋	穀類 一石六斗	現金 五円
品		見積價格 一八七五円 雜貨類 馬車 一〇台 穀類 一斗 衣類 七具			

計		縣
匪兵馬	匪 共	匪馬兵
六	三五	二
二七二	三九〇	一九〇
四		四
	二	
麦粉 五〇袋	夜類 七卓 穀類 一石七斗 雜貨類 馬車 一〇台分 見積價格 約 一九〇円 現金 五円	

附表第四

匪賊分布統計表

縣別	兵馬匪		共匪		計	
	頭目	人員	頭目	人員	頭目	人員
五春野	四	六八	一	一七〇	五	二三八
汪清縣	四	三七〇	一四	六一〇	一八	九八〇
總計	八	四三八	一五	七八〇	二三	一三一八

匪賊分布狀況 瑋春縣

員委春瑋共中		頭目	又	賊名
約五人	約三人	約一人	約一人	約一人
長銃ニ同 彈藥一銃ニ 竹四乃至八 口外ニ拳 銃若干ヲ 有ス	長銃ニ同 同彈藥一銃 ニ付四乃至 八口發外ニ 拳銃若干 ヲ有ス	詳カナラズ	兵器及 彈藥數	兵器及 彈藥數
德惠保 楊森 與	春化保 杜荒子附近 林	春化保六 道溝及 上板子溝 附近森	橫行地區 根據地	根據地
共		共	彩色	彩色
			日滿軍 警言討 伐狀況	日滿軍 警言討 伐狀況
食料難多為昨 年未汪清縣 火燒鋪方面ニ 移動シタルカ 最近再ニ現 根據地ニ移 動ノ形跡アリ			月内ニ於テ 行動ノ概要	月内ニ於テ 行動ノ概要
			對策若クハ 頓狀況	對策若クハ 頓狀況
			將來ニ對ス ル視察	將來ニ對ス ル視察

<p>隊山明 六二一人</p>	<p>新起軍 五人</p>	<p>孫占山隊 口=約人</p>	<p>會 口=約人</p>
<p>長銃二六同 彈藥一銃二 村一〇〇乃至 三〇〇 拳銃五</p>	<p>長銃八同 彈藥一銃 二付八〇〇 外拳銃一</p>	<p>長銃四三同 彈藥一銃三 付八〇〇 外 拳銃八</p>	<p>長銃三〇同 彈藥一銃三 付四〇乃至八 〇 拳銃二</p>
<p>去南子地方 蘭家子 奧密地 帶</p>	<p>蘭家子 子王八 子附近</p>	<p>春化保 六道溝 奧密林 地帶</p>	<p>崇礼保 長谷子 近蘇滿 国境</p>
匪			匪
<p>蘭家子村 近部落並 門子東密門 旅行者ヲ襲 ヒ金品ヲ強奪 ヲ敢行シタ リ</p>	<p>一部四五名ハ 汪清縣樟皮 白子方面ニ 移動セリ</p>	<p>最近ノ 行動詳 カナラス</p>	<p>從來一派ニ 四名ナリシ カ最近増 加シ現在ニ 口名ニ達ス</p>
<p>一部四名ハ東 寧縣ニ至リ 級順セリト 報アリ</p>			

1960

満軍	逃	亡
一人	一	七
長銃 同彈藥 一七〇發		
近密林	家 運子 所	果 密 林
賊		
門字 家 寧	街 道 半 夜	通 行 者 金
品ヲ 採 奪 シ テ アリ		

龍崖	静陳	勝	双	山好同	恒忠皮	名賊又頭 數馬人	匪賊分布狀況  汪清縣
五人	五人	八人	二人	二人	百人	兵器及 彈藥數	
長銃 三五	不詳	拳銃 三五 小銃 三五 迫擊砲 二	輕機 二 拳銃 二	長銃 五 拳銃 二	長銃 一 口口 挺	橫行地區 根據地	
春明鄉西 六坡二島	大荒溝 腰營溝	大荒溝水 別磧子及 轉角樓方 面	大荒溝	汪清縣 大荒溝	汪清縣春 耕鄉羅子 溝	色 統系	
	匪共				賊匪	日滿軍 警討 伐狀況	
絶エス南方豆 滿江岸方面ニ 出波ス		二月上旬上里坪 ニ移動中ノ處 二月十二日轉角 樓方面ニ移 動ス	右同	最上行動不 明	月内ニ於ケル 行動ノ概要	對策若クハ 順狀況	
						將不ニ對ス ル視察	



龍三卷	張	鏡光准	孝光鉄	葉劉	江殿李	文光干	龍成梁
	詳不	四八	五三	五一人	五二人	〇三人	五三人
	不詳	拳銃 長銃 五二	爆拳 彈銃 二〇三	小銃 三〇	不詳	不詳	右同
右同	西六坂 十里坪	"	春明郷 十里坪	大荒溝 腰管溝	春和郷 石頭河子	春和郷 對頭拉子	大荒溝 腰管溝
"	"	"	"	"	"	"	匪共
			絶之南方豆腐 江岸三没入				

彬錫金	郁昌金	某 崖	某 金
十六百人	十六百人	口三人	口三人
"	"	"	非武裝
西大坡	子十里 德坪	西大坡	十里坪 春明鄉
"	"	"	"

第一中隊編成表備一覽表

計	吉城守備隊		慶長守備隊		第二中隊		第一中隊		準備隊本部		隊別	分	
	出	内	出	内	出	内	出	内	出	内			
1											佐	中	
2	1				1		1	1			佐	少	
3	2		1		1	1	1		1		尉	少	
6	1			2		1	3				曹	長	
3	4			1	1	1	1	1	1		伍	長	
19	7	1	1	4	2	5	3	7	1	2	兵	等	
37	13	2	2	7	6	11	5	17			兵	計	
152	54	8	13	37	13	238	27	69	(43)		計		
223	83	11	17	52	23	57	38	99	(43)	14	2		
1										1		長	二
1										1		計	主
1	2				1					1	1	手	計
	2				1						1	医	長
1	3		1		1					1	1	長	護
4	4		1	1	1	1	2	1				兵	長
	1										1	長	工
8	12		2	1	4	1	1	2	1	4	4	計	工
231	95	11	19	53	27	58	39	101	(43)	8	6	計	計
2										2		馬	赤
2										2		馬	赤
4	5	1	2	1	1	1	1	2				機	計
10	24		3	1	3	2	4	1				機	計
5	3		4	1	1	1	1					筒	計
												砲	計

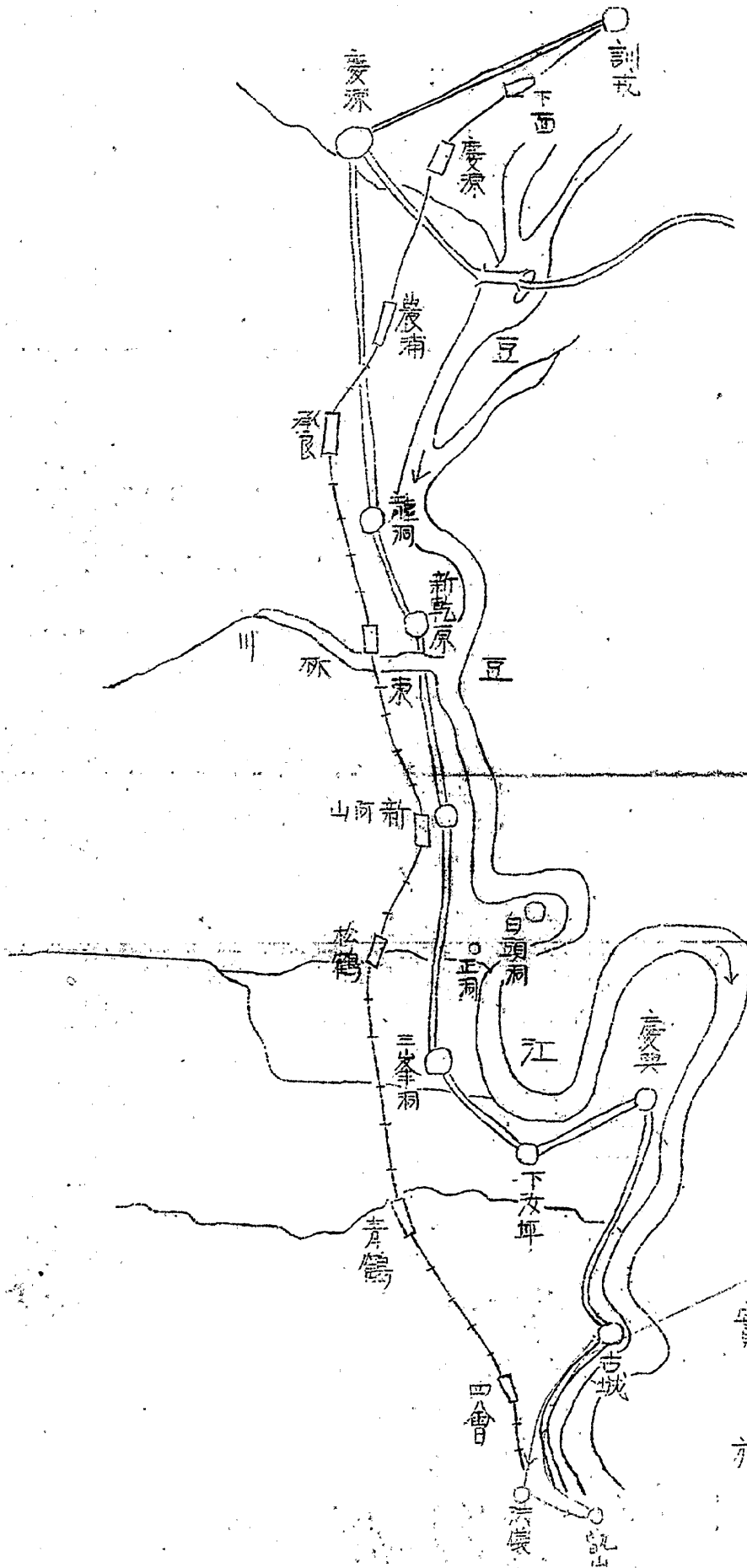
備考  
 一 本表中心に附セルハ第一期教育未了初年兵ヲ朱書ハ無線電信所員ヲ示ス  
 二 出シ金出動人員ヲ内ハ鮮内ニ在ルモノヲトシ特別輕機ヲ示ス  
 三 摘要欄ノ人員ハ本表外トス  
 四 論及欠員ニ對スルニ足ル人員大尉一 二等兵二

職員表  
 備  
 要

歩兵少佐 佐藤又三郎  
 歩兵少佐 石川熊一郎  
 歩兵曹長 正野定雄  
 歩兵大尉 沖田新右衛門  
 歩兵大尉 有賀正孝  
 歩兵中尉 新福直次郎  
 歩兵大尉 内野宇一  
 歩兵少尉 見城市平

附圖第一

行中  
二月中警備實施狀況要圖



二  
月  
二  
十  
五  
日  
實  
施  
迄

10356



秘

第十九師團第二守備隊月報

自昭和十年二月二十日  
至昭和十年二月二十六日。

第十九師團 少七五 日報

自昭和十年一月一日  
至二月六日

# 第一警備ノ概要

## 一 警備一般

- 一 歩兵組ニ於テハ一月十八日ヨリ三日間ニ亘リ警備行軍ヲ實施ス 概要附圖第一ノ如シ
- 二 先之策未定セシ冬期特別計畫ニ依リテ之ヲ實施シアルニ直對岸附近ハ比較的平穩ナルヲ以テ舞内住民ハ其警備ニ安シアリ
- 三 外國密偵ニ関シテハ憲兵警察ト密ニ連絡シテ等謀報機關ノ謀知ニ努メテアルニ未タ具体的確証ヲ得ルニ至ラザルニ 嚴ニ警戒戒及探査ニ努メテアリ
- 四 鎧成守備隊ハ二月八日ヨリ二日ヲ以テ警備ヲ完成ノ為ニ沿岸ニ沿ヒ南陽方面ニ行軍ス

五、鐘城穩城兩軍備隊ハ各期守備勤務ニ関スル臨時  
 規定ニ依リ各擔任區域内ノ警備ニ勉メテ了  
 六、一月ニ於テハ匪賊 鮮内侵入ニ鑑ミ管内南陽書西  
 昔仙峯山ノ各北岸警備隊官駐在并ニ探照燈ヲ配給  
 セラレ警備ニ利用シテ了

第二 对岸地安概況

一、月満軍警不断ノ討伐ト至嚴テん警備及治安工作  
 法鮮内警備機關ノ努力ニ依リ前月鮮内侵入其  
 ノ他各所ノ襲撃ヲ治安ノ攪乱シツクアリシ匪賊ニ概シ  
 其ノ行動ヲ阻害セラシ其行動漸屏息シ治安概ニ剛  
 正ニシテ庶民亦安シレシ生業ニ従事シテ人ノ好況ヲ呈シ  
 ヲ、了  
 然レ共衣糧ハ極度ニ缺乏シ加フニ日満軍警ノ倦サレ  
 討伐ニ依リ其根據地ヲ失ハタル為奥地山林地帯ニ



於之屢々集合主要都市襲撃ノ画策ヲ見等アリテ  
 高倫安ヲ許ヤリルモノノ如ク積極的治安ヲ作シ實施シ  
 心要トスルモノノ如シ

第三 政情一般

一 政情一般

ハ滿洲國地方警察行政機構ノ内容ニ資ハ治安ノ確  
 保上必緊急事ナルヲ以テ民政部ニテハ之カ陣容  
 整備ニ就キ左記人員ヲ採用全滿各縣ニ五―六名  
 宛配置治安網ヲ構築シテアリト

左記

職	名	人員	職	名	人員
警長	正	二	警長	長	八
警士	佐	三	警士	士	四
巡官	官	七	計		五
		二			〇

2. 滿洲國內ニ居住スル朝鮮人ハ其ノ過半数ヲ無籍  
 者トシテ以テ之カ就籍ニ就キ總督府ニテハ滿洲國政  
 府ト折衝シ重キ本年度ヨリ三年計画ニテ之カ籍  
 シ作成スル由

3. 滿洲國交通部ニテハ建國以來郵便事業カ遂行  
 上暫行的ト便法ヲ臨時作成シテ之カ處理ヲナレシ  
 ヲテ之レカ國內郵便事業漸ク完備ノ域ニ達  
 シ對外的ニモ其ノ信頼ヲ置カセ、ニ至レシ以テ人慾々内  
 國郵便法規ノ作製ヲ成シテアリト

4. 鮮滿國境稅關設置問題ニ関シ鮮滿兩當局  
 ニテハ合同會議ヲナシタル結果雄基清津 羅  
 津ト三峯、四ヶ所ニ鮮滿兩稅關ヲ駐在セシメ共  
 同検査ヲ四月一日ヨリ實施スル豫定ナリ

ハ滿洲國海軍ニシテハ從來服制ナク裁術ニ入ハ國際儀禮ニ少クラサシム不便ヲ感シテアリシカ今回國務院會議ニテ海軍服裝ヲ制定セリト

6. 滿洲國鐵路總局ニテハ農村指導者養成ノ目的ニテ鐵路沿線村民ノ中ヨリ優秀者ヲ選拔シテハ新設セシム

テ産業指導員トシテ之ヲ養成スルニテ鐵路沿線村民ノ良才ヲ指導者トシテノ所期ノ目的ヲ達成セシム由

久闊島ニテハ從來塩ノ密輸取締ニ關シ總領事館警察課ト緝私局間ニテ見解ノ相違アリテ取締

上不便少クアラサシムテ今回兩者協議ヲテシ共

同取締ヲ三月一日ヨリ實施スル豫定ナリト

第四 外務省警政課並治安工作部 警務署

一 關島緝私局ニシテ八月一日ヨリ總隊本部ノ名稱位  
置緝私隊ノ配置ヲ附表第一ノ如ク改メタリ

二 和龍縣

一 縣警務所有ニテハ關島省警務廳長ノ指示ニ基キ  
管内主要人物ノ動靜ヲ明瞭ナラセムル為メ八月六日  
附管下警察署者ニ對シ知名者名簿ノ作成ヲ指令  
シ發シタリト

二 縣公署ニ於テハ管内治安漸次確立セリトシテん狀況  
ニ鑑ミ更ニ一歩ヲ進メ治安工作ノ徹底ヲ期シ民  
心收攬ヲ積極的ニナスルニ際官下一般ニ實業青年  
會並ニ實業婦人會等ノ設立ヲ促スルノ規約  
ヲ作成管下一般ニ訓令セリト

三 滿洲國民政部ニ於テハ國境特別警戒並ニ密輸

改正、為業ニ圖、國境警備隊ヲ設置シ、密輸  
 防止、國境地方情状内本等相商、成果ヲ收メ、  
 近々、本年、直對岸、関山屯ニ一、分隊設置、  
 画シ、隊長以下、三名ヲ派遣ス、警備ナリト  
 而シテ、隊長ハ、主トシテ、高等政策ニ在リ、日、陽、軍、警  
 一、連絡、國境、地帯、一、警備、ノ、完、壁、並、ニ、日、陽、軍、警、備  
 一、協調、ノ、親、善、ヲ、助、長、ス、ナリト  
 六、間、島、緝、私、局、編、成、改、正、ニ、伴、ヒ、関、山、屯、地、区、緝、私、隊  
 一、第、二、總、隊、ト、改、稱、セ、ラ、レ、隊、長、更、迭、ス  
 六、月、晴、社、島、脚、ニ、(水口浦對岸) 緝、私、隊、新、設、セ、ラ、レ  
 二、月、四、日、ヨリ、事、務、ヲ、開、始、セ、リ  
 六、縣、公、署、ニ、於、テ、八、明、新、社、泉、水、洞、金、場、洞、甲、山、村、地、方、  
 一、第、二、集、團、部、一、落、建、設、ヲ、止、圖、シ、左、表、ノ、如、ク、治、安

工作班之編成二月十日頃より實施シテ了

治安工作班編成及任效力人ノ擔

工作分擔	區別	官職	氏名
政治工作	班長	縣警務指導官	李東燾
討伐及防備工作	班員	總務科警務副長	柳念五一
集團部移民工作		內務局副警務指導員	金昌善
集團部建設工作		警務局科員	金洪奎
庶務及會計			

治安工作實施計劃表

日	程	日数	工作地
自一月十五日	至二月三日	二	泉水洞集團地
自二月四日	至二月十四日	十	郭燕建設地
自二月十五日	至二月二十五日	十	金場洞石日草
自二月二十六日	至三月五日	十	集團部建設地
自三月六日	至三月十五日	十	甲山村官地
自三月十六日	至三月二十五日	十	集團部建設地

久縣内ニ於テハ警務指導員自衛團等配置人員銃器数

附表第二第三知し

三延去案

八月十日産業工作委員会及治安維持会委員  
夕関催し左記事項ヲ審議セリ

九記

産業工作委員

不阿片栽培区域ノ決定

口窮民救済施設トシテノ森林伐採問題

八阿片收納ニ関スル件

六其他臨時採集事項

治安維持会幹部會

不延去地已治安維持会組織変更ニ関スル件

口治安維持会至六月豫算ニ関スル件

八昭和十年度ニ於テハ農務部一萬建設設計書ニ

関スル件

又延吉青年團龍井及圖們國防婦人會設立ニ  
月十九日ノ修節ヲ下シ發會式ヲ舉ギ併セリ

又南滿洲國省聯合愛護會委員ノ圖們建設事

務所ニ於テ周備シ中決委員入會組織変更ニ伴

フ愛護會作ニ関シ協議シ且懇話ヲナセリ

又延吉縣公署職員表附表第四ノ如シ

四 汪清縣

公署公署ニ於テハ滿洲國鴉片轉賣公署並ニ吉林

省公署訓令ニ基キ康徳三年ノ度(昭和十一年)

ニ於テハ滿洲國內製粟栽培區域及面積並ニ補償

金額指定ヲ一月十五日縣下各保長ニ下達シ奉リ





如ノ脱走者取調ヘシテ自カラ供述シル等ノ現況ニ  
ヨリ此際一段ノ宣傳工作ヲ實施セハ或ハ以外ノ効果  
ヲ收メ得レシ

然レ共歸順意向ヲ有スル者ハ未ダ甚ク乏シ  
或ハ精力力ノ挽回ニ或ハ武器購入ニ或ハ共匪合同工作  
ヲ策スル等潜行ノ活動及整備力ヲ増進スル  
方面ノ山間ニ蟄居スル匪徒ハ依然トシテ附近ニ出  
没住民ニ不安ヲ與ヘテ了

第六 対岸各縣匪賊ノ状況

下 和龍縣

人東陽特委派遣、方一天八月十九日二道 清白氷水洞  
茶苦園子地方ニ來到今地方黨代表 周代表崔  
鳳活兒童代表「秉道」革命軍代表「金光當外

二名ノ付本合セシムル在記事項ノ討議ノ上決議セリト

左記

一 工人總會新設ニ関スル事項

中共黨及軍人軍力漸退ニツキ、ソノソノ以テ

本年度より一般工人總會ノ組織ニ縣内工會

及國境對岸ニ微低宣傳工作ヲ為ス

二 統治區域擴張ニ関スル事項

現在ニ於テ龍巖及下赤色區域ハ安圖平崗

大拉子ニ迄滿ノ四區ニ極限セラレ更ニ同志著ク

減サレリ之ノ挽回ニ努ムル共ニ各地回復ノ為本

年一五三記念日前迄ニ月下庫止中龍巖

関山北東盛湧方區ノ復活ヲ圖リ統治區域ノ極

張ニ努ムルト

大明新 社是水洞ハ人民革命軍一軍一軍三十一名  
 又志紅郷王陽溝及支隊ハ附近ニシテ先中其黨延  
 若縣委ニ属スル共西ハ皇軍一討伐ニシテ其北  
 方は清縣果四方臺峯ニ逃入シ先ト其ノ大部  
 分ハ宿安縣方面ニ移動シ討伐ニ免レ居タリ然  
 ルニ十二月下旬ハ其ノ部一四才峯ニ逃入シ歸  
 来シ陽居ス  
 其ノ匪數裝備等次ノ如シ

区別	人員	裝備	備考
武裝	約一〇〇	長銃 七〇 洋砲 二〇	東北人民革命軍第二軍 第一獨立師ニ属スル ニシテ第六連トモ連トモ ニシテ
共匪		拳銃 二〇	
非武裝	約一〇〇	洋銃 二〇 手銃 二〇	中共延吉縣王陽溝 区委員以下

即レノ革命軍、甚難シ為ニ其ノ連長ハ  
朴官童ト稱シ該地ニ於テ取勢力ヲ有ス

3. 一月中旬日滿軍警ノ討伐ニヨリ延吉安圖縣境方

面ニ逃避シテ其地ニ一部ハ道安縣神仙洞附近

ニ歸テテ燒却シ土穴窟ヲ假シ居テ構築中ニ

シテ又ニ道安方面ニ逃避セシ武裝共匪約一〇神ノ洞

ニ移動歸還ノ準備中ニテ其ノ如ク一月度老

弱傷雨籠衣撃ニセ行マシト便衣隊ノ密ニシ警備

狀況並物資ノ出入狀況偵察中ニシテ其賊勢左

記ノ如シ

九記

東北人民革命軍

青年義勇軍

約

五〇名

二五名

遊撃隊  
金勝部隊

約 五〇名  
約 四〇名

女賊々清城廠清附近ノ賊勢ヲ左記ノ如シ

左記

不 明	東 邊 好	九 省	平 五 羊	青 山	朋 山 好	匪 首	已 別	人 員	裝 備	摘 要
非 武 裝 匪	匪			五	五	五	五	小銃一〇 小銃一〇 小銃一〇 小銃一〇	三道崴方面ノ共匪ト 連絡シテ	
八	五	三	二	五	五	五	五	小銃二五 小銃一五	灣々清ヨリ移動	

六 倒木清南方神山洞地方ニ蟠居シ京圖線沿線  
 老頭清ヲ龍撃シ暴威ヲ逞クセシ東北人民革命軍  
 軍ニ屬ス共匪賊團「趙車元」金樂天以下七〇名  
 ハ討伐ニヨリ群衆多數ヲ失フト共ニ根據地ヲ覆滅セ

ラレ角ヒ三道崑地方ニ根據地ヲ構成スヘク移動中ニ  
シテ「雙勝」軍及「平日」軍ニ屬スル赤化區匪約百五十ト  
合流シ倒木溝、木溝ニ於テハ賊我ノ報復手段工作  
中ナリト

6. 東北人民革命軍第二軍軍事部長兼第一獨立師  
長余鎮ハ最近依蘭溝鎮軍事官署ヲ署ニ逮捕

セラレタルモノノ如シ

三注清縣

ハ縣内匪賊ハ間断ナキ日滿軍ノ討伐ト至嚴ナク警戒  
ニ依リ大ナル活動ヲ見ス稀々良況ニ向ヒナリト雖圖算  
沿線ニアリテハ依然鼠賊的擾奪ヲ復行シ傍ラ潛  
行的細包組織ノ工作ヲ行シ「アムセ」ノ如ク又共匪第  
一團長方振聲ハ武器ハ千ト黨勢ノ擴張ニ努

メソ、ア

又春明郷腰管清天荒清子東方三三料ニ振據ヲ存ス  
ル東北人民革命軍第二獨立師第一團長方振聲  
ハ小梨樹滿奧地ニ蟠居ルニ匪賊小愛民ヨリ「ケエソク」  
輕機三挺同彈藥五百發ヲ四千圓ニテ購入執力カノ  
増大ヲ計リシク

大荒清腰管清附近ニ蟠居ル共匪東北人民革命  
軍第一團長方振聲ハ現下ニ於ケル衣食ノ窮  
乏打肉策ヲ講ニテ去一月十八日大江清西大浦  
ニ振據ヲ有ス共匪重要幹部——劉某外ニ名ヲ腰  
管清ニ招致シ種々協議シタルニ趨ニシテ都市龍裝  
ハ比較的利便ナキヲ以テ大荒清廟谷間ニ於テ列  
車ニシテ裝撃シテ人質ヲ致物品ノ強奪ヲ敢行スヘク



之カ實行方法シ義勇軍ト提擧シ一舉ニ奪取スヘク日下義勇軍制ニ方針中ナリト

大東北抗日義勇軍系匪賊及勝部隊約八十名八日下十里坪ニ來到帶衣市ニシテ同地及西大坡ニ根據シテ其匪軍ニ連長崔仁極一少尉及同隊水泉子ヲ襲撃シ之ヲ準備中ナリト

汪清縣大荒溝腰營溝ニ蟠居スル東北人民革命軍第二軍獨立第一團長方振聲ハ從來ヨリ輝春縣杜若子附近ニ根據シテ匪賊臨江山部隊(約八百名)ノ行動ハ私服ヲ肥ニシテ及滿抗日工作部ニアラストテ部下七十名ヲ杜溝子ニ派シ根據家屋ヲ包圍攻撃セシトスルニ臨江山ハ條件ニテ武装ヲ解除スルヲ要求セリト

銃	名	員数	弾数
長銃	(各圖式混合)	六三	三三〇〇
モーター	拳銃	一	五〇〇
ナカ	式拳銃	二	一一五〇

6. 南大洞水南村 (清水泉子西方約四軒) 居住歸順  
 共匪金團賢外二十一名ハ昭和九年四月歸順詔許  
 證ヲ交付セラレタシテナンカ爾來清水終云案分署  
 ニ於テ動靜監視中ノトコロ南大洞附近ニ不穩文  
 書ヲ撒布シタシテモ該歸順共匪ノ所為ナンヲ探知シ  
 二月四日金團賢以下二十一名ヲ捕獲年々不穩文書多シ  
 數ヲ押收取調ヘタシニ梁等ハ歸順證ヲ受タシヤ間モ  
 ナク秘密裡ニ共産工作ヲ行フ反日大同盟清水泉子  
 分委ヲ組織シ絶ヘス而大坡ニ振據ヲ有ス共匪ト連  
 絡シ日満警備機關自衛團等ノ討伐ニ動情況

等ヲ通知レテ其行動ヲ附査シ或ハ西古坡十里坪  
地方ニ根據スル匪賊ニ物品ヲ購入提供シ籍内侵入  
ヲ援助ス等歸順ヲ擬面ニ潛行的行動ヲナレ  
リタルモノナリト

四 對岸匪賊ノ去没狀況附表第五ノ如シ

五 東北人民革命軍第二團ノ組織狀況附表第六ノ如シ

六 間島ニ於ケル情勢ノ附圖第二ノ如シ

七 延吉地区内各隊整備擔任区域附圖第三ノ如シ

八 延吉地区隊之力量配置要圖附圖第四ノ如シ

第七 交通通信補給經理衛生

六 交通

管内ノ鐵道及自動車道路網(一月報告ノ七ノ三同シ)

二 通信

管内有線通信網（一月報告せしむる）

延吉縣電話公司于八月間島地方各都府ノ發展

ト共ニ其ノ電話局支部ヲ新設シ二月一日ヨリ左記箇

所ニ於テ通話事務ヲ開始セリ

左記

ノ新設電話公司 明月溝、頭道溝、朝陽川、

口新設電話辦理所 老頭溝、銅佛寺

ハ新設通報辦理所 大拉子、三道溝、三道溝、東盛勇

崗山、八道河子、船口、八道、八字子

又汪清、輝春兩縣ニ在リテハ四千七百圓ノ豫算ヲ以テ輝

春一密水一凉水泉子一嘎呀河間ニ整備ノ電

話ヲ加テ設ケテ決定ニ事ニ三月着工ノ豫定ナリト

ニ補給

羅南支庫ヲ補給シ受テ調味品、副食物ハ重トシテ

現地調報ニ據リ順調ニ實施ス

四 経理

要正確實ニ實施スルニ良好ニ継続ス

五 衛生

將我以下保健ノ状態良好ナリ

第六 編成設備

編成設備一覽表附表第七ノ如シ

附表第一

總隊本部、名稱並緝私隊、配置等調査表

局名		局位置	緝私隊本部		位置	
間島		延老	第一總隊	第二總隊	第一騎馬隊	第二騎馬隊
緝私隊		縣城	南	関山	南	関山
第一騎馬隊	明月清	延老	龍井	延老	龍井	延老
龍井	龍井	龍井	龍井	龍井	龍井	龍井
頭道清	頭道清	頭道清	頭道清	頭道清	頭道清	頭道清
汪清	汪清	汪清	汪清	汪清	汪清	汪清
第二騎馬隊	南	南	南	南	南	南
沙金清	沙金清	沙金清	沙金清	沙金清	沙金清	沙金清
高麗崴子	高麗崴子	高麗崴子	高麗崴子	高麗崴子	高麗崴子	高麗崴子
盧菓	盧菓	盧菓	盧菓	盧菓	盧菓	盧菓
大洞	大洞	大洞	大洞	大洞	大洞	大洞
南	南	南	南	南	南	南
三道清	三道清	三道清	三道清	三道清	三道清	三道清
第三騎馬隊	関山	第三騎馬隊	第三騎馬隊	第三騎馬隊	第三騎馬隊	第三騎馬隊
八道河子	八道河子	八道河子	八道河子	八道河子	八道河子	八道河子
火狐程清	火狐程清	火狐程清	火狐程清	火狐程清	火狐程清	火狐程清
船口	船口	船口	船口	船口	船口	船口

緝私隊										開島															
縣城										延吉															
隊總四第										隊總三第															
春 輝										們 圖															
玉泉湖	琵琶湖	峯江	沙土子	潭春	用灣子	小三倉口	哈達門	窟窿山	圖們	小八厘	石建輝	稽木查處	玉泉湖	琵琶湖	峯江	沙土子	潭春	用灣子	小三倉口	哈達門	窟窿山	圖們	小八厘	石建輝	稽木查處
緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊	緝私隊
九河	沙巨	峯江	沙土子	下用灣子	上用灣子	小三倉口	凉水泉子	下嘎呀河	圖們	馬	石建輝	稽木查處	九河	沙巨	峯江	沙土子	下用灣子	上用灣子	小三倉口	凉水泉子	下嘎呀河	圖們	馬	石建輝	稽木查處

附表第三

自衛團		配置人員	銃器數	摘要
種別	人員	銃器數	摘要	
第一保縣街自衛團	一 二 六	二 五		
八道河子自衛團	六 九			
小六幾溝自衛團	六 四	一 〇		
第二保稽查處自衛團	〇 五	五 五		
北興街自衛團	四 二	五		
大牛洞自衛團	五 三	一 〇		
第三保三道溝自衛團	四 〇	一 〇		
松下坪自衛團	二 九	一 五		滿洲國側建設集團部落
大平村自衛團	二 〇	一 〇		同右
白日坪自衛團	三 四	二 〇		同右
泉水坪自衛團	三 〇	一 五		同右
夾皮溝自衛團	一 九	一 〇		同右
牛心山自衛團	二 〇	二 〇		領警言側建設集團部落
青山里自衛團	一 一			同右
龍興洞自衛團	三 〇	三 〇		同右
臥龍湖自衛團	五 〇	五 〇		同右
松林坪自衛團	五 〇	五 〇		同右



第四保太陽村自衛團	一	一	滿洲國側建設集團部落
高嶺威子自衛團	二六	六	
大石洞自衛團	六一	二五	滿洲國側建設集團部落
車廠子自衛團	三五	一五	同左
咸朴洞自衛團	二五		
東京徳自衛團	三六	五	
蓋菜心自衛團	五九	五	
紅溪河自衛團	四八		
南坪自衛團	五二	二	
湖蓋頭溝自衛團	四六		
第五保院山七自衛團	四四	二	
慶慶街自衛團	一一		
船口自衛團	五一		
石建坪自衛團	九一		
南陽村自衛團	五三		
計	三二	三〇五	

附表第二

警察署配置人員銃器數

(昭和一〇・二〇現在)

配置箇所	種別	人員			計	銃器數	摘要
		警佐	巡官	警長警士			
第一區警察署(縣城)		一	三	四	二二	三〇	三〇
八道河子分駐所		一	一	一	六	八	七
小六道溝分駐所		一	一	一	八	一〇	一三
西作洞分所(請願)		一	一	一	七	八	八
第二區警察署(稽古處)							
北興街分駐所		一	一	一	八	一〇	一〇
大牛洞分駐所		一	一	一	九	一〇	一〇
第三區警察署(三道溝)		一	二	三	三〇	三六	三四
百日坪分駐所		一	一	一	一七	一九	二二
青山里分駐所		一	一	二	一六	一九	二〇
夾皮溝分駐所		一	一	一	一六	一八	一八
土山子分駐所		一	一	一	八	九	一九
煤嶺分所(請願)		一	一	一	六	七	七

十	南陽村分駐所	石建坪分駐所	船口分駐所	第五區警察署(開山屯)	紅溪河分駐所	蘆菓屯分駐所	咸朴洞分駐所	高嶺威子分駐所	葫蘆頭蔣分駐所	車廠子分駐所	第四區警察署(南坪)	大金場派出所
二	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	一	一
三六	一	一	一	二	一	一	一	一	一	一	二	一
三一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	一
三八	八	七	八	一〇	一四	一〇	七	一三	一〇	一八	一三	六
三四	一	九	一〇	一五	一六	一三	八	一四	一三	二〇	一五	七
三六	一〇	九	一〇	一五	一六	一三	八	一四	一三	二六	一五	七
三五	一〇	九	一〇	一五	一六	一三	八	一四	一三	二六	一五	七
五八	一〇	九	一〇	一五	一六	一三	八	一四	一三	二六	一五	七



附表第五

對岸匪賊ノ去没狀況

行動ノ概要

縣		支		延		地	
一三五	一三四	一三三	一三二	一三一	一三〇	一二九	一二八
大平村	倒木溝	石門郷	新教洞	長島洞	樹木溝	清	芳三區團
譯	不	順	全	〃	〃	〃	〃
二	二	五	五	七	七	二	二
二	二	五	五	七	七	二	二
計	食	午	午	午	午	午	午

縣		去		延	
六三	〃	六二	〃	六一	〃
第壹區 裕廣郷 柳掛子	石門郷 柳掛子	石門郷 柳掛子	石門郷 柳掛子	第壹區 大田川 二青背入口	倒木満 富満村
〃	〃	〃	〃	〃	〃
四	〃	七	〃	三	〃
長尾	長尾	長尾	長尾	長尾	長尾
午後八時頃居住人李某宅に侵入主義 ノ上齋牛一頭ヲ強奪シ三道灣方面ニ 午後四時頃ニ青背奥地ニ出現シ木材運搬車 夫所有ノ牛三十頭ヲ強奪ノ上三道灣方面ニ 計トナリ	午前九時居住人部落ニ襲撃モシ人負一死 拉致シ神少洞方面ニ計トナリ	木材運搬中ノ鮮人牛車ヲ龍夜ニ年四頭ヲ 擄奪ノ上三道灣方面ニ計トナリ	木材運搬中ノ鮮人牛車ヲ擄奪ヒ年一頭ヲ 擄奪ノ上神少洞方面ニ計トナリ	新落民ニ計シテ食ヲ強要モ多ク翌年以後前 哨四名ハ神仙洞方面ニ他三名ハ柳掛河方面 ニ計トナリ	難色便服ヲ着用シテ四名中一ノ如ク鮮人三 名ハ満人ナリシカ鮮人入室家令名庫等十三戸 ニ放火燒却ノ後神仙洞方面ニ計トナリ

縣		延		延	
六	六	五	四	四	四
第... ...	第... ...	第... ...	第... ...	第... ...	第... ...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...
...	...	...	...	...	...

延		七		六		五		四		三		二		一	
土内郷 谷作清 土内子		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川		新柳川 新柳川 新柳川	
五		六		七		八		九		一〇		一一		一二	
午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚		午後三時頃 民家三夜火十五戸 子起才向自引揚	
午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向		午後五時頃 仙方向三向	
午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向		午後七時頃 仙方向三向	
午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向		午後九時頃 仙方向三向	
午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向		午後十一時頃 仙方向三向	
午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向		午後十二時頃 仙方向三向	



附表第六  
東北人民革命軍第二團 / 組織狀況

○安圖縣大沙河 ○菜苦園子



安圖縣黨委

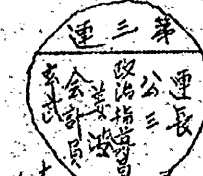


經理 東沐

和龍縣菜苦園子



連長 光順  
政治指導員 安圖縣出身  
二十一年



連長 延吉出身  
政治指導員 延吉出身  
會務員 延吉出身  
大拉子 二六  
出身



連長 延吉出身  
政治指導員 延吉出身  
員 某

安圖縣黨委

第一排 排長 一青 三東浦出身  
二十一年

隊員 昌九 安圖出身 金常  
二十一年 李樹

鳳涉 三道溝出身 一男  
二十二年 李東浦

光律 四道溝出身 張永  
二十七年 水慶滿

東考 柳樹溝出身 李東  
二十八年 李東

計 九名

第三排 排長 哲 延吉出身  
二十一年

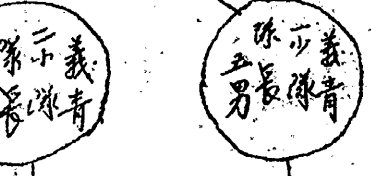
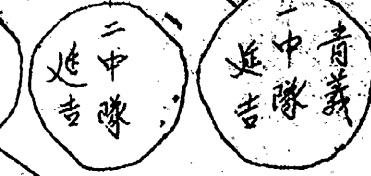
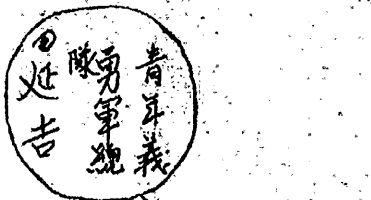
隊員 南哲 夾皮溝出身  
二十七年

隊員 明孝 十六年 崔清龍  
金光名 北嶺洞出身 夾皮溝出身  
二十二年

張律 夾皮溝出身 張同務  
二十七年 中人三

李同務 中人三〇

青年義勇軍 / 組織狀況



隊員 五名  
隊員 六名

一中共青年義勇軍  
毛卜及日自衛隊ヲ改  
編シタルモノナリ

隊長 民植  
政治指導員 惠順

附表第七

第十九師團第二守備隊鍾城守備隊編成裝備一覽表

備考	合計	守備隊	穩城	鍾城	守備隊		職	員	摘要
					名	分			
					尉	大			
					尉	中			
					尉	少			
					長曹	務			
					長曹	伍			
					長曹	伍			
					兵	上			
					兵	一			
					兵	二			
					計				
					手計	等			
					醫	等			
					長	等			
					兵	等			
					兵	上			
					兵	二			
					計				
					機	重			
					機	輕			
					銃	小			
					銃	拳			
					筒	彈			
					職				
					員				
					摘要				

一、人員軍費表上区一

步兵中尉  
中嶋好生

步兵大尉  
午尾國成

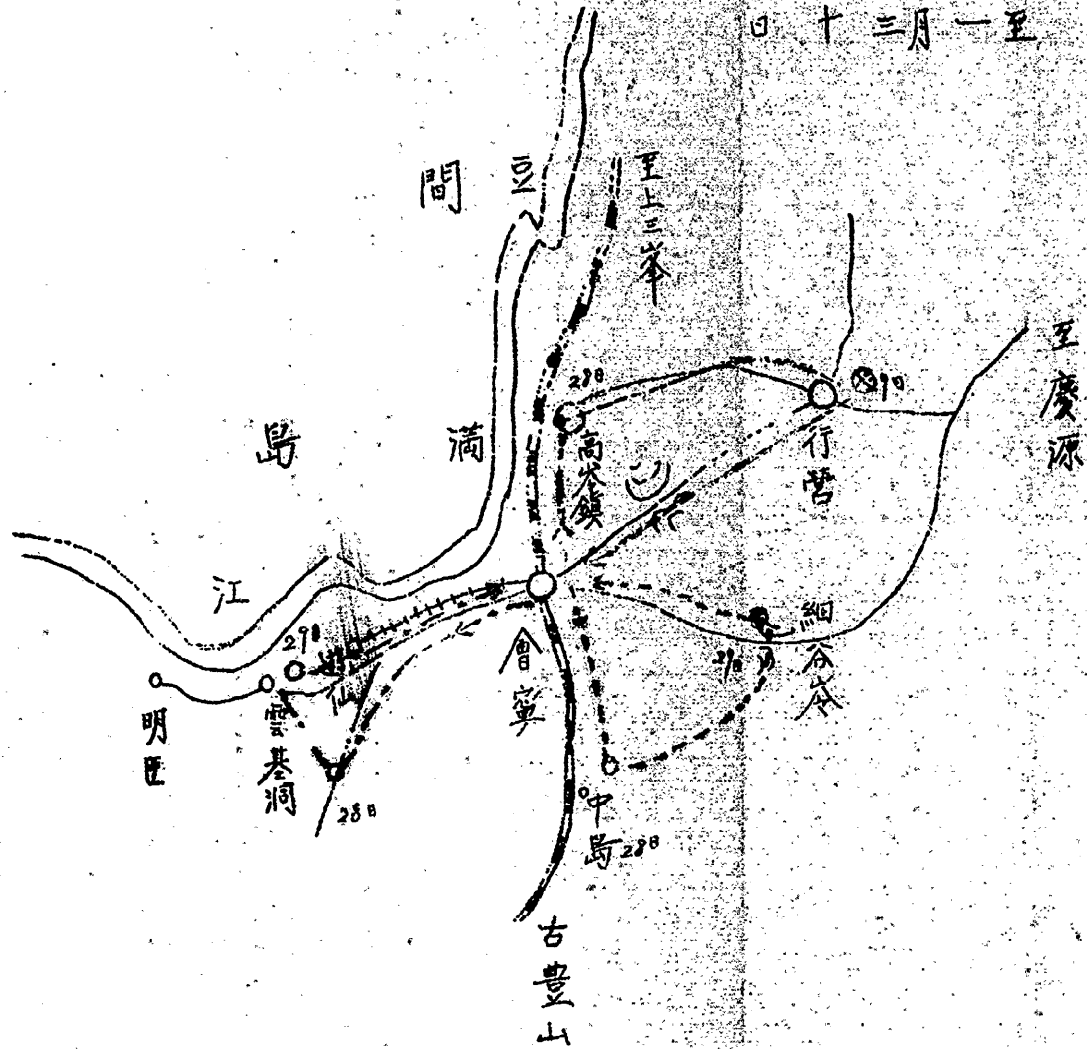
分五五分進  
軍曹  
一等兵  
二等兵  
三等兵  
上等兵  
入隊  
一、二等兵

入隊  
入隊  
入隊

圖要概軍行備警五七步

日八十月一自  
日十三月一至

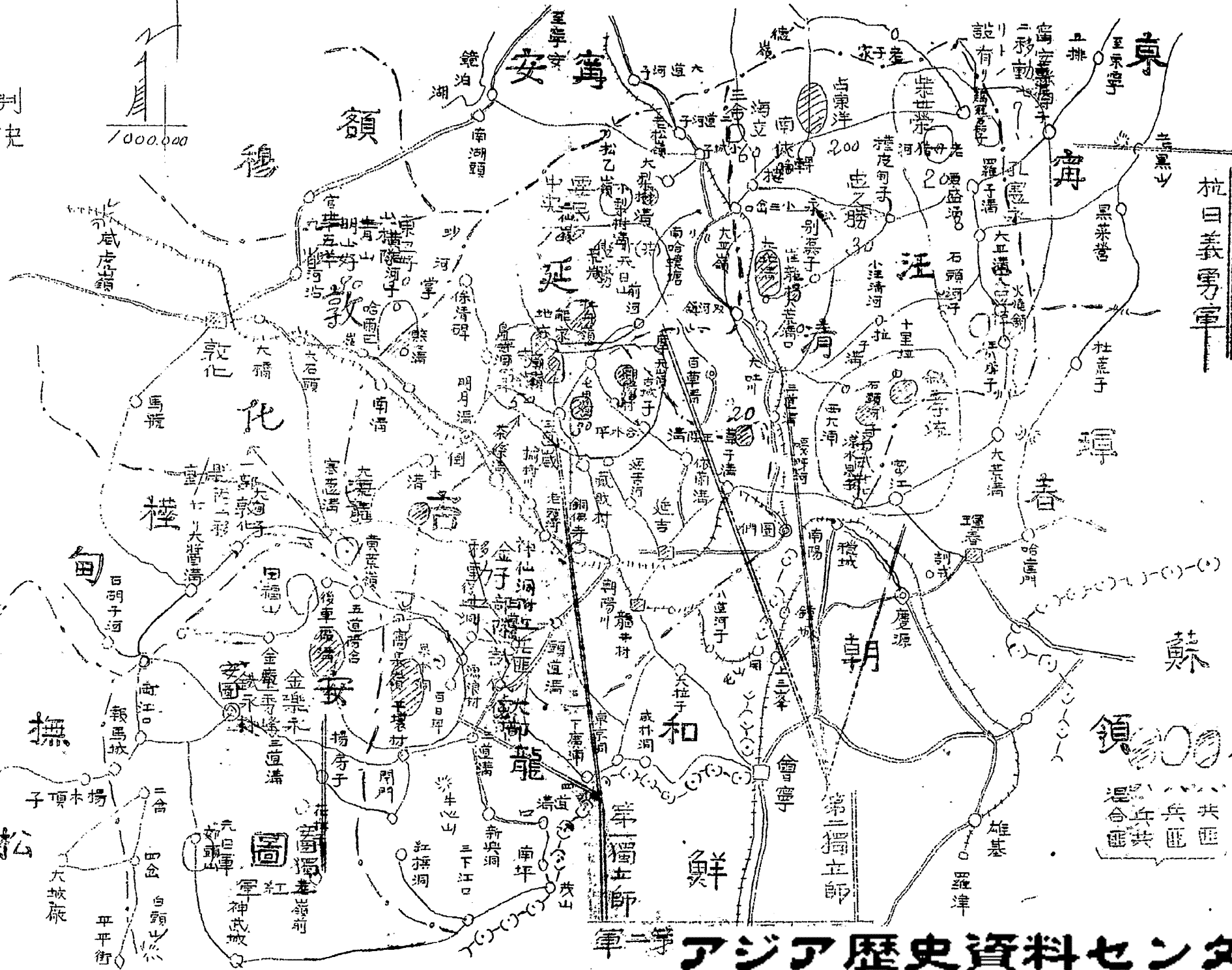
附圖第一



備考

一各大隊毎安置シ  
 露营地  
 合营地ヲ示ス  
 大隊行軍経路

# 延吉地区匪賊情況要圖



**判決**

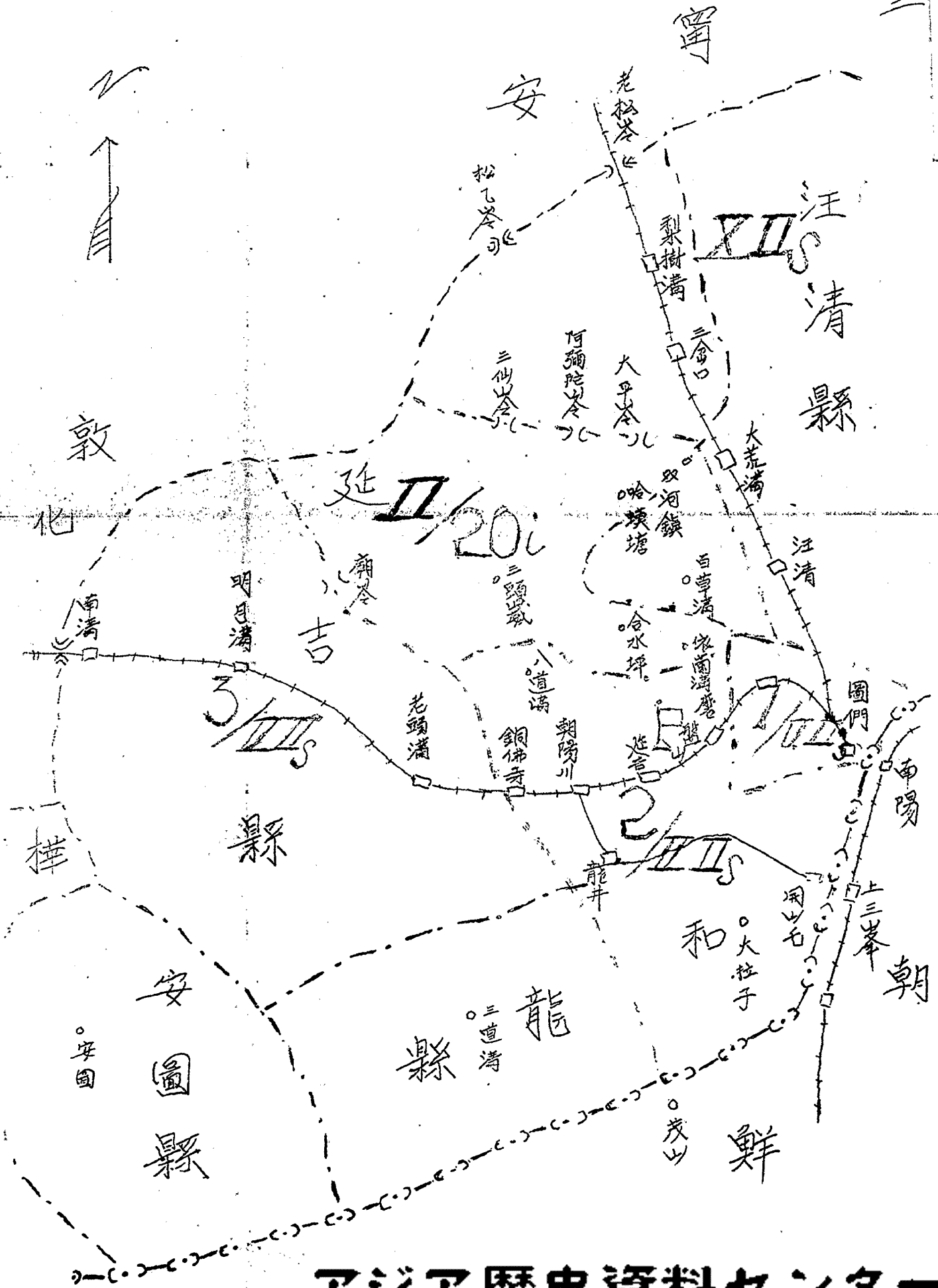
一地区の匪賊は極度衣食難に陥り兵匪間ニ歸順意思の有スルモノ多ク共匪ハ之ヲ防止策ニ爲シ兩者ノ反目抗爭ヲ生シツ、アリ

二共匪内部ニ一部ノ轉向者ヲ生シ動搖ヲ來シ内訌ヲ生ツアリ

備考

- 共匪
- 兵匪
- 混合匪

延吉地区内各警隊備置区域要圖  
昭和十三年七月七日以降

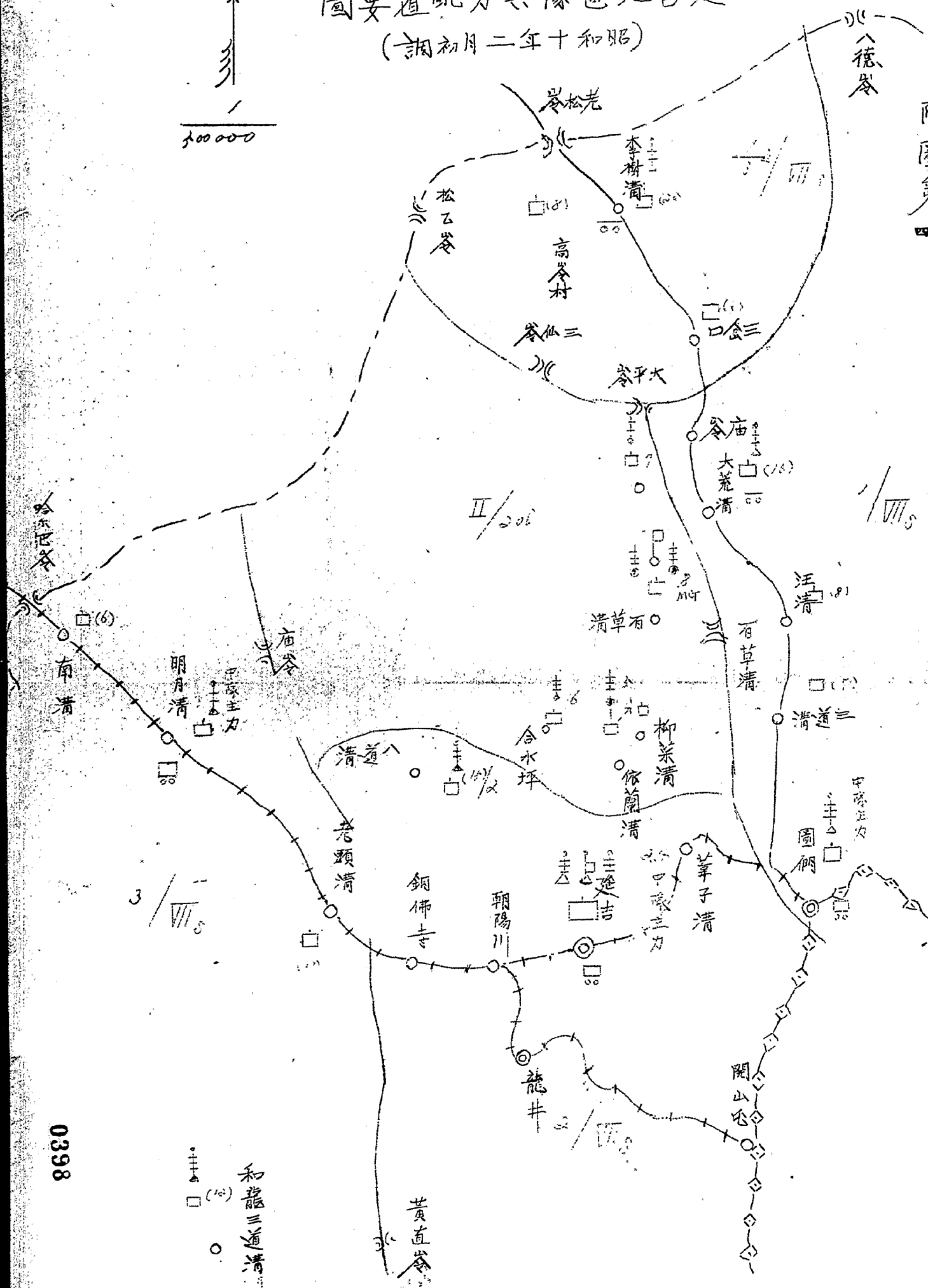
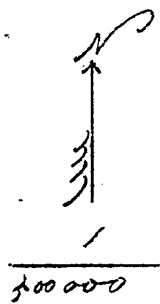


0397

# 延吉地區兵隊配置要圖

(昭和十年二月初調)

附圖第四



0398